２０２１年度（令和３年度）

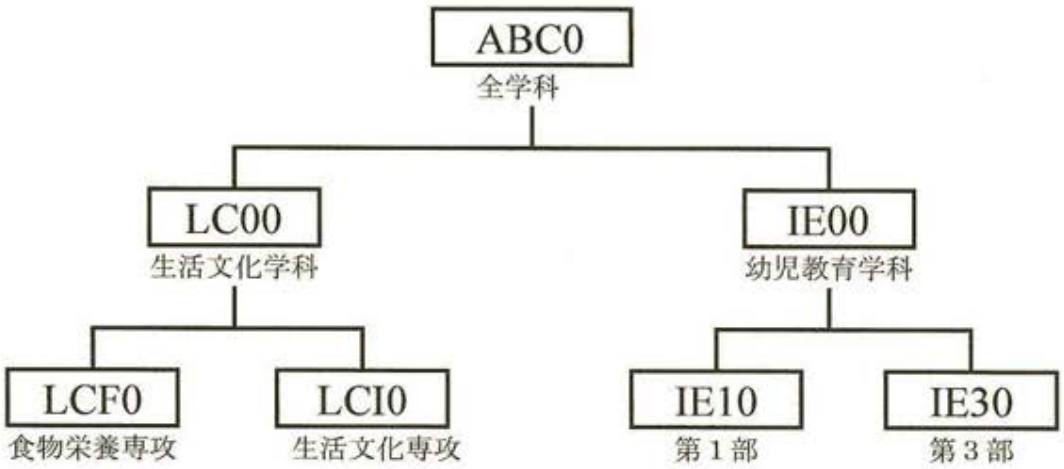
授業内容案内（シラバス）

科目ナンバリング

「科目ナンバリング」とは、皆さんが受講するすべての科目に対して、その科目がどの学科・専攻(コース)対象のものか、その科目を履修することによりどういう学習成果が得られるか、いつ受講する科目なのかが分かるように7桁のアルファベットと数字を組み合わせたものです。

前の4桁が対象学科・専攻(コース)、後の3桁が得られる学習成果、履修学年、履修学期を表しています。「現代教養基礎」のように全学科を対象とするものは前の4桁が ABC0 となっています。

なお、学習成果は履修案内の「カリキュラム・ツリー」に掲載しています。



(例)



学科　専攻　学習成果　履修年　履修学期

※履修学年
1…第1学年
2…第2学年
3…第3学年
9…学年問わず

※履修学期
1…前期
2…後期
9…通年

上の例は、
生活文化学科・食物栄養専攻
学習成果A(K、A、B、C、……)
第1学年後期に履修する科目
を表しています。

	DP			シラバス
生活文化学科 食物栄養専攻	建学の精神を基に	1、栄養士としての「プロフェッショナリズム」、「栄養」と「食」の質と「安全」の知識・技能を有する。(知に明るい心)		
			①栄養、調理、給食経営、衛生の知識・技能を有する	食DP1
			②栄養士の職業倫理を理解している	食DP2
		2、多様な社会と対象者をより豊かに、健康にするため、学修を生かし、主体的に連携・協働できる(和やかな心、信じ信じ合える心)		
			①多様な社会、対象者を理解できる	食DP3
			②栄養士の専門的知識、生活文化に関わる学修、豊かな教養を生かし「思考・判断・表現」ができる	食DP4
			③社会人基礎力を有し、主体的に課題を解決できる	食DP5
		3、常に最新の知見を学ぶ実践者(正しい心)		
			①栄養士の生涯教育制度、地域、社会における生涯学習制度を理解し、利用できる	食DP6
生活文化学科 生活文化専攻	建学の精神を基に	1. 医療秘書又はビジネス実務の知識、技術を有する。(知識・技能)(知に明るい心)		
			①専門的知識、技能を有する。	生DP1
			②社会人としての必要なビジネススキルを身につけている。	生DP2
		2. 幅広い教養とホスピタリティの心を身につけている。(人物・人柄)(和やかな心、信じ信じ合える心)		
			①好印象を与え、信頼される人材。	生DP3
			②生活文化に関わる学修、豊かな教養を生かし「思考・判断・表現」ができる	生DP4
			③ホスピタリティの心を持ち、協働して活動できる。	生DP5
		3. 多様な社会をより豊かにするため学び続ける人材。(正しい心)		
			①主体的に社会に貢献できる	生DP6
			②専門的知識と社会人基礎力、生涯学習	生DP7
			③多様なコミュニケーション力	生DP8
幼児教育学科	建学の精神を基に豊かな教養を身に付け	1. 信じ信じ合える心		
			①様々な体験から達成感を高め、自分を肯定することができる	幼DP1
			②多様なバックグラウンドを持つ他者に対し、思いやることができる	幼DP2
		2. 多様な社会をより豊かにする保育者(正しい心、和やかな心)		
			①語彙力を高め、自分で考え自分の言葉で話すことができる	幼DP3
			②柔軟性・傾聴力・共感力・協調性などの社会人基礎力を有している	幼DP4
			③多様な社会を理解できる	幼DP5
		3. 学び続ける生涯保育者(知に明るい心)		
			①専門分野における知識・技能を有し活用できる	幼DP6
			②失敗から気づき、一歩前に踏み出すことができる	幼DP7
			③保育者としてのキャリアビジョンを有する	幼DP8

1　基礎科目

[科　目　名] 現代教養基礎
[担当教員名] 奥村 智子・富田 健弘・安藤 京子・
朴 賢晶・阿隅 和余・坂口 みゆき・
藤原 淳子・真下 あさみ・西澤 早紀子・
玉田 裕人・上島 遥・砂田 治弥・
岡田 摩紀・鋤柄 悦子・山口 由貴
[授業クラス] (学科) 生活文化
幼児教育　第1部・第3部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　　[科目コード] ABC0_K11
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 講義

[授業概要]
本学の教育理念「正明和信」に基づいた人間性豊かな、人材育成の基礎となる科目である。初年次教育として、「社会の仕組みの理解」、「社会参加のための表現方法」を専門家によるオムニバス方式で受講する。毎回グループワークを行い、KJ法、プレゼンテーション発表法について実践的に学ぶ。身近な社会問題からSDGsを理解し「社会の一員としていかに信頼される女性として行動するか」について、関心と意欲を持って主体的に行動できる素地をつくる。

[学習成果] [K]
社会人の基礎となる力（能力）、社会で活躍するために求められる知識や教養の修得、及び社会で活躍できる女性として生きる力を身につけることができる。
グループワークを通じて、社会人基礎力として必須となる「考える力」「前に踏み出す力」「チームで働く力」を身につけ、人生１００年時代に向けて、自己実現や社会貢献にむけてどう学び、どう活躍するかを考えることができるようになる。学科・専攻の枠を超えたグループでの受講により、新たな人間関係を形成する機会をつくり、「柔軟性」（視野が広がった、意見の違いを受け入れられた）を高め、アクティブラーニングで、コミュニケーション能力を身につける。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6		
		◎		○			
生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○	○		○	◎	○	○
幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○		○	◎	○			

[授業計画]
1　大学での授業の受け方、グループワークの方法
2　「正明和信」と地域貢献・SDGs
3　情報リテラシー－情報収集方法
4　防災―稲沢市の取り組みから学ぶ
5　ゴミの減量－稲沢市の取り組みから学ぶ
6　好感度アップのビジュアルマナー
7　好印象を与えるコミュニケーションマナー
8　実践講座 ① GW
9　実践講座 ② 発表
10　自分を活かすことば力
11　実践講座 ① GW
12　実践講座 ② 発表
13　みんなで一緒に考えよう
14　実践講座① GW
15　実践講座② 発表

[授業方法]
講義とアクティブラーニングを組み合わせてすすめる。
毎回、理解度を確認するための小テスト、レポート課題を行う。
最後に発表コンテストを行う。

[成績評価]
レポート(45%)
授業への取り組み状況（25%）
発表(30%)

[教科書]
愛知文教女子短期大学　現代教養基礎2021

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
毎授業後に示すレポートを提出すること。
また、授業前には関連する分野の内容に興味・関心を持ち、調べ学習をして臨むこと。
これらを含め授業外学習に180分程度取り組むこと。
発表の前には、各グループで時間を作り練習を行うこと。（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
毎回、興味をもって積極的に学び、ディスカッションにおいても自主的な発言を期待する。

[科　目　名] キャリアプラス
[担当教員名] 奥村　智子
[授業クラス] (学科) 生活文化
幼児教育　第1部・第3部
(専攻)
[開講学期] 1・2・3年全期　[科目コード] ABC0_K99
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
学生自らが目指す職業人になるために「プラス」となる講座を選択し学ぶことや学生ボランティア、オーストラリア海外研修に参加することで、社会で活躍するための知識と教養を修得する。この科目を受講することで各自のキャリア形成の一助とすることがねらいである。

[学習成果] [K]
自ら選択した研修・活動・講座の受講を通して、人間として、女性としての「在り方生き方」を考えることができる。さらに、この講座で学んだ知識や技術を各自の卒業後の仕事に活かすことができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6		
		◎		○			
生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○	○	○	◎	○		○
幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	◎	○			

[授業計画]
以下の二通りの方法がある。
○オーストラリア海外研修（事前研修、研修報告書、発表会等を含む）に参加
○キャリア（職業履歴）にプラスされる講義や活動（下記①②）を15回修得することにより単位が取得できる。
① 足立学園総合研究所で開講する講座のうち「キャリアプラス」の授業と認められた講座の受講
② 「キャリアプラス」と認められた研修、ボランティア活動等を受講又は参加
キャリアプラス事前指導
↓
受講又は参加
↓
キャリアプラス事後指導

[授業方法]
オーストラリア海外研修については事前研修、研修報告書の提出、報告会での発表を含めて単位取得とする。
キャリアプラスの講座、ボランティア活動への参加は15回の出席に加えて、まとめのレポートの提出で卒業学年の後期に単位取得とする。

[成績評価]
授業への取組状況（50%）
レポート（50%）

[教科書]
適宜配布

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
毎回の事前学習（予習）と反省を含めたまとめのレポート作成がキャリアプラスにつながる。（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
地域志向科目

[科　目　名] キャリアデザインⅠ
[担当教員名] 武本　勉
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_K11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
「キャリア」とは特別な地位や経歴、或いは能力のことではない。キャリアをデザインするとは「自分自身を知って、自分のブランドを創る」ことである。この先、変化する世の中においても充実した日々を送るために、自分自身のことをよく見つめ、知り、そして「今何を考え、何を為すべきか」を広く、そして深く考えることでこの先の自分自身の「道標（みちしるべ）」を描がける力を身につけることである。そのためにも「考える力」、そして考えた事を整理する「構想する力」、さらに構想したことを他にコミュニケーションできる「表現する力」を高めてゆく必要がある。個人ワークやグループワークを通じて「3つの力」も高めていく。就職活動を意識したメニューも組み込むが、就職はゴールではなく新たなスタートである。社会に出た組織人として、また家庭で、貴女を取巻く環境が大きく変化する中でも自分自身を見失うことなく「貴女らしく、貴女ならでは」の活き方を見つけ、行動する自分Way（自分スタイル）を得る。
[学習成果] [K]
自分自身に向き合って、自分自身を正確に把握できていて、短期・中期・長期での自分の「あるべき姿」が描けるようになっている。そして「あるべき姿」の実現のために執るべき行動がイメージできている。また、1分間で自分自身をアピールできている。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	◎	◎	◎	○		○	◎

[授業計画]
1 オリエンテーション
2 将来を読む1（メガトレンドが教えてくれること）
3 将来を読む2（将来変化への自分としての問題化）
4 あるべき姿を考える1
5 あるべき姿を考える2
6 「働く」を考える1…必要なもの、大切なもの
7 「働く」を考える2…昨今業界　中間レポート
8 自分ブランディング1…能力要件診断・自分SWOT
9 自分ブランディング2…自分SWOT・ﾗｲﾌﾋｽﾄﾘｰ
10 自分ブランディング3…「らしさ」「ならでは」
11 自分ブランディング4…自分シート創作・自己PR
12 自分ブランディング5…自己PR作成/自分ｼｰﾄ完成
13 1分間自己PR面談前半・面接応酬話法
14 1分間自己PR面談後半・面接応酬話法
15 クロージングセッション
※授業の進捗、環境の変化でシラバスの改訂もあります。（事前に案内）

[授業方法]
講義＋個人ワーク・グループワーク
（アクティブラーニング導入）

[成績評価]
授業への取組状況（60%）
中間レポート（15%）
期末試験（25%）

[教科書]
「キャリアデザイン入門［Ⅰ］基礎力編〈第二版〉」
大久保幸夫（日本経済新聞出版社）

[参考書]
講義毎に資料を配布

[準備学習（予習・復習）]
毎授業後に出席確認を兼ねた理解レポート提出。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
しっかり自分自身について考える時間にしてほしい。

[科　目　名] キャリアデザインⅠ
[担当教員名] 武本　勉
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE30_K22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
「キャリア」とは特別な地位や経歴、或いは能力のことではない。キャリアをデザインするとは「自分自身を知って、自分のブランドを創る」ことである。この先、変化する世の中においても充実した日々を送るために、自分自身のことをよく見つめ、知り、そして「今何を考え、何を為すべきか」を広く、そして深く考えることでこの先の自分自身の「道標（みちしるべ）」を描がける力を身につけることである。そのためにも「考える力」、そして考えた事を整理する「構想する力」、さらに構想したことを他にコミュニケーションできる「表現する力」を高めてゆく必要がある。個人ワークやグループワークを通じて「３つの力」も高めていく。就職活動を意識したメニューも組み込むが、就職はゴールではなく新たなスタートである。社会に出た組織人として、また家庭で、貴女を取巻く環境が大きく変化する中でも自分自身を見失うことなく「貴女らしく、貴女ならでは」の活き方を見つけ、行動する自分Way（自分スタイル）を得る。
[学習成果] [K]
自分自身に向き合って、自分自身を正確に把握できていて、短期・中期・長期での自分の「あるべき姿」が描けるようになっている。そして「あるべき姿」の実現のために執るべき行動がイメージできている。また、1分間で自分自身をアピールできている。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	◎	◎	◎	○		○	◎

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　将来を読む１（メガトレンドが教えてくれること）
3　将来を読む２（将来変化への自分としての問題化）
4　あるべき姿を考える1
5　あるべき姿を考える2
6　「働く」を考える1…必要なもの、大切なもの
7　「働く」を考える2…昨今業界　中間レポート
8　自分ブランディング1…能力要件診断・自分SWOT
9　自分ブランディング2…自分SWOT・ﾗｲﾌﾋｽﾄﾘｰ
10　自分ブランディング3…「らしさ」「ならでは」
11　自分ブランディング4…自分シート創作・自己PR
12　自分ブランディング5…自己PR作成/自分ｼｰﾄ完成
13　1分間自己PR面談前半・面接応酬話法
14　1分間自己PR面談後半・面接応酬話法
15　クロージングセッション
※12月に予定される施設実習の状況、また、授業の進捗、環境の変化でシラバスの改訂もあります。(事前に案内)
[授業方法]
講義＋個人ワーク・グループワーク
（アクティブラーニング導入）
[成績評価]
授業への取組状況（60%）
中間レポート（15%）
期末試験（25%）
[教科書]
「キャリアデザイン入門［Ⅰ］基礎力編〈第二版〉」
大久保幸夫（日本経済新聞出版社）
[参考書]
講義毎に資料を配布
[準備学習（予習・復習）]
毎授業後に出席確認を兼ねた理解レポート提出。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
しっかり自分自身について考える時間にしてほしい。

[科　目　名] キャリアデザインⅡ
[担当教員名] 大成　真里
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_K12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
本授業においては、自分自身を客観的に分析していく作業を丁寧に行い、長所や強み、好みを認識すると共に、地域社会、日本社会の現状に視野を広げ、現在から未来に対する自分なりの理解を持ち、その上で社会の一員として、保育者として、今後の自身の生き方を具体的に決めていけるよう促す。
[学習成果] [K]
自分自身の人生を大きく左右する就職を成功させると共に、困難に際しても揺るがず就業を継続できることを目標に、保育者として自分自身の性質や特技、長所などがどのように活かしていけるかを掘り下げる作業を行い、幼児教育、保育の仕事の重要性や社会的役割を講義と自らの情報収集から認識する事により、自身が社会人、保育者として求められる人材に成長し、且つ地域社会の中で生き生きと生活ができるようにするために必要な行動はどのようなものであるかを考え、短い短大の期間内に本学でどのようなことを意識して学んでいくべきかを計画、実行していけるよう学習していく。それらを基礎として、具体的に就職活動に必要な文章の作成や、面接に対応できる力も身につける。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○		○		○			◎

[授業計画]
1　オリエンテーション　就職活動について
2　自己分析　作文作成による自身の特性、長所の発見
3　職業研究・時事問題調査・発表
求められている人材とは何かを考察
4　職業研究・時事問題調査・発表
就職に有利なスキルについて考察
5　論作文対策　コミュニケーションについての考察
6　応募書類の書き方　「自己PR」の作成
7　論作文対策　職場、地域、社会の現状について考察
8　応募書類の書き方　「志望動機」の作成
9　応募書類の書き方　個人指導
10　面接試験対策　面接問答例作成
11　面接試験対策　面接のマナーとポイント
12　面接試験対策　個人模擬面接(ロールプレイング)
13　面接試験対策　個人模擬面接(ロールプレイング)
14　面接試験対策(集団面接)・応募書類の整え方
15　キャリアデザイン計画まとめ
[授業方法]
講義と共に調査学習を実施し、そのプレゼンテーションを行う。また複数回の文章作成。ビジネスマナーの体得の為グループでディスカッションとロールプレイングを行う。
アクティブラーニング導入。
[成績評価]
授業への取組状況(50%)
課題提出・発表(50%)
[教科書]
必要に応じて適宜資料を配布する。
[参考書]
必要な文献は適宜講義内で紹介する。
[準備学習（予習・復習）]
毎授業後、課題として指定した文章の作成、及び自分自身が就職を希望する地域の様々な情報と保育、幼児教育に関係する時事的情報をインターネット、テレビ、新聞、各地域の市報などから収集をする調査作業を1時間程度行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
厚生労働省、文部科学省、内閣府、各地方自治体HPから保育、幼児教育、子育て支援等の情報を収集すること。

[科　目　名] キャリアデザインⅡ
[担当教員名] 大成　真里
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE30_K21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
本授業においては、自分自身を客観的に分析していく作業を丁寧に行い、長所や強み、好みを認識すると共に、地域社会、日本社会の現状に視野を広げ、現在から未来に対する自分なりの理解を持ち、その上で社会の一員として、保育者として、今後の自身の生き方を具体的に決めていけるよう促す。
[学習成果] [K]
自分自身の人生を大きく左右する就職を成功させると共に、困難に際しても揺るがず就業を継続できることを目標に、保育者として自分自身の性質や特技、長所などがどのように活かしていけるかを掘り下げる作業を行い、幼児教育、保育の仕事の重要性や社会的役割を講義と自らの情報収集から認識する事により、自身が社会人、保育者として求められる人材に成長し、且つ地域社会の中で生き生きと生活ができるようにするために必要な行動はどのようなものであるかを考え、短い短大の期間内に本学でどのようなことを意識して学んでいくべきかを計画、実行していけるよう学習していく。それらを基礎として、具体的に就職活動に必要な文章の作成や、面接に対応できる力も身につける。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○		○		○			◎

[授業計画]
1　オリエンテーション　就職活動について
2　自己分析　作文作成による自身の特性、長所の発見
3　職業研究・時事問題調査・発表
求められている人材とは何かを考察
4　職業研究・時事問題調査・発表
就職に有利なスキルについて考察
5　論作文対策　コミュニケーションについての考察
6　応募書類の書き方　「自己PR」の作成
7　論作文対策　職場、地域、社会の現状について考察
8　応募書類の書き方　「志望動機」の作成
9　応募書類の書き方　個人指導
10　面接試験対策　面接問答例作成
11　面接試験対策　面接のマナーとポイント
12　面接試験対策　個人模擬面接(ロールプレイング)
13　面接試験対策　個人模擬面接(ロールプレイング)
14　面接試験対策(集団面接)・応募書類の整え方
15　キャリアデザイン計画まとめ
[授業方法]
講義と共に調査学習を実施し、そのプレゼンテーションを行う。また複数回の文章作成。ビジネスマナーの体得の為グループでディスカッションとロールプレイングを行う。
アクティブラーニング導入。
[成績評価]
授業への取組状況(50%)
課題提出・発表(50%)
[教科書]
必要に応じて適宜資料を配布する。
[参考書]
必要な文献は適宜講義内で紹介する。
[準備学習（予習・復習）]
毎授業後、課題として指定した文章の作成、及び自分自身が就職を希望する地域の様々な情報と保育、幼児教育に関係する時事的情報をインターネット、テレビ、新聞、各地域の市報などから収集をする調査作業を1時間程度行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
厚生労働省、文部科学省、内閣府、各地方自治体HPから保育、幼児教育、子育て支援等の情報を収集すること。

[科　目　名] 日本国憲法
[担当教員名] 鮎川　潤
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_K21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
日本国憲法についての基本的知識および重要条文に関する理解と知見を得る。私たちの日常生活にどのように日本国憲法が関係しているのかを理解し、現代社会において発生する社会的諸問題を日本国憲法の観点から認識し検討することによって、どのような考察と解決がもたらされるのかを理解する。

[学習成果] [K]
日本国憲法の基本的概念や精神および条文を、学生として、また将来栄養教諭等の教育関係はもとより、福祉、医療、栄養をはじめとしてあらゆる種類の職業や日常生活において生かしていくことができるような能力を養いたい。今後人生において出会うさまざまな社会的諸問題の認識と解決について、日本国憲法を学習して得られた知見を活かすことができるようにする。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
	○	○	◎	○	

[授業計画]
1　日本国憲法誕生の経緯と歴史
2　日本国憲法の基本原理と概観
3　法の下の平等
4　自由権(1) 生命、自由、幸福追求権
5　自由権(2) 精神的自由：思想、信教、表現等の自由
6　自由権(3) 経済的自由、通信の秘密、住居の不可侵
7　自由権(4) 法定手続の保障
8　教育を受ける権利、生存権、労働基本権
9　参政権、国務請求権、国民の義務
10　立法
11　行政
12　司法
13　天皇、財政、国際条約の位置づけ
14　地方自治、憲法改正
15　日本国憲法についてのまとめと今後の展望

[授業方法]
講義が中心であるが、グループ学習によるアクティブラーニングを実施し、調査した内容や意見を発表しあってディスカッションを行い、受講生が日本国憲法をより深く理解できるように努めたい。

[成績評価]
筆記試験（60%）
報告・発表およびレポート（30%）
授業への取組状況（10%）

[教科書]
初宿正典他『目で見る憲法』（有斐閣）最新版

[参考書]
鮎川潤『新しい視点で考える犯罪と刑事政策』昭和堂、2017年。（特に第2、3、9、12、15回に関して）

[準備学習（予習・復習）]
予習として、各授業の回のテーマに関する教科書の該当の章をあらかじめ読んで理解に努めるとともに、復習として、授業で学習した内容について、該当する章の記述を再読し理解を深めること。また、憲法と関係のあると思われるニュース報道に関心を払って自分なりに検討を試みてほしい。（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 日本国憲法
[担当教員名] 鮎川　潤
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCI0_K21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
日本国憲法についての基本的知識および重要条文に関する理解と知見を得る。私たちの日常生活にどのように日本国憲法が関係しているのかを理解し、現代社会において発生する社会的諸問題を日本国憲法の観点から認識し検討することによって、どのような考察と解決がもたらされるのかを理解する。

[学習成果] [K]
日本国憲法の基本的概念や精神および条文を、学生として、また将来、情報、福祉、医療等のあらゆる種類の職業や日常生活において生かしていくことができるような能力を養いたい。今後人生において出会うさまざまな社会的諸問題の認識と解決について、日本国憲法を学習して得られた知見を活かすことができるようにする。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
			◎		○	◎	○

[授業計画]
1　日本国憲法誕生の経緯と歴史
2　日本国憲法の基本原理と概観
3　法の下の平等
4　自由権(1) 生命、自由、幸福追求権
5　自由権(2) 精神的自由：思想、信教、表現等の自由
6　自由権(3) 経済的自由、通信の秘密、住居の不可侵
7　自由権(4) 法定手続の保障
8　教育を受ける権利、生存権、労働基本権
9　参政権、国務請求権、国民の義務
10　立法
11　行政
12　司法
13　天皇、財政、国際条約の位置づけ
14　地方自治、憲法改正
15　日本国憲法についてのまとめと今後の展望

[授業方法]
講義が中心であるが、グループ学習によるアクティブラーニングを実施し、調査した内容や意見を発表しあってディスカッションを行い、受講生が日本国憲法をより深く理解できるように努めたい。

[成績評価]
筆記試験（60%）
報告・発表およびレポート（30%）
授業への取組状況（10%）

[教科書]
初宿正典他『目で見る憲法』（有斐閣）最新版

[参考書]
鮎川潤『新しい視点で考える犯罪と刑事政策』昭和堂、2017年。（特に第2、3、9、12、15回に関して）

[準備学習（予習・復習）]
予習として、各授業の回のテーマに関する教科書の該当の章をあらかじめ読んで理解に努めるとともに、復習として、授業で学習した内容について、該当する章の記述を再読し理解を深めること。また、憲法と関係のあると思われるニュース報道に関心を払って自分なりに検討を試みてほしい。（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 日本国憲法
[担当教員名] 鮎川　潤
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE10_K22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
日本国憲法についての基本的知識および重要条文に関する理解と知見を得る。私たちの日常生活にどのように日本国憲法が関係しているのかを理解し、現代社会において発生する社会的諸問題を日本国憲法の観点から認識し検討することによって、どのような考察と解決がもたらされるのかを理解する。

[学習成果] [K]
日本国憲法の基本的概念や精神および条文を、学生として、また将来幼稚園教諭・保育士をはじめとする教育や福祉関係の仕事に就いた場合はもとより、あらゆる種類の職業や日常生活において生かしていくことができるような能力を養いたい。人生において出会うさまざまな社会的諸問題の認識と解決について、日本国憲法を学習して得られた知見を活かすことができるようにする。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	◎	◎	◎	○	◎		

[授業計画]
1　日本国憲法誕生の経緯と歴史
2　日本国憲法の基本原理と概観
3　法の下の平等
4　自由権(1) 生命、自由、幸福追求権
5　自由権(2) 精神的自由：思想、信教、表現等の自由
6　自由権(3) 経済的自由、通信の秘密、住居の不可侵
7　自由権(4) 法定手続の保障
8　教育を受ける権利、生存権、労働基本権
9　参政権、国務請求権、国民の義務
10　立法
11　行政
12　司法
13　天皇、財政、国際条約の位置づけ
14　地方自治、憲法改正
15　日本国憲法についてのまとめと今後の展望

[授業方法]
講義が中心であるが、グループ学習によるアクティブラーニングを実施し、調査した内容や意見を発表しあってディスカッションを行い、受講生が日本国憲法をより深く理解できるように努めたい。

[成績評価]
筆記試験（60%）
報告・発表およびレポート（30%）
授業への取組状況（10%）

[教科書]
初宿正典他『目で見る憲法』（有斐閣）最新版

[参考書]
鮎川潤『新しい視点で考える犯罪と刑事政策』昭和堂、2017年。（特に第2、3、9、12、15回に関して）

[準備学習（予習・復習）]
予習として、各授業の回のテーマに関する教科書の該当の章をあらかじめ読んで理解に努めるとともに、復習として、授業で学習した内容について、該当する章の記述を再読し理解を深めること。また、憲法と関係のあると思われるニュース報道に関心を払って自分なりに検討を試みてほしい。（なお、履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間（予習・復習）を参照のこと。

[備考]

[科　目　名] 日本国憲法
[担当教員名] 鮎川　潤
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE30_K21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
日本国憲法についての基本的知識および重要条文に関する理解と知見を得る。私たちの日常生活にどのように日本国憲法が関係しているのかを理解し、現代社会において発生する社会的諸問題を日本国憲法の観点から認識し検討することによって、どのような考察と解決がもたらされるのかを理解する。

[学習成果] [K]
日本国憲法の基本的概念や精神および条文を、学生として、また将来幼稚園教諭・保育士をはじめとする教育や福祉関係の仕事に就いた場合はもとより、あらゆる種類の職業や日常生活において生かしていくことができるような能力を養いたい。人生において出会うさまざまな社会的諸問題の認識と解決について、日本国憲法を学習して得られた知見を活かすことができるようにする。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	◎	◎	◎	○	◎		

[授業計画]
1　日本国憲法誕生の経緯と歴史
2　日本国憲法の基本原理と概観
3　法の下の平等
4　自由権(1) 生命、自由、幸福追求権
5　自由権(2) 精神的自由：思想、信教、表現等の自由
6　自由権(3) 経済的自由、通信の秘密、住居の不可侵
7　自由権(4) 法定手続の保障
8　教育を受ける権利、生存権、労働基本権
9　参政権、国務請求権、国民の義務
10　立法
11　行政
12　司法
13　天皇、財政、国際条約の位置づけ
14　地方自治、憲法改正
15　日本国憲法についてのまとめと今後の展望

[授業方法]
講義が中心であるが、グループ学習によるアクティブラーニングを実施し、調査した内容や意見を発表しあってディスカッションを行い、受講生が日本国憲法をより深く理解できるように努めたい。

[成績評価]
筆記試験（60%）
報告・発表およびレポート（30%）
授業への取組状況（10%）

[教科書]
初宿正典他『目で見る憲法』（有斐閣）最新版

[参考書]
鮎川潤『新しい視点で考える犯罪と刑事政策』昭和堂、2017年。（特に第2、3、9、12、15回に関して）

[準備学習（予習・復習）]
予習として、各授業の回のテーマに関する教科書の該当の章をあらかじめ読んで理解に努めるとともに、復習として、授業で学習した内容について、該当する章の記述を再読し理解を深めること。また、憲法と関係のあると思われるニュース報道に関心を払って自分なりに検討を試みてほしい。（なお、履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間（予習・復習）を参照のこと。

[備考]

[科　目　名] 地球と生命
[担当教員名] 西澤　早紀子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_K11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
ヒトは地球上の生物の一員である。生物学は、より豊かにこの地球上で生物として活動していくための基礎教養である。具体的には、
●細胞の構造、小器官の名称・働きの理解
●細胞分裂の仕組みの理解
●核酸の構造と複製・遺伝の理解
●免疫の仕組みの理解
●神経系・内分泌系による調節機構の理解ができる。

[学習成果] [K]
栄養士養成の関連科目の基礎となる知識を修得し、身体を構成する細胞の構造と働き、恒常性を維持する仕組みを理解、生物を取り巻く社会的な問題についても考えることができるようになる、また、それを表現する力が修得できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎	○		

[授業計画]
1　生物とは、細胞 (1) 原核生物と真核生物①
2　細胞 (2) 原核生物と真核生物②
3　細胞 (3) 細胞の構造と機能②
4　細胞 (4) 細胞の構造と機能③
5　細胞の分裂と増殖 (1) 核酸
6　細胞の分裂と増殖 (2) 細胞分裂①、神経系・内分泌系による調節
7　細胞の分裂と増殖 (3) 細胞分裂②
8　核酸と遺伝 (1) 遺伝子とタンパク質合成①
9　核酸と遺伝 (1) 遺伝子とタンパク質合成②
10　核酸と遺伝 (3) 遺伝性疾患①
11　核酸と遺伝 (3) 遺伝性疾患②
12　免疫 (1) 細胞性免疫
13　免疫 (2) 体液性免疫
14　免疫 (3) 食物アレルギー①
15　免疫 (3) 食物アレルギー②

[授業方法]
講義が主体だが、生体内の動的な仕組みの理解を目的にビデオや動画の視聴も実施する。ディスカッションも取り入れ、お互いの意見を交流させ、より深く考える場を提供する。毎回、自分自身の理解を振り返るシートを活用し、学びの定着を図る。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（60%）
授業・課題への取組状況（40%）

[教科書]
「栄養科学シリーズＮＥＸＴ　生化学」加藤秀夫他著
（講談社サイエンフィク）

[参考書]
「わかる生物学」　小野廣紀他著（化学同人）
「好きになる分子生物学」　萩原清文著
（講談社サイエンティフィク）

[準備学習（予習・復習）]
予習・復習で90分程度行うものとし、予習として、調べ学習、復習は学修成果報告文の提出を求める。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
今後、栄養士養成では、栄養学、解剖生理学、生化学などを学ぶことになるが、この講義が、生命の仕組みを理解する第一歩となる。

[科　目　名] 基礎数学
[担当教員名] 水野　重夫
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_K11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
数学のいろいろな話題や問題に取り組み、数学を一層興味のある、親しみやすいものにしたい。また、数学を学ぶことを通して、数学的なものの見方や考え方を身につけ、数学のよさを認識することにより、これからの人生をより豊かなものにしてもらいたい。

[学習成果] [K]
一見解くことが困難であると思われる問題も、解法の糸口を見つけ、それを突破口にして筋道を立てて考えることにより、正解にたどり着くことができるようになる。
この授業を通して、数学の世界にとどまらず、社会に出た時に出会う、解決しなければならない様々な問題に対して、自信を持って対処できるようにしたいと考えている。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		○	◎	○	

[授業計画]
1　数と式
2　最大公約数と最小公倍数
3　集合
4　割合
5　速さ・時間・距離
6　順列と組合せ
7　確率
8　平面図形1
9　平面図形2
10　平面図形3
11　論理1
12　論理2
13　論理3
14　いろいろな問題1
15　いろいろな問題2

[授業方法]
あらかじめ配布する授業プリントの問題について、解決の糸口をどう見つければよいのか、糸口が見つかったら正解に至るまでにどのような考え方をしたらよいのかについて、詳しく解説する。小・中・高で学習した内容で、忘れていたり曖昧になっている事柄については復習しながら授業を進める。

[成績評価]
試験（70%）
課題や授業への取組状況（30%）

[教科書]
授業プリントを配布

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
予習としては、授業プリントの問題を自分で解いてみること。復習としては、授業で解説した問題の解き方を理解すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
数学が不得意で、授業についていけるかどうか心配している人も多いと思うが、授業はできる限りわかりやすく、ゆっくりとしたペースで進めていくので、頑張ってついてきてほしい。
あらかじめ授業プリントを配布するので、予習をして授業に臨んでほしい。

[科　目　名] 基礎数学
[担当教員名] 水野　重夫
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_K11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
数学のいろいろな話題や問題に取り組み、数学を一層興味のある、親しみやすいものにしたい。また、数学を学ぶことを通して、数学的なものの見方や考え方を身につけ、数学のよさを認識することにより、これからの人生をより豊かなものにしてもらいたい。

[学習成果] [K]
一見解くことが困難であると思われる問題も、解法の糸口を見つけ、それを突破口にして筋道を立てて考えることにより、正解にたどり着くことができるようになる。
この授業を通して、数学の世界にとどまらず、社会に出た時に出会う、解決しなければならない様々な問題に対して、自信を持って対処できるようにしたいと考えている。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎		○			○	○	

[授業計画]
1　数と式
2　最大公約数と最小公倍数
3　集合
4　割合
5　速さ・時間・距離
6　順列と組合せ
7　確率
8　平面図形1
9　平面図形2
10　平面図形3
11　論理1
12　論理2
13　論理3
14　いろいろな問題1
15　いろいろな問題2

[授業方法]
あらかじめ配布する授業プリントの問題について、解決の糸口をどう見つければよいのか、糸口が見つかったら正解に至るまでにどのような考え方をしたらよいのかについて、詳しく解説する。小・中・高で学習した内容で、忘れていたり曖昧になっている事柄については復習しながら授業を進める。

[成績評価]
試験（70%）
課題や授業への取組状況（30%）

[教科書]
授業プリントを配布

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
予習としては、授業プリントの問題を自分で解いてみること。復習としては、授業で解説した問題の解き方を理解すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
数学が不得意で、授業についていけるかどうか心配している人も多いと思うが、授業はできる限りわかりやすく、ゆっくりとしたペースで進めていくので、頑張ってついてきてほしい。
あらかじめ授業プリントを配布するので、予習をして授業に臨んでほしい。

[科　目　名] 基礎数学
[担当教員名] 水野　重夫
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE30_K12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
数学のいろいろな話題や問題に取り組み、数学を一層興味のある、親しみやすいものにしたい。また、数学を学ぶことを通して、数学的なものの見方や考え方を身につけ、数学のよさを認識することにより、これからの人生をより豊かなものにしてもらいたい。

[学習成果] [K]
一見解くことが困難であると思われる問題も、解法の糸口を見つけ、それを突破口にして筋道を立てて考えることにより、正解にたどり着くことができるようになる。
この授業を通して、数学の世界にとどまらず、社会に出た時に出会う、解決しなければならない様々な問題に対して、自信を持って対処できるようにしたいと考えている。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎		○			○	○	

[授業計画]
1　数と式
2　最大公約数と最小公倍数
3　集合
4　割合
5　速さ・時間・距離
6　順列と組合せ
7　確率
8　平面図形1
9　平面図形2
10　平面図形3
11　論理1
12　論理2
13　論理3
14　いろいろな問題1
15　いろいろな問題2

[授業方法]
あらかじめ配布する授業プリントの問題について、解決の糸口をどう見つければよいのか、糸口が見つかったら正解に至るまでにどのような考え方をしたらよいのかについて、詳しく解説する。小・中・高で学習した内容で、忘れていたり曖昧になっている事柄については復習しながら授業を進める。

[成績評価]
試験（70%）
課題や授業への取組状況（30%）

[教科書]
授業プリントを配布

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
予習としては、授業プリントの問題を自分で解いてみること。復習としては、授業で解説した問題の解き方を理解すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
数学が不得意で、授業についていけるかどうか心配している人も多いと思うが、授業はできる限りわかりやすく、ゆっくりとしたペースで進めていくので、頑張ってついてきてほしい。
あらかじめ授業プリントを配布するので、予習をして授業に臨んでほしい。

[科　目　名] 英語演習Ⅰ
[担当教員名] 山﨑　宜久
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCFO_K11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
旅行や日本文化の紹介など、実際に英語を使うシチュエーションの設定で、実践的な英語を学習する。ビジネスシーンや食を題材としたグループワーク形式の授業により、グローバル社会で必要なコミュニケーション力と表現力を磨く。

[学習成果] [K]
英語でのコミュニケーションに関心を持ち、聞き取り、話すという日常英語ができるようになる。将来の職業に関係する英語学習やビジネスシーンにおけるロールプレイを通じて、実務で役立つ英語を習得する。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎	○		

[授業計画]
1　Introducing ourselves
2　Where are you from?
3　(1) Would you like chicken or fish?
4　(2) Can I have your passport, please?
5　(3) My mother has her own business.
6　(4) Can I check my email?
7　(5) Are you ready to order?
8　At the reception
9　(6) Where's the station?
10　(7) Can I use my card in this ATM?
11　(8) Do you have a non-smoking room?
12　(9) I have a stomachache.
13　(10) I'm from Japan.
14　Cooking instructions
15　Expressing your opinion

[授業方法]
ロールプレイやディスカッションなどのグループワークが授業の中心となる。毎授業の復習に関して、ライティングの課題を提出する。ビデオ等の視聴によるリスニングを行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
小テスト及び授業への取組状況（30%）

[教科書]
PASSPOTY 1 (OXFORD)
授業プリントを配布

[参考書]
Essential Grammar in Use (Cambridge Univ. Press)

[準備学習（予習・復習）]
毎授業後に提示する課題を提出すること。
小テストのための単語や文章を復習すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
英語や外国文化を身近なものとして興味を持って、積極的に授業に取り組んでほしい。

[科　目　名] 英語演習Ⅰ
[担当教員名] 山﨑　宜久
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCIO_K11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
旅行や日本文化の紹介など、実際に英語を使うシチュエーションの設定で、実践的な英語を学習する。ビジネスシーンや食を題材としたグループワーク形式の授業により、グローバル社会で必要なコミュニケーション力と表現力を磨く。

[学習成果] [K]
英語でのコミュニケーションに関心を持ち、聞き取り、話すという日常英語ができるようになる。将来の職業に関係する英語学習やビジネスシーンにおけるロールプレイを通じて、実務で役立つ英語を習得する。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
			○				◎

[授業計画]
1 Introducing ourselves
2 Where are you from?
3 (1) Would you like chicken or fish?
4 (2) Can I have your passport, please?
5 (3) My mother has her own business.
6 (4) Can I check my email?
7 (5) Are you ready to order?
8 At the reception
9 (6) Where's the station?
10 (7) Can I use my card in this ATM?
11 (8) Do you have a non-smoking room?
12 (9) I have a stomachache.
13 (10) I'm from Japan.
14 Cooking instructions
15 Expressing your opinion

[授業方法]
ロールプレイやディスカッションなどのグループワークが授業の中心となる。毎授業の復習に関して、ライティングの課題を提出する。ビデオ等の視聴によるリスニングを行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験　(70%)
小テスト及び授業への取組状況　(30%)

[教科書]
PASSPOTY 1 (OXFORD)
授業プリントを配布

[参考書]
Essential Grammar in Use (Cambridge Univ. Press)

[準備学習 (予習・復習)]
毎授業後に提示する課題を提出すること。
小テストのための単語や文章を復習すること。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
英語や外国文化を身近なものとして興味を持って、積極的に授業に取り組んでほしい。

[科　目　名] 英語演習Ⅱ
[担当教員名] 山﨑　宜久
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCFO_K12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
旅行や日本文化の紹介など、実際に英語を使うシチュエーションの設定で、実践的な英語を学習する。ビジネスシーンや食を題材としたグループワーク形式の授業により、グローバル社会で必要なコミュニケーション力と表現力を磨く。

[学習成果] [K]
英語でのコミュニケーションに関心を持ち、聞き取り、話すという日常英語ができるようになる。将来の職業に関係する英語学習やビジネスシーンにおけるロールプレイを通じて、実務で役立つ英語を習得する。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎	○		

[授業計画]
1 How was your vacation?
2 (11) What time does it start?
3 (12) Have you been to the island?
4 (13) I really like rugby!
5 (14) Where should we meet?
6 (15) How about 400 baht for two?
7 Cultural differences
8 (16) I'd like to send this to Japan, please.
9 Decision making
10 (17) We're staying five more days.
11 (18) I lost my bag!
12 (19) Which bus goes to the airport?
13 (20) What did you like the best?
14 Telephone conversation
15 Planning some events

[授業方法]
ロールプレイやディスカッションなどのグループワークが授業の中心となる。毎授業の復習に関して、ライティングの課題を提出する。ビデオ等の視聴によるリスニングを行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験 (70%)
小テスト及び授業への取組状況 (30%)

[教科書]
PASSPOTY 1 (OXFORD)
授業プリントを配布

[参考書]
Essential Grammar in Use (Cambridge Univ. Press)

[準備学習 (予習・復習)]
毎授業後に提示する課題を提出すること。
小テストのための単語や文章を復習すること。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
英語や外国文化を身近なものとして興味を持って、積極的に授業に取り組んでほしい。

[科　目　名] 英語演習Ⅱ
[担当教員名] 山﨑　宜久
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCIO_K12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
旅行や日本文化の紹介など、実際に英語を使うシチュエーションの設定で、実践的な英語を学習する。ビジネスシーンや食を題材としたグループワーク形式の授業により、グローバル社会で必要なコミュニケーション力と表現力を磨く。

[学習成果] [K]
英語でのコミュニケーションに関心を持ち、聞き取り、話すという日常英語ができるようになる。将来の職業に関係する英語学習やビジネスシーンにおけるロールプレイを通じて、実務で役立つ英語を習得する。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
			○				◎

[授業計画]
1 How was your vacation?
2 (11) What time does it start?
3 (12) Have you been to the island?
4 (13) I really like rugby!
5 (14) Where should we meet?
6 (15) How about 400 baht for two?
7 Cultural differences
8 (16) I'd like to send this to Japan, please.
9 Decision making
10 (17) We're staying five more days.
11 (18) I lost my bag!
12 (19) Which bus goes to the airport?
13 (20) What did you like the best?
14 Telephone conversation
15 Planning some events

[授業方法]
ロールプレイやディスカッションなどのグループワークが授業の中心となる。毎授業の復習に関して、ライティングの課題を提出する。ビデオ等の視聴によるリスニングを行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験 (70%)
小テスト及び授業への取組状況 (30%)

[教科書]
PASSPOTY 1 (OXFORD)
授業プリントを配布

[参考書]
Essential Grammar in Use (Cambridge Univ. Press)

[準備学習 (予習・復習)]
毎授業後に提示する課題を提出すること。
小テストのための単語や文章を復習すること。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
英語や外国文化を身近なものとして興味を持って、積極的に授業に取り組んでほしい。

[科　目　名] 英語演習Ⅰ
[担当教員名] 山﨑　宜久
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_K11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育に関する話題を中心に双方向のコミュニケーション活動を行う。それぞれの話題について土台となる語彙、表現を見につけ (インプット)、授業でそれらの語彙、表現を使ってアウトプットする機会 (ペアワーク・グループワーク等) をもつことにより、確実に自己表現ができ、相手が伝えたい情報を把握することができる英語力を体得する。

[学習成果] [K]
日本語を介在することなく、伝えたい情報に関する語彙、表現がすぐに頭に浮かび，自然に口を衝いて出るようになる。個々の発音に縛られて口籠もることなく，正しいリズム・イントネーションを使って話すことができる。また、ネイティブスピーカーの自然な発話が理解できるようになる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	◎	○	○		◎	○

[授業計画]
1 Rules for Classroom Behaviour
2 Self-introduction & Interview
3 英語のリズム・イントネーションの練習
4 Basic Grammar 1
5 Basic Grammar 2
6 Basic Grammar 3
7 Review
8 First Step to Childcare English
9 Welcome to Minato Nursery School!
10 Time and Numbers 1
11 Time and Numbers 2
12 Time and Numbers 3
13 Directions 1
14 Directions 2
15 Review

[授業方法]
毎回、授業の最初に前回の授業内容に関する復習小テストを行う。ペアワークやマザーグース等の歌唱などを通して自然に楽しく英語が身につくようにする。英語力の伸張に応じてスピーチ等も取り入れ、幼保英語検定に対応できる英語力をつける。

[成績評価]
試験 (70%)
小テスト及び授業への取組状況 (30%)

[教科書]
保育の英会話 (萌文書林) ・授業プリント

[参考書]
Essential Grammar in Use (Cambridge Univ. Press)

[準備学習 (予習・復習)]
復習を怠らずに毎回実施する小テストにきちんと取り組むこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
間違うことを恐れずに積極的に授業に参加する姿勢をもつことが大切である。

[科　目　名] 英語演習Ⅱ
[担当教員名] 山崎　宜久
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_K12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育に関する話題を中心に双方向のコミュニケーション活動を行う。それぞれの話題について土台となる語彙、表現を見につけ（インプット）、授業でそれらの語彙、表現を使ってアウトプットする機会（ペアワーク・グループワーク等）をもつことにより、確実に自己表現ができ、相手が伝えたい情報を把握することができる英語力を体得する。

[学習成果] [K]
日本語を介在することなく、伝えたい情報に関する語彙、表現がすぐに頭に浮かび，自然に口を衝いて出るようになる。個々の発音に縛られて口籠もることなく，正しいリズム・イントネーションを使って話すことができる。また、ネイティブスピーカーの自然な発話が理解できるようになる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	◎	○	○		◎	○

[授業計画]
1　Davy Meets His Classmate Takashi
2　Dropping Davy off and Picking Him Up
3　Jobs at Nursery School 1
4　Jobs at Nursery School 2
5　Lunchtime
6　Toilet Dialog
7　Fighting
8　Review
9　Injuries and illness 1
10　Telephone Calls
11　Telephone Calls
12　Field Trip
13　Baby Care
14　Graduation Day
15　Review

[授業方法]
毎回､授業の最初に前回の授業内容に関する復習小テストを行う｡ペアワークやマザーグース等の歌唱などを通して自然に楽しく英語が身につくようにする｡英語力の伸張に応じてスピーチ等も取り入れ､幼保英語検定に対応できる英語力をつける。

[成績評価]
試験　(70%)
小テスト及び授業への取組状況　(30%)

[教科書]
保育の英会話（萌文書林）・授業プリント

[参考書]
Essential Grammar in Use (Cambridge Univ. Press)

[準備学習（予習・復習）]
復習を怠らずに毎回実施する小テストにきちんと取り組むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
間違うことを恐れずに積極的に授業に参加する姿勢をもつことが大切である。

[科　目　名] 中国語演習Ⅰ
[担当教員名] 森村　森鳳
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_K11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
アジア諸国で公用語とされている中国語（北京語）を学び、グローバル社会に適応出来る人材育成を図る。

[学習成果] [K]
発音、基本的な構文及び会話を習得する。初級中国語で特に大事な発音を一年を通して何度も振り返り、丁寧に学ぶ。アクティブラーニングを取り入れ、語彙や学習の成果についての確認、必要に応じゲーム形式での学習及びグループ学習も行う。楽しく学んで、実際に話せる中国語をめざす。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○	○	○	○	○	○	◎

[授業計画]（習得速度により追加変更の可能性あり）
1　中国語とは。発音　単語
2　発音①　名前①　単語
3　発音②　名前②　単語
4　発音③　名前③　単語　会話
5　第1課①　新出単語、発音、基本文、文法
6　第1課②　練習、応用会話
7　第2課①　新出単語、発音、基本文、文法
8　第2課②　練習、応用会話
9　第3課①　新出単語、発音、基本文、文法
10　第3課②　練習、応用会話
11　第4課①　新出単語、発音、基本文、文法
12　第4課②　練習、応用会話
13　第5課①　新出単語、発音、基本文、文法
14　第5課②　練習、応用会話
15　第6課①　新出単語、発音、基本文、文法

[授業方法]
テキスト及び補助プリントを用いて、簡体字の練習～応用練習を行う。中国語版の語彙かるたを用いて語彙の練習をしたり、席を立ち、グループや遠くに座っているクラスメートと中国語でコミュニケーションをとる練習もする。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（20%）
授業への取組状況（80%）

[教科書]
「恋する莎莎」（朝日出版社）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
適切な予習・復習時間を課す。
「宿題やテーマを与える」
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
○使用機材：ＣＤ、プロジェクター、ＰＣ　等
○予習・復習：授業内容により課す場合も有

[科　目　名] 中国語演習Ⅱ
[担当教員名] 森村　森鳳
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_K12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
アジア諸国で公用語とされている中国語（北京語）を学び、グローバル社会に適応出来る人材育成を図る。

[学習成果] [K]
発音、基本的な構文及び会話を習得する。初級中国語で特に大事な発音を一年を通して何度も振り返り、丁寧に学ぶ。アクティブラーニングを取り入れ、語彙や学習の成果についての確認、必要に応じゲーム形式での学習及びグループ学習も行う。楽しく学んで、実際に話せる中国語をめざす。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○	○	○	○	○	○	◎

[授業計画] （習得速度により追加変更の可能性あり）
1　第 6課②　練習、応用会話
2　第 7課①　新出単語、発音、基本文、文法
3　第 7課②　会話練習、練習問題、ロールプレイ
4　第 8課①　新出単語、発音、基本文、文法
5　第 8課②　練習、応用会話
6　第 9課①　新出単語、発音、基本文、文法
7　第 9課②　練習、応用会話
8　第10課①　新出単語、発音、基本文、文法
9　第10課②　練習、応用会話
10　第11課①　新出単語、発音、基本文、文法
11　第11課②　練習、応用会話
12　第12課①　新出単語、発音、基本文、文法
13　第12課②　練習、応用会話
14　第13課①　新出単語、発音、基本文、文法
15　第13課②　まとめ

[授業方法]
テキスト及び補助プリントを用いて、簡体字の練習～応用練習を行う。中国語版の語彙かるたを用いて語彙の練習をしたり、席を立ち、グループや遠くに座っているクラスメートと中国語でコミュニケーションをとる練習もする。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（20%）
授業への取組状況（80%）

[教科書]
「恋する莎莎」（朝日出版社）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
適切な予習・復習時間を課す。
「宿題やテーマを与える」
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
○使用機材：CD、プロジェクター、PC　等
○予習・復習：授業内容により課す場合も有

[科　目　名] 英会話Ⅰ
[担当教員名] 山﨑　宜久
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE30_K11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育に関する話題を中心に双方向のコミュニケーション活動を行う。それぞれの話題について土台となる語彙、表現を見につけ（インプット）、授業でそれらの語彙、表現を使ってアウトプットする機会（ペアワーク・グループワーク等）をもつことにより、確実に自己表現ができ、相手が伝えたい情報を把握することができる英語力を体得する。

[学習成果] [K]
日本語を介在することなく、伝えたい情報に関する語彙、表現がすぐに頭に浮かび，自然に口を衝いて出るようになる。個々の発音に縛られて口籠もることなく，正しいリズム・イントネーションを使って話すことができる。また、ネイティブスピーカーの自然な発話が理解できるようになる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	◎	○	○		◎	○

[授業計画]
1　Rules for Classroom Behaviour
2　Self-introduction & Interview
3　英語のリズム・イントネーションの練習
4　Basic Grammar 1
5　Basic Grammar 2
6　Basic Grammar 3
7　Review
8　First Step to Childcare English
9　Welcome to Minato Nursery School!
10　Time and Numbers 1
11　Time and Numbers 2
12　Time and Numbers 3
13　Directions 1
14　Directions 2
15　Review

[授業方法]
毎回、授業の最初に前回の授業内容に関する復習小テストを行う。ペアワークやマザーグース等の歌唱などを通して自然に楽しく英語が身につくようにする。英語力の伸張に応じてスピーチ等も取り入れ、幼保英語検定に対応できる英語力をつける。

[成績評価]
試験　(70%)
小テスト及び授業への取組状況　(30%)

[教科書]
保育の英会話（萌文書林）・授業プリント

[参考書]
Essential Grammar in Use (Cambridge Univ. Press)

[準備学習（予習・復習）]
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
復習を怠らずに毎回実施する小テストにきちんと取り組むことと，間違うことを恐れずに積極的に授業に参加する姿勢をもつことが大切である。

[科　目　名] 英会話Ⅱ
[担当教員名] 山﨑　宜久
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE30_K12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育に関する話題を中心に双方向のコミュニケーション活動を行う。それぞれの話題について土台となる語彙、表現を見につけ（インプット）、授業でそれらの語彙、表現を使ってアウトプットする機会（ペアワーク・グループワーク等）をもつことにより、確実に自己表現ができ、相手が伝えたい情報を把握することができる英語力を体得する。

[学習成果] [K]
日本語を介在することなく、伝えたい情報に関する語彙、表現がすぐに頭に浮かび，自然に口を衝いて出るようになる。個々の発音に縛られて口籠もることなく，正しいリズム・イントネーションを使って話すことができる。また、ネイティブスピーカーの自然な発話が理解できるようになる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	◎	○	○		◎	○

[授業計画]
1 Davy Meets His Classmate Takashi
2 Dropping Davy off and Picking Him Up
3 Jobs at Nursery School 1
4 Jobs at Nursery School 2
5 Lunchtime
6 Toilet Dialog
7 Fighting
8 Review
9 Injuries and illness 1
10 Telephone Calls
11 Telephone Calls
12 Field Trip
13 Baby Care
14 Graduation Day
15 Review

[授業方法]
毎回､授業の最初に前回の授業内容に関する復習小テストを行う｡ペアワークやマザーグース等の歌唱などを通して自然に楽しく英語が身につくようにする｡英語力の伸張に応じてスピーチ等も取り入れ､幼保英語検定に対応できる英語力をつける。

[成績評価]
試験　(70%)
小テスト及び授業への取組状況　(30%)

[教科書]
保育の英会話（萌文書林）・授業プリント

[参考書]
Essential Grammar in Use (Cambridge Univ. Press)

[準備学習（予習・復習）]
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
復習を怠らずに毎回実施する小テストにきちんと取り組むことと，間違うことを恐れずに積極的に授業に参加する姿勢をもつことが大切である。

[科　目　名] 英会話Ⅰ
[担当教員名] ジェフリークラップ
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_K21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
Lessons will be conducted in English using the Prescribedtextbook which includes the four skills of reading, speaking, listening and writing.
Everyday English will allow students to practice conversations in pairs, build up vocabulary and improve grammar through exercises which additionally broaden their horizons with interesting topics.
Continual assessment and end of term written test.

[学習成果] [K]
Students will improve their speaking, listening, reading and writing skills through a variety of exercises.

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎		○	

[授業計画]
1 Course explanation, and getting to know you – teacher introduction quiz
2 Unit 1 Hello! : Introductions
3 Unit 1 How are you? : Everyday English
4 Unit 1 Vocabulary and Speaking
5 Unit 2 Your World: Countries
6 Unit 2 Cities and Countries
7 Unit 2 Reading and Speaking: Everyday English
8 Unit 3 All about you: Personal Information
9 Unit 3 The Audition - interview
10 Unit 3 Reading and Listening: Everyday English
11 Unit 4 Family and Friends: relationships
12 Unit 4 Relationships
13 Unit 4 Reading and Writing
14 Unit 4 Everyday English
15 Review for Test

[授業方法]
Students work in pairs and/or small groups.
Supplementary materials will be used with additional worksheets to provide variety and support in learning.

[成績評価]
Test (50%)
participation (50%)

[教科書]
New Headway (Fourth Edition): Beginner Student's Book by Liz and John Soars: Publisher: (Oxford University Press)
ISBN 978-0-19-477104-7

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
About one hour spent on homework exercises and preparation for following class
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 英会話 I
[担当教員名] ジェフリークラップ
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCI0_K21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
Lessons will be conducted in English using the Prescribedtextbook which includes the four skills of reading, speaking, listening and writing.
Everyday English will allow students to practice conversations in pairs, build up vocabulary and improve grammar through exercises which additionally broaden their horizons with interesting topics.
Continual assessment and end of term written test.

[学習成果] [K]
Students will improve their speaking, listening, reading and writing skills through a variety of exercises.

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○						◎

[授業計画]
1 Course explanation, and getting to know you – teacher introduction quiz
2 Unit 1 Hello! : Introductions
3 Unit 1 How are you? : Everyday English
4 Unit 1 Vocabulary and Speaking
5 Unit 2 Your World: Countries
6 Unit 2 Cities and Countries
7 Unit 2 Reading and Speaking: Everyday English
8 Unit 3 All about you: Personal Information
9 Unit 3 The Audition - interview
10 Unit 3 Reading and Listening: Everyday English
11 Unit 4 Family and Friends: relationships
12 Unit 4 Relationships
13 Unit 4 Reading and Writing
14 Unit 4 Everyday English
15 Review for Test

[授業方法]
Students work in pairs and/or small groups.
Supplementary materials will be used with additional worksheets to provide variety and support in learning.

[成績評価]
Test (50%)
participation (50%)

[教科書]
New Headway (Fourth Edition): Beginner Student's Book by Liz and John Soars: Publisher: (Oxford University Press)
ISBN 978-0-19-477104-7

[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]
About one hour spent on homework exercises and preparation for following class
(履修案内のII履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科　目　名] 英会話 I
[担当教員名] ジェフリークラップ
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_K21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
Lessons will be conducted in English using the Prescribedtextbook which includes the four skills of reading, speaking, listening and writing.
Everyday English will allow students to practice conversations in pairs, build up vocabulary and improve grammar through exercises which additionally broaden their horizons with interesting topics.
Continual assessment and end of term written test.

[学習成果] [K]
Students will improve their speaking, listening, reading and writing skills through a variety of exercises.

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○	◎	○	○			

[授業計画]
1 Course explanation, and getting to know you – teacher introduction quiz
2 Unit 1 Hello! : Introductions
3 Unit 1 How are you? : Everyday English
4 Unit 1 Vocabulary and Speaking
5 Unit 2 Your World: Countries
6 Unit 2 Cities and Countries
7 Unit 2 Reading and Speaking: Everyday English
8 Unit 3 All about you: Personal Information
9 Unit 3 The Audition - interview
10 Unit 3 Reading and Listening: Everyday English
11 Unit 4 Family and Friends: relationships
12 Unit 4 Relationships
13 Unit 4 Reading and Writing
14 Unit 4 Everyday English
15 Review for Test

[授業方法]
Students work in pairs and/or small groups.
Supplementary materials will be used with additional worksheets to provide variety and support in learning.

[成績評価]
Test (50%)
participation (50%)

[教科書]
New Headway (Fourth Edition): Beginner Student's Book by Liz and John Soars: Publisher: (Oxford University Press)
ISBN 978-0-19-477104-7

[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]
About one hour spent on homework exercises and preparation for following class
(履修案内のII履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科　目　名] 英会話Ⅱ
[担当教員名] ジェフリークラップ
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_K22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
Lessons will be conducted in English using the Prescribedtextbook which includes the four skills of reading, speaking, listening and writing.
Everyday English will allow students to practice conversations in pairs, build up vocabulary and improve grammar through exercises which additionally broaden their horizons with interesting topics.
Continual assessment and end of term written test.

[学習成果] [K]
Students will improve their speaking, listening, reading and writing skills through a variety of exercises.

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎		○	

[授業計画]
1 Welcome back, and summer holidays review and quiz
2 Unit 5 The Way I Live: Present Simple; Sports/Food/Drink
3 Unit 5 Reading and Speaking: Jobs
4 Unit 5 Vocabulary and Pronunciation; Listening and Speaking
5 Unit 6 Everyday: Time
6 Unit 6 Elliot's Day
7 Unit 6 Lois's Day: Vocabulary and Speaking
8 Unit 7 My favourites
9 Unit 7 Things I like: Vocabulary
10 Unit 7 Reading and Writing: Everyday English
11 Unit 8 Where I live?: Rooms
12 Unit 8 Robert's Bedroom: Prepositions/ Reading and Vocabulary
13 Unit 8 Listening and Writing
14 Unit 8 Everyday English
15 Review for Test

[授業方法]
Students work in pairs and/or small groups.
Supplementary materials will be used with additional worksheets to provide variety and support in learning.

[成績評価]
Test (50%)
participation (50%)

[教科書]
New Headway (Fourth Edition): Beginner Student's Book by Liz and John Soars: Publisher: (Oxford University Press)
ISBN 978-0-19-477104-7

[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]
About one hour spent on homework exercises and preparation for following class
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科　目　名] 英会話Ⅱ
[担当教員名] ジェフリークラップ
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCI0_K22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
Lessons will be conducted in English using the Prescribedtextbook which includes the four skills of reading, speaking, listening and writing.
Everyday English will allow students to practice conversations in pairs, build up vocabulary and improve grammar through exercises which additionally broaden their horizons with interesting topics.
Continual assessment and end of term written test.

[学習成果] [K]
Students will improve their speaking, listening, reading and writing skills through a variety of exercises.

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○						◎

[授業計画]
1 Welcome back, and summer holidays review and quiz
2 Unit 5 The Way I Live: Present Simple; Sports/Food/Drink
3 Unit 5 Reading and Speaking: Jobs
4 Unit 5 Vocabulary and Pronunciation; Listening and Speaking
5 Unit 6 Everyday: Time
6 Unit 6 Elliot's Day
7 Unit 6 Lois's Day: Vocabulary and Speaking
8 Unit 7 My favourites
9 Unit 7 Things I like: Vocabulary
10 Unit 7 Reading and Writing: Everyday English
11 Unit 8 Where I live?: Rooms
12 Unit 8 Robert's Bedroom: Prepositions/ Reading and Vocabulary
13 Unit 8 Listening and Writing
14 Unit 8 Everyday English
15 Review for Test

[授業方法]
Students work in pairs and/or small groups.
Supplementary materials will be used with additional worksheets to provide variety and support in learning.

[成績評価]
Test (50%)
participation (50%)

[教科書]
New Headway (Fourth Edition): Beginner Student's Book by Liz and John Soars: Publisher: (Oxford University Press)
ISBN 978-0-19-477104-7

[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]
About one hour spent on homework exercises and preparation for following class
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科　目　名] 英会話Ⅱ
[担当教員名] ジェフリークラップ
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE10_K22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
Lessons will be conducted in English using the Prescribedtextbook which includes the four skills of reading, speaking, listening and writing.
Everyday English will allow students to practice conversations in pairs, build up vocabulary and improve grammar through exercises which additionally broaden their horizons with interesting topics.
Continual assessment and end of term written test.

[学習成果] [K]
Students will improve their speaking, listening, reading and writing skills through a variety of exercises.

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○	◎	○	○			

[授業計画]
1 Welcome back, and summer holidays review and quiz
2 Unit 5 The Way I Live: Present Simple; Sports/Food/Drink
3 Unit 5 Reading and Speaking: Jobs
4 Unit 5 Vocabulary and Pronunciation; Listening and Speaking
5 Unit 6 Everyday: Time
6 Unit 6 Elliot's Day
7 Unit 6 Lois's Day: Vocabulary and Speaking
8 Unit 7 My favourites
9 Unit 7 Things I like: Vocabulary
10 Unit 7 Reading and Writing: Everyday English
11 Unit 8 Where I live?: Rooms
12 Unit 8 Robert's Bedroom: Prepositions/ Reading and Vocabulary
13 Unit 8 Listening and Writing
14 Unit 8 Everyday English
15 Review for Test

[授業方法]
Students work in pairs and/or small groups.
Supplementary materials will be used with additional worksheets to provide variety and support in learning.

[成績評価]
Test (50%)
participation (50%)

[教科書]
New Headway (Fourth Edition): Beginner Student's Book by Liz and John Soars: Publisher: (Oxford University Press)
ISBN 978-0-19-477104-7

[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]
About one hour spent on homework exercises and preparation for following class
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科　目　名] OA演習Ⅰ
[担当教員名] 砂田　治弥
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_K11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
本演習は、ワープロソフト (Word)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) を使用し、一般的なビジネス文書からいろいろな機能を活用して、表現力豊かな文書作成を学ぶ。
情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

[学習成果] [K]
文書作成を中心に、実務で活用できる能力を身につける。
インターネット・電子メールを活用して、情報収集や情報発信など情報利活用能力を身につける。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
			○	○	○

[授業計画]
1 オリエンテーション
電子メール・インターネット活用・基本操作
2 PowerPointスライド作成
3 PowerPoint発表
4 Word基礎 1
5 Word基礎 2
6 Word基礎 3
7 ビジネス文書作成 1
8 ビジネス文書作成 2
9 ビジネス文書作成 3
10 Word応用 案内文作成
11 Word応用 カード・はがき作成
12 Word応用 テンプレート活用
13 Word応用 企業・病院だより作成 1
14 Word応用 企業・病院だより作成 2
15 まとめ

[授業方法]
パソコンでの演習が主体。メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード (ファイルを開く) して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題、試験 (70%)
授業への取組状況 (30%)

[教科書]
特になし
メールにファイルを添付、授業プリントを配布

[参考書]
検定問題集、Word・PowerPoint操作方法書等

[準備学習 (予習・復習)]
授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
日本語ワープロ検定の資格取得を目指す。

[科　目　名] ＯＡ演習Ｉ
[担当教員名] 小川　美樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_K11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
本演習は、ワープロソフト（Word）、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を使用し、一般的なビジネス文書からいろいろな機能を活用して、表現力豊かな文書作成を学ぶ。
情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

[学習成果] [K]
文書作成を中心に、実務で活用できる能力を身につける。
インターネット・電子メールを活用して、情報収集や情報発信など情報利活用能力を身につける。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
○	◎					○	

[授業計画]
1　オリエンテーション
　電子メール・インターネット活用・基本操作
2　PowerPointスライド作成
3　PowerPoint発表
4　Word基礎　1
5　Word基礎　2
6　Word基礎　3
7　ビジネス文書作成　1
8　ビジネス文書作成　2
9　ビジネス文書作成　3
10　Word応用　案内文作成
11　Word応用　カード・はがき作成
12　Word応用　テンプレート活用
13　Word応用　企業・病院だより作成　1
14　Word応用　企業・病院だより作成　2
15　まとめ

[授業方法]
パソコンでの演習が主体。メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード（ファイルを開く）して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題、試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
特になし
メールにファイルを添付、授業プリントを配布

[参考書]
検定問題集、Word・PowerPoint操作方法書等

[準備学習（予習・復習）]
授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日本語ワープロ検定の資格取得を目指す。

[科　目　名] ＯＡ演習Ｉ
[担当教員名] 小川　美樹
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_K21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
本演習は、ワープロソフト（Word）、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を使用し、一般的なビジネス文書からいろいろな機能を活用して、表現力豊かな文書作成を学ぶ。
情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

[学習成果] [K]
文書作成を中心に、実務で活用できる能力を身につける。
インターネット・電子メールを活用して、情報収集や情報発信など情報利活用能力を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○			○		○		

[授業計画]
1　オリエンテーション
　電子メール・インターネット活用・基本操作
2　PowerPointスライド作成
3　PowerPoint発表
4　Word基礎　1
5　Word基礎　2
6　Word基礎　3
7　ビジネス文書作成　1
8　ビジネス文書作成　2
9　ビジネス文書作成　3
10　Word応用　案内文作成
11　Word応用　カード・はがき作成
12　Word応用　テンプレート活用
13　Word応用　園だより作成　1
14　Word応用　園だより作成　2
15　まとめ

[授業方法]
パソコンでの演習が主体。メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード（ファイルを開く）して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題、試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
特になし
メールにファイルを添付、授業プリントを配布

[参考書]
検定問題集、Word・PowerPoint操作方法書等

[準備学習（予習・復習）]
授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日本語ワープロ検定の資格取得を目指す。

[科　目　名] ＯＡ演習Ⅰ
[担当教員名] 砂田　治弥
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年前期　[科目コード]IE30_K31
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
本演習は、ワープロソフト（Word）、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を使用し、一般的なビジネス文書からいろいろな機能を活用して、表現力豊かな文書作成を学ぶ。
情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

[学習成果] [K]
文書作成を中心に、実務で活用できる能力を身につける。
インターネット・電子メールを活用して、情報収集や情報発信など情報利活用能力を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○			○		○		

[授業計画]
1　オリエンテーション
　電子メール・インターネット活用・基本操作
2　PowerPointスライド作成
3　PowerPoint発表
4　Word基礎　1
5　Word基礎　2
6　Word基礎　3
7　ビジネス文書作成　1
8　ビジネス文書作成　2
9　ビジネス文書作成　3
10　Word応用　案内文作成
11　Word応用　カード・はがき作成
12　Word応用　テンプレート活用
13　Word応用　園だより作成　1
14　Word応用　園だより作成　2
15　まとめ

[授業方法]
パソコンでの演習が主体。メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード（ファイルを開く）して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題、試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
特になし
メールにファイルを添付、授業プリントを配布

[参考書]
検定問題集、Word・PowerPoint操作方法書等

[準備学習（予習・復習）]
授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日本語ワープロ検定の資格取得を目指す。

[科　目　名] ＯＡ演習Ⅱ
[担当教員名] 砂田　治弥
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_K12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
本演習は、ワープロソフト（Word）、表計算ソフト（Excel）、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）、テンプレートの活用等の操作方法を習得し、表現力豊かな文書作成や資料作成、スライド作成などを学ぶ。
情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

[学習成果] [K]
文書作成、表計算、プレゼンテーション、ムービー作成など、実務で活用できる能力を身につける。
インターネット・電子メールを活用して、必要な情報収集や情報発信など、情報利活用能力を身につける

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
			○	○	○

[授業計画]
1　情報リテラシー（情報セキュリティと情報モラル）
2　PowerPoint活用　1
3　PowerPoint活用　2
4　スライド作成　1
5　スライド作成　2
6　スライド作成　3
7　プレゼンテーション（発表・評価）
8　アンケート作成
9　アンケート集計
10　報告書作成・評価
11　リーフレット作成
12　ビジネス文書作成　1
13　ビジネス文書作成　2
14　Word、Excel活用
15　まとめ

[授業方法]
パソコンでの演習が主体。メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード（ファイルを開く）して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題、試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
特になし
メールにファイルを添付、授業プリントを配布

[参考書]
検定問題集、Word・Excel・PowerPoint操作方法書等

[準備学習（予習・復習）]
授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日本語ワープロ検定・文書デザイン検定の資格取得を目指す。

[科　目　名] ＯＡ演習Ⅱ
[担当教員名] 小川　美樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_K12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
本演習は、ワープロソフト（Word）、表計算ソフト（Excel）、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）、テンプレートの活用等の操作方法を習得し、表現力豊かな文書作成や資料作成、スライド作成などを学ぶ。
情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

[学習成果] [K]
文書作成、表計算、プレゼンテーション、ムービー作成など、実務で活用できる能力を身につける。
インターネット・電子メールを活用して、必要な情報収集や情報発信など、情報利活用能力を身につける

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
○	◎					○	

[授業計画]
1 情報リテラシー（情報セキュリティと情報モラル）
2 PowerPoint活用　1
3 PowerPoint活用　2
4 スライド作成　1
5 スライド作成　2
6 スライド作成　3
7 プレゼンテーション（発表・評価）
8 アンケート作成
9 アンケート集計
10 報告書作成・評価
11 リーフレット作成
12 ビジネス文書作成　1
13 ビジネス文書作成　2
14 Word、Excel活用
15 まとめ

[授業方法]
パソコンでの演習が主体。メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード（ファイルを開く）して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題、試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
特になし
メールにファイルを添付、授業プリントを配布

[参考書]
検定問題集、Word・Excel・PowerPoint操作方法書等

[準備学習（予習・復習）]
授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日本語ワープロ検定・文書デザイン検定の資格取得を目指す。

[科　目　名] ＯＡ演習Ⅱ
[担当教員名] 小川　美樹
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE10_K22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
本演習は、ワープロソフト（Word）、表計算ソフト（Excel）、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）、テンプレートの活用等の操作方法を習得し、表現力豊かな文書作成や資料作成、スライド作成などを学ぶ。
情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

[学習成果] [K]
文書作成、表計算、プレゼンテーション、ムービー作成など、実務で活用できる能力を身につける。
インターネット・電子メールを活用して、必要な情報収集や情報発信など、情報利活用能力を身につける

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○			○		○		

[授業計画]
1 情報リテラシー（情報セキュリティと情報モラル）
2 PowerPoint活用
3 スライド作成　1
4 スライド作成　2
5 スライド作成　3
6 スライド作成　4（ナレーションの録音）
7 プレゼンテーション（発表・評価）
8 アンケート作成
9 アンケート集計
10 報告書作成・評価
11 ムービー作成
12 Excel基礎　1
13 Excel基礎　2
14 Word、Excel活用
15 まとめ

[授業方法]
パソコンでの演習が主体。メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード（ファイルを開く）して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題、試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
特になし
メールにファイルを添付、授業プリントを配布

[参考書]
検定問題集、Word・Excel・PowerPoint操作方法書等

[準備学習（予習・復習）]
授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日本語ワープロ検定の資格取得を目指す。

[科　目　名] ＯＡ演習Ⅱ
[担当教員名] 砂田　治弥
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年後期　[科目コード] IE30_K32
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
本演習は、ワープロソフト（Word）、表計算ソフト（Excel）、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）、テンプレートの活用等の操作方法を習得し、表現力豊かな文書作成や資料作成、スライド作成などを学ぶ。
情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

[学習成果] [K]
文書作成、表計算、プレゼンテーション、ムービー作成など、実務で活用できる能力を身につける。
インターネット・電子メールを活用して、必要な情報収集や情報発信など、情報利活用能力を身につける

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○			○		○		

[授業計画]
1　情報リテラシー（情報セキュリティと情報モラル）
2　PowerPoint活用
3　スライド作成　1
4　スライド作成　2
5　スライド作成　3
6　スライド作成　4（ナレーションの録音）
7　プレゼンテーション（発表・評価）
8　アンケート作成
9　アンケート集計
10　報告書作成・評価
11　ムービー作成
12　Excel基礎　1
13　Excel基礎　2
14　Word、Excel活用
15　まとめ

[授業方法]
パソコンでの演習が主体。メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード（ファイルを開く）して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題、試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
特になし
メールにファイルを添付、授業プリントを配布

[参考書]
検定問題集、Word・Excel・PowerPoint操作方法書等

[準備学習（予習・復習）]
授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日本語ワープロ検定の資格取得を目指す。

[科　目　名] スポーツと健康Ⅰ
[担当教員名] 岡田　摩紀
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_K11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 講義・実技

[授業概要]
健康な学生生活を送るために健康教育と身体作りの実践という二つの柱で授業を展開する。実技では体力作りの運動、各種スポーツを体験し、講義では豊かなライフスタイルを確立するための健康科学の知識を得ることを目的とする。

[学習成果] [K]
スポーツを通しての仲間作りや他者との協力・協調性を理解し、今後の学生生活を充実させる人間関係を確立することができる。また、大人としての健康的な生活を送る基礎を身につけることができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎		○	

[授業計画]
1　ガイダンス、授業への準備、心構え
2　ソフトバレーボール（基礎とルールの理解）
3　ソフトバレーボール（戦術と試合の進め方）
4　ソフトバレーボール（ゲーム）
5　ソソフトバレーボール（リーグ戦）
6　アキュラシー（フライングディスク、握り方）
7　アルティメット（基礎とルールの理解）
8　アルティメット（戦術と試合の進め方）
9　アルティメット（ゲーム）
10　バドミントン（基礎とルールの理解）
11　バドミントン（ダブルスの戦術）
12　バドミントン（ダブルスのゲーム）
13　バドミントン（トーナメント戦）
14　健康を維持するための体力測定
15　健康と運動の意義・まとめ

[授業方法]
実技中心の授業で、チームスポーツを中心に展開し、ゲームは毎回チーム編成を行う事により学生間のコミュニケーションを図る。

[成績評価]
授業への取組状況（50%）
レポート（50%）

[教科書]
必要に応じて資料を配付

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
講義で実施されるスポーツなどの情報を予め調べておくことで、動きの理解を深めておく。
また、習得した技術を次回の授業内で活かせるように、空き時間を利用して復習を行うと望ましい。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
実技に参加する場合はスポーツのできる服装とし、体調を整えておくこと。

[科　目　名] スポーツと健康Ⅰ
[担当教員名] 岡田　摩紀
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_K11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 講義・実技

[授業概要]
健康な学生生活を送るために健康教育と身体作りの実践という二つの柱で授業を展開する。実技では体力作りの運動、各種スポーツを体験し、講義では豊かなライフスタイルを確立するための健康科学の知識を得ることを目的とする。

[学習成果] [K]
スポーツを通しての仲間作りや他者との協力・協調性を理解し、今後の学生生活を充実させる人間関係を確立することができる。また、大人としての健康的な生活を送る基礎を身につけることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
		○	○	◎		○	◎

[授業計画]
1　ガイダンス、授業への準備、心構え
2　ソフトバレーボール（基礎とルールの理解）
3　ソフトバレーボール（戦術と試合の進め方）
4　ソフトバレーボール（ゲーム）
5　ソソフトバレーボール（リーグ戦）
6　アキュラシー（フライングディスク、握り方）
7　アルティメット（基礎とルールの理解）
8　アルティメット（戦術と試合の進め方）
9　アルティメット（ゲーム）
10　バドミントン（基礎とルールの理解）
11　バドミントン（ダブルスの戦術）
12　バドミントン（ダブルスのゲーム）
13　バドミントン（トーナメント戦）
14　健康を維持するための体力測定
15　健康と運動の意義・まとめ

[授業方法]
実技中心の授業で、チームスポーツを中心に展開し、ゲームは毎回チーム編成を行う事により学生間のコミュニケーションを図る。

[成績評価]
授業への取組状況（50%）
レポート（50%）

[教科書]
必要に応じて資料を配付

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
講義で実施されるスポーツなどの情報を予め調べておくことで、動きの理解を深めておく。
また、習得した技術を次回の授業内で活かせるように、空き時間を利用して復習を行うと望ましい。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
実技に参加する場合はスポーツのできる服装とし、体調を整えておくこと。

[科　目　名] スポーツと健康Ⅰ
[担当教員名] 星野　秀樹
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_K11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 講義・実技

[授業概要]
健康な学生生活を送るために健康教育と身体作りの実践という二つの柱で授業を展開する。実技では体力作りの運動、各種スポーツを体験し、講義では豊かなライフスタイルを確立するための健康科学の知識を得ることを目的とする。

[学習成果] [K]
スポーツを通しての仲間作りや他者との協力・協調性を理解し、今後の学生生活を充実させる人間関係を確立することができる。また、大人としての健康的な生活を送る基礎を身につけることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	○		○		○	◎	

[授業計画]
1　ガイダンス、授業への準備、心構え
2　ソフトバレーボール（基礎とルールの理解）
3　ソフトバレーボール（戦術と試合の進め方）
4　ソフトバレーボール（ゲーム）
5　ソソフトバレーボール（リーグ戦）
6　アキュラシー（フライングディスク、握り方）
7　アルティメット（基礎とルールの理解）
8　アルティメット（戦術と試合の進め方）
9　アルティメット（ゲーム）
10　バドミントン（基礎とルールの理解）
11　バドミントン（ダブルスの戦術）
12　バドミントン（ダブルスのゲーム）
13　バドミントン（トーナメント戦）
14　健康を維持するための体力測定
15　健康と運動の意義・まとめ

[授業方法]
実技中心の授業で、チームスポーツを中心に展開し、ゲームは毎回チーム編成を行う事により学生間のコミュニケーションを図る。

[成績評価]
授業への取組状況（50%）
レポート（50%）

[教科書]
必要に応じて資料を配付

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
講義で実施されるスポーツなどの情報を予め調べておくことで、動きの理解を深めておく。
また、習得した技術を次回の授業内で活かせるように、空き時間を利用して復習を行うと望ましい。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
実技に参加する場合はスポーツのできる服装とし、体調を整えておくこと。

[科　目　名] スポーツと健康Ⅰ
[担当教員名] 岡田　摩紀
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　　[科目コード] IE30_K12
[単　位　数] 1単位　　[授業形態] 講義・実技

[授業概要]
健康な学生生活を送るために健康教育と身体作りの実践という二つの柱で授業を展開する。実技では体力作りの運動、各種スポーツを体験し、講義では豊かなライフスタイルを確立するための健康科学の知識を得ることを目的とする。

[学習成果] [K]
スポーツを通しての仲間作りや他者との協力･協調性を理解し、今後の学生生活を充実させる人間関係を確立することができる。また、大人としての健康的な生活を送る基礎を身につけることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	○		○		○	◎	

[授業計画]
1　ガイダンス、授業への準備、心構え
2　ソフトバレーボール（基礎とルールの理解）
3　ソフトバレーボール（戦術と試合の進め方）
4　ソフトバレーボール（ゲーム）
5　ソソフトバレーボール（リーグ戦）
6　アキュラシー（フライングディスク、握り方）
7　アルティメット（基礎とルールの理解）
8　アルティメット（戦術と試合の進め方）
9　アルティメット（ゲーム）
10　バドミントン（基礎とルールの理解）
11　バドミントン（ダブルスの戦術）
12　バドミントン（ダブルスのゲーム）
13　バドミントン（トーナメント戦）
14　健康を維持するための体力測定
15　健康と運動の意義・まとめ

[授業方法]
実技中心の授業で、チームスポーツを中心に展開し、ゲームは毎回チーム編成を行う事により学生間のコミュニケーションを図る。

[成績評価]
授業への取組状況（50%）
レポート（50%）

[教科書]
必要に応じて資料を配付

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
講義で実施されるスポーツなどの情報を予め調べておくことで、動きの理解を深めておく。
また、習得した技術を次回の授業内で活かせるように、空き時間を利用して復習を行うと望ましい。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
実技に参加する場合はスポーツのできる服装とし、体調を整えておくこと。

[科　目　名] スポーツと健康Ⅱ
[担当教員名] 星野　秀樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　　[科目コード] LCF0_K22
[単　位　数] 1単位　　[授業形態] 講義・実技

[授業概要]
スポーツと健康Ⅰを基礎とし運動を行うための3つの間(時間・空間・仲間)の重要性を理解するとともに、スポーツの実践を主体とし、卒業後も継続的に行うことができる運動習慣を養うことを目的とする。

[学習成果] [K]
チームスポーツを通してより深い人間関係を確立することができる。また、今後の生活の中でスポーツを継続して行うために必要な要素は何かを理解することができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		○		◎	

[授業計画]
1 ガイダンス、スポーツと加齢
2 アルティメット(スローの基本)
3 アルティメット(ルールの理解)
4 アルティメット(戦術と試合の進め方)
5 アルティメット(チームの作り方とゲーム)
6 アルティメット(リーグ戦)
7 バドミントン(基本のストローク)
8 バドミントン(シングルスのルール)
9 バドミントン(シングルス戦)
10 バドミントン(ダブルスのルール)
11 バドミントン(ダブルス戦)
12 キンボール(キンボールを使った導入ゲーム)
13 キンボール(ルールの理解)
14 キンボール(ゲーム)
15 スポーツの楽しさと仲間作りの大切さ・まとめ

[授業方法]
スポーツと健康Ⅰで確立された人間関係をさらに深めるためにニュースポーツを中心とした実技を通して勝敗にこだわらず体を動かす楽しさを実感する。

[成績評価]
授業への取組状況（50%）
レポート（50%）

[教科書]
必要に応じて資料を配付

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
講義で実施されるスポーツなどの情報を予め調べておくことで、動きの理解を深めておく。
また、習得した技術を次回の授業内で活かせるように、空き時間を利用して復習を行うと望ましい。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
実技に参加する場合はスポーツのできる服装とし、体調を整えておくこと。

[科　目　名] スポーツと健康Ⅱ
[担当教員名] 星野　秀樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活学科
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_K12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 講義・実技

[授業概要]
スポーツと健康Ⅰを基礎とし運動を行うための3つの間（時間・空間・仲間）の重要性を理解するとともに、スポーツの実践を主体とし、卒業後も継続的に行うことができる運動習慣を養うことを目的とする。

[学習成果] [K]
チームスポーツを通してより深い人間関係を確立することができる。また、今後の生活の中でスポーツを継続して行うために必要な要素は何かを理解することができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
		○	○	◎		○	◎

[授業計画]
1 ガイダンス、スポーツと加齢
2 アルティメット（スローの基本）
3 アルティメット（ルールの理解）
4 アルティメット（戦術と試合の進め方）
5 アルティメット（チームの作り方とゲーム）
6 アルティメット（リーグ戦）
7 バドミントン（基本のストローク）
8 バドミントン（シングルスのルール）
9 バドミントン（シングルス戦）
10 バドミントン（ダブルスのルール）
11 バドミントン（ダブルス戦）
12 キンボール（キンボールを使った導入ゲーム）
13 キンボール（ルールの理解）
14 キンボール（ゲーム）
15 スポーツの楽しさと仲間作りの大切さ・まとめ

[授業方法]
スポーツと健康Ⅰで確立された人間関係をさらに深めるためにニュースポーツを中心とした実技を通して勝敗にこだわらず体を動かす楽しさを実感する。

[成績評価]
授業への取組状況（50%）
レポート（50%）

[教科書]
必要に応じて資料を配付

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
各種スポーツのルールやゲームの進め方について理解しておくこと。授業時間中、継続して積極的に活動を実践するために体調を整えておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
実技に参加する場合はスポーツのできる服装、シューズ、タオル、飲料を用意しておくこと。

[科　目　名] スポーツと健康Ⅱ
[担当教員名] 星野　秀樹
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE10_K22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 講義・実技

[授業概要]
スポーツと健康Ⅰを基礎とし運動を行うための3つの間（時間・空間・仲間）の重要性を理解するとともに、スポーツの実践を主体とし、卒業後も継続的に行うことができる運動習慣を養うことを目的とする。

[学習成果] [K]
チームスポーツを通してより深い人間関係を確立することができる。また、今後の生活の中でスポーツを継続して行うために必要な要素は何かを理解することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	○		○		○	◎	

[授業計画]
1 ガイダンス、スポーツと加齢
2 アルティメット（スローの基本）
3 アルティメット（ルールの理解）
4 アルティメット（戦術と試合の進め方）
5 アルティメット（チームの作り方とゲーム）
6 アルティメット（リーグ戦）
7 バドミントン（基本のストローク）
8 バドミントン（シングルスのルール）
9 バドミントン（シングルス戦）
10 バドミントン（ダブルスのルール）
11 バドミントン（ダブルス戦）
12 キンボール（キンボールを使った導入ゲーム）
13 キンボール（ルールの理解）
14 キンボール（ゲーム）
15 スポーツの楽しさと仲間作りの大切さ・まとめ

[授業方法]
スポーツと健康Ⅰで確立された人間関係をさらに深めるためにニュースポーツを中心とした実技を通して勝敗にこだわらず体を動かす楽しさを実感する。

[成績評価]
授業への取組状況（50%）
レポート（50%）

[教科書]
必要に応じて資料を配付

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
各種スポーツのルールやゲームの進め方について理解しておくこと。授業時間中、継続して積極的に活動を実践するために体調を整えておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
実技に参加する場合はスポーツのできる服装、シューズ、タオル、飲料を用意しておくこと。

[科　目　名] スポーツと健康Ⅱ
[担当教員名] 星野　秀樹
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE30_K21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 講義・実技

[授業概要]
スポーツと健康Ⅰを基礎とし運動を行うための3つの間（時間・空間・仲間）の重要性を理解するとともに、スポーツの実践を主体とし、卒業後も継続的に行うことができる運動習慣を養うことを目的とする。

[学習成果] [K]
チームスポーツを通してより深い人間関係を確立することができる。また、今後の生活の中でスポーツを継続して行うために必要な要素は何かを理解することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	○		○		○	◎	

[授業計画]
1 ガイダンス、スポーツと加齢
2 アルティメット（スローの基本）
3 アルティメット（ルールの理解）
4 アルティメット（戦術と試合の進め方）
5 アルティメット（チームの作り方とゲーム）
6 アルティメット（リーグ戦）
7 バドミントン（基本のストローク）
8 バドミントン（シングルスのルール）
9 バドミントン（シングルス戦）
10 バドミントン（ダブルスのルール）
11 バドミントン（ダブルス戦）
12 キンボール（キンボールを使った導入ゲーム）
13 キンボール（ルールの理解）
14 キンボール（ゲーム）
15 スポーツの楽しさと仲間作りの大切さ・まとめ

[授業方法]
スポーツと健康Ⅰで確立された人間関係をさらに深めるためにニュースポーツを中心とした実技を通して勝敗にこだわらず体を動かす楽しさを実感する。

[成績評価]
授業への取組状況（50%）
レポート（50%）

[教科書]
必要に応じて資料を配付

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
各種スポーツのルールやゲームの進め方について理解しておくこと。授業時間中、継続して積極的に活動を実践するために体調を整えておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
実技に参加する場合はスポーツのできる服装、シューズ、タオル、飲料を用意しておくこと。

[科　目　名] 文教アワーⅠ
[担当教員名] 山口　由貴・鋤柄　悦子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年全期　[科目コード] LCF0_K19
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
社会で活躍するために求められる幅広い教養を身につけ、卒業後も主体的に、多角的な視点で、ライフデザイン、キャリアデザインを行うことができる能力を身につける。

[学習成果] [K]
社会で活躍するために求められる知識、よりよいコミュニケーション、表現方法が身につく。また、自身のライフデザイン、キャリアデザインのためのビジョンづくりができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
	◎	○	◎	◎	

[授業計画]
1　教養　レポートの書き方
2　教養　お茶の淹れ方、接遇
3　教養　栄養士業務の理解
4　教養　包丁技術
5　教養　フレッシュダイエティシャン研修会①
6　教養　フレッシュダイエティシャン研修会②
7　教養　表現①ビブリオバトル（言葉との出会い）
8　教養　表現②イベント企画・運営(交流会)
9　ライフデザイン・キャリアデザイン＜卒業生＞
10　キャリア支援　流れ、リクルートスーツ
11　キャリア支援　求人票、メール、エントリー
12　キャリア支援　履歴書作成
13　キャリア支援　採用試験の理解と対策
14　キャリア支援　模擬筆記試験、合格から入社まで
15　キャリア支援　業界説明会

[授業方法]
講義、講演もあるが、グループワークやアクティブラーニングが主である。

[成績評価]
授業への取組状況（40%）
面接試験（40%）
課題（20%）

[教科書]
「栄養士に必要な計算・漢字」小田原女子短大（三恵社）
「栄養士実力認定試験一問一答」川端照江ほか
(女子栄養大学出版部)

[参考書]
「めざせ!栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション」小野 章史(第一出版)
「図解　栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック」　西川真理子(化学同人)

[準備学習（予習・復習）]
予習・復習内容は講義内で指示するので90分程度かけて取り組む。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 文教アワーⅠ
[担当教員名] 砂田　治弥
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年全期　[科目コード] LCI0_K19
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
「初年次教育」を行い、学生としての学び方を学ぶ。「社会人基礎力」の能力及び女性としての「教養」に必要とされる資質を学び、演習を通じてひとりひとりの潜在能力の可能性を引き出す。また、社会人・職業人としてのとしてのキャリアに対しての認識を高める。

[学習成果] [K]
大学における学び、社会につながる大学生活の送り方について意識を持ち、有意義に過ごせるようになる。
キャリアデザインを主体的に行えるようになる。
社会人としての漢字、ペン字といった知識や教養が身につく。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
		○	◎	○	○		

[授業計画]

1 初年次教育「大学で学ぶこと、授業の受け方」
2 初年次教育「研究とは、レポートの書き方」
3 社会人基礎力「グループワーク」災害時の食事
4 社会人基礎力「課題解決法」
5 教養 食物アレルギーとは
6 教養 企業の食物アレルギー対応について
7 教養 考えを文章にまとめる
8 教養 浴衣の装い・着付けからのヘアアレンジまで
9 教養 おもてなしの心を学ぶ
10 キャリア支援 卒業生との交流、情報交換会
11 キャリア支援 ライフビジョンとキャリアビジョン
12 キャリア支援 業界・業種・職種の知識と情報収集
13 キャリア支援 就職活動の流れ
14 キャリア支援 履歴書・エントリーシートの書き方
15 キャリア支援 採用試験対策

[授業方法]
演習が主体だが、ディスカッション、グループ学習などそれぞれの項目に合わせて授業形態を変えて進めていく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題提出（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
「社会人の常識漢字ドリル」（語研）
「くせ字がなおる ペン字練習帳」（新星出版社）

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
課題を各自期日までに自宅で取り組むこと。自分自身のキャリアビジョンを積極的に考え、企業研究など積極的に取り組むこと。特に漢字とペン字、筆記試験対策は、自主的に取り組むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
短期大学での学びを社会生活に結びつける科目として、積極的な学びを期待する。
地域志向科目。

[科　目　名] 文教アワーⅠ
[担当教員名] 保科　潤一・真下　あさみ
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年全期　[科目コード] IE10_K19
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
幼児・保護者から愛され、信頼される幼稚園教諭・保育士になるためには、広い視野と教養、豊かな人間性・専門性を兼ね備える必要がある。クラス単位だけでなく、学年や1部・3部の垣根を超えて、幼児教育学科内で様々に交流することで、学生間の幅広い人間関係を構築する。

[学習成果] [K]
①対人関係力、社会性、人間性、思いやりを育む。
②実践力・専門性を習得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○			○		○	○	○

[授業計画]
1　社会人基礎力：人間関係の構築とマナー実践
2　教養：文教マナーの理解と実践
3　教養：美術館を訪問し芸術作品に触れる
4　教養：年金について学ぶ
5　教養：卒業生からの経験知の伝達と学習
6　教養：幼教に必要な漢字の習得
7　キャリア支援：附属幼稚園実習の理解
8　キャリア支援：施設実習の理解
9　キャリア支援：幼稚園実習の理解
10　キャリア支援：保育実習Ⅱの理解
11　キャリア支援：卒学年生の就職活動報告から学習
12　キャリア支援：実習交流会（附属幼稚園）
1部2年生から1部1年生へ経験知の伝達
13　キャリア支援：実習交流会（保育所）
1部2年生から1部1年生へ経験知の伝達
14　キャリア支援：上級学年生の実技発表から学習
15　1年間の学びの振返り

[授業方法]
学生が主体的に取り組めるように、アクティブラーニングを取り入れ、演習形式で進める。クラス単位が基本であるが、学年や学部を問わず合同で実施したり、必要に応じてオンラインを活用することもある。

[成績評価]
授業への取組状況（70%）
幼教漢字テスト（30%）

[教科書]
「これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える保育の基礎用語」長島和代編（株）わかば社

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
1　各回のテーマに沿って発言内容を整理したり、各自の役割について確認しておく。パフォーマンスを伴う場合は、十分に練習しておく。事前アンケートがある場合は、アンケートの項目に答えておく。
2　各回の幼教漢字テストに備えて十分な準備をしておく。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
自ら能動的に楽しく参加することにより、幅広い人間関係を築き、豊かな人間力を育めるようにする。

[科　目　名] 文教アワーⅠ
[担当教員名] 岡田　摩紀・五十嵐　紗織・山﨑　宜久
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年全期　[科目コード] IE30_K19
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
幼児・保護者から愛され、信頼される幼稚園教諭・保育士になるためには、広い視野と教養、豊かな人間性・専門性を兼ね備える必要がある。クラス単位だけでなく、学年や1部・3部の垣根を超えて、幼児教育学科内で様々に交流することで、学生間の幅広い人間関係を構築する。

[学習成果] [K]
①対人関係力、社会性、人間性、思いやりを育む。
②実践力・専門性を習得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	◎	○	◎	○	◎

[授業計画]
1　社会人基礎力：人間関係の構築とマナー実践
2　教養：文教マナーの理解と実践
3　教養：幼稚園・保育所におけるマナーの理解と実践
4　教養：年金について学ぶ
5　教養：美術館を訪問し芸術作品に触れる
6　教養：幼教に必要な漢字の習得
7　キャリア支援：附属幼稚園実習の理解
8　キャリア支援：保育実習Ⅰの理解
9　キャリア支援：施設実習の理解
10　キャリア支援：卒学年生の就職活動報告から学習
11　キャリア支援：進路ガイダンス
12　キャリア支援：実習交流会（附属幼稚園）
3部2年生から3部1年生へ経験知の伝達
13　キャリア支援：上級学年生の実技発表から学習
14　キャリア支援：保育に必要な実技実践
15　1年間の学びの振返り

[授業方法]
学生が主体的に取り組めるように、アクティブラーニングを取り入れ、演習形式で進める。クラス単位が基本であるが、学年や学部を問わず合同で行うこともある。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（70%）
幼教漢字テスト（30%）

[教科書]
「これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える保育の基礎用語」長島和代編（株）わかば社

[参考書]
「これだけは知っておきたい　わかる・話せる・使える保育のマナーと言葉」長島和代編（株）わかば社

[準備学習（予習・復習）]
1　各回のテーマに沿って発言内容を整理したり、各自の役割について確認しておく。パフォーマンスを伴う場合は、十分に練習しておく。事前アンケートがある場合は、アンケートの項目に答えておく。
2　各回の幼教漢字テストに備えて十分な準備をしておく。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
自ら能動的に楽しく参加することにより、幅広い人間関係を築き、豊かな人間力を育めるようにする。

[科　目　名] 文教アワーⅡ
[担当教員名] 西澤　早紀子・原　真由美
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年全期　[科目コード] LCF0_K29
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
12月に開催される「みんないっしょのクリスマス」の実施に向け、学生主体の運営を通じて栄養士としての職業意識と専門意識を醸成する。また、キャリア支援も行う。

[学習成果] [K]
専門分野の幅広い教養と知識を身につけることができる。また、卒業後に社会人として活躍するのに相応しい知識も身につけることができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
	◎	○			◎

[授業計画]
1　スポーツ交流会
2　校外実習報告会準備
3　実習交流会
4　他職種を学ぶ
5　食物アレルギー対応パーティの実施計画および運営準備
6　食物アレルギー対応パーティの実施計画および運営準備
7　食物アレルギー対応パーティの実施計画および運営準備
8　食物アレルギー対応パーティの実施計画および運営準備
9　パーティ報告会
10　キャリア支援①　社会人としての基礎知識
11　キャリア支援②　校外実習報告会
12　キャリア支援③　卒業生ヒアリング
13　キャリア支援④　栄養士免許申請について
14　キャリア支援⑤　就職試験対策
15　キャリア支援⑥　栄養士の職業倫理

[授業方法]
専門教養については、講義、グループワーク、実習などを盛り込む。キャリア支援については、演習形式で実施。

[成績評価]
授業への取組状況（50%）
ノート、レポート等の評価（50%）

[教科書]
特になし

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
（専門教養）授業前に1年次の「食物アレルギー演習」のプリントやノートで予習を行うこと。また、授業後にも復習を行うこと。（キャリア支援）該当する授業の後にはレポート作成などの復習を行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 文教アワーⅡ
[担当教員名] 小川　美樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年全期　[科目コード] LCI0_K29
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
「社会人基礎力」を高め、女性としての「教養」、社会で必要とされる資質を身につける。「キャリア支援」では、これからのライフデザイン・キャリアデザインについても考える。

[学習成果] [K]
有意義な大学生活を送り、社会人として活躍できる力を身につけることができる。幅広い教養と知識を身につけ、主体的にキャリアデザインを行えるようになる。漢字、美しい文字の力が身につけることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
		○	◎	○	○		

[授業計画]
1　キャリア支援　学内業界説明
2　キャリア支援　卒業生から学ぶ
3　キャリア支援　業界研究
4　キャリア支援　就職試験対策　筆記試験
5　キャリア支援　就職試験対策　適性試験
6　社会人基礎力　社会人基礎力チェック
7　社会人基礎力　グループワーク
8　社会人基礎力　課題解決力
9　社会人基礎力　発信力
10　教養　想いを伝える手紙
11　教養　おもてなし
12　教養　心と体の健康
13　教養　法律
14　専門教養　資格取得対策
15　専門教養　資格取得対策

[授業方法]
演習を主体とし、ディスカッション、グループワークなどそれぞれの項目に合わせて授業形態を変えて進めていく。学外で実践的学びを行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
レポート・課題提出（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
「社会人の常識漢字ドリル2」
「社会人のための仕事に効く！3週間ペン字レッスン」

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
事前準備が必要な場合には、調べ学習・課題などに取り組むこと。
授業後にレポート作成も含め、復習を行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
地域志向科目
短期大学での学びを社会生活に結びつける科目として、積極的な学びを期待する。
課題は期日までに必ず提出すること。

[科　目　名] 文教アワーⅡ
[担当教員名] 伊藤　久美子・星野　秀樹
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年全期　[科目コード] IE10_K29
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
クラス単位だけでなく、学年や1部・3部の垣根を超えて、幼児教育学科内で様々に交流することで、学生間の幅広い人間関係を構築し、体験的な活動を通して学ぶ。

[学習成果] [K]
①対人関係力、社会性、人間性、思いやりを育む。
②実践力・専門性を習得する。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○	○	◎	○	○	◎

[授業計画]
1　社会人基礎力：社会人としてマナー実践
2　社会人基礎力：行事への取り組み（子どもフェスタ）
3　教養：保育に必要な漢字の習得
4　キャリアビジョンの構築（就業レディネス向上を目指した実践力の習得）：卒業生からの経験知の伝達と学習
5　キャリアビジョンの構築：実習交流会（施設）
3部3年生から1部2年生へ経験知の伝達
6　キャリアビジョンの構築：実習交流会準備（附属幼稚園）
7　キャリアビジョンの構築：実習交流会（附属幼稚園）
1部2年生から1部1年生へ経験知の伝達
8　キャリアビジョンの構築：実習交流会準備（保育所）
9　キャリアビジョンの構築：実習交流会（保育所）
1部2年生から1部1年生へ経験知の伝達
10　キャリアビジョンの構築：実技発表
11　キャリアビジョンの構築：進路ガイダンス（保育士登録等）
12　キャリアビジョンの構築：進路ガイダンス（面接対策）
13　キャリアビジョンの構築：進路ガイダンス（書類等作成）
14　キャリアビジョンの構築：就職活動報告
15　学生生活の振返り

[授業方法]
学生が主体的に取り組めるように、アクティブラーニングを取り入れ、演習形式で進める。クラス単位が基本であるが、学年や学部を問わず合同で行うこともある。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（70%）
幼教漢字テスト（30%）

[教科書]
「これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える保育の基礎用語」長島和代編（株）わかば社

[参考書]
「これだけは知っておきたい　わかる・話せる・使える保育のマナーと言葉」長島和代編（株）わかば社

[準備学習（予習・復習）]
1　各回のテーマに沿って発言内容を整理したり、各自の役割について確認しておく。パフォーマンスを伴う場合は、十分に練習しておく。事前アンケートがある場合は、アンケートの項目に答えておく。
2　各回の幼教漢字テストに備えて十分な準備をしておく。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
自ら能動的に楽しく参加することにより、幅広い人間関係を築き、豊かな人間力を育めるようにする。

[科　目　名] 文教アワーⅡ
[担当教員名] 岩間　直美・上島　遥・玉田　裕人
赤塚　徳子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年全期　[科目コード] IE30_K29
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
幼児・保護者から信頼される幼稚園教諭・保育士になるためには、広い視野と教養、豊かな人間性・専門性を兼ね備える必要がある。クラス単位だけでなく、学年や1部・3部の垣根を超えて、幼児教育学科内で様々に交流することで、学生間の幅広い人間関係を構築する。

[学習成果] [K]
① 対人関係力、社会性、人間性、思いやりを育む。
② 保育者としての実践力・専門性を習得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○		◎	○		○	○	◎

[授業計画]
1 社会人基礎力：社会人マナー及び幼稚園・保育所におけるマナーの理解と実践①
2 社会人基礎力：社会人マナー及び幼稚園・保育所におけるマナーの理解と実践②
3 教養：卒業生からの経験知の伝達と学習
4 教養：幼教に必要な漢字の習得
5 キャリア支援：幼稚園実習の理解
6 キャリア支援：保育実習Ⅱの理解
7 キャリア支援：卒業学年の就職活動報告から学習
8 キャリア支援：進路ガイダンス
9 キャリア支援：実習交流会（保育所実習の理解）
10 キャリア支援：実習交流会（附属幼稚園の報告）
11 キャリア支援：実習交流会（施設実習の理解）
12 キャリア支援：上級学年生の実技発表から学習
13 キャリア支援　保育実技実践学習①
14 キャリア支援：保育実技実践学習②
15 1年間の学びの振返り

[授業方法]
学生が主体的に取り組めるように、アクティブラーニングを取り入れ、演習形式で進める。クラス単位が基本であるが、学年や学部を問わず合同で行うこともある。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（70%）
幼教漢字テスト（30%）

[教科書]
「これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える保育の基礎用語」長島和代編（株）わかば社

[参考書]
「これだけは知っておきたい　わかる・話せる・使える保育のマナーと言葉」長島和代編（株）わかば社

[準備学習（予習・復習）]
1. 幼教漢字テストの事前学習を毎回30分程度行うこと。
2. 各回の各自の役割について確認しておく。パフォーマンスを伴う場合は、テーマに沿って発言内容を整理し、十分に練習しておく。また、事前アンケートや振り返り課題がある場合は、アンケートの項目に答えておくなど、1時間程度の事前事後学習をする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
自ら能動的に参加することにより、幅広い人間関係を築き、豊かな人間力を育めるようにする。

[科　目　名] 文教アワーⅢ
[担当教員名] 国藤　真理子・小野内　初美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年全期　[科目コード] IE30_K39
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
幼児・保護者から愛され、信頼される幼稚園教諭・保育士になるためには、広い視野と教養、豊かな人間性・専門性を兼ね備える必要がある。クラス単位だけではなく、学年や1部、3部の垣根を超えて、幼児教育学科内で様々に交流することで、学生間の幅広い人間関係を構築する。

[学習成果] [K]
① 対人関係力、社会性、人間性、思いやりを育む。
② 実践力・専門性を習得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○	○	○	○	◎		◎

[授業計画]
1 クラス交流
2 教養：幼教に必要な漢字の習得
3 教養：幼教に必要な一般常識の習得
4 キャリアビジョンの構築：就業レディネス向上
5 キャリアビジョンの構築：実習交流会（施設）
6 キャリアビジョンの構築：実習交流会準備(保育所)
7 キャリアビジョンの構築：実習交流会（保育所）
8 キャリアビジョンの構築：卒業生講話
9 キャリアビジョンの構築：実技発表
10 キャリアビジョンの構築：就職活動発表準備
11 キャリアビジョンの構築：就職活動発表
12 キャリアビジョンの構築：進路ガイダンス①
（卒業生の就職実態調査から就職活動を考える）
13 キャリアビジョンの構築：進路ガイダンス②
（就職未内定者、内定者指導）
14 キャリアビジョンの構築：進路ガイダンス③
（保育士登録等）
15 学生生活振返り

[授業方法]
学生が主体的に取り組めるように、アクティブラーニングを取り入れ、演習形式で進める。クラス単位が基本であるが、学年や学部を問わず合同で行うこともある。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（70%）
幼教漢字テスト（30%）

[教科書]
「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える保育の基礎用語」長島和代編（株）わかば社

[参考書]
「これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える保育のマナーと言葉」長島和代編（株）わかば社

[準備学習（予習・復習）]
1 各回のテーマに沿って発言内容の整理や、各自の役割について確認しておく。パフォーマンスを伴う場合は、十分に練習しておく。事前アンケートがある場合は、アンケートの項目に答えておく。
2 各回の幼教漢字テストに備えて十分な準備をしておく。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位の学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
自ら能動的に楽しく参加することにより、幅広い人間関係を築き、豊かな人間力を身につけるようにする。

2　専門科目

生活文化学科　食物栄養専攻　1年

[科　目　名] 社会福祉
[担当教員名] 祢宜　佐統美
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_A12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
社会福祉の歴史を学ぶとともに、社会福祉の意義について理解する。社会福祉の理念や概念、法制度や実践方法、相談援助、権利擁護や苦情解決について学ぶ。

[学習成果] [A]
社会福祉の歴史的背景や考え方・役割を理解することで、自らの生活や人々の生活について考えることができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
	○	○			

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　社会福祉の考え方
3　日本における社会福祉のあゆみ
4　諸外国の社会福祉
5　変革期の社会福祉
6　社会福祉の制度・法体系・機関
7　生活保護
8　子どもと家庭の福祉
9　高齢者の福祉
10　介護保険制度
11　障がいのある人の福祉
12　地域の福祉
13　社会福祉とソーシャルワーク
14　現代社会と社会保障
15　事例検討

[授業方法]
講義が主体であるが、社会福祉について自らの考えをその都度ディスカッションしていく。また、単元ごとに「確認シート」で重要事項の理解を深める。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
授業への取組状況（15%）
課題（15%）

[教科書]
「社会福祉を学ぶ」山田美津子・稲葉光彦編
(株) みらい

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
毎授業前には、テキストの該当範囲を読んで予習すること。授業の最初に、前回の授業の振り返りをするので、毎授業後に授業内容のポイントを復習しておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
普段からニュースや新聞を読む機会を持ち、社会の動きに関心をもつようにして授業に臨むこと。

[科　目　名] 解剖生理学
[担当教員名] 日暮　陽子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_B11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
解剖学と生理学は生物学のなかでもっとも基礎的な学問で、前者は構造を後者は機能に関する領域を探求する学問である。しかし、構造と機能は互いに密接に関係して身体を形成していることから、形態と機能を切り離すことは不可能である。本講座では構造と機能を同時に学ぶことで、さまざまな組織・器官・臓器がどのように関連しあって体を形づくり、また維持しているかを理解する。
[学習成果] [B]
解剖生理学を学ぶことは、食べることの意味、食べたものが体内でどの様に消化され吸収されるかなどを理解するうえで重要な基礎科目であることから、授業で得た知識は栄養関係の業務上必要とされる。さらには、日常的な場面においても学習成果が役立つ局面に出会うことが多い。なお、疾病を理解するうえで必須な知識であることから、2年次開講の病理学の履修内容を理解するための前提条件でもある。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
○			◎		

[授業計画]
1　人体の構造：人体の解剖学的特徴と構成要素
2　人体の構造：細胞・組織・器官
3　骨格系：形状と構造、骨化と成長・機能、骨組成
4　筋肉系：構造と生理、主要骨格筋とその機能
5　循環器系：心・血管系の構造と機能
6　循環器系：血球の種類、血漿成分と凝固
7　呼吸器系：気道・肺の構造
8　呼吸器系：呼吸と肺機能、胸膜腔
9　消化器系：咀嚼、嚥下、消化管の構造・消化吸収
10　消化器系：肝臓・膵臓の構造および機能
11　泌尿器系：腎臓・膀胱の構造、排尿機構
12　泌尿器系：腎臓の機能
13　内分泌系：各ホルモンの働き
14　神経組織：中枢神経と末梢神経の構造と機能
15　感覚器系：感覚器の構造と機能、皮膚と体温調節

[授業方法]
教科書を主とし、プロジェクターを用いた授業提示資料を加えることで理解に役立てる。また、必要に応じて重要事項の理解度を確認するための復習プリントを配布する。
[成績評価]
定期試験(80%)
提出物・授業への取組状況等(20%)
[教科書]
栄養科学イラストレイテッド「解剖生理学　人体の構造と機能」　(羊土社)

[参考書]
随時紹介
[準備学習（予習・復習）]
毎回復習をして、ノートをまとめること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 医学一般
[担当教員名] 高橋　浩子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_B11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
医学的な基礎知識を学び、様々な疾患でどのような身体的障害が生じるか理解する。さらに、食事、スポーツ、環境が人体に及ぼす影響について理解を深める。

[学習成果] [B]
正しい医学的知識に基づいて、健康な人はどのような生活が健康を維持させるのか、どのような生活が疾患を引き起こすのかを理解できる。また様々な疾患を有する人はどのような生活が病状を悪化させ、どのような生活が望ましいのかを理解し、社会の制度についての知識を深めることができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
○	○	○	○	○	○

[授業計画]
1　社会と健康、環境と健康
2　健康、疾病、行動にかかわる統計資料
3　健康状態・疾病の測定と評価
4　疫学
5　生活習慣の現状と対策
6　喫煙
7　飲酒、睡眠、ストレス
8　主要疾患の疫学と予防対策：①循環器、代謝疾患
9　主要疾患の疫学と予防対策：②がん
10　主要疾患の疫学と予防対策：③骨、感染症　他
11　主要疾患の疫学と予防対策：④その他の疾患
12　主要疾患の疫学と予防対策：⑤その他の疾患
13　保健、医療、福祉、介護の制度１
14　保健、医療、福祉、介護の制度２
15　保健、医療、福祉、介護の制度３

[授業方法]
プロジェクターを用いたスライドによる授業。
必要に応じて重要事項の理解度を確認するための提出物を求めることをする。
内科医師の実務経験に基づき、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
定期試験の成績（70%）
授業への取組状況（受講態度、提出物等）（30%）

[教科書]
「社会・環境と健康」　大塚譲・河原和夫・須藤紀子編
(東京化学同人)

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
毎回復習をして、ノートをまとめること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 生化学
[担当教員名] 西澤　早紀子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_B12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
ヒトの生体がどのようにして恒常性を維持し、生命活動を営んでいるのかを理解するために、私たちの体の中で、食事由来、あるいは体内で生成された物質がどのような化学反応によりエネルギーや生命活動に利用されるのかを理解する。
具体的には
●糖質のエネルギー産生の仕組み
●血糖コントロールの仕組み
●脂質の生合成とエネルギー産生の仕組み
●リポタンパク質、コレステロール
●アミノ酸とその代謝
●タンパク質の機能
●ビタミン、ミネラル、ホルモン、核酸の働き
が理解できる。

[学習成果] [B]
生きるために必要な糖質、脂質、たんぱく質等の栄養素および水の生体内利用の仕組みや生体内での生合成、代謝の仕組み、環境への適応について説明できるようになる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎			◎		

[授業計画]
1　細胞、水の代謝、生体エネルギー
2　糖質の化学
3　糖質の代謝①解糖系とTCAサイクル
4　糖質の代謝②電子伝達系
5　糖質の貯蔵と糖新生
6　血糖を保つ仕組み
7　脂質の化学
8　脂質の代謝①生合成
9　脂質の代謝②β酸化
10　脂質の貯蔵とリポタンパク質
11　タンパク質の化学と代謝
12　アミノ酸の化学
13　酵素
14　核酸
15　ビタミン・ミネラルとホルモンの生理作用

[授業方法]
講義が主体となる。生体内での化学反応を、できる限り目で見て理解できるようビジュアル教材やイラスト教材を提供する。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（60%）
授業・小テスト（課題）への取組状況（40%）

[教科書]
栄養科学シリーズNEXT　生化学　加藤秀夫他著
(講談社サイエンティフィク)

[参考書]
生化学　ふしぎの世界の物語　前場良太著
(医歯薬出版)

[準備学習（予習・復習）]
１年前期に開講される地球と生命での学びが基礎となることから、この科目の復習を望む。
毎回、予習・復習の課題を提示するので、90分以上かけて取り組むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 食品学Ⅰ
[担当教員名] 渡辺　香織
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_C11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
食品学の基本は、食品の化学的、物理的性質とそれらの変化を明らかにすることにある。そのためにはまず食品成分について広く認識することが必要である。本講義では食品の主要成分の理解を基礎に、それらの相互の反応や栄養学的価値などについて学んでいく。

[学習成果] [C]
食品成分についての化学的、物理的知識を得ることができる。どの食品にどういった栄養素が含まれているか、その成分が調理や保存により、どのような変化を遂げるかを理解できる。また、栄養士として職務を遂行するための知識を蓄積できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎			○		○

[授業計画]
1　人間と食物
2　食品の分類と食品成分表①
3　食品の分類と食品成分表②
4　食品成分の特性と化学構造①
5　食品成分の特性と化学構造②
6　食品成分の特性と化学構造③
7　食品成分の特性と化学構造④
8　食品成分の特性と化学構造⑤
9　食品成分の変化と栄養①
10　食品成分の変化と栄養②
11　食品成分の変化と栄養③
12　食品成分の変化と栄養④
13　食品の機能性①
14　食品の機能性②
15　まとめ

[授業方法]
講義が主体だが、ディスカッションを交えることもある。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
「食べ物と健康Ⅰ」喜多野宣子他著
（化学同人）

[参考書]
「新カラーチャート食品成分表」（教育図書）

[準備学習（予習・復習）]
授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
食品に関する興味を常に持ち続けるように心がけて欲しい。

[科　目　名] 食品学Ⅰ実験
[担当教員名] 渡辺　香織
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_C12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実験

[授業概要]
本実験は、食品学Ⅰで得た知識をもとに食品に関する化学実験の基礎技術の習得をねらいとする。

[学習成果] [C]
食品学Ⅰで得た知識を実験することで、より具体的に食品成分の存在や変化を捉えることができる。また、基礎的な化学分析を行うことができる。
化学の基礎知識が十分でなく、化学実験を初めて経験する学生も基礎的な手技から実験操作を遂行することができるようになる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎			○	○	

[授業計画]
1　オリエンテーション　実験に対する心構え
2　基礎実験0.1M　水酸化ナトリウム溶液の調製と力価の測定
3　食酢中の酢酸の定量（中和滴定）
4　食品中の水分定量
5　食品の灰化および灰分の定量
6　カルシウムの定量（キレート滴定）
7　食塩の定量（沈殿滴定）
8　糖質①　糖の定性反応
9　糖質②　ベルトラン法による還元糖の定量
10　脂質①　油脂の酸価の測定
11　脂質②　油脂の過酸化物価の測定
12　たんぱく質とアミノ酸①　たんぱく質の定性反応
13　たんぱく質とアミノ酸②　アミノ酸のペーパークロマトグラフィーによる分離・同定
14　食品成分間の反応
15　まとめ

[授業方法]
5人または6人で1グループとなり、各回のテーマの内容を実験し、結果をまとめる。グループの代表者は、レポートをまとめて提出する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
実験への取組状況（60%）
レポートおよび実験ノート（40%）

[教科書]
授業プリントを配布

[参考書]
「Nブックス実験シリーズ　食品学実験」
青柳康夫他編著（建帛社）
「食品学総論実験」江角彰彦著（同文書院）

[準備学習（予習・復習）]
授業前に、テーマに相当する部分の食品学Ⅰの教科書を読んでおくこと。また授業後は実験結果に基づく考察およびレポート・ノート作成を行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
実験は、出席して実際に実験に参加してこそ意義があるので、欠席しないように心がけること。毎回、何がテーマで、何を明らかにしようとしているのかを意識して、漫然と実験を行うことがないようにする。

[科　目　名] 食品衛生学Ⅰ
[担当教員名] 高見澤　一裕
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_C11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
生命と健康の維持に欠かすことのできない食物は、栄養価ばかりではなく、安全性に関しても同時に要求されるものである。有害物質が食品に含まれることがあっては決してならない。この授業では、食品の安全性を守り、健康障害を防止する食品衛生行政の仕組みや食品の安全性を損なう要因とその防止のための管理方法について学ぶ。

[学習成果] [C]
栄養士などのコメディカルに携わる職業はもちろん、一般的な社会生活においても食品衛生への知識は要求される。これらの社会的要求にこたえられる基本事項を身につけることができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	○				

[授業計画]
1 食品衛生の概念、食品衛生行政と法規
2 食品の変質
3 食中毒(定義と分類、発生状況)
4 食中毒(自然毒・中毒毒)
5 食中毒(細菌・ウイルス中毒)
6 経口感染症・消化器系感染症
7 人獣共通感染症・寄生虫病
8 食品衛生管理(HACCP、一般衛生管理)
9 食品中の汚染物質(カビ毒)
10 食品中の汚染物質(化学物質7)
11 食品の器具と容器包装
12 食品添加物(安全性評価、使用基準)
13 食品添加物(種類と用途)
14 新たな食品の安全性問題(無農薬栽培食品・遺伝子組換え食品)
15 新たな食品の安全性問題(放射線照射食品、放射性物質)

[授業方法]
教科書に沿って講義を進める。合わせて、小テストを行い、到達度・習熟度を学生自らが把握できるようにする。なお、適宜、スライドを使用して理解を深めるようにする。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
定期試験 (60%)
小テスト (30%)
授業への取組状況 (10%)

[教科書]
イラスト「食品の安全性」小塚諭編 (東京教学社)

[参考書]
「原色食品衛生図鑑」(第2版)　(建帛社)

[準備学習 (予習・復習)]
毎授業後に課す小テストを提出すること。予習と復習については、履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照すること。

[備考]

[科　目　名] 栄養学Ⅰ
[担当教員名] 鋤柄　悦子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_C11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
栄養素を含め、栄養という現象にかかわるさまざまな物質は、消化と吸収という過程を経て体内に取り込まれ、私たちの生命活動を支えるものとなる。本講義では、栄養にかかわる物質と人体のかかわりの概略をつかみ、栄養学の最も基礎となる知識を身につける。

[学習成果] [C]
栄養学の基礎となる知識を習得することができる。また、基礎栄養学がカバーする幅広い領域を理解することにより、今後学ぶ様々な応用科目の土台とすることができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎					

[授業計画]
1 栄養の概念、栄養学の歴史
2 現代社会が抱える栄養問題
3 糖質のはたらき (1)
4 糖質のはたらき (2)
5 脂質のはたらき (1)
6 脂質のはたらき (2)
7 たんぱく質のはたらき (1)
8 たんぱく質のはたらき (2)
9 ビタミンのはたらき (1)
10 ビタミンのはたらき (2)
11 ミネラルのはたらき
12 消化と吸収 (1)
13 消化と吸収 (2)
14 水と食物繊維
15 エネルギー代謝

[授業方法]
講義主体だが、ディスカッションやグループワークなどを取り入れることもある。また、授業の最初に小テストを行い学習内容の定着を図る。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験 (70%)
小テスト・課題 (20%)
授業への取組状況 (10%)

[教科書]
「基礎栄養学」杉山英子他編著 (化学同人)

[参考書]
随時紹介する

[準備学習 (予習・復習)]
毎回、授業の最初に小テストを行うので、予習と復習 (履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照) をすること。

[備考]
栄養士免許の取得に必須の科目です。興味を持って取り組むこと。

[科　目　名] 臨床栄養学Ⅰ
[担当教員名] 渡辺　香織
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_D12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
これまでの病院での栄養士の業務内容は主に献立作成や発注業務、そして何よりも治療食の調理が中心であった。しかしこれからは患者の栄養状態の管理を行い、合併症の発症予防や在院日数の延長予防、ＱＯＬの向上に寄与する役割を担うことが求められるであろう。本講義では、卒業後に管理栄養士免許取得を目指す場合にも対応できる内容を考え、主に臨床栄養管理と各種アセスメントについて理解を深める。

[学習成果] [D]
傷病者に対する栄養アセスメントの知識を習得することができる。また、各種栄養補給法についても理解でき、臨床における栄養士を目指す人には、病院内における栄養士の役割についての基礎知識を得ることができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	○	◎	○		○

[授業計画]
1　臨床栄養学とはどんな学問か
病院の栄養士についてあなたが考えることは
2　臨床栄養の基礎①
3　臨床栄養の基礎②
4　栄養アセスメント①
5　栄養アセスメント②
6　栄養アセスメント③
7　栄養アセスメント④
8　栄養ケアプラン
9　栄養補給法①
10　栄養補給法②
11　栄養教育
12　チーム医療
13　医療・介護制度
14　食品と医薬品の相互作用
15　まとめ

[授業方法]
講義が主体だが、ディスカッションを交えることもある。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
「Visual栄養学テキスト臨床栄養学Ⅰ総論」
本田佳子（中山書店）

[参考書]
「Nブックス三訂臨床栄養管理」渡邉早苗他編
(建帛社)

[準備学習（予習・復習）]
授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。また、授業後は復習（要点まとめなど）を行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
将来病院の栄養士を目指す人はもちろん、そうでない人も、臨床の知識はあらゆるところで役立つので、真剣に取り組んでもらいたい講義である。

[科　目　名] 栄養指導論Ⅰ
[担当教員名] 鋤柄　悦子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_D12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
個人、集団及び地域の栄養指導の基本的役割や、栄養に関する各種統計について理解する。栄養士として、健康の保持増進、疾病の予防などを目的として、食生活・栄養改善を中心とした実践指導をするための基礎知識を身につける。

[学習成果] [D]
栄養指導を行う際に基盤となる知識を習得することができる。対象者がどのような特性を持っていても、柔軟に対応し、適切な指導を行うための考え方、実践方法を習得することができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎		○	○		

[授業計画]
1　栄養教育とは
2　栄養指導と関係法規（1）
3　栄養指導と関係法規（2）
4　栄養指導と関係法規（3）
5　栄養指導の基本（1）
6　栄養指導の基本（2）
7　栄養指導の基本（3）
8　栄養指導に必要な基礎資料（1）
9　栄養指導に必要な基礎資料（2）
10　栄養指導に必要な基礎資料（3）
11　行動変容に導くためのテクニック（1）
12　行動変容に導くためのテクニック（2）
13　行動変容に導くためのテクニック（3）
14　栄養マネジメント（1）
15　栄養マネジメント（2）

[授業方法]
講義が主体だが、グループワークやプレゼンテーションなどを取り入れることもある。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
課題・提出物（20%）
授業への取組状況（10%）

[教科書]
「栄養教育論」今中美栄他編著（化学同人）

[参考書]
随時紹介する

[準備学習（予習・復習）]
授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。予習と復習については、履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照すること。

[備考]
栄養士は、単に栄養の知識を伝達するだけではなく、対象者を取り巻くさまざまな背景、心理的側面まで考えた指導が必要であるので、しっかりと取り組むこと。

[科　目　名] 栄養指導論実習Ⅰ
[担当教員名] 鋤柄　悦子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_D12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
栄養指導は、対象者の実態把握と正しい評価なくして成果は得られない。そのための調査や情報収集の方法を学び、正しい栄養アセスメントを行う流れを習得する。

[学習成果] [D]
対象者を自身に設定し、アセスメントを行い食事摂取基準を求めることで、栄養指導における献立作成の技術が身につく。また1分間スピーチにより、多くの人前で話す際の注意点を理解できる。糖尿病および腎臓病の患者さんへの栄養指導の基礎として、食事療法における食品交換表を使い、単位計算や献立修正を行えるようになる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎		○	○	○	

[授業計画]
1　栄養指導の意義と方法
2　栄養指導の意義と方法、1分間スピーチ
3　食物摂取状況調査
4　食事摂取基準の査定 (1)
5　食事摂取基準の査定 (2)
6　食事摂取基準の査定 (3)
7　各栄養素の食事摂取基準の査定 (1)
8　各栄養素の食事摂取基準の査定 (2)
9　各栄養素の食事摂取基準の査定 (3)
10　献立作成 (1)
11　献立作成 (2)
12　パソコンによる情報収集
13　パソコンによる栄養価計算
14　糖尿病の食事療法と交換表の活用
15　腎臓病の食事療法と交換表の活用

[授業方法]
実際に生活時間調査や食事記録を行い、計算するなど、実習が中心である。パソコンを用いる授業もあり、栄養価計算も個別に行う。1分間スピーチはビデオ録画を行う。

[成績評価]
試験 (50%)
課題・提出物 (40%)
授業への取組状況 (10%)

[教科書]
「すぐわかる栄養指導実習」田中ひさよ他著 (萌文書林)
「糖尿病食事療法のための食品交換表」日本糖尿病学会編 (文光堂)
「腎臓病食品交換表」中尾俊之他編 (医歯薬出版)

[参考書]
「新カラーチャート食品成分表」(教育図書)
「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大学出版部)

[準備学習 (予習・復習)]
授業前に栄養指導論Ⅰの教科書を読んでおくこと。また、授業後は、実習内容をまとめ、課題を完成させるために学習すること。(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
1分間スピーチは、初めて大勢の人の前で話す経験になる人も多い。栄養士は人前で話すスキルも必要なため、思い切って大きな声を出すこと。

[科　目　名] 調理学
[担当教員名] 西澤　早紀子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_E11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
調理は食材を食べられる状態にする最終の過程である。健康な生命を維持するための栄養を得るだけではなく、おいしさや喜びを提供するためにも、日常の調理操作の持つ意義や食材に合わせた調理操作の基本を学ぶ。
具体的には
●調理の意義
●おいしさを感じる仕組みとその評価方法
●植物性、動物性、成分抽出食品の調理
●調理操作と調味操作
●エネルギー源
●食文化と献立作成が理解できる。

[学習成果] [E]
調理の意義を理解し、食材に適した調理法、調味方法、食環境、食文化についての知識を習得できる。食べていただく方の満足感を考える力が身につく。献立の作成、栄養価計算方法を修得できる。給食業務を見据えた基礎的な調理に関する知識が修得できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎			◎		

[授業計画]
1　調理の意義・目的
2　おいしさとその評価、栄養価計算
3　植物性食品の調理①
4　植物性食品の調理②
5　植物性食品の調理③
6　動物性食品の調理①
7　動物性食品の調理②
8　成分抽出食品の調理、嗜好飲料
9　調理操作①非加熱調理
10　調理操作②加熱調理
11　調味操作
12　エネルギー源及び調理器具①
13　エネルギー源及び調理器具②
14　食事様式と食事計画
15　献立作成

[授業方法]
講義が主体である。食品を生かすための調理方法を解説する。毎回、自分自身の理解を振り返るシートを活用し、学びの定着を図る。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験 (60%)
授業・課題への取組状況 (40%)

[教科書]
「マスター調理学」(建帛社)
「調理のためのベーシックデータ」
(女子栄養大学出版部)

[参考書]
「新カラーチャート食品成分表」(教育図書)

[準備学習 (予習・復習)]
復習・予習については合わせて90分以上かけて授業内で指示・確認を行う。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
調理学実験や調理学実習と並行して進むことから、これらの科目との関連性を意識し取り組むことを望む。

[科　目　名] 調理学実習Ⅰ
[担当教員名] 山口　由貴
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_E11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
調理の意義目的を理解し、調理の基本を学ぶ。日本料理を通して、様々な食材の特性を理解し、調理による変化を把握する。食文化、調理科学と関連させ、調理技術を身につけることをねらいとする。

[学習成果] [E]
日本料理を通して、調理の基礎、調理器具の操作方法、献立作成の基礎を習得することができる。
少人数でのグループワークでコミュニケーション能力を身につける。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
○	○		○		

[授業計画]
1　調理の基本と日本の食文化
2　調理の基本①
3　調理の基本②
4　調理の基本③
5　調理の基本④
6　調理の基本⑤
7　調理の基本⑥
8　調理の基本⑦
9　調理の基本⑧
10　調理の基本⑨
11　日本料理の献立①
12　日本料理の献立②
13　日本料理の献立③
14　日本料理の献立④
15　日本料理の献立作成と調理

[授業方法]
前半は解説とデモンストレーション、その後4～5人のグループに分かれて調理実習を行う。試食、後片付けをグループワークで進める。実習後は調理方法、栄養価、考察をレポートにまとめて毎回提出する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（45%）
提出物（30%）
筆記試験（25%）

[教科書]
「食育に役立つ調理学実習」西堀すき江編著（建帛社）

[参考書]
「新カラーチャート食品成分表」（教育図書）
「調理のためのベーシックデータ」
（女子栄養大学出版部）

[準備学習（予習・復習）]
教科書を使って実習献立を予習しておくこと。
また、復習として毎回、実習レポートをまとめ提出する。
（履修案内のII履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
調理実習の際は、白衣と帽子を着用し、衛生管理の基本を身につける。
積極的に取り組み、調理技術の基礎を習得することに加えて、グループワークでのコミュニケーションスキルの向上を心がけること。

[科　目　名] 調理学実習Ⅱ
[担当教員名] 有尾　正子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_E12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
日本料理とは異なる食文化やマナーを中国料理、西洋料理の調理実習から学ぶ。また、調理技術、調理上の特徴を習得する。

[学習成果] [E]
食様式の食文化やマナーについて学ぶことにより、食の伝承や供応することに役立てることができる。また、西洋食材、中国食材を知ることで、さまざまな料理に展開できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	◎	○	◎		

[授業計画]
1　西洋料理の食文化について
2　西洋料理①
3　西洋料理②
4　西洋料理③
5　西洋料理④
6　西洋料理⑤
7　西洋料理⑥
8　中国料理の食文化について
9　行事食
10　中国料理①
11　中国料理②
12　中国料理③
13　中国料理④
14　中国料理⑤
15　中国料理⑥

[授業方法]
実習する料理のテーマについて説明を加えながらデモンストレーションを行ったのち、各グループに分かれて調理をする。出来上がった料理を試食し、感想や考察を記録する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
実習への取組状況（40%）
試験（40%）
提出物（20%）

[教科書]
「食育に役立つ調理学実習」　西堀すき江編著（建帛社）

[参考書]
「新カラーチャート食品成分表」（教育図書）
「調理のためのベーシックデータ 第5版」
（女子栄養大学出版部）

[準備学習（予習・復習）]
次回実習する料理をノートに転記し、調理法を予習。
（履修案内のII履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
食材の特性、調理工程による変化も実習を通じて感覚的にとらえ、料理作りと食べることの楽しさを知ってもらいたい。

[科　目　名] 調理学実験
[担当教員名] 西澤　早紀子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_E11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実験

[授業概要]
調理操作を施すことによって、食材が化学的・物理的に変化し、おいしさを与える。実験を通して、食材の特性や調理操作に関する基礎的知識と技術を科学的に学習し、調理操作の意義を学ぶ。
具体的には、
●官能評価方法の実践
●でんぷんの調理法、炊飯
●各種小麦粉とグルテン
●砂糖、寒天、ゼラチン、でんぷんと加熱温度
●たんぱく質の調理による変化
●野菜の色、食感の調理による変化　を理解できる。
また、実験の心構え、実験器具の使用について学ぶ。

[学習成果] [E]
食材を用いて実験することで、調理操作が及ぼす影響、食材と調理に関する調理学的知識を修得できる。
実験ノートを作成し、実験を記録し、報告する技術が修得できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎			◎		

[授業計画]
1　オリエンテーション、レポートの書き方
2　食品の物性と官能検査
3　米の調理性に関する実験
4　小麦粉の調理性に関する実験①
5　小麦粉の調理性に関する実験②
6　いも及びでんぷんの調理性に関する実験
7　砂糖の調理性に関する実験
8　卵の調理性に関する実験①
9　卵の調理性に関する実験②
10　肉の調理性に関する実験①
11　肉の調理性に関する実験②
12　魚の調理性に関する実験
13　寒天・ゼラチンの調理性に関する実験
14　野菜の調理性に関する実験①
15　野菜の調理性に関する実験②

[授業方法]
食材を試料に用い、実験を行う。食材に合った調理操作について、分析、考察する。グループ作業であることから、メンバー間で連携し、実験を遂行し、メンバー間評価も行う。実験結果は、ノートに記録し、適宜レポートとして提出する。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
提出物（60%）
授業への取組状況（40%）

[教科書]
プリント教材配布
「図解 栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック」西川真理子著　(化学同人)
[参考書]
「マスター調理学」(建帛社)
[準備学習（予習・復習）]
翌週の予習、前回までの実験の復習を45分以上行う必要がある。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)
[備考]
調理学、調理学実習と並行して実験が進むことから、関連性を意識しながら、積極的に取り組んでほしい。

[科　目　名] 給食管理論Ⅰ
[担当教員名] 有尾　正子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_E12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
給食のはじまりは明治時代からともいわれている。長い歴史の中で変遷を繰り返してきた給食について特定給食施設別の提供方法や特徴を学び、栄養士の業務との関わりを習得する。

[学習成果] [E]
特定給食施設で必要とされる人材である栄養士について、漠然としたイメージを明瞭でき、これから目指す栄養士の職務について理解することができる。また、給食運営に関しての知識を身につけ、職業意識を高めることができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	◎	○	◎	○	◎

[授業計画]
1　給食の意義と歴史
2　特定給食の特徴
3　給食運営方法の種類（1）
4　給食運営方法の種類（2）
5　特定給食施設における栄養士業務（1）
6　特定給食施設における栄養士業務（2）
7　関係法規（1）
8　関係法規（2）
9　関係法規（3）
10　分析図による食数管理と食材管理（1）
11　分析図による食数管理と食材管理（2）
12　特定給食施設別の献立作成方法（1）
13　特定給食施設別の献立作成方法（2）
14　特定給食施設別の献立作成方法（3）
15　特定給食施設別の献立作成方法（4）

[授業方法]
給食の概念について授業をすすめて、喫食対象者の満足度を得るための適切な調査方法を説明する。さらに食数管理、食材管理のグラフやデータを分析し、メニュー開発に反映させる方法を説明する。
委託給食会社の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
試験（60%）
課題への取組状況（20%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「給食の運営-栄養管理・経営管理-」
(建帛社)

[参考書]
給食管理実習－校内編　殿塚婦美子他編著
(建帛社)

[準備学習（予習・復習）]
関係法規について調べておく。また、授業後には復習をし、知識を定着させることを心掛ける。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)

[備考]
給食管理論は、栄養士の職務を理解でき、現場で活用できるものである。興味をもち授業に参加してもらいたい。

[科　目　名] 生活文化総合演習
[担当教員名] 奥村 智子・渡辺 香織・赤塚 徳子・
安井 映理子・服部 礼美香・藤原 淳子・
高橋 美千子・飯田 春子・森本 智子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_A12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
生活文化学科の共通科目として、生活文化に対する理解を深める。本学の教育理念「正・明・和・信」の情操を養う。身近な生活からSDGsを理解し、家庭から卒業後の社会生活へ向けてより深く広い教養を身につける。

[学習成果] [A]
生活文化（家政学）に関する知識を幅広く身につけ、SDGsを通じて豊かな生活を考え、実践できるようになる。また、2年次の専門教育に意欲的に取り組むことができる。専攻の枠を超えた小グループでの受講により、新たな人間関係を形成する機会や幅広い考え方を持てるようになる。考えを文章としてまとめる力が身につく。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
			◎	○	

[授業計画]
1　オリエンテーション、レポートの書き方
2　SDGs と私たちの生活
3　「食物アレルギーの子どもを守る大学へ」のとりくみ
4　稲沢学・稲沢について考える
5　稲沢学・おでかけ市長室
6　稲沢学・学外見学（稲沢市荻須記念美術館・国府宮神社）
7　日本文化…書道
8　日本文化…茶道
9　日本文化…和の心
10　色彩コーディネート
11　暮らしと環境
12　子どもと関わる
13　生活とお金
14　言葉①
15　言葉②

[授業方法]
演習が主体だが、ディスカッション、グループ学習などそれぞれの項目に合わせて授業形態を変えて進めていく。毎回、学んだ内容、意見や考えを課題としてまとめ、最後にまとめとしてのレポート課題を課す。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題提出（60%）
授業への取組状況(30%)
まとめレポート（10%）

[教科書]
愛知文教女子短期大学　生活文化総合演習2021

[参考書]
随時紹介
[準備学習（予習・復習）]
授業前には関連する分野の内容に興味・関心を持ち、調べ学習をして臨むこと。授業後は、振り返りレポート作成に取り組むこと。（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]　地域志向科目
卒業時に授与される学位に付記される専攻分野「生活文化」を深める科目である。短期大学での学びを社会生活に結びつける科目として積極的な学びを期待する。

[科　目　名] 食物アレルギー演習
[担当教員名] 渡辺 香織・有尾 正子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_D12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
食物アレルギーの発症例は年々増加の一途をたどっており、栄養士は様々な職域において、食物アレルギー患者と接する機会がある。本演習においては、理論と実践の両面から食物アレルギーを学び、栄養士の視点から備えておくべき基礎知識を習得することを目標とする。

[学習成果] [D]
食物アレルギーに関する基礎知識が習得できるほか、その知識を実際の調理や献立作成に活かせるようになる。また、食物アレルギー対応が栄養士以外の他職種との連携で行われることの意義を理解できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	○	◎	○		○

[授業計画]
1　アレルギーの変遷と現状
2　食物アレルギーの基礎知識①
3　食物アレルギーの基礎知識②
4　食物アレルギー疾患対応のポイント
5　栄養士に知っていてほしいこと①
6　栄養士に知っていてほしいこと②
7　食物アレルギー対応の取り組み
8　食物アレルギー対応食のポイント
9　食物アレルギー対応食の調理①
10　食物アレルギー対応食の調理②
11　食物アレルギー対応食の調理③
12　食物アレルギー対応食の調理④
13　食物アレルギー対応食の調理⑤
14　食物アレルギー対応食の調理⑥
15　食物アレルギー事故防止と多職種連携

[授業方法]
理論を学びながら、演習を中心とする。後半は食物アレルギー対応食の調理実習を行うことで食物アレルギー対応のポイントと事故防止への理解を深めていく。
アクティブラーニング導入。
栄養指導（病院）の実務経験がある教員を中心に、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
筆記試験（50%）
ノート、レポート等の評価（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「保育の場で役立つ食物アレルギー対応」
小野内初美・朴賢晶編著（建帛社）

[参考書]
「食物アレルギーの基礎と対応」
宇理須厚雄監修（みらい）
「よくわかる食物アレルギー対応ガイドブック」
宇理須厚雄監修（環境再生保全機構）

[準備学習（予習・復習）]
開講前の夏季休暇中に、本学ホームページ www.ai-bunkyo.ac.jp 内「はっぴーと」を見ておく。授業後には要点をまとめるなどの復習をすること。実習後は考察や栄養価計算、ノート作成などの課題に取り組むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]

[科　目　名] 健康フィットネス演習Ⅰ
[担当教員名] 西澤　早紀子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_F11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
運動は健康の維持・増進に必要である。毎回のエアロビクスダンス等の実技によって、自分自身の健康的なからだ作りを目標に、運動、特に有酸素運動のエアロビックダンスエクササイズの正しく、安全で効果的な方法、ADIの資格取得に向け実技を通して学ぶ。
具体的には、
●エアロビクスの理解
●体力学、トレーニング科学、運動処方
●健康と運動（心と運動を含む）
●各種エアロビックダンスエクササイズの実践
が理解できる。

[学習成果] [F]
健康の維持増進に、食事とともに欠かせない運動、フィットネス理論をエアロビクス実技により修得できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
			◎		

[授業計画]
1　エアロビクスダンスエクササイズとは
2　エアロビクス、体力測定とその意義
3　エアロビクス、運動計画
4　エアロビクスとウォームアップ
5　エアロビクスとストレッチング
6　動作の基本
7　正確なアライメント
8　明確な動き
9　ローインパクト・ハイインパクト
10　ウォームダウン・クールダウン
11　トレーニング科学、各種トレーニングの理解
12　心と運動
13　エアロビックダンスエクササイズ①
14　エアロビックダンスエクササイズ②
15　エアロビックダンスエクササイズ③

[授業方法]
エアロビックダンスエクササイズのレッスン形式で行う。リズムに合わせてウォーミングアップ、メインエクササイズ、ウォームダウンの一連の流れを行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
実技テスト（50%）
授業への取組状況（40%）
課題（10%）

[教科書]
教材プリント配布

[参考書]
GFIのためのフィットネス基礎理論・
エアロビックダンスエクササイズ指導理論
((社)日本フィットネス協会)

[準備学習（予習・復習）]
毎回毎回の授業の振り返り、次週の学びについて解説を行うことから予習・復習を45分以上求める。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
フィットネスウエア、運動シューズ、タオル、水分補給用の飲み物が毎回必要となる。どのようなものが適しているかは、初回のオリエンテーションで解説するので、各自用意願いたい。

[科　目　名] 健康フィットネス演習Ⅱ
[担当教員名] 西澤　早紀子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_F12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
運動は健康の維持・増進に必要である。前期の健康フィットネス演習Ⅰを発展させ、グループエクササイズについて実技を通して学ぶ。ADIの資格試験に向け、規定動作、プログラム作成、指導の実践について実技を通して修得する。

[学習成果] [F]
グループに向けた指導方法を習得できる。プログラミングと負荷強度の調節など指導の循環を理解し、インストラクターとして必要な実技スキルを習得する。
ADI格取得のための知識、技術が習得できる。
具体的には、
●グループエクササイズの理解と実践
●指導の循環の理解
●エアロビックダンスエクササイズの正しい動作と指導の実践ができる。
健康の維持増進に向け、運動と食事の両方の視点で、健康を考えることができるようになる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
			◎		

[授業計画]
1　音楽の役割
2　ステップのバリエーション
3　動きの組み合わせ・強度変化
4　プログラム構成
5　コレオグラフィーの手法
6　メインエクササイズプログラムの作成①
7　メインエクササイズプログラムの作成②
8　プログラムの指導テクニック①
9　プログラムの指導テクニック②
10　エアロビックダンスエクササイズ
プログラムの指導①
11　エアロビックダンスエクササイズ
プログラムの指導②
12　正しい動きの実践
13　正しい動きの実践と指示
14　グループ指導①
15　グループ指導②

[授業方法]
エアロビックダンスエクササイズのレッスン形式で行う。特に、エアロビックダンスエクササイズの正しい動作、指導、プログラム作成を行うための実技を練習する。
アクティブラーニングを導入。

[成績評価]
実技（60%）
授業への取組状況（40%）

[教科書]
教材プリント配布

[参考書]
GFIのためのフィットネス基礎理論
エアロビックダンスエクササイズ指導理論
グループエクササイズ指導理論
((社)日本フィットネス協会)

[準備学習（予習・復習）]
1年間の集大成として、エアロビックダンスエクササイズの授業外学習（復習・予習）、練習に45分以上励むことを求める。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] ＡＤＩ特別講義
[担当教員名] 西澤　早紀子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　　[科目コード] LCF0_F12
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 講義

[授業概要]
公益社団法人日本フィットネス協会認定ADBI(Ⅰ)資格取得のため資格取得のためのオムニバス形式の講義。ADI筆記試験対策も合わせて行い、インストラクターに必要な知識を修得する。

[学習成果] [F]
健康の維持増進の担い手、有酸素運動「エアロビックダンスエクササイズ(AD)」のインストラクターに求められる、理論を修得できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
			◎		

[授業計画]
1　フィットネス概論
2　運動器の基礎解剖学①
3　運動器の基礎解剖学②
4　運動生理学
5　体力学・トレーニング科学・運動処方①
6　体力学・トレーニング科学・運動処方②
7　心と運動
8　運動と安全管理、事故・障害の予防
9　有酸素性運動の基礎知識
10　ADの歴史と運動特性
11　ADの基本の動き
12　ADのプログラミング
13　ADの指導法、環境整備
14　グループエクササイズ①
15　グループエクササイズ②

[授業方法]
講義が主体である。オムニバス形式で、ADBI(Ⅰ)資格取得に向けた筆記試験対策講座を行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（40%）
テスト（40%）
課題（20%）

[教科書]
「GFIのためのフィットネス基礎理論」
「エアロビックダンスエクササイズ指導理論」
「グループエクササイズ指導理論 」
((社)日本フィットネス協会)

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
毎回授業内で、予習内容、復習内容を指示するので、これを90分以上かけて取り組むことを求める。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

2　専門科目

生活文化学科　食物栄養専攻　2年

[科　目　名] 公衆衛生学
[担当教員名] 高見澤　一裕
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_A22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
公衆衛生学は、ひとの命や健康を守るための学問で、臨床医学が個々の人を取り扱うのに対して、社会という集団で健康を取り扱う学問である。そのため、極めて幅の広い知識が必要となる。この授業では、広く社会・環境と健康について学ぶ。健康の概念から始まり、環境汚染と健康、保健統計、疫学の概念と実際、生活習慣の現状と対策、保健・医療・福祉の社会制度について講義する。

[学習成果] [A]
医療や保健の現場で、栄養士をはじめとしたコメディカルスタッフの役割は年々重要となり、要求される事項も複雑かつ高度なものとなってきている。これらの社会的要求にこたえられる基本事項を身につけることができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		○	○	◎	○

[授業計画]
1　健康の概念・公衆衛生の概念
2　環境汚染と健康影響
3　環境衛生
4　保健統計
5　人口静態統計・人口動態統計・生命表
6　疫学の概念
7　疫学の方法
8　疫学の実際と栄養士倫理
9　生活習慣の現状と対策（飲酒、喫煙）
10　生活習慣の現状と対策（休養、歯科）
11　主要疾患の疫学と予防対策（がん、循環器疾患）
12　主要疾患の疫学と予防対策（代謝疾患、骨疾患）
13　主要疾患の疫学と予防対策（感染症、精神疾患）
14　保健・医療・福祉の制度（医療制度、保健制度）
15　保健・医療・福祉の制度（介護・福祉制度）

[授業方法]
教科書に沿って講義を進める。今週の公衆衛生学と題して学生が数人ずつ毎回1人5分のプレゼンテーションを行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
定期試験（60%）
プレゼンテーション（30%）
授業への取組状況（10%）

[教科書]
「社会・環境と健康　公衆衛生学」2021年度版
柳川洋・尾島俊之編著（医歯薬出版株式会社）

[参考書]
公衆衛生がみえる（メディックメディア）
国民衛生の動向　厚生労働統計協会

[準備学習（予習・復習）]
直近1週間の新聞等に目を通し、公衆衛生に関連する事項を把握すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
プレゼンテーションでは、パワーポイントを使うので、事前に使用方法を学んでおくこと

[科　目　名] 解剖生理学実験
[担当教員名] 日暮　陽子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_B21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実験

[授業概要]
解剖生理学の講義で得た知識をもとに、自らが体を動かして種々の実験と標本観察に積極的に取り組むことで、教科書のみでは得られない手技と知識を得ることができる。
これにより解剖生理学を系統的により深く理解する能力を高めることをめざす。

[学習成果] [B]
生体の成り立ちについて、人体模型やラットを使用して肉眼的・顕微鏡的な観察を実践することで構造と機能の関係をより深く理解でき、さらに生体の形成および維持の面での食品のもつ意義・重要性を理解することに役立つ。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
○			◎		

[授業計画]
1　全体説明：概要・心得、レポート作成、人体の構造について
2　人体・臓器模型観察とスケッチ1
3　人体・臓器模型観察とスケッチ2
4　消化器について
5　組織標本観察スケッチ（胃・肝臓・腎臓）
6　ラットの解剖：肉眼的観察とスケッチ
7　細胞標本観察スケッチ（血球標本）
8　循環器実験：血圧測定（安静時、負荷時）
9　感覚実験：二点弁別閾値測定、重量感覚
10　感覚実験：触点・痛点・温点・冷点測定
11　味覚実験
12　肺活量・握力・背筋力・脈拍
13　発表準備
14　人体の構造と機能について発表1
15　人体の構造と機能について発表2・まとめ

[授業方法]
実習ごとにプリントを配布して説明することを基本とし、さらにスライドや提示物を加えて理解しやすくする。
項目によっては実施に先立ち、教員がデモンストレーションを実施する。学生は実験内容を少人数の班に分かれて実験し、班全員で検討、議論してレポートにまとめる。最後に与えられたテーマについて発表する。

[成績評価]
提出物(70%)
課題や授業への取組状況(30%)

[教科書]
使用なし（プリント配布）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
毎回復習をしてノートにまとめておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 生化学実験
[担当教員名] 西澤　早紀子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_B22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実験

[授業概要]
生体内での栄養素の消化および代謝反応を実験によって理解する。具体的には、
●生化学的実験手法の理解と実践
●糖質、脂質、たんぱく質の消化の理解
●酵素反応の理解
●糖質、脂質、タンパク質の代謝の理解
●核酸の理解　である。
また、仮説実証のプロセスを習得する。

[学習成果] [B]
生きるために必要な糖質、脂質、たんぱく質等の栄養素および水の生体内利用の仕組みや生体内での生合成、代謝の仕組み、環境への適応について、栄養成分や生体試料を用いて実験することで修得することができる。また、実験結果、血液成分値と疾病の関連を説明できるようになる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎			◎		

[授業計画]
1　オリエンテーション、緩衝液の性質
2　糖質の消化：唾液アミラーゼ活性の測定①
3　糖質の消化：唾液アミラーゼ活性の測定②
4　たんぱく質の消化：ペプシン活性の測定①
5　たんぱく質の消化：ペプシン活性の測定②
6　たんぱく質の消化：トリプシン活性の測定
7　脂質の消化：リパーゼ活性の測定①
8　脂質の消化：リパーゼ活性の測定②
9　分光光度計と検量線
10　糖質の代謝
11　タンパク質の代謝：血清タンパク質濃度の測定
12　タンパク質の代謝：尿中尿素濃度の測定
13　脂質の代謝：血中コレステロール濃度の測定
14　核酸
15　核酸の代謝：尿酸濃度の測定

[授業方法]
栄養成分や生体試料を用いて、生体内での反応などを、実験により確認する。グループ作業であることから、メンバー間で連携し、実験を遂行する。また、アクティブラーニングを導入し、仮説に基づく実験方法の組みたて、実験、考察までの一連を班ごとに考えて行い、仮説実証のプロセスを習得できる。 アクティブラーニング導入。

[成績評価]
実験への取組状況(40%)
実験ノート(40%)
課題・レポート(20%)

[教科書]
プリント教材配布
[参考書]
「栄養科学シリーズNEXT生化学」
(講談社サイエンティフィク)
[準備学習（予習・復習）]
病態の理解、栄養ケアマネジメントを併せて学修するため、生化学、栄養学、臨床栄養学の予習・復習（45分以上）が必要である。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
実験用の白衣を使用し、衛生、安全に留意すること。

[科　目　名] 病理学
[担当教員名] 高橋　浩子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_B22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
病理学は疾病の本態を究明する学問であり、疾病の原因、機序、病変の広がりや経過、そして最終的にはどのような転帰をとるかなどについて、臓器、組織、細胞などの形態学的な変化を主な拠り所として追求していく。
講義では病気の基本的な概念を総論的に理解し、さらに重要疾患についての病変像をカラースライドで投影することでより理解を深められるようにする。

[学習成果] [B]
疾病を理解するための基礎的学問である病理学を履修することは食品機能、特に生体調節機能を考えるうえで有用かつ重要である。将来管理栄養士資格取得を目指す場合には必須の科目を修得できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
	○	○	○	○	○

[授業計画]
1　序論：病理学の意義、病因、生体反応の流れ
2　総論：退行性病変、循環障害
3　：炎症と免疫
4　：感染症
5　：腫瘍
6　：先天性異常
7　：老化
8　：全身性疾患
9　各論：循環器
10　：呼吸器
11　：消化器1
12　：消化器2
13　：内分泌系
14　：泌尿、生殖器系
15　：その他の疾患

[授業方法]
教科書を主とし、カラースライドや資料の提示を加えることで理解に役立てる。また、必要に応じて重要事項の理解度を確認するための提出物を求めることをする。
内科医師の実務経験に基づき、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
定期試験の成績（70%）
授業への取組状況（受講態度、提出物等）（30%）

[教科書]
「わかりやすい病理学」（改定第6版）
岩田隆子、恒吉正澄、小田義直　他　（南江堂）

[参考書]
「イラスト病理学」野々垣常正　ほか
(東京教学社)

[準備学習（予習・復習）]
毎回復習をしてノートにまとめること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 食品学Ⅱ
[担当教員名] 渡辺　香織
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_C22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
栄養士業務を行う上で、献立の原材料となる食品について正しく詳しい知識を得ることは必須となる。本講義においては、各食品の名称、利用の現況、性質、栄養や機能成分、貯蔵法、調理加工法などを知り、さらに商品学的な面も学んで食品に関する必要な知識を得ることを目標とする。

[学習成果] [C]
幅広く食品について、その栄養学的特徴や貯蔵法、調理加工法の知識を得て、活用できる。献立作成や給食の運営において、正しい食品選択の目を持って業務を行うことができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎			○		○

[授業計画]
1 穀類の特性とその加工品
2 イモ類の特性とその加工品
3 種実類の特性とその加工品
4 豆類の特性とその加工品
5 野菜類の特性とその加工品
6 果実類の特性とその加工品
7 キノコ類の特性とその加工品
8 藻類の特性とその加工品
9 魚介類の特性とその加工品
10 食肉類の特性とその加工品
11 卵類の特性とその加工品
12 乳類の特性とその加工品
13 食用油脂、調味料、香辛料、嗜好品
14 食品の保存と規格
15 まとめ

[授業方法]
講義が主体だが、ディスカッションを交えることもある。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験 (70%)
授業への取組状況 (30%)

[教科書]
「食べ物と健康Ⅱ」喜多野宣子他著 (化学同人)

[参考書]
「改訂原色食品図鑑第二版」菅原龍幸他編
(建帛社)

[準備学習 (予習・復習)]
授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。また、授業後は復習 (要点まとめなど) を行うこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
献立を立てるにしろ、調理を行うにしろ、使う食品について熟知していなければ、その幅は広がっていかない。
改めて食品一つひとつの特徴や成分、加工方法などを学ぶこの講義は、栄養士としての知識の土台ともなる。「自分自身が食品辞典になる」という意気込みで授業に臨むこと。

[科　目　名] 食品衛生学Ⅱ
[担当教員名] 有尾　正子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_C21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
栄養士の職務は、給食の運営である。大量に提供する給食は、衛生かつ安全に調理しなければならない。そのために大量調理施設衛生管理マニュアルを熟知し、食中毒、異物混入などの食に関する事故を未然に防ぐ知識を習得することをねらいとする。

[学習成果] [C]
HACCP (食品の危険分析・重要管理点) が基となっている大量調理施設衛生管理マニュアルについて学ぶことにより、さまざまな危機管理ができる。また、調理施設、調理器具などの洗浄・殺菌法を適切に知ることができる。

[[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	○	◎	◎		

[授業計画]
1 大量調理施設衛生管理マニュアルとは
2 施設設備の構造と衛生管理
3 衛生管理体制の充実
4 調理従事者への衛生教育
5 衛生標準作業書とは
6 洗浄と殺菌
7 食材の管理方法
8 調理工程別重要管理点 (和え物)
9 調理工程別重要管理点 (焼き物)
10 調理工程別重要管理点 (炒め物)
11 調理工程別重要管理点 (煮物・汁物)
12 業態別衛生管理 (給食)
13 業態別衛生管理 (惣菜と弁当)
14 調理環境の衛生管理
15 食中毒発生事例と対応

[授業方法]
HACCP (食品の危険分析・重要管理点)、大量調理施設衛生管理マニュアルを中心に説明し、これをふまえて、調理工程における危険分析、重要管理点を探る。また、テストを実施し、理解度を確認する。

[成績評価]
試験 (50%)
課題への取組や授業への取組状況 (35%)
小テスト (15%)

[教科書]
管理栄養士のための大量調理施設の衛生管理
矢野俊博・岸本　満著 (幸書房)

[参考書]
調理施設の衛生管理 (社団法人日本食品衛生協会)

[準備学習 (予習・復習)]
特定給食施設や食品会社の衛生管理について調べる。
前回の授業の内容を見直す。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
大量調理施設で食中毒や異物混入の事故を起こした場合、人命にもかかわり信頼をも失うこととなる。衛生管理の知識を備える必要性を理解してもらいたい。

[科　目　名] 食品衛生学実験
[担当教員名] 高見澤　一裕
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_C21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実験

[授業概要]
食品衛生は飲食に起因する健康障害の発生を防止することにある。本実験では、基本的な衛生に関する実験から始めて、微生物学的検査や食物アレルギー検査について実習する。

[学習成果] [C]
食品衛生の概念を理解し、それを実証する基本的検査技術を身につけることができる。これらのスキルは、栄養士業務ばかりでなく食品関係の一般的な業務でも十分に活かすことができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	○				

[授業計画]
1　手指の消毒の判定: 手洗いチェッカー
2　食器の洗浄度検査: でんぷん、脂肪、タンパク質の残留
3　飲料水の検査：残留塩素（DPD法）
4　魚肉の鮮度検査: ヒスタミン
5　食品添加物検査: 亜硝酸性窒素（比色法）
6　食品添加物検査: 酸性エタノール色素（TLC法）
7　拭き取り法・スタンプ法による細菌汚染度検査:
空中落下細菌による室内細菌汚染度検査:
8　細菌顕微鏡検査：普通染色
9　細菌顕微鏡検査: グラム染色
10　一般細菌検査
11　大腸菌群検査
12　乳酸菌検査
黄色ブドウ球菌検査
13　腸炎ビブリオ検査
サルモネラ検査
14　卵アレルゲン検査：イムノクロマト法
15　小麦アレルゲン検査：イムノクロマト法

[授業方法]
実験方法を実習ごとにプリント配布して説明する。適宜、スライドを使用して内容の理解と技術の習熟の助けとする。学生は5人前後の少人数での班に分かれて実験し、複数の教員などの指導の元、技術の取得を行う。実験内容を班やクラス全体で共有し議論して内容の習熟に努める。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
実験ノートの提出（90%）
実験への取組状況（10%）

[教科書]
「改訂　食品衛生学実験」後藤政幸編（建帛社）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
毎授業後に必ず実験ノートを整理すること。授業前にそれまでの実験ノートに目を通すこと。
（履修案内のII履修と単位の修得、1単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
観察記録することが多いので、色鉛筆やカラーマーカーペンを持参すること。

[科　目　名] 栄養学II
[担当教員名] 有尾　正子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_D22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
人は、健康な生涯を送ることが望まれる。そのためにも正しく栄養を摂取し生活習慣病やストレスから身体を守ることが重要である。健全な身体づくりのためにライフステージ別の栄養管理方法を習得する。

[学習成果] [D]
ライフステージ別の栄養管理方法を習得することで、栄養士として「栄養と健康」に関する知識を身につけることができる。

[[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	◎	◎	◎	○	◎

[授業計画]
1　成人期①
2　成人期②
3　妊娠期①
4　妊娠期②
5　授乳期
6　乳児期①
7　乳児期②
8　幼児期①
9　幼児期②
10　学童期
11　思春期
12　更年期
13　高齢期
14　運動・スポーツ栄養
15　環境と栄養

[授業方法]
ライフステージにおける身体的、生理的特徴、病態を説明し、食事の組み立て方や注意点を探究する。また、ステージ終了の度に小テストを実施し、理解度を確認する。

[成績評価]
試験（60%）
小テスト（20%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ6
「応用栄養学」奥田あかり・上山恵子・尾関清子著
（化学同人）

[参考書]
「栄養の基本がわかる図解事典」
中村丁次監修（成美堂出版）

[準備学習（予習・復習）]
ステージ終了時に実施する小テストに備え、授業前には復習をすること。
（履修案内のII履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
栄養士は人の健康管理に関わる職業である。そのためにも健康な状態でなければならない。まずは、自身の食生活を見直し、正しい栄養摂取方法を学んでもらいたい。

[科　目　名] 栄養学実習
[担当教員名] 有尾　正子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCFO_D22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
平均寿命が延びる一方で、健康な状態で生活することが困難になってきている。健康寿命の延伸のためにも食事から栄養を摂り、活動できる身体を維持することが大切である。年代別の特徴を理解して、健康づくりのための栄養補給方法と食事を学ぶ。

[学習成果] [D]
食事と健康、食事と環境の関りを知ることができる。
また、献立パターンを習得し、ライフステージ別の献立を作成することができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	◎	◎	◎	○	◎

[授業計画]
1　青年期の栄養①
2　青年期の栄養②
3　母性の栄養①
4　母性の栄養②
5　乳児期の栄養
6　幼児期の栄養①
7　幼児期の栄養②
8　学童期の栄養
9　思春期の栄養
10　壮年期の栄養
11　更年期の栄養
12　高齢期の栄養
13　スポーツ栄養
14　ストレスと栄養
15　特殊環境と栄養

[授業方法]
ライフステージ別の特徴や献立作成方法を解説したのち、実習する料理の調理法を説明する。各グループに分かれて調理、試食する。試食後は感想、考察をまとめ提出する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
実習への取組状況（40%）
試験（40%）
提出物（20%）

[教科書]
「ライフステージ栄養学実習書」
堀江祥允・江上いすず・堀江和代編著（光生館）

[参考書]
「栄養学の基本がまるごとわかる事典」
足立香代子監修（西東社）

[準備学習（予習・復習）]
ライフステージ別の栄養管理方法を予習しておく。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
どのような食行動が健康に影響を及ぼすのか、周囲の食生活に興味を持ち観察するとよい。

[科　目　名] 臨床栄養学Ⅱ
[担当教員名] 渡辺　香織
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCFO_D21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
各疾患別の食事療法を実践し、傷病者の栄養管理を行う上で基本となる病態について学習する。具体的には各種疾患の特徴や原因、治療法、食事療法について解説し、臨床現場で活かせる知識を習得することを目標とする。

[学習成果] [D]
・各疾患別の食事療法に関する知識を習得できる。
・ 臨床現場における栄養管理に必要な知識を習得できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	○	◎	○		○

[授業計画]
1　代謝性疾患①
2　代謝性疾患②
3　循環器疾患①
4　循環器疾患②
5　消化管疾患
6　胆肝疾患
7　膵疾患
8　腎臓疾患①
9　腎臓疾患②
10　呼吸器疾患
11　血液疾患
12　免疫とアレルギー疾患
13　骨・骨格系疾患
14　摂食機能低下
15　まとめ

[授業方法]
講義が中心の授業である。病態の理解を補助するプリントや小テストも配布、実施する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
筆記試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
「臨床栄養学概論」友竹浩之・塚原丘美編（講談社）

[参考書]
「Nブックス三訂臨床栄養管理」
渡邉早苗他編著（建帛社）

[準備学習（予習・復習）]
授業前には教科書の該当部分を読んでおくこと。また、授業後は復習（要点まとめなど）を行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
病態についての理解は、難解な語句も多く難しいと思うが、解剖生理学など他の科目の学習内容も参照しながら、積極的に学んで欲しいと思う。

[科　目　名] 臨床栄養学実習
[担当教員名] 渡辺　香織
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_D21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
「臨床栄養学」で習得した知識をもとに、各疾患、病態に応じた食事療法を実践する。献立作成・調理実習・症例研究などを通して臨床現場における栄養管理を学ぶ。

[学習成果] [D]
・常食から治療食への献立展開が理解できる。
・治療食の種類と特徴を学び、臨床における栄養管理が実践できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
○	○	◎	○	◎	

[授業計画]
1　オリエンテーションおよび常食献立の立案
2　形態別治療食①流動食調理実習、経腸栄養剤
3　形態別治療食②軟食調理実習
4　常食からエネルギーコントロール食への展開
5　常食の調理実習
6　摂食・嚥下障害の栄養管理
7　エネルギーコントロール食の調理実習
8　たんぱく質コントロール食の食事計画、献立作成
9　食塩コントロール食の食事計画、献立作成
10　たんぱく質コントロール食の調理実習
11　食塩コントロール食の調理実習
12　脂質コントロール食の食事計画、献立作成
13　医療用特殊食品の種類と特徴
14　脂質コントロール食の調理実習
15　まとめ

[授業方法]
献立作成と、調理実習の双方により授業を進めていく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（60%）
実習ノート及び作成献立の評価（40%）

[教科書]
「栄養食事療法の実習第8版」
本田佳子編（医歯薬出版）

[参考書]
「臨床栄養学概論」友竹浩之・塚原丘美編（講談社）
「臨床栄養学実習第4版」芳本信子編（学建書院）

[準備学習（予習・復習）]
授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。また、授業後は復習（ノート作成）を行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
常食から各種治療食への展開は、臨床における栄養管理では基礎となる。また、現代の臨床現場では、「おいしい治療食の提供」が当たり前になりつつある。病院栄養士を目指す人はもちろん、他の業界の栄養士を目指す人も、しっかり取り組んでほしい。

[科　目　名] 栄養指導論Ⅱ
[担当教員名] 渡辺　香織
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_D21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
1年次の栄養指導論Ⅰでは栄養指導を行う際に基礎となる内容を学習した。この授業においては、妊娠・授乳期から高齢期までの人間のさまざまなライフステージに即した栄養指導の技術について、学んでいく。

[学習成果] [D]
各ライフステージ別の栄養指導方法を習得し、年齢や特性に合わせた指導ができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	○	◎	○		○

[授業計画]
1　栄養指導の技術と方法
2　妊娠・授乳期の栄養指導
3　乳児期・幼児期の栄養指導
4　食物アレルギーの栄養指導
5　学童期の栄養指導①
6　学童期の栄養指導②
7　思春期の栄養指導
8　成人期の栄養指導①
9　成人期の栄養指導②
10　生活習慣病予防の栄養指導
11　高齢期の栄養指導
12　疾患別栄養指導①
13　疾患別栄養指導②
14　特定給食施設における栄養指導
15　まとめ

[授業方法]
講義が主体だが、ディスカッションを交えることもある。
アクティブラーニング導入。
栄養指導（病院）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
「栄養教育論」今中美栄他編著（化学同人）

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。また、授業後は復習（要点まとめなど）を行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
栄養指導の最終目標は、対象者のQOLの向上である。対象者が健常者であっても、傷病者であってもそれは同じである。理論をしっかり学んで、対象者に寄り添う指導が実践できる栄養士を目指すこと。

[科　目　名] 栄養指導論実習Ⅱ
[担当教員名] 渡辺　香織
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_D21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
1年次の栄養指導論実習Ⅰを基に、栄養指導の計画から実施への基本的な方法を学ぶ。対象者は健康の維持増進を目的とする人から疾病を持った人、幼児から高齢者まで幅広い。それぞれに合わせたコミュニケーションスキルと指導方法を実践的に習得する。

[学習成果] [D]
対象者に合わせた媒体作り、指導計画の作成ができる。
1年次の栄養士養成科目と関連づけ、栄養指導の方法を修得することができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
○	○	◎	○	◎	

[授業計画]
1　栄養指導の実際
2　学童期の栄養指導①立案
3　学童期の栄養指導②媒体作成
4　学童期の栄養指導③実施・評価
5　学童期の栄養指導④実施・評価
6　ライフステージ別栄養指導①立案
7　ライフステージ別栄養指導②媒体作成
8　ライフステージ別栄養指導③実施・評価
9　ライフステージ別栄養指導④実施・評価
10　病態別栄養指導①立案
11　病態別栄養指導②媒体作成
12　病態別栄養指導③実施・評価
13　病態別栄養指導④実施・評価
14　Power Pointを使っての媒体作成
15　Power Pointを使っての栄養指導の実施・評価

[授業方法]
グループワーク形式で実習をすすめる。最後には個人テーマでPower Pointを使って媒体を作成、発表する。
毎回、食と栄養に関する新聞記事を取り上げ、小レポートを作成、提出する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
提出物（55%）
授業への取組状況（45%）

[教科書]
「すぐわかる栄養指導実習」田中ひさよ他著
(萌文書林)

[参考書]
「保育の場で役立つ食物アレルギー対応」
小野内初美・朴賢晶編著（建帛社）
「新カラーチャート食品成分表」（教育図書）
「調理のためのベーシックデータ」
(女子栄養大学出版部)

[準備学習（予習・復習）]
授業前にはテーマについての下調べ等の予習が必要です。復習として、発表（栄養指導の実施）の準備を必ず行い授業に臨むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
健康管理のために食習慣を変えることは意外に難しい。対象者に合わせた話題提供のためにも、日ごろから食に関する情報収集を心がけること。

[科　目　名] 公衆栄養学
[担当教員名] 渡辺　香織
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_D22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
公衆栄養学は集団の健康問題が栄養上のどのような因子に基づくのか、そして問題解決のために栄養はどうあるべきかを明らかにして、疾病予防・健康増進を図るための学問である。本講義では公衆栄養の歴史や現在の諸問題、栄養行政や、日本人の食事摂取基準について学んでいく。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
○	◎	○		◎	○

[学習成果] [D]
現代の日本が抱える健康・栄養の問題について、的確に捉えて理解し、その解決方法について考えることができる。日本の健康、栄養行政について知識を得ることができる。また、将来栄養士として、地域保健行政に関わった際に必要な疫学に関する知識を得ることができる。

[授業計画]
1　公衆栄養学の概念
2　国民の健康状態の変遷
3　高齢社会の現状と栄養・健康政策
4　わが国の食生活の変遷
5　食糧需給と自給率
6　公衆栄養マネジメント
7　公衆栄養プログラムの展開
8　栄養疫学の概要、食事調査の方法・活用
9　公衆栄養活動と関連行政・法規
10　わが国の健康づくり施策の変遷
11　栄養・健康指導のガイドライン
12　諸外国の健康・栄養政策
13　日本人の食事摂取基準（2020年版）①
14　日本人の食事摂取基準（2020年版）②
15　まとめ

[授業方法]
講義が主体だが、ディスカッションを交えることもある。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
課題への取組や授業への参加状況（30%）

[教科書]
「ステップアップ栄養・健康科学シリーズ
公衆栄養学」　荒牧礼子　他編（化学同人）

[参考書]
「国民衛生の動向」厚生統計協会編（厚生統計協会）

[準備学習（予習・復習）]
授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。また、授業後は復習（要点まとめ）を行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
私たちが暮らす日本は今、健康や栄養に関する諸問題を抱えている。個人の栄養改善を積み重ねて、国民全体が健康になろうという考えを元に公衆栄養学という学問は生まれた。この講義を受けることにより、様々な現行の栄養政策に目を向け、将来栄養士として何ができるかをもう一度考える機会になればよいと思う。

[科　目　名] 調理学実習Ⅲ
[担当教員名] 山本　景子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_E22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
1年次に学んだ実習を基礎として、諸外国の料理を学び、食文化の融合を把握して献立作成に活かす応用力を身に付ける。行事食についても実習することで、栄養士として食育に必要な知識と技術を習得する。

[学習成果] [E]
実習を通じて、多様化する食文化が理解できるとともに、栄養士としての調理技術が習得できる。また、様々な料理を学ぶことで献立作成から食事の提供までを、目的と対象に合わせて組み立て、調理ができるようになる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	○	○	○		

[授業計画]
1　アジア料理①
2　アジア料理②
3　アジア料理③
4　ヨーロッパ料理①
5　ヨーロッパ料理②
6　ヨーロッパ料理③
7　ヨーロッパ料理④
8　ヨーロッパ料理⑤
9　中国料理応用
10　スチームコンベクションオーブンを使用した調理
11　行事食①・・正月料理
12　行事食②・・クリスマス料理
13　行事食③・・日本料理応用①
14　弁当・・日本料理応用②
15　自由献立(女子大生ランチ)

[授業方法]
グループに分かれ、実習形式で進める。途中でグループを組み替えることで、コミュニケーションスキルを高める。最終回には調理学実習Ⅰ～Ⅲのまとめとしてグループごとに、献立作成・調理・盛り付けを行い、プレゼンテーションを行う。
アクティブラーニング導入。
委託給食会社の実務経験、保育園給食管理ソフト会社のメニュー開発の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
課題提出物 (55%)
授業への取組状況 (45%)

[教科書]
「食育に役立つ調理学実習」西堀すき江編著(建帛社)

[参考書]
随時紹介

[準備学習 (予習・復習)]
毎回テーマについての予習を行い、実習に臨むこと。
復習として、デモンストレーションの内容、実習内容について毎回レポートにまとめ、提出する。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
予習をすることがデモンストレーションの理解につながる。積極的に実習することで、調理技術の向上に努め、栄養士としての資質の向上を目指す。

[科　目　名] 給食管理論Ⅱ
[担当教員名] 有尾　正子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_E21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
給食運営における給与目標量の設定から献立作成及び管理項目を具体的に学ぶ。また、給食の評価から得られた結果をもとに改善法を導き出す方法を習得する。

[学習成果] [E]
各特定給食施設に合った食事管理、調理管理等を学ぶことにより、具体的な給食運営方法を身につけることができる。帳票類の作成についても栄養士の重要な業務である。必要に応じて作成できるようになる。

[[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	◎	◎	◎	○	◎

[授業計画]
1　特定給食施設別の栄養管理 (1)
2　特定給食施設別の栄養管理 (2)
3　衛生・安全管理
4　労務管理 (1)
5　労務管理 (2)
6　施設・設備管理 (1)
7　施設・設備管理 (2)
8　作業管理 (1)
9　作業管理 (2)
10　大量調理の方法と技術 (1)
11　大量調理の方法と技術 (2)
12　帳票類の管理 (1)
13　帳票類の管理 (2)
14　特定給食施設の媒体作成 (1)
15　特定給食施設の媒体作成 (2)

[授業方法]
特定給食施設別の管理項目を学んだのち、帳票類の作成方法について説明をする。同時に帳票類のパソコンソフトについても触れる。また、届出事項については参考資料をもとに説明をする。
委託給食会社の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
試験 (60%)
課題への取組や授業への取組状況 (40%)

[教科書]
「給食の運営－計画と実務－」　芦川修貳編著
(同文書院)

[参考書]
「給食管理実習－校内編」　殿塚婦美子他編著
(建帛社)

[準備学習 (予習・復習)]
媒体作成に必要な資料を収集する。前回の授業の内容を見直す。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
栄養士は施設の特徴を理解し、管理しなければならない。日頃から市場価格や給食関連の情報収集に努めてもらいたい。

[科　目　名] 給食管理実習Ⅰ
[担当教員名] 有尾　正子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_E21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
給食の運営は、単に食事を提供するだけではなく、計画性、食品流通の把握、調理技術、サービスのノウハウを総合的に網羅されていることが重要である。理論を踏まえて、グループを編成し業務分担を行い、学内において給食の運営を実習する。

[学習成果] [E]
給与栄養目標量の設定から献立作成、調理、提供までの一連の作業を行うことで、給食の現場で役立つマネージメント能力を養うことができる。

[[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	◎	◎	◎	◎	◎

[授業計画]
1　給与栄養目標量の設定と食品構成の作成 (1)
2　給与栄養目標量の設定と食品構成の作成 (2)
3　厨房施設と大量調理機器の使用方法
4　献立作成
5　試作・献立検討
6　販売計画・媒体作成
7　材料発注と検収方法
8　給食の調理と提供 (1)
9　給食の調理と提供 (2)
10　給食の調理と提供 (3)
11　給食の調理と提供 (4)
12　給食の調理と提供 (5)
13　給食の調理と提供 (6)
14　給食の調理と提供 (7)
15　給食の調理と提供 (8)

[授業方法]
給与栄養目標量の設定から食品構成を作成し、献立作成へと展開していく。試作を行い、グループで検討したのち、学内提供を行う。常食のほかに病態対応食、行事食も提供する。
アクティブラーニング導入。
委託給食会社の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
実習への取組状況 (50%)
実習ノート等提出物 (50%)

[教科書]
「給食の運営－計画と実務－」　芦川修貳編著
(同文書院)
「新カラーチャート食品成分表」 (教育図書)

[参考書]
「調理のためのベーシックデータ 第5版」
(女子栄養大学出版部)

[準備学習 (予習・復習)]
献立作成に必要な料理や調理法を事前に学習しておく。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
学内での提供であるが、喫食者のことを第一に考え緊張感をもち臨んでもらいたい。

[科　目　名] 給食管理実習Ⅱ
[担当教員名] 有尾　正子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_E21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
学外実習は特定給食施設 (事業所・学校・病院・福祉施設) において実習を行う。各施設で給食運営、給食管理および栄養指導の実際を学ぶ。

[学習成果] [E]
栄養士の業務を実際に現場で実習することで、その役割を知り、必要とされる技術と知識を習得することができる。

[[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	◎	◎	◎	◎	◎

[授業計画]

特定給食施設における実習内容
①実習施設の給食機構の概要
②給食の特性・・・栄養基準量の算定
食品構成の作成
献立作成
③調理
④衛生管理
⑤帳票の作成
⑥栄養教育の方法

[授業方法]
学外施設において、実習を行う。
終了後、全体で各実習施設にまとめを発表する報告会を行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
実習施設の評価 (80%)
実習ノート (20%)

[教科書]
「臨地・校外実習の実際」 (社) 日本栄養士会、
(社) 全国栄養士養成施設協会編
「校外実習ノート」有尾正子著

[参考書]
随時紹介

[準備学習 (予習・復習)]
事前に与えられた課題を期日までに行う。
実習後は報告書の作成をする。
予習・復習として、履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照すること。

[備考]
充分な事前準備 (予習) と実習中の健康管理に留意すること。
事後の報告会に向けて復習をしてノートをまとめ、他の実習施設の報告内容から栄養士業務の理解を深める。

[科　目　名] 卒業研究
[担当教員名] 渡辺　香織
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年全期　[科目コード] LCF0_A29
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
臨床栄養学に関するテーマの中から、各自が興味を持って取り組めるものを選択し、献立作成・指導媒体制作・調理などに取り組む。
12月に実施される栄養士実力認定試験の対策講座を組み入れる。
[学習成果] [A]
・臨床栄養学における食事療法の意義について、深く理解することができる。
・傷病者への栄養指導の技術が身につく。
[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
○	○	◎	○	◎	

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　食事療法に関する知識①
3　食事療法に関する知識②
4　情報検索①
5　情報検索②
6　研究計画の作成
7　個人活動①
8　個人活動②
9　個人活動③
10　個人活動④
11　個人活動⑤
12　個人活動⑥
13　栄養士実力認定試験対策講座①
14　栄養士実力認定試験対策講座②
15　栄養士実力認定試験対策講座③
16　中間評価・反省
17　症例研究①
18　症例研究②
19　症例研究③
20　栄養士実力認定試験対策講座④
21　栄養士実力認定試験対策講座⑤
22　栄養士実力認定試験対策講座⑥
23　栄養士実力認定試験対策講座⑦
24　栄養士実力認定試験対策講座⑧
25　栄養士実力認定試験対策講座⑨
26　栄養士実力認定試験対策講座⑩
27　個人発表に向けての準備①
28　個人発表に向けての準備②
29　個人発表に向けての準備③
30　個人発表・まとめ
[授業方法]
演習や討論、文献検索など、さまざまな形態での授業を予定している。
アクティブラーニング導入。
[成績評価]
研究への取組状況 (70%)
栄養士実力認定試験 (30%)
[教科書]
配付プリントなどで対応
[参考書]
随時紹介
[準備学習 (予習・復習)]
臨床栄養学の教科書を見直すなど予習、復習をすること。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
さまざまな傷病に合わせた食事療法の中から、自分が興味を抱いたテーマを深く掘り下げる。

[科　目　名] 卒業研究
[担当教員名] 有尾　正子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年全期　[科目コード] LCF0_A29
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
伝統的に受け継がれてきた郷土料理や特産物を調査し、その料理や食材を活用して効果的な食育活動方法を研究する。12月に実施される栄養士実力認定試験の対策講座も組み入れる。
[学習成果] [A]
郷土料理は、その土地の食文化を知る資料であり、その土地に暮らす人々の生活を反映しているため、受け入れられやすい。これらを活用した食育活動を理解し、幅広い世代に対応した指導ができるようになる。

[[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	○	◎	◎	◎	◎

[授業計画]
1　オリエンテーション
2～4　郷土料理、特産物の資料収集
5～6　行事と郷土料理の資料作成
7～8　食育まつりの準備
9　郷土料理の献立研究
10　郷土料理の献立研究
11　郷土料理の調理
12　郷土料理の調理
13　栄養士実力認定試験対策講座①
14　栄養士実力認定試験対策講座②
15　栄養士実力認定試験対策講座③
16　特産品を使った料理、菓子の調理・提供
17　調査計画①
18　調査計画②
19　アンケート調査表の作成
20　栄養士実力認定試験対策講座④
21　栄養士実力認定試験対策講座⑤
22　栄養士実力認定試験対策講座⑥
23　栄養士実力認定試験対策講座⑦
24　栄養士実力認定試験対策講座⑧
25　栄養士実力認定試験対策講座⑨
26　栄養士実力認定試験対策講座⑩
27　調査結果の集計
28　研究レポート作成
29　研究レポート作成
30　学科内卒業研究報告会
[授業方法]
資料収集、食材の分量起こし、試作、調査用の料理の決定をし、アンケート調査を実施する。その結果をもとに研究レポートの作成を行う。また、地域住民との調理実習、地域の行事へも参加する。
アクティブラーニング導入。
[成績評価]
授業への取組状況 (40%)
報告の内容 (30%)
栄養士実力認定試験 (30%)
[教科書]
資料配布
「2021年版 栄養士実力認定試験過去問題集」
(社) 全国栄養士養成施設協会編 (建帛社)
「栄養士実力認定試験一問一答」
(女子栄養大学出版部)
[参考書]
文章術ハンドブック　西川真理子著 (化学同人)
[準備学習 (予習・復習)]
授業前に郷土料理、特産物の資料収集。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)
[備考]　地域志向科目
探究心、研究心をもち取組んでもらいたい。

[科　目　名] 卒業研究
[担当教員名] 西澤　早紀子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年全期　[科目コード] LCF0_A29
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
有酸素運動「エアロビックダンスエクササイズ」の継続的実践を通して、特に身体活動から自分自身の健康的なからだづくりを目指すとともに、対象者に合った健康支援プログラムを提案、実施できる力をつける。

[学習成果] [A]
健康な身体の維持、増進に欠かすことのできない身体活動の視野を身につけ、対象に合った健康づくり支援が修得できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎		◎	◎		◎

[授業計画]
1 オリエンテーション・エアロビクスと体組成測定
2 研究目標の設定
3 エアロビクスと運動計画の理解と実践
4 エアロビクス応用①
5 エアロビクス応用②
6 身体活動に関する調査①
7 プロスポーツの理解
8 身体活動に関する調査②
9 地域を対象とした健康教育の企画と実践
10 対象者の理解
11 ライフステージに応じたエアロビクスの理解
12 スポーツと栄養
13 栄養士実力認定試験対策講座①
14 栄養士実力認定試験対策講座②
15 栄養士実力認定試験対策講座③
16 身体活動と運動（ダンス）①
17 身体活動と運動（ダンス）②
18 小学生に向けた運動プログラムの計画①
19 小学生に向けた運動プログラムの計画②
20 栄養士実力認定試験対策講座④
21 栄養士実力認定試験対策講座⑤
22 栄養士実力認定試験対策講座⑥
23 栄養士実力認定試験対策講座⑦
24 栄養士実力認定試験対策講座⑧
25 栄養士実力認定試験対策講座⑨
26 栄養士実力認定試験対策講座⑩
27 小学生に向けた運動プログラムの計画③
28 小学生に向けた運動プログラムの計画④
29 市内小学校での演習
30 卒業研究報告会準備

[授業方法]
社会的健康課題に多角的に分析できるよう、講義や演習、課題研究に取り組む。アクティブラーニング導入。
[成績評価]
授業取組状況（40%）、研究意欲および成果（30%）
栄養士実力認定試験（30%）
[教科書]
「栄養士実力認定試験一問一答」
川端輝江他著（女子栄養大学出版部）
[参考書]
「GFIのためのフィットネス基礎理論」
(社)日本フィットネス協会
[準備学習（予習・復習）]
研究の推進のため、予習復習は各回45分程度必須である。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考] 地域志向科目

[科　目　名] 卒業研究
[担当教員名] 鋤柄　悦子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年全期　[科目コード] LCF0_A29
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
企業と連携し、食べ方の提案（調理含む）やアンケート調査、媒体作成などを通して、豊かな食生活について様々な視点から考える。
12月に実施される栄養士実力認定試験の対策講座も組み入れる。
[学習成果] [A]
栄養学、食品学、栄養指導論、調理学実習などこれまで学んできたことから、情報を正しく判断・選択し、提案することで、栄養士として豊かな食生活を実現できる力を身につけることができる。
[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		○	◎	◎	

[授業計画]
1 オリエンテーション
2 企業連携で必要な知識
3 研究計画の作成、情報収集①
4 情報収集②
5 献立作成・試作準備
6 試作①
7 試作①評価と反省
8 試作②
9 試作②評価と反省
10 媒体作成①
11 媒体作成②
12 アンケート調査の準備
13 栄養士実力認定試験対策講座①
14 栄養士実力認定試験対策講座②
15 栄養士実力認定試験対策講座③
16 アンケート調査の準備
17 アンケート調査実施
18 アンケート調査結果集計・分析
19 企業への調査報告準備
20 栄養士実力認定試験対策講座④
21 栄養士実力認定試験対策講座⑤
22 栄養士実力認定試験対策講座⑥
23 栄養士実力認定試験対策講座⑦
24 栄養士実力認定試験対策講座⑧
25 栄養士実力認定試験対策講座⑨
26 栄養士実力認定試験対策講座⑩
27 企業へのプレゼンテーション
28 研究報告書作成
29 報告会準備
30 卒業研究報告会
[授業方法]
講義もあるが、自主的な研究や発表、討論など演習中心での授業を予定している。
アクティブラーニング導入。
[成績評価]
授業への取組状況（50%）
栄養士実力認定試験（30%）
課題・提出物（20%）
[教科書]
「2020年版 栄養士実力認定試験過去問題集」
(社) 全国栄養士養成施設協会編（建帛社）
「栄養士実力認定試験一問一答」（女子栄養大学出版部）
[参考書]
随時紹介する

[準備学習（予習・復習）]
教科書を見直すなど予習、復習をすること。（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
自ら興味を持ち、積極的に取り組むこと。

[科　目　名] 衣生活論
[担当教員名] 奥村　智子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_A22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
「衣食住」の中の『衣』は人間特有のものであり、衣服は人間性や精神面と深く関わっている。人が服を着て社会生活を営む中でどのような関係があるかをSDGsを含めた様々な視点から考える。被服について、生産技術、歴史、素材、デザイン、設計、衛生、管理などを思考する基礎的な能力を養う。そしてより豊かで快適な衣生活を営む工夫を習得する。

[学習成果] [A]
衣生活の設計や素材の選択と認識、衣服の構成や管理など基礎知識を身につけることができる。SDGsの知識を取得し、より良い衣生活のあり方について考え、行動することができるようになる。簡単な裁縫技術が身につく。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
			◎	○	

[授業計画]
1　装うことの意味
2　衣生活の歴史
3　衣服の形と民族衣装
4　既製服のサイズ知識
5　衣服の品質表示と衣服素材
6　衣服の管理：洗濯・収納・保管
7　素材の特性を学ぶ①
8　素材の特性を学ぶ②
9　SDGsとファッション①
10　SDGsとファッション②
11　衣服のマナー
12　デザインの基礎
13　染色技術を学ぶ
14　裁縫技術の基礎
15　裁縫技術の基礎

[授業方法]
講義形式で、資料を配付して授業を進める。毎回、理解度を確認するためのレポート課題を行う。演習的な取り組みをすることもある。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
提出物(70%)
授業への取組状況（30%）

[教科書]
随時プリント配付

[参考書]
随時プリント配付

[準備学習（予習・復習）]
毎授業後に示すレポートを提出すること。また、授業前には関連する分野の内容に興味・関心を持ち、テレビ、インターネットで調べ学習をして臨むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
製作のための材料費が一部必要である。

[科　目　名] 住生活論
[担当教員名] 森本　智子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_A22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
住まい及び住生活に関する知識は、日々の暮らしに密接であるため、様々な分野（教育、保育、介護、医療、家庭など）で役立てることができる。
特に、実生活において、加齢と共にライフサイクルの変化する中で、住まい手として“快適で健康な空間とは何か”を考えることで、社会に求められる“快適で健康な空間とは何か”について考察する内容とし、住宅のプロの入口としてだけでなく、保育、医療、介護などの分野で応用のできるような授業とする。

[学習成果] [A]
住まいに関する基本的な知識と、応用力・想像力を身につけると同時に、関連資格取得を目指す。
特に、医療、介護の分野に特化した介護・住宅系の資格「福祉住環境コーディネーター」の受験を目指せる知識を習得できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎		○	

[授業計画]
1　第1章　空間計画は芸術か
2　第2章　人は自然の中でどんな住居を作ったか
3　第3章　現代における和風空間とは何か
4　第4章　空間は人のためにどのように作られたか
5　第5章　人は環境をどのように眺めているか
6　第6章　人の動きと空間の変化
7　第7章　インテリアイメージの世界
8　第8章　家事の合理性とは何か
9　第9章　快適感とは何か
10　第10章　人はいかに休むか
11　第11章　人の生理と空間設備
12　第12章　装飾は機能より劣るか
13　第13章　日常空間と非日常空間
14　第14章　コミュニケーション空間のインテリア
15　第15章　未来空間はどのように作られるか

[授業方法]
講義を中心に、レポートや小テストを織り交ぜながら、ディスカッションも行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
学習意欲を含めた授業への取組状況（50%）
課題等提出物（50%）

[教科書]
インテリア教本　～ワークブック～

[参考書]
福祉住環境コーディネーター3級検定試験公式
テキスト（受験希望者）

[準備学習（予習・復習）]
授業時に、その都度指示する。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
福祉住環境コーディネーター3級の取得に是非チャレンジして欲しい。

[科　目　名] 保育学
[担当教員名] 青山　加代子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_F22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
少子化の現代、女性が活躍するための家庭の在り方や様々な子育て支援の現状を知り、ワークライフバランスについて課題意識を持ちながら、子どもが健やかに育つ未来、子どもを産み育てる環境と社会について考える。

[学習成果] [F]
少子化の現状と課題を認識し、現代の保育の問題に目を向けるとともに、子どもの発達や遊びを理解し、子どもとの関わり方や育児についての基本的な知識を身につく。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		○		○	

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　保育を学ぶ意義
3　子どもの発達
4　実践演習　～赤ちゃん人形を使って～
5　絵本・紙芝居の世界～絵本を読んでみよう～
6　子どもの遊び①
7　保育現場見学の事前指導
8　保育現場見学　フィールドワーク
9　保育現場見学の振り返り
10　フィールドワークのグループ発表
11　子どもが育つ環境
12　子育て支援とは
13　子どもの遊び②
14　子どもの病気
15　まとめとレポート

[授業方法]
テーマごとに個人やグループで課題意識を持ちながら、子どもの発達や子どもとの関わりについて演習を取り入れながら学び、現代の子どもを取り巻く環境について考えを深める。様々な実践や見学を通して、保育の大切さや楽しさを実感しながら子どもへの理解を深め、保育と子育てについて考える。

[成績評価]
授業への取組状況、毎回のペーパーワークや提出物など (50%)
レポート (50%)

[教科書]
新保育学　改訂5版　(南山堂)

[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]
毎々授業時に配布するワークシートを提出すること
日常的に新聞・テレビ・インターネット・雑誌等で子どもに関わる記事に目を通し、幅広い情報収集に心がけ授業に臨むこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学習時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
文教おやこ園の見学や学外に出向き子どもたちと関わる体験学習をするので、その心構えが必要である。

[科　目　名] 製菓・製パン実習
[担当教員名] 山本　景子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_E22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
菓子・パンは、正確な材料の計量や温度管理などが仕上がりに大きな影響を与える。よって素材に対して十分な知識を持ち、調理過程における材料の科学的変化を理解することが重要になる。菓子・パンの実習を通し、必要な基礎的知識と技術を習得する。

[学習成果] [E]
製菓・製パンに必要な知識を学び、技術の向上を図る。
正確かつ、おいしい菓子・パンを製作できるスキルが身につくとともに、レシピを展開・応用する力も身につく。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	○	○	○		

[授業計画]
1　オリエンテーション、菓子・パンの歴史と素材
2　洋菓子①
3　洋菓子②
4　洋菓子③
5　洋菓子④
6　洋菓子⑤
7　パン①
8　パン②
9　パン③
10　パン④
11　和菓子
12　洋菓子⑥
13　洋菓子⑦
14　洋菓子⑧
15　創作菓子の製作・発表

[授業方法]
はじめに教員によるデモンストレーションを行ったのち、学生が菓子およびパンの製作を行う。この授業では、学生ひとりひとりが製作することを基本とする。実習中は教員が個別に指導する。毎回授業で学んだことをレジュメに書き留め、次の授業で振り返りを実践する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
実習への取組状況 (70%)
創作菓子・レポート (30%)

[教科書]
オリジナルレシピのレジュメを配布

[参考書]
随時紹介する

[準備学習 (予習・復習)]
毎授業で学んだ製菓技術やポイントをレジュメに書き留め、次の授業前に振り返り、実習に活かすこと。また、創作菓子の製作に向けて日頃から市販されている菓子類や料理本を見るなど、関心を持って授業に臨む。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
菓子やパン作りが好きな人、技術を身に付けたい人だけでなく、菓子・パン作りが不得意な人も、丁寧に指導するので安心して受講してほしい。
なお、各自実習した菓子・パンは持ち帰る。

[科　目　名] 食育実践演習
[担当教員名] 有尾　正子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年全期　[科目コード] LCF0_F29
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
食育のねらいは、よりよく食べて、よりよい人生を送ることである。そのためにも安心、安全な食べ物を選択する力を身に付ける必要がある。食育実践演習では、食物が発育,発達に不可欠であることを食事作りを通じて、子どもたちとともに学ぶ。

[学習成果] [F]
実際に子どもたちに指導することで、食に対しての意識や関心度を知ることができる。また、学校や保育所で食育活動を行う場合の参考となる。

[[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎		◎	○	○	○

[授業計画]
1 食育基本法について
2 食育の意義
3 食育活動の計画
4 子どもたちの食環境事情
5 事例研究
6 食育講座の献立作成および試作①
7 食育講座の実施（学内）①
8 食育講座の献立作成および試作②
9 食育講座の実施②
10 食育用媒体作成方法
11 食育用媒体作成
12 食育講座の献立作成および試作③
13 食育講座の実施（学内）③
14 食育講座の献立作成および試作④
15 食育講座の実施④

[授業方法]
食育の基本や意義について学び、子どもたちに合わせた調理工程、手順を考慮した献立を作成する。試作後、再検討して食育講座を実施する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題への取組や授業への取組状況（50%）
食育講座への取組（50%）

[教科書]
随時資料を配布

[参考書]
「子ども栄養と食育がわかる事典」　足立己幸監修
(成美堂出版)

[準備学習（予習・復習）]
学校や小学校で行われている食育活動について調べる。また、授業前には前回の授業内容を見直しておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
地域志向科目。
教職希望の者は受講してもらいたい。

[科　目　名]社会心理学
[担当教員名] 水谷　久康
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_A21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
人は、自分を知り、自分を表現し、社会の中で生きる自分を確立していく。包括的に家族との関係、社会との関係に関する人間行動を科学的に理解する力を身につける。

[学習成果] [A]
現代社会の中で自分らしく生きる自分を発見し、将来の自分らしい生き方について設計する能力を身につけ、自身の人生について自己選択、自己決定ができるようになる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
	○	○		○	

[授業計画]
1 社会心理学とは？
2 将来の自分 (1) ：職業の選択
3 将来の自分 (2) ：ライフデザイン
4 自分を知ること (1)
5 自分を知ること (2)
6 自分を表現すること (1)
7 自分を表現すること (2)
8 自分をプロデュースすること (1)
9 自分をプロデュースすること (2)
10 家族との関係(1)：家族とは何か
11 家族との関係(2)：家族の発達
12 家族との関係(3)：家族と臨床的諸問題
13 社会との関係(1)：女性と社会、男性と社会
14 社会との関係(2)：自然災害とその支援
15 まとめ

[授業方法]
講義が主体だが、グループディスカッション等を取り入れ様々な角度から学習する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題や授業への取組状況（50%）
筆記試験（50%）

[教科書]
プリントを適宜配布

[参考書]
「家族心理学―家族システムの発達と臨床的援助」
中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子（著）
(有斐閣ブックス)

[準備学習（予習・復習）]
毎授業前に、1時間程度は関連する分野の書籍、インターネット等にふれ問題意識を持って授業に臨むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

2　専門科目

生活文化学科　生活文化専攻　1年

[科　目　名] 生活文化総合演習
[担当教員名] 奥村 智子・渡辺 香織・赤塚 徳子・
安井 映理子・服部 礼美香・藤原 淳子・
高橋 美千子・飯田 春子・森本 智子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_D12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
生活文化学科の共通科目として、生活文化に対する理解を深める。本学の教育理念「正・明・和・信」の情操を養う。身近な生活からSDGsを理解し、家庭から卒業後の社会生活へ向けてより深く広い教養を身につける。

[学習成果] [D]
生活文化（家政学）に関する知識を幅広く身につけ、SDGsを通じて豊かな生活を考え、実践できるようになる。また、2年次の専門教育に意欲的に取り組むことができる。専攻の枠を超えた小グループでの受講により、新たな人間関係を形成する機会や幅広い考え方を持てるようになる。考えを文章としてまとめる力が身につく。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
			◎		○	○	○

[授業計画]
1 オリエンテーション、レポートの書き方
2 SDGs と私たちの生活
3 「食物アレルギーの子どもを守る大学へ」のとりくみ
4 稲沢学・稲沢について考える
5 稲沢学・おでかけ市長室
6 稲沢学・学外見学（稲沢市荻須記念美術館・国府宮神社）
7 日本文化…書道
8 日本文化…茶道
9 日本文化…和の心
10 色彩コーディネート
11 暮らしと環境
12 子どもと関わる
13 生活とお金
14 言葉①
15 言葉②

[授業方法]
演習が主体だが、ディスカッション、グループ学習などそれぞれの項目に合わせて授業形態を変えて進めていく。毎回、学んだ内容、意見や考えを課題としてまとめ、最後にまとめとしてのレポート課題を課す。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題提出（60%）
授業への取組状況(30%)
まとめレポート（10%）

[教科書]
愛知文教女子短期大学　生活文化総合演習2021

[参考書]
随時紹介
[準備学習（予習・復習）]
授業前には関連する分野の内容に興味・関心を持ち、調べ学習をして臨むこと。授業後は、振り返りレポート作成に取り組むこと。（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考] 地域志向科目
卒業時に授与される学位に付記される専攻分野「生活文化」を深める科目である。短期大学での学びを社会生活に結びつける科目として積極的な学びを期待する。

[科　目　名] 国語表現法
[担当教員名] 保科　潤一
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_D12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
文章作成力を中心とした国語表現力の獲得に絞った学習内容とする。社会人としての基本的な国語表現力を習得することにより、就職等にも必要な自己表現ができるよう小論文についても学習していく。

[学習成果] [D]
社会人として、基本的な国語表現力を身につけることにより、様々な人生の局面における問題に対応していくことが可能になる。また、就職面接等においても必要な自己表現力を習得することができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
		○	○			○	○

[授業計画]
1 オリエンテーション
2 文章作成の基礎Ⅰ
3 文章作成の基礎Ⅱ
4 履歴書の書き方Ⅰ
5 履歴書の書き方Ⅱ
6 社会人としての基礎知識・・・敬語Ⅰ
7 社会人としての基礎知識・・・敬語Ⅱ
8 実用文・・・はがき・手紙
9 実用文・・・事務文書Ⅰ
10 実用文・・・事務文書Ⅱ
11 小論文・・・小論文の構成
12 小論文・・・小論文上達のポイント
13 小論文・・・小論文実践
14 プレゼンテーションⅠ
15 プレゼンテーションⅡ

[授業方法]
国語表現についての基礎的な知識は講義によりすすめていく。文章を書く基本知識をワークシートにより演習し確実に修得していく。プレゼンテーションで表現力を修得していく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
筆記試験（40%）
ワークシート（30%）
授業への取組状況（20%）
プレゼンテーション（10%）

[教科書]
「文章表現力基本テキスト」深尾紀子著
（日本能率協会マネジメントセンター）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
漢字テストの準備
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 点字
[担当教員名] 千葉　俊彦
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_B12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
点字の発明・発展により視覚障がい者と健常者との情報格差がなくなり、視覚障がい者の地位向上がなされている。点字技術や点字の知識を習得することで、視覚障がい者の生活支援を考える機会とする。

[学習成果] [B]
視覚障がい者に対しての接し方や対応を、初歩的な点訳をとおして学び、障がい者全般に対しての思いやりを育てることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
			○	○	○	○	◎

[授業計画]
1　生活支援の視点からみた視覚障がい者への視点
2　視覚障がい者のおかれた現状と概要
3　点字の基本形と表記法
4　点字器およびその使用方法
5　母音と50音　(1)
6　母音と50音　(2)
7　拗音と特殊音
8　拗音と特殊音の使用論と各論
9　各種記号の表記法
10　各種記号の表記法の使用例
11　分かち書き　(1)
12　分かち書き　(2)
13　点字標記の実践　(1)
14　点字標記の実践　(2)
15　点字標記の実践　(3)

[授業方法]
点訳、見えない人と積極的にコミュニケーションをとることで、視覚障がい者の生活支援について学ぶ。

[成績評価]
試験（60%）
レポート（40%）

[教科書]
プリント配布

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
毎回復習をしておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 手話
[担当教員名] 山口　道子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_B11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
聴覚に障害のある方は、情報不足から機能・能力・社会的不利等がある。この講義と実技では、「伝えあう心」きこえない人の大切な言語「手話」を学び、きこえない人の生活の背景を知る。障害者の生活の質と権利につながる理念「ノーマライゼーション」という視点をもって授業を進める。

[学習成果] [B]
聴覚障がい者に対しての接し方や対応を手話を通して学び、障がい者全般に対しての思いやりと優しさを育てることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
					○	○	○

[授業計画]
1　実技：自己紹介　名前・家族
講義：コミュニケーション方法、聴覚障害者の生活地域とのかかわり
2　実技：自己紹介　趣味・仕事
講義：聴覚障害者の生活　労働
3　実技：自己紹介　誕生日・住所
講義：聴覚障害者の生活　医療
4　実技：時の表現と疑問詞①
講義：聴覚障害者の生活　教育
5　実技：時の表現と疑問詞②
講義：聴覚障害者の生活　子育て
6　実技：自己紹介をしてみましょう
講義：聴覚障害者の基礎知識　耳の仕組みときこえ
7　実技：介護・医療
講義：聴覚障害者の基礎知識　言語習得と発達の過程
8　実技：介護・医療
講義：聴覚障害者の基礎知識　身体障害者福祉法における障害認定
9　実技：介護・医療
講義：手話の基礎知識　手話とは何か
10　実技：介護・医療
講義：手話の基礎知識　ろう教育の始まりと手話の成立と歴史
11　実技：介護・医療
講義：手話の基礎知識　手話の主な特徴
12　実技：介護・医療
講義：手話の基礎知識　手話の構成要素
13　実技：総合実践
14　実技：総合実践
15　まとめ

[授業方法]
ロールプレイングで聞こえない人とのコミュニケーションをしながら手話を学ぶ。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
実技（40%）
レポート（40%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「入門　新・手話教室」
（社会福祉法人全国手話研修センター）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
毎回復習をしておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 介護技術
[担当教員名] 祢宜　佐統美
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_A11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
生活援助としての基本的な知識を理解し、食事、排泄、移動、移乗、その他介護を行うにあたっての基本的な介護技術を習得する。共感的理解や介護者としての基本的態度を学ぶ。

[学習成果] [A]
介護される側と介護する側の両方を経験することにより、お互いの気持ちを理解し、尊厳や自律を理解することができる。また、介護される人が持っている能力を生かした介護を考えることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
			○			○	○

[授業計画]
1 介護技術の意義
2 環境整備の援助・ベッドメーキング
3 ボディメカニクス
4 コミュニケーション技法
5 健康状態の基本的観察
6 衣類の着脱の介護
7 食事の介護・口腔ケア
8 移乗・移動の介護
9 排泄の介護
10 身体清潔の介護
11 事例演習
12 実技試験の説明（2事例の理解）
13 実技試験の練習
14 感染予防・緊急時の対応
15 認知症サポーター養成講座

[授業方法]
演習を中心に授業を行う。学生同士、介護される側と介護する側の両方の役割を経験する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
実技試験（60%）
授業態度（20%）
課題（20%）

[教科書]
「2021年版みんなが欲しかった！介護福祉士の教科書」
TAC介護福祉士受験対策研究会　(TAC株式会社)
※2年後期の「介護概論」でも使用

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
一つ一つの介護動作を、毎回の授業で繰り返し行います。毎授業後には自宅で30分程度は繰り返し練習して授業に臨むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
必ず動きやすい服装で、髪が長い場合はゴム等で縛ること。

[科　目　名] 秘書概論
[担当教員名] 加藤　洋美
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_B11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
組織における秘書の職務とは何か、秘書として必要な基礎および専門知識について学ぶ。

[学習成果] [B]
秘書の資質、役割をはじめ、組織・企業に関する知識、組織で働くうえでの基本的姿勢を身につける。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○				◎	○	

[授業計画]
1 オリエンテーション
2 秘書とキャリアデザイン
3 企業とは
4 補佐役としての秘書
5 秘書に求められる能力
6 秘書と身だしなみ
7 秘書に求められる資質
8 秘書の役割
9 秘書の機能
10 秘書の業務
11 定型業務と非定型業務について
12 秘書業務の向上
13 秘書と情報管理
14 財務会計の基礎知識
15 まとめ

[授業方法]
講義を主体とし、秘書検定の受験対策（理論分野）も含めて行う。
企業（秘書室・秘書技能検定1級）の実績経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
試験（50%）
授業への取組状況（30%）
提出物（20%）

[教科書]
「秘書検定2,3級　合格教本」（新星出版社）

[参考書]
新しい時代の秘書ビジネス論
秘書検定3級実問題集
秘書検定2級実問題集

[準備学習（予習・復習）]
授業で配布されたプリントは空欄のままにせず、毎回まとめておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 秘書実務Ⅰ
[担当教員名] 阿隅　和余
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_B11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
秘書業務遂行のために、秘書概論の知識を相互に補完しつつ、具体的な秘書業務を学習する。実際にロールプレイングを行い即戦力を養う。

[学習成果] [B]
実務業務としての知識や技能を修得し、社会で幅広く活躍できるオフィスワーカーとしての資質を身に着ける。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	◎	○		○			◎

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　社会人としてのマナー
3　言葉遣い①（敬語）
4　言葉遣い②（接遇用語）
5　来客応対①
6　来客応対②（ロールプレイング）
7　電話応対①
8　電話応対②（ロールプレイング）
9　冠婚葬祭①（慶事の基礎知識）
10　冠婚葬祭②（弔事の基礎知識）
11　冠婚葬祭③（ロールプレイング）
12　贈答のしきたり①
13　贈答のしきたり②（ロールプレイング）
14　秘書として求められる能力
15　まとめ

[授業方法]
テキストに沿って進めるが、ディスカッション、ロールプレーング等の演習をたくさん取り入れ、実際の秘書業務を理解していく。
アクティブラーニング導入。
企業（秘書室・秘書技能検定1級）の実績経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
課題・試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
「秘書検定2,3級　合格教本」（新星出版社）

[参考書]
新しい時代の秘書ビジネス論
関連資料をプリント作成し配付する

[準備学習（予習・復習）]
次回の授業前に必ずテキストを読み内容を理解すること。新聞、テレビ、雑誌を積極的に読み関連する分野の事項に問題意識を持って授業に臨むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
秘書業務について理解しながら、社会人として、女性としてのマナーを学んでいく。

[科　目　名] 秘書実務Ⅱ
[担当教員名] 阿隅　和余
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_B12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
前期に開講する秘書実務Ⅰを基礎として、秘書業務遂行のために、秘書概論の知識を相互に補完しつつ、具体的な秘書業務を学習する。実際にロールプレイングを行い即戦力を養う。

[学習成果] [B]
実務業務としての知識や技能を修得し、社会で幅広く活躍できるオフィスワーカーとしての資質を身に着ける。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	◎	○		○			◎

[授業計画]
1　オリエンテーション（秘書実務Ⅰの復習）
2　会議の基礎知識
3　ビジネス文書①（社内・社外・社交文書）
4　ビジネス文書②（慣用表現）
5　グラフ①
6　グラフ②（ロールプレイング）
7　受信・発信文書の取り扱い
8　郵便の知識
9　取引文書に関する基礎知識
10　ファイリングの仕方
11　資料の整理
12　スケジュール管理①
13　スケジュール管理②（ロールプレイング）
14　室内環境の整備整頓
15　まとめ

[授業方法]
実際に技能を体験し、秘書業務の理解を深めていく。
アクティブラーニング導入。
企業（秘書室・秘書技能検定1級）の実績経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
課題・試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
「秘書検定2,3級　合格教本」（新星出版社）

[参考書]
新しい時代の秘書ビジネス論
関連資料をプリント作成し配付する

[準備学習（予習・復習）]
次回の授業前の予習に加え、前回の授業内容を必ず復習し自分の知識として力をつけていくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
秘書業務の理解度を深め、秘書検定取得を目指す。

[科　目　名] 表計算演習Ⅰ
[担当教員名] 砂田　治弥
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_C11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
Microsoft Excelの基本操作と関数を学ぶ。
与えられたデータから表の作成、基礎的なグラフ化（線、棒、積み重ね、円、複合、レーダーチャート）、基礎的なデータベース機能を学ぶ。

[学習成果] [C]
表計算ソフトについての基本的な操作が実践できる。表計算を用いた基本的な課題を自らのチカラで解決する判断力を身につける。絶対参照や簡単な関数を利用して、効率的な数式を作成できる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
○	◎				○	○	

[授業計画]
1　セルの移動や選択の効率方法1
2　セルの移動や選択の効率方法2
3　セルの移動や選択の効率方法3
4　データ入力を補助する機能の活用1
5　データ入力を補助する機能の活用2
6　データ入力を補助する機能の活用3
7　データ入力を補助する機能の活用4
8　関数を使って再計算できる表作成1
9　関数を使って再計算できる表作成2
10　関数を使って再計算できる表作成3
11　さまざまな表に役立つ関数1
12　さまざまな表に役立つ関数2
13　さまざまな表に役立つ関数3
14　さまざまな表に役立つ関数4
15　書式の設定方法基礎

[授業方法]
演習形式で、ほぼ毎回の授業で課題を課す。授業では例題を中心に学習し、関連の練習問題を宿題とする。また、実技試験で理解度をチェックする。最後に総合課題としてレポートの提出を求める。
学内web、メール等で操作方法、課題を提示するのでダウンロード（ファイルを開く）して、操作を進める。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況、理解度を把握し授業を進める。課題提出、質問等はメール、共有フォルダを活用する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
定期試験（50%）
課題提出（50%）

[教科書]
「EXCEL」プリントを作成し配布する。

[参考書]
検定問題集等

[準備学習（予習・復習）]
授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
表計算検定の資格取得を目指す。

[科　目　名] 表計算演習Ⅱ
[担当教員名] 砂田　治弥
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_C12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
Microsoft Excelの応用操作と関数を学ぶ。
与えられたデータを統計的な処理を行い、書式の設定やマクロを使い見やすく使いやすいテンプレートを作成する。

[学習成果] [C]
表計算ソフトについて高度な操作が実践できる。表計算を用いた応用的な課題を自らのチカラで解決する判断力を身につける。高度な数式を作成できる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
○	◎				○	○	

[授業計画]
1　書式の設定方法1
2　書式の設定方法2
3　シートやブックの効率的な使い方1
4　シートやブックの効率的な使い方2
5　シートやブックの効率的な使い方3
6　マクロとアドインの使い方1
7　マクロとアドインの使い方2
8　マクロとアドインの使い方3
9　マクロとアドインの使い方4
10　入力データの集計方法1
11　入力データの集計方法2
12　入力データの集計方法3
13　シートの利益計画1
14　シートの利益計画2
15　シートの利益計画3

[授業方法]
演習形式で、ほぼ毎回の授業で課題を課す。授業では例題を中心に学習し、関連の練習問題を宿題とする。また、実技試験で理解度をチェックする。最後に総合課題としてレポートの提出を求める。
学内web、メール等で操作方法、課題を提示するのでダウンロード（ファイルを開く）して、操作を進める。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況、理解度を把握し授業を進める。課題提出、質問等はメール、共有フォルダを活用する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
定期試験（50%）
課題提出（50%）

[教科書]
「EXCEL」プリントを作成し配布する。

[参考書]
検定問題集等

[準備学習（予習・復習）]
授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
表計算検定の上級の資格取得を目指す。

[科　目　名] 事務管理Ⅰ
[担当教員名] 村田　剛
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_C11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
卒業後は就職して様々な「仕事」に就くことになるがその時点で社会人としての一般常識と心構えを備えていることが求められる。本講ではその知識を学び、具体的な表現技術をトレーニングすることで会得する。

[学習成果] [C]
社会人として必要な基本知識を会得することで、一人前の社会人としてのあり方を理解することができると同時に、他者とのコミュニケーションの重要性について理解することができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	◎	○					○

[授業計画]
1　オリエンテーション、演習の進め方
2　コミュニケーション力の向上①
3　ビジネスで求められる基本能力①
4　ビジネスで求められる基本能力②
5　ビジネスで求められる基本能力③
6　ビジネスで求められる基本能力④
7　個人業務をマネジメントする①
8　個人業務をマネジメントする②
9　協働業務とマネジメント①
10　協働業務とマネジメント②
11　コミュニケーション力の向上②
12　ビジネスにおける日本語の使い方①
13　ビジネスにおける日本語の使い方②
14　ビジネスにおける日本語の使い方③
15　まとめ

[授業方法]
講義を交えながら、その都度テーマに沿った課題について自分の考えをまとめ、発表を通じて共有・ディスカッションし深堀りしていく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題や授業への取組状況（60%）
筆記試験（40%）

[教科書]
特になし。適宜プリントを配布。

[参考書]
「仕事の超基本」宮本ゆみ子（朝日新聞出版）
「ビジネス実務総論」森脇道子（実教出版）
「ビジネス日本語・文書の本」神谷洋平（さくら舎）

[準備学習（予習・復習）]
次回授業までに前回の授業内容を見直しておくこと。
関連する分野の内容に関し、書籍・インターネット等で積極的に情報収集を行い知見を得ておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 事務管理Ⅱ
[担当教員名] 村田　剛
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_C12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
社会人としての自身の価値を高めるための考え方や具体的な手法を演習を通じて身につけていくと同時に、自分の得意分野や強みを明らかにしていくことで自身のキャリアデザインを描き、今後の方向性を考える礎とする。

[学習成果] [C]
社会人として組織の内外で自分を確立するための具体的な方法を知ると同時に、自分自身のキャリアデザインを描くことでこれからの方向性について自己意識を深めることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○	◎					○

[授業計画]
1　オリエンテーション、演習の進め方
2　ビジネスを支える基本業務①
3　ビジネスを支える基本業務②
4　ビジネス文書の取り扱いと作成①
5　ビジネス文書の取り扱いと作成②
6　ビジネス文書の取り扱いと作成③
7　マネジメントを推進する実務知識①
8　マネジメントを推進する実務知識②
9　これからのビジネスキャリアを考える①
10　これからのビジネスキャリアを考える②
11　これからのビジネスキャリアを考える③
12　オリジナル人生を設計する
13　なりたい自分像を描く①
14　なりたい自分像を描く②
15　まとめ

[授業方法]
講義を交えながら、その都度テーマに沿った課題について自分の考えをまとめ、発表を通じて共有・ディスカッションし深堀りしていく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題や授業への取組状況（60%）
筆記試験（40%）

[教科書]
特になし。適宜プリントを配布。

[参考書]
「ビジネス実務総論」森脇道子（実教出版）
「ビジネス日本語・文書の本」神谷洋平（さくら舎）
「未来の働き方を考えよう」ちきりん（文藝春秋）

[準備学習（予習・復習）]
次回授業までに前回の授業内容を見直しておくこと。
関連する分野の内容に関し、書籍・インターネット等で積極的に情報収集を行い知見を得ておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 情報処理総論
[担当教員名] 砂田　治弥
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_C12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
情報処理総論として情報処理における基礎的知識全般を学ぶ。特にITパスポート取得のために必要な分野について重点的に学ぶ。
[学習成果] [C]
本講義を受講することで基本的な情報処理技術の知識全体を学習する。また、(独) 情報処理推進機構が実施している国家試験「情報処理技術者試験」の一部であるITパスポート試験の合格を目指す。

[DPとの関連]

生DP1	生DP2	生DP3	生DP4	生DP5	生DP6	生DP7	生DP8
◎	○				○	○	

[授業計画]
1 はじめに　情報処理、ITパスポートについて
2 ハードウェア　入出力機器等
3 システム　データ単位、文字コード、2進数
4 記録装置　入出力装置、入出力インターフェイス等
5 ソフトウェア
OS、パッケージ、ワープロ、表計算ソフト
6 システム構成
システムの形態、分散処理システム、信頼性
7 ネットワーク（1）基本構成、通信プロトコル
8 ネットワーク（2）インターネットサービス
9 マルチメディア
マルチメディア技術、グラフィックス処理
10 アルゴリズムとプログラミング（1）
データ構造、基本アルゴリズム
11 アルゴリズムとプログラミング（2）
探索アルゴリズム、マークアップ言語
12 システム開発技術
13 プロジェクトとサービスマネジメント
14 ITパスポート過去問題演習
15 まとめ

[授業方法]
板書による説明とパワーポイントを利用した授業を行う。受け身の授業にならないように随時考察、質問、小テスト等を行う予定である。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題・試験（70%）
学習意欲・授業への取組状況（30%）

[教科書]
キタミ式イラストIT塾　ITパスポート　令和3年版
(技術評論社)
[参考書]
ITパスポート関連の解説書（授業の中で紹介）

[準備学習（予習・復習）]
授業後、学んだ内容に対応する問題を解き、必ず復習すること。次回学習予定の教科書の範囲に、前もって目を通すこと。
（履修案内のII履修と単位の修得、2単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
情報処理系の国家資格の入り口であるITパスポート資格を取得できるよう、コンピュータに対して興味を持って接することで、自然と試験にも合格できるような知識が身についていく。試験範囲は広大なため、できるだけ自分自身で教科書、問題集の予習復習を行うことを強く勧める。

[科　目　名] 簿記基礎I
[担当教員名] 鈴木　隆之
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_A11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
企業の経理事務における財務の基本知識を身につけるとともに、企業から営業や管理部門に必要な知識や態度が身についていると評価されることをねらいとする。

[学習成果] [A]
日商簿記検定初級の内容を理解し、同級に合格できる。
グループにおける役割を個々の特徴を生かしながら、企業等に就職後、職場から好まれ、必要とされる態度（表情、挨拶、行動、基本的な考え方）が身につく。

[DPとの関連]

生DP1	生DP2	生DP3	生DP4	生DP5	生DP6	生DP7	生DP8
	○		○			○	

[授業計画]
1 オリエンテーション、簿記の基礎知識（基本用語）
2 簿記の基礎概要
3 簿記の役割、会計期間
4 損益計算書、貸借対照表
5 5つの要素と借方・貸方
6 仕訳の8要素と結合関係
7 通常の商品売買（基本的な掛取引）
8 クレジット、返品、諸掛を含めた商品売買
9 現金、小切手
10 預金（普通預金、当座預金）
11 手形と電子記録債券
12 貸付金、借入金
13 後払いによる取引
14 前払いによる取引
15 前受けによる取引

[授業方法]
簿記の知識だけでなく、職場において必要とされる知識や態度についても理解し、実践できるよう、グループ学習や問題解決学習を取り入れ、さまざまな角度から問題の解決方法を探っていく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
課題や授業への取組状況（30%）

[教科書]
スッキリわかる日商簿記初級（TAC出版）

[参考書]
なし

[準備学習（予習・復習）]
毎授業後に示すレポートを提出すること。
また、次の授業前には、前回の授業の内容を見直しておくこと。
（履修案内のII履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
授業に必要なもの（赤ボールペン、電卓）
原則として、2022年2月　日商簿記検定初級を受検する。日商簿記検定3級受験にも一部対応する。
なお、日商簿記検定受験料は各自で負担する。

[科　目　名] 簿記基礎Ⅱ
[担当教員名] 鈴木　隆之
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCIO_A12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
簿記基礎Ⅰを基に企業の経理事務における財務の基本知識をさらに身につける。とともに、企業から営業や管理部門に必要な知識や態度が身についていると評価されることをねらいとする。

[学習成果] [A]
日商簿記検定３級の内容を理解し、同級に合格できる。
グループにおける役割を個々の特徴を生かしながら、企業等に就職後、職場から好まれ、必要とされる態度（表情、挨拶、行動、基本的な考え方）が身につく。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○		○			○	

[授業計画]
1　仮払金・仮受金
2　先方負担分の立替え
3　立替金・預り金
4　消耗品
5　固定資産と減価償却
6　固定資産税と消費税
7　資本金（元入れと引出し）
8　帳簿
9　仕訳帳と総勘定元帳
10　帳簿の記入
11　合計試算表、残高試算表
12　合計残高試算表
13　三伝票（入金、出金）
14　三伝票（出金、一部入金・出金）
15　仕訳日計表と転記

[授業方法]
簿記の知識だけでなく、職場において必要とされる知識や態度についても理解し、実践できるよう、グループ学習や問題解決学習を取り入れ、さまざまな角度から問題の解決方法を探っていく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
課題や授業への取組状況（30%）

[教科書]
スッキリわかる日商簿記初級（TAC出版）

[参考書]
なし

[準備学習（予習・復習）]
毎授業後に示すレポートを提出すること。
また、次の授業前には、前回の授業の内容を見直しておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
授業に必要なもの（赤ボールペン、電卓）
原則として、2022年2月　日商簿記検定初級を受検する。日商簿記検定3級受験にも一部対応する。
なお、日商簿記検定受験料は各自で負担する。

[科　目　名] ビジネス実務総論
[担当教員名] 武本　勉
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCIO_A11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
将来を想定すると「グルーバル」、「少子・高齢化」、「高度情報化」、などのキーワードの中、現在はコロナ感染症で激しく社会環境 やビジネス環境が変化しています。そのような環境の中で社会人として、また家庭人として生活してゆくことになる。 社会の仕組みを学ぶとともに、進路をどのように決めるか？組織（企業）に入って、役割と責任をどう果たすか？ など考えるべきことは沢山あるが、この講義では、実務力を高めるべく初歩的な経営学のツールも活用して、環境の捉え方、進路を検討する視点、組織の中で自分の役割を果たすための必要な能力など、「使える社会人」を目指した鍛錬に取り組みたい。
[学習成果] [A]
社会や企業を構成している仕組みを理解し、環境変化や情報への感度を高めるとともに、社会人として果たすべき役割や必要な能力について、自分自身で見つけ出す能力を高める。第一歩として、進むべき方向性について激変している社会の環境変化も踏まえて自分自身で糸口を見つけ出すセンスを得る。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎

[授業計画]
1　講義のオリエンテーション（何を学ぶか？）
2　社会を構成する組織（行政・業界・企業・団体）
3　将来環境変化を考える
4　成長する業界・縮小する業界
5　企業を考える（企業の評価の視点は何？）
6　環境を読む簡単な経営分析ツール
7　簡単な経営分析を行う（中間レポートとする）
8　進路について考える（業界・業種・企業/組織）
9　企業で使う業務ツールを学ぶ（5W2H、RPDC）
10　事例研究①（将来変化議論PART2）
11　事例研究②（環境変化と業種）
12　事例研究③（自分自身と進路の関係）
13　職務研究①（行政・役所の組織と仕事）
14　職務研究②（民間企業例）
15　クロージングセッション（進路策定戦略を考える）
※授業の進捗、環境の変化でシラバスの改訂もあります。（事前に案内）

[授業方法]
配布資料とスライドを使用して進める。
グループ討議等も組込む。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（50%）
単位履修レポート（30%）
中間レポート（20%）

[教科書]
「会社四季報」業界地図2021年版（東洋経済新報社）

[参考書]
授業毎に資料を配布します。

[準備学習（予習・復習）]
社会の情報やニュースへ関心を持つこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] プロジェクト演習Ⅰ
[担当教員名] 奥村　智子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_A11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
課題に対してチームによる問題解決の体験を通じて能力発揮の仕方を学習する。実践の場において責任感を持って取り組み、自ら進んで現場のニーズに対応した行動を取れる柔軟な行動力の習得を目的とする。論理思考力や早く正しく判断をするためのスキルを身につけ、チームで役割を認識し協力して取り組む力を身につける。

[学習成果] [A]
実践の場での多様な関わりの中で責任を持って自分の役割を果たし、状況に応じた行動をとることができるようになる。戦略的な考え方の基礎を理解し、簡単な事業計画を構築する方法を身につけることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○			○	◎		○

[授業計画]
1 問題解決の基礎知識①
2 問題解決の基礎知識②
3 課題の概要を知る
4 原因の特定
5 課題の分析
6 調査方法
7 調査
8 調査の分析
9 実行プラン作成①
10 実行プラン作成②
11 企画書の書き方
12 プレゼンテーションの基礎知識
13 報告会、報告書の準備
14 報告会、報告書の準備
15 プレゼンテーション

[授業方法]
与えられた市場課題に対して、グループに分かれて、必要な調査などを行い簡単な事業計画を立てプレゼンテーションするまでのプロセスを、一通り体験し、まとめとして、魅力的なプレゼンテーション資料にまとめ、分かりやすく人を引き付ける形でプレゼンテーションする。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（45%）
課題提出（35%）
最終プレゼンテーション（20%）

[教科書]
随時プリント配付

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
授業前に、関連する分野の内容に興味・関心を持ち、インターネットなどで調べ学習をして臨むこと。自主的に調査・学習活動に取り組むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考] 地域志向科目
グループ学習が中心となる。調査活動は授業時間外に行うこともある。積極的に調査・学習活動に取り組んでほしい。フィールドワークを行う際には、交通費等の実費が発生することがある。

[科　目　名] プロジェクト演習Ⅱ
[担当教員名] 奥村　智子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_A12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
前期に計画した課題実行プランに対して、チームによる実施体験を通じて能力発揮の仕方を学習する。現実的な課題に対するアプローチの方法を体験的に習得することを目的とする。計画的実行能力とプレゼンテーション能力を身につけることを目標とし、視覚プレゼンテーションを用いて口頭で効果的に発表できる能力を身につける。

[学習成果] [A]
実践の場での多様な関わりの中で責任を持って自分の役割を果たし、状況に応じた行動をとることができるようになる。課題を発見して、調査、分析、整理を通じて、解決策を発案し、発表する能力が身につく。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○			○	◎		○

[授業計画]
1 授業の概要説明　目的の理解
2 グループ活動の計画起案
3 活動の準備①
4 活動の準備②
5 活動の準備③
6 活動
7 活動の分析
8 課題発見
9 調査
10 分析
11 報告書の書き方
12 報告会、報告書の準備①
13 報告会、報告書の準備②
14 報告会、報告書の準備③
15 プレゼンテーション

[授業方法]
前期に計画した実施計画に対して、実施を行う。グループに分かれて、調査などを行いさらなる問題解決法を見つける。まとめとして、報告書を作成し、分かりやすく人を引き付ける形でプレゼンテーションする。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（45%）
報告書（35%）
最終プレゼンテーション（20%）

[教科書]
随時プリント配付

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
授業前に、関連する分野の内容に興味・関心を持ち、インターネットなどで調べ学習をして臨むこと。自主的に調査の検証、学習活動に取り組むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考] 地域志向科目
グループ学習が中心となる。調査活動は授業時間外に行うこともある。積極的に調査・学習活動に取り組んでほしい。フィールドワークを行う際には、交通費等の実費が発生することがある。

[科　目　名] ファイナンシャルプランニング
[担当教員名] 服部　礼美香
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_A11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
情報が氾濫している昨今、「お金の知識」は必要不可欠である。現在から未来まで、生涯にわたって考えたいお金のことや、ライフプランを実現させるための資産設計など、幅広い知識を用いてサポートする「ファイナンシャルプランナー(ＦＰ)」の存在が注目されている。
この講義では、ＦＰ３級の内容を勉強しながら、金融のしくみや低金利時代における家計運用の知識、実生活で役立つ幅広い知識を身につけることを目標とする。

[学習成果] [A]
ファイナンシャルプランニングに必要な生活資金、年金、保険商品、金融商品、税金、不動産、相続対策などの基礎的事項を説明できるようになること。
現在から老後までに必要な「お金」を長期的な視点を持って、家計管理ができるような知識を身につけ、社会人になった時にその知識を活かして活躍できるようになること。
ファイナンシャルプランニング技能検定3級の試験合格を目指すこと。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	○					○	

[授業計画]
1　ライフプランニング①　ＦＰとは、公的医療保険
2　ライフプランニング②　労災保険、雇用保険
3　ライフプランニング③　公的年金制度①
4　ライフプランニング④　公的年金制度②、企業年金
5　ライフプランニング⑤　住宅資金、教育資金等
6　リスク管理①　リスクマネージメント、生命保険の基礎知識
7　リスク管理②　生命保険商品、第三分野の保険等
8　リスク管理③　損害保険
9　金融資産運用　金融商品、投資商品等
10　タックスプランニング①　所得税の基礎知識
11　タックスプランニング②　所得税の計算方法、個人住民税、個人事業税
12　不動産①　不動産の見方と取引、不動産関連の法令
13　不動産②　不動産にかかる税金、不動産の有効活用
14　相続・事業承継①　贈与と税金、相続と法律
15　相続・事業承継②　相続と税金、相続対策

[授業方法]
講義が主体だが、複雑な金融経済のしくみや基本的な知識を身近に感じることができるよう、ディスカッション、ロールプレイングなど、積極的に取り入れていく。
[成績評価]
試験(60%)
課題や授業への取組状況(40%)

[教科書]
「20～21年度版ＦＰの学校３級きほんテキスト」
(ユーキャン自由国民社)
[参考書]
「20～21年度版ＦＰの学校３級これだけ！問題集」
(ユーキャン自由国民社)
[準備学習（予習・復習）]
授業前には該当箇所のテキストを読むこと。授業後にはテキストやプリントを復習し、練習問題を解くこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
日本ＦＰ協会　http://www.jafp.or.jp
一般社団法人金融財政事情研究会
http://www.kinzai.or.jp

[科　目　名] キャリアデザイン
[担当教員名] 坂口　みゆき
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_A12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
キャリアデザインの基礎力をつけることにより、幅広い将来の選択ができることを目指す。

[学習成果] [A]
「将来なりたい自分」をしっかり描き、自己理解を深めることで、やりがいや充実感を感じられる自分らしい仕事につくことを目標とする。また、社会に出てから必要とされる基礎能力の向上を目指す。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
○	◎	◎	◎	◎	○	○	◎

[授業計画]
1　キャリアデザイン概要
2　人間関係を作るコミュニケーション
3　自己分析　その1
4　自己分析　その2
5　自己ＰＲ
6　将来の職業を考える　その1
7　将来の職業を考える　その2
8　女性のライフプランニング
9　収入について考える
10　将来必要なお金
11　現代社会の流れと自分
12　企業が求める人材
13　未来図を考える
14　すべきことの計画
15　印象アップのビジュアル　まとめ

[授業方法]
講義形式だが、アクティブラーニング導入により自分たちで体感し、気づき、アクションをする。
企業（広報および秘書教育）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況（60%）
レポート（40%）

[教科書]
随時プリント配布

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
授業後は、授業で習得した内容を日常で実践すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] マーケティング論
[担当教員名] 武本　勉
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_A12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
普段の生活の中には「マーケティング」を学べる材料が 溢れていて、その中に囲まれて生活をしている。そんな身近な材料から「マーケティング」に親しんでほしい。
覚える理論ではなく、自由に使い込む理論の習得を目指す。マーケティングマインドやセンスを得ることで、賢い学生、賢い社会人、賢い家庭人として将来の活動や日々の生活に 必ず役に立つ。マーケティングは“価値”を創造し、その“価値” を伝え、“価値”を維持し、高めてゆくための実務的な理論である。社会に出て、業種や業態を問わず有用に活用できる メリットも沢山ある。
また、「マーケティング」を「個人」 に置き換えると、「個人の価値を創造し」「個人の価値を 伝える」ことにも活用でき、この講義の冒頭は個人のブラ ンド創造…マーケティングを就活に利用することにもチャレンジする。

[学習成果] [A]
マーケティングが得意科目となり、基礎的なマーケティングセオリーを自在に使い、貴女を取巻く社会で日々継続的に行われているマーケティング事象について自身で評価し、“価値”について考え。評価できる能力が身につく。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎

[授業計画]
1 オリエンテーション（身の回りのマーケティング）
2 マーケティング基礎①（環境分析とマーケティング）
3 マーケティング基礎②（価値創造 STP-4P）
4 マーケティング基礎③（マーケ・マネジメント）
5 マーケティング基礎④（リサーチ）
6 マーケティング基礎⑤（ブランド）
7 マーケティング基礎⑥（コミュニケーション）
8 レビュー・ケーススタディー（グループワーク）
9 前半レビューと中間レポート
10 マーケティング演習（自分ブランディング①）
11 マーケティング演習（自分ブランディング②）
12 マーケティング演習（自分ブランディング③）
13 マーケティング演習（自分ブランディング④）
14 マーケティング演習（自分ブランディング⑤）
15 クロージングセッション:就職に使うマーケティング
※授業の進捗、環境の変化でシラバスの改訂もあります。（事前に案内）

[授業方法]
配布資料とスライドを使用して進める。
グループ討議等も組込む。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（50%）
単位履修期末レポート(30%)
中間レポート（20%）

[教科書]
コトラーのマーケティングがよくわかる本
（宮崎哲也　秀和システム）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
興味関心をもって商品や、サービス、情報などの自分の身の回りを観察すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 医療秘書実務
[担当教員名] 堀　智美
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_A12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
医療機関の組織的しくみを理解し、医療秘書の役割や業務内容についてい学ぶ。
接遇・コミュニケーションの大切さを学び、技術を身に付ける。

[学習成果] [A]
医療機関で必要とされる専門的な事務能力や窓口対応のイメージを持つことができる。ホスピタリティに富んだ患者対応やスタッフ同士のコミュニケーションを習得できる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	○	◎	◎	◎	○	○	○

[授業計画]
1 オリエンテーション
2 医療秘書の役割
3 第一印象
4 医療接遇①
5 医療接遇②
6 立ち居振る舞い
7 言葉遣い①
8 言葉遣い②
9 電話応対①
10 電話応対②
11 来客応対
12 クレーム対応
13 傾聴法
14 交際業務
15 総合実務

[授業方法]
各項目講義で理解を深めた後、必要に応じて課題に対応してロールプレイを行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題や授業へ取組状況（60%）
試験（40%）

[教科書]
「病院事務のための医療事務総論／医療秘書実務」
（建帛社）

[参考書]
配布資料、随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
事前準備が必要な場合には、調べ学習・課題などに取り組むこと。
授業後にレポート作成を含め、復習を行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
医療機関に関わることがあれば、そこで勤務するスタッフの行動や言動に着目し、観察してほしい。

[科　目　名] 医療事務総論
[担当教員名] 坂下　重吾
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_A11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
病院における事務職の中で、専門性の高い医療事務について、業務の流れ・仕事におけるルール・理解すべき知識を身につけることで、医療秘書実務士の資格取得を目指す。

[学習成果] [A]
医療事務業務に必要な基礎的知識を習得できる。また、病院における医療チームの一員として、医療事務員がどのような関わりを持つかを理解することができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎				○		○	

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　病院の組織と業務管理
3　医療を支える職種
4　病院組織とチーム医療
5　医療保険制度
6　公費負担医療
7　労災保険と自賠責保険
8　介護保険
9　医療法規
10　個人情報保護
11　保険請求業務
12　診療情報管理実務
13　統計・ＤＰＣ・がん登録
14　患者接遇
15　まとめ（医療機関で求められる人材）

[授業方法]
講義が主体。実際の現場で起こっている話を紹介しながら、ディスカッションを織り交ぜ進めていく。

[成績評価]
試験（70%）
課題及び授業への取組状況（30%）

[教科書]
「病院事務のための　医療事務総論/医療秘書実務」
(建帛社)

[参考書]
配布資料（随時）

[準備学習（予習・復習）]
（予習）テキストを読み、疑問点（医療用語）について調べる。
（復習）学んだ事をノートに整理する。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
実際に医療現場に出て、患者さんの前に立った時、みなさんが、どのような振る舞いをし、どのような知識を得ていれば、自信を持って対応出来るのかを説明していく。最新の医療情報を織り交ぜながら話をするので、講義を通じて医療機関で働く楽しさを感じてほしい。

[科　目　名] 医療事務演習Ⅰ
[担当教員名] 早川　裕巳
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_A11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
健康保険法等の基礎知識を習得し、医療現場で日常的に必要とされる保険請求業務の仕組みを理解し、医療の現場で活躍できる人材を育成する。

[学習成果] [A]
医療保険制度や保険による診療の仕組み・規則及び算定方法など医療事務者として必要な知識を身につけることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	○					○	

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　医療保険制度①　医事業務
3　医療保険制度②　保険の仕組み
4　医療保険制度③　保険給付
5　医療保険制度④　診療報酬請求
6　受付事務①　基礎知識
7　受付事務②　窓口徴収
8　基本診療料　初診料
9　基本診療料　再診料
10　基本診療料　入院料①
11　基本診療料　入院料②
12　特掲診療料　医学管理
13　特掲診療料　在宅医療
14　診療報酬明細書　作成
15　まとめ

[授業方法]
算定方法と診療報酬明細書の記載要領、明細書の作成、点検など演習を中心に行うが、医療保険制度・療養担当規則などはテキストに沿って行う。

[成績評価]
試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
医療事務講座　医科テキスト１・３
医科　スタディブック
医科　ハンドブック
診療点数早見表　(医学通信社)

[参考書]
医療事務　受験対策問題集

[準備学習（予習・復習）]
授業後に復習をし、理解できていない部分についてはそのままにせず、テキストで確認をする。課題等があれば必ず提出する。次回の授業の準備をすること。
問題集を活用し、積極的に自主学習をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
欠席すると授業についていくことが難しくなる。
配布資料をきちんとファイルすること。
資格取得を目指す。

[科　目　名] 医療事務演習Ⅱ
[担当教員名] 早川　裕巳
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_A11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
医療保険制度に基づく診療報酬算定のきまりを理解し、診療報酬明細書に関わる知識と作成する技能を習得し、医療の現場で活躍できる人材を育成する。

[学習成果] [A]
診療報酬明細書に対する算定方法及び記載要領の知識や技術を身につけることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	○					○	

[授業計画]
1　特掲診療料　投薬①
2　特掲診療料　投薬②
3　特掲診療料　投薬③
4　特掲診療料　注射①
5　特掲診療料　注射②
6　特掲診療料　処置①
7　特掲診療料　処置②
8　特掲診療料　検査①
9　特掲診療料　検査②
10　特掲診療料　検査③
11　特掲診療料　病理診断
12　特掲診療料　画像診断①
13　特掲診療料　画像診断②
14　診療報酬明細書作成
15　まとめ

[授業方法]
算定方法と診療報酬明細書の記載要領、明細書の作成、点検など演習を中心に行う。

[成績評価]
試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
医療事務講座　医科テキスト１・３
医科　スタディブック
医科　ハンドブック
診療点数早見表　(医学通信社)

[参考書]
医療事務　受験対策問題集

[準備学習（予習・復習）]
授業後に復習をし、理解できていない部分についてはそのままにせず、テキストで確認をする。課題等があれば必ず提出する。次回の授業の準備をすること。
問題集を活用し、積極的に自主学習をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
欠席すると授業についていくことが難しくなる。
配布資料をきちんとファイルすること。
資格取得を目指す。

[科　目　名] 医療事務演習Ⅲ
[担当教員名] 早川　裕巳
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_A11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
医療保険に基づく診療報酬算定の決まりを理解し、診療報酬明細書に関わる知識と点検する技能を習得し、資格試験対策を踏まえた演習を行うことにより、医療現場における実践力を培う。

[学習成果] [A]
診療報酬明細書が正しく算定、記載されているか、また誤りを見つけ正しく訂正することができる力を身につけ、資格取得を目指すことができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	○					○	

[授業計画]
1　特掲診療料　手術
2　特掲診療料　麻酔
3　特掲診療料　リハビリ等
4　カルテ症例　外来①
5　カルテ症例　外来②
6　カルテ症例　外来③
7　カルテ症例　入院①
8　カルテ症例　入院②
9　カルテ症例　入院③
10　技能審査試験対策：患者接遇
11　技能審査試験対策：医療事務一般知識
12　技能審査試験対策：医療事務一般知識
13　技能審査試験対策：明細書点検
14　技能審査試験対策：明細書点検
15　まとめ

[授業方法]
資格取得を目標に算定練習及び診療報酬明細書の記載など演習を中心に行う。

[成績評価]
試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
医療事務講座　医科テキスト１・３
医科　スタディブック
医科　ハンドブック
診療点数早見表　(医学通信社)

[参考書]
医療事務　受験対策問題集

[準備学習（予習・復習）]
授業後に復習をし、理解できていない部分についてはそのままにせず、テキストで確認をする。課題等があれば必ず提出する。次回の授業の準備をすること。
問題集を活用し、積極的に自主学習をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
欠席すると授業についていくことが難しくなる。
配布資料をきちんとファイルすること。
資格取得を目指す。

[科　目　名] 医療事務演習Ⅳ
[担当教員名] 小川　美樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_A12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
医療事務演習ⅠⅡⅢをもとに、診療録（カルテ）から診療報酬明細書（レセプト）の作成を行う。医療保険に基づく診療報酬算定のきまりを理解し、診療報酬明細書に関わる知識と点検する技能を習得し、実践力を身につける。資格取得を目指す。

[学習成果] [A]
診療報酬明細書の作成を通して、診療報酬を正しく算定し、記載できるようになる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎						○	

[授業計画]
1　診療報酬請求について
2　レセプトチェック①
3　レセプトチェック②
4　医療保険制度等
5　レセプト作成（外来①）
6　レセプト作成（外来②）
7　レセプト作成（外来③）
8　レセプト作成（入院①）
9　レセプト作成（入院②）
10　レセプト作成（入院③）
11　認定試験対策①
12　認定試験対策②
13　認定試験対策③
14　学外　地域の活動（医療機関・消防署）に参加
15　まとめ

[授業方法]
資格取得を目標に、算定練習及び診療報酬明細書記載など演習を中心に行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（50%）
課題、レポート等（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
診療報酬請求事務能力認定試験問題集
診療点数早見表

[参考書]
医療事務講座　医科テキスト1、3
医科スタディブック1
医科ハンドブック
診療報酬請求事務能力認定試験　各種検定問題集

[準備学習（予習・復習）]
授業後に復習をし、わからないところはそのままにせず、テキストで確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。次回の授業の準備をすること。問題集を活用し、積極的に自主学習をする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
地域志向科目。
課題はしっかり取り組み、期限までに必ず提出すること。資料はファイリングすること。
資格取得をめざしましょう。

[科　目　名] 医師事務作業補助演習
[担当教員名] 野村　敬二・小島　敏美
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_A12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
医療機関での医師事務作業補助業務の実態を講演で学び、実際に書類作成、退院サマリー作成などを演習し、医師事務作業補助業務を身につける。

[学習成果] [A]
実際の医療機関で行っている医師事務作業補助業務・役割を学び、医師事務作業補助業務を知る、実践力を身につけることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	○					◎	○

[授業計画]
1　医師事務作業補助とは
2　医療文書の作成①
3　医療文書の作成②
4　医療文書の作成③
5　代行入力①
6　代行入力②
7　代行入力③
8　医療の質の向上に資する事務作業①
9　医療の質の向上に資する事務作業②
10　行政への対応
11　演習
12　演習
13　演習
14　演習
15　まとめ

[授業方法]
医師事務作業補助実践入門ＢＯＯＫに沿った授業で知識を深め、診断書、介護保険・主治医意見書、退院サマリー、経過報告書の作成を実践する。

[成績評価]
試験（55%）
課題や授業への取組状況（45%）

[教科書]
「医師事務作業補助実践入門ＢＯＯＫ」
「医師、医療クラークのための医療文書の書き方」

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
次の授業前には、45分程度、前回の授業内容を見直すこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 医事コンピュータ演習
[担当教員名] 小川　美樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCI0_A12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
「医事Navi」(医療事務教育用ソフト)を使用し、医療機関における医事コンピュータの活用方法を実践的に学ぶ。医療事務およびコンピュータの基礎知識を学び、カルテ（診療録）や診療伝票をもとに医療機関のパソコンを活用した医療情報処理の方法を習得する。

[学習成果] [A]
医事コンピュータの知識と操作方法を身につけ、カルテ及び診療伝票を読み取り、傷病名・診断・診察内容等を適正に入力処理し、レセプトを作成できる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎						○	

[授業計画]
1 医事NAVIの操作方法について
医事コンピュータによる業務の流れ
2 患者登録・外来カルテ入力①
3 外来カルテ入力②
4 外来カルテ入力③
5 外来カルテ入力④
6 外来カルテ入力⑤
7 入院情報入力・入院カルテ入力①
8 入院カルテ入力②
9 入院カルテ入力③
10 入院カルテ入力④
11 入院カルテ入力⑤
12 演習①
13 演習②
14 演習③
15 まとめ

[授業方法]
「医事Navi」を使用した演習中心の授業である。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題、レポート等（50%）
試験（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
医事Navi　操作テキスト
カルテ例題集
診療報酬点数早見表

[参考書]
医療事務演習テキスト

[準備学習（予習・復習）]
授業後に復習をし、わからないところはそのままにせず、確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。間違った部分は必ず修正すること。例題集を活用し、積極的に自主学習をする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
課題はしっかり取り組み、期限までに必ず提出すること。提出物はファイリングすること。

[科　目　名] 解剖生理学
[担当教員名] 窪田　傑文
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_A11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
解剖学と生理学は生物学のなかでもっとも基礎的な学問で、前者は構造を、後者は機能に関する領域を探求する学問である。しかし、構造と機能は互いに密接に関係して身体を形成していることから、形態と機能を切り離すことは不可能である。本講座では、病態・病因を理解するために必要不可欠な人間の基本的構造と機能を同時に学び、さまざまな組織・器官・臓器がどのように関連しあって体を形づくり、また維持しているか学ぶ。

[学習成果] [A]
医療に携わる人間として、メディカルスタッフ・コメディカルスタッフおよび患者とのコミュニケーションをとるために必要な基礎的な人体構造および機能に関する知識を習得できる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎						○	○

[授業計画]
1 解剖生理学概論
人体の構造：人体の解剖学的特徴と構成要素
2 人体の構造：細胞・組織・器官
3 骨格系：形状と構造、骨化と成長・機能、骨組成
4 筋肉系：構造と生理、主要骨格筋と機能
5 循環器系：心・血管系の構造と機能
6 循環器系：血球の種類、血漿成分と凝固
7 呼吸器系：気道・肺の構造
8 呼吸器系：呼吸と肺機能、胸膜腔
9 消化器系：咀嚼、嚥下、消化管の構造・消化吸収
10 消化器系：肝臓・膵臓の構造および機能
11 泌尿器系：腎臓・膀胱の構造と機能、排尿機構
12 生殖器系：性腺の構造および機能
13 生殖器系：乳腺、卵巣ホルモンと性周期
14 神経組織：中枢神経と末梢神経の構造と機能
15 感覚器系：感覚器の構造と機能、皮膚と体温調節

[授業方法]
教科書を主教材とし、薬剤師業務における最新の症例を提示しながら実践的体験を基にした講義を行う。補助的にプロジェクターや配布資料を用いる。

[成績評価]
定期試験（70%）
課題や授業への取組状況（30%）

[教科書]
「ぜんぶわかる人体解剖図」　(成美堂)

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
予習としておおむね1時間程度、該当分野の教科書を読んでおくこと。授業後には講義内容の復習を1時間程度行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 公衆衛生学
[担当教員名] 脇田　嘉宏
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_A11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
公衆衛生学は、人々の健康が自然・社会・文化的環境と強く関わっていることと理解し、そのための必要な基本的事項を学習する。

[学習成果] [A]
日常での健康的な生活の維持増進と疾病予防のために、幅広い視野に立って考え行動できる知識が修得できる。また、新聞やテレビ等のニュースから、公衆衛生関する情報を的確に理解して、健康寿命の延伸等の社会的要求に応えることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	○		○			○	

[授業計画]
1　オリエンテーション・予防医学
2　地域保健
3　母子保健・学校保健
4　産業保健・老人保健
5　人獣共通感染症
6　環境衛生
7　医療　保険
8　医療　予防接種
9　医療　薬
10　感染症　概要
11　感染症　各論
12　健康増進　生活習慣病
13　健康増進　喫煙
14　生活衛生　食品衛生
15　生活衛生　食中毒
事情により順番を変更することがある

[授業方法]
プロジェクターを用いたスライドの講義が主体となる。
課題により個別又はグループによる質疑応答の実施。
講義終了時に講義のふりかえり及び小テストの実施。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
定期試験（50%）
小テスト（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
講義都度プリントを配布

[参考書]
公衆衛生がみえる（メディックメディア）

[準備学習（予習・復習）]
配布したプリントで復習すること。
毎日新聞等を読むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 茶道
[担当教員名] 飯田　春子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCI0_D11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
日本の伝統文化である茶の湯。
道としての茶、文化としての茶、修業としての茶といった、道（心）、学（茶道学）、実（実技を通しての働き）の三つを実践しながら日本人の心の豊かさと和らぎを得、現代の激しい移り変わりに対処できる人間像の形成。

[学習成果] [D]
茶道を学ぶことにより、「客のもてなし方」「美しい立ち居振る舞い」などの、日常生活の作法が身につく。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○	○	◎	○	◎	○	○

[授業計画]
1　割り稽古（1）座り方・立ち方・おじぎのし方・客の作法
2　割り稽古（2）ふすまの開け方・閉め方・歩き方・客の作法
3　割り稽古（3）床入りのし方・帛紗の扱い・棗のふき方・茶杓のふき方
4　割り稽古（4）茶筅とおし・茶碗のふき方・水屋の作業
5　割り稽古　茶の歴史・略盆点て
6　略盆点て（亭主と客）
7　略盆点て（亭主と客）
8　略盆点て（亭主と客）
9　略盆点て（亭主と客）
10　略盆点て（亭主と客）
11　略盆点て（亭主と客）
12　風炉薄茶点前　柄杓の扱い
13　風炉薄茶点前（亭主と客）
14　立礼卓で点前
15　立礼卓で点前　お茶会

[授業方法]
点前作法など、実技中心。
アクティブラーニング導入。
裏千家師範としての実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況（70%）
点前確認小テスト（30%）

[教科書]
学校茶道　初級編　（財団法人今日庵）

[参考書]
随時プリント配布

[準備学習（予習・復習）]
教科書にて予習・復習
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 日本文化演習
[担当教員名] 奥村　智子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCIO_D11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
着物の着装方法とTPOに応じた装い方を学び、日本の伝統文化である着物の着装の楽しさを体得する。着物の色合わせ、自装・他装のスキルを身につける。

[学習成果] [D]
きもの文化についての基礎的な知識を身につけ、ひとりでゆかたやきもの、袴が着ることができるようになる。
また、人に着せつけることができるようになる。和装での立ち居振る舞いが身につく。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
			◎	○		○	

[授業計画]
1　和服のTPOと着付けの小物
2　ゆかたの着装
3　ゆかたの着装
4　ゆかた・反幅帯の基礎
5　ゆかた・反幅帯の応用
6　街着の着装
7　街着・名古屋帯の着装
8　街着・名古屋帯の着装
9　式服のマナーと着装
10　袴の着装
11　袴の着装
12　他装・ゆかた
13　他装・ゆかた
14　他装・車いすユーザーの着付け
15　まとめ・ゆかたでおもてなし

[授業方法]
配布資料で知識を学び、毎回着付けの実技を行う。
2人ペアで実技を行うこともある。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
実技試験 (50%)
授業への取組状況 (30%)
レポート (20%)

[教科書]
随時プリント配付

[参考書]
随時紹介

[準備学習 (予習・復習)]
授業前に、関連する分野の内容に興味・関心を持ち、インターネットで着方や結びなど調べ学習をして臨むこと。授業後は、自主的に練習に取り組むこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考] 地域志向科目
着付けは実習の積み重ねで体得することになるので、欠席しないようにすること。
実習の際に着用するゆかた・半幅帯・着物・名古屋帯・着付け用具は、できるだけ手持ちのものを用意してくること。
集大成として自分自身でゆかたを着用し、学外で活動を行う。

[科　目　名] トータルコーディネート
[担当教員名] 奥村　智子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCIO_D12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
自分らしさを演出しながら、好印象を与えるきちんとした着こなしやフォーマルシーンでの洋服のマナーを学び、総合的な美しさを作り出す方法を考える。また、ファッションを楽しみながら実行できるSDGsを考え、持続可能な社会を創造していくことを目指す。
また、日本フォーマル協会 フォーマルスペシャリスト検定準2級 (ブロンズライセンス) に対応し、フォーマルウエアの正しい着こなし方、祝儀・不祝儀の各シーンにおける正しいアクセサリーの知識を習得する。

[学習成果] [D]
イメージシーンに合わせた基本的なコーディネートテクニックや快適に装うための正しい知識を習得し、自分演出ができるおしゃれを実践できる素養を身につけることができる。また、SDGsの知識を取得し、環境に配慮した衣生活の価値観で行動することができるようになる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○	○	◎		○		○

[授業計画]
1　ファッションと印象
2　イメージ別コーディネートテクニック
3　ファッションと錯覚
4　体型別コーディネートテクニック
5　TPOと装い
6　オケージョン別コーディネートテクニック
7　フォーマル知識①慶事　男性
8　フォーマル知識②慶事　女性
9　フォーマル知識③弔事
10　フォーマル知識④和服
11　フォーマル知識⑤ブライダル
12　SDGsとファッション①
13　SDGsとファッション②
14　SDGsとファッション③
15　SDGsとファッション④

[授業方法]
基本的にはファッション雑誌の写真や映像を用いて実際の場面を理解できるような講義方式で行い、学生とのディスカッションを積極的に行いながら授業を進めていく。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題等提出物(70%)
授業への取組状況 (30%)

[教科書]
「フォーマルウェア・ルールブック」 (日本フォーマル協会)
随時プリント配付

[参考書]
随時紹介

[準備学習 (予習・復習)]
普段からファッション雑誌や店舗などで展開しているコーディネートの仕方を観察しておくこと。次の授業に関連する分野の内容に興味・関心を持ち、調べ学習をして臨むこと。(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
日本フォーマル協会 フォーマルスペシャリスト検定準2級 (ブロンズライセンス) に是非チャレンジしてほしい。

2　専門科目

生活文化学科　生活文化専攻　2年

[科　目　名] 衣生活論
[担当教員名] 奥村　智子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_D22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
「衣食住」の中の『衣』は人間特有のものであり、衣服は人間性や精神面と深く関わっている。人が服を着て社会生活を営む中でどのような関係があるかをSDGsを含めた様々な視点から考える。被服について、生産技術、歴史、素材、デザイン、設計、衛生、管理などを思考する基礎的な能力を養う。そしてより豊かで快適な衣生活を営む工夫を習得する。

[学習成果] [D]
衣生活の設計や素材の選択と認識、衣服の構成や管理など基礎知識を身につけることができる。SDGsの知識を取得し、より良い衣生活のあり方について考え、行動することができるようになる。簡単な裁縫技術が身につく。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
			◎		○	○	

[授業計画]
1　装うことの意味
2　衣生活の歴史
3　衣服の形と民族衣装
4　既製服のサイズ知識
5　衣服の品質表示と衣服素材
6　衣服の管理：洗濯・収納・保管
7　素材の特性を学ぶ①
8　素材の特性を学ぶ②
9　SDGsとファッション①
10　SDGsとファッション②
11　衣服のマナー
12　デザインの基礎
13　染色技術を学ぶ
14　裁縫技術の基礎
15　裁縫技術の基礎

[授業方法]
講義形式で、資料を配付して授業を進める。毎回、理解度を確認するためのレポート課題を行う。演習的な取り組みをすることもある。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
提出物(70%)
授業への取組状況（30%）

[教科書]
随時プリント配付

[参考書]
随時プリント配付

[準備学習（予習・復習）]
毎授業後に示すレポートを提出すること。また、授業前には関連する分野の内容に興味・関心を持ち、テレビ、インターネットで調べ学習をして臨むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
製作のための材料費が一部必要である。

[科　目　名] 食生活論
[担当教員名] 山口　由貴
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_D22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
「食べる」ことは生きるために必要だが、「食べる」理由は生理的な欲求や栄養補給とは関係のないものもある。本講義では、「食べる」ということについて「栄養」や「健康」という観点からだけではなく、様々な視点から見つめ直し、正しい食生活を営む力を身につける。

[学習成果] [D]
食生活の現状や課題についての理解を深めることができる。また「食」に関しての基礎的な知識を習得することができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
			○				○

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　食の歴史
3　食生活における諸問題
4　食事バランスガイド
5　災害時の食事
6　若い女性の痩せ問題
7　食品ロス
8　食品の色とおいしさ
9　食品加工（1）
10　食品加工（2）
11　食品加工（3）
12　食文化（1）
13　食物アレルギー（1）
14　食物アレルギー（2）
15　食物アレルギー（3）

[授業方法]
講義主体だが、グループワークやプレゼンテーションなどを取り入れることもある。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（60%）
課題・提出物（30%）
授業への取組状況（10%）

[教科書]
毎回レジュメを配布する

[参考書]
随時紹介する

[準備学習（予習・復習）]
毎授業前に、関連する分野の新聞・テレビ等にふれ、問題意識をもって授業に臨むこと。また、授業後はさらに理解を深めるため調べ学習すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
生活するために「食」の知識は必要不可欠なものです。
興味を持ち積極的に取り組むこと。
簡単な実習、試食をするので食材費が必要になる。

[科　目　名] 住生活論
[担当教員名] 森本　智子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_D22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
住まい及び住生活に関する知識は、日々の暮らしに密接であるため、様々な分野（教育、保育、介護、医療、家庭など）で役立てることができる。
特に、実生活において、加齢と共にライフサイクルの変化する中で、住まい手として“快適で健康な空間とは何か”を考えることで、社会に求められる“快適で健康な空間とは何か”について考察する内容とし、住宅のプロの入口としてだけでなく、保育、医療、介護などの分野で応用のできるような授業とする。

[学習成果] [D]
住まいに関する基本的な知識と、応用力・想像力を身につけると同時に、関連資格取得を目指す。
特に、医療、介護の分野に特化した介護・住宅系の資格「福祉住環境コーディネーター」の受験を目指せる知識を習得できる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
			◎			○	

[授業計画]
1　第1章　空間計画は芸術か
2　第2章　人は自然の中でどんな住居を作ったか
3　第3章　現代における和風空間とは何か
4　第4章　空間は人のためにどのように作られたか
5　第5章　人は環境をどのように眺めているか
6　第6章　人の動きと空間の変化
7　第7章　インテリアイメージの世界
8　第8章　家事の合理性とは何か
9　第9章　快適感とは何か
10　第10章　人はいかに休むか
11　第11章　人の生理と空間設備
12　第12章　装飾は機能より劣るか
13　第13章　日常空間と非日常空間
14　第14章　コミュニケーション空間のインテリア
15　第15章　未来空間はどのように作られるか

[授業方法]
講義を中心に、レポートや小テストを織り交ぜながら、ディスカッションも行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
学習意欲を含めた授業への取組状況（50%）
課題等提出物（50%）

[教科書]
インテリア教本　～ワークブック～

[参考書]
福祉住環境コーディネーター3級検定試験公式テキスト（受験希望者）

[準備学習（予習・復習）]
授業時に、その都度指示する。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
福祉住環境コーディネーター3級の取得に是非チャレンジして欲しい。

[科　目　名] 保育学
[担当教員名] 青山　加代子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_F22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
少子化の現代、女性が活躍するための家庭の在り方や様々な子育て支援の現状を知り、ワークライフバランスについて課題意識を持ちながら、子どもが健やかに育つ未来、子どもを産み育てる環境と社会について考える。

[学習成果] [F]
少子化の現状と課題を認識し、現代の保育の問題に目を向けるとともに、子どもの発達や遊びを理解し、子どもとの関わり方や育児についての基本的な知識を身につく。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
			○		○		

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　保育を学ぶ意義
3　子どもの発達
4　実践演習　～赤ちゃん人形を使って～
5　絵本・紙芝居の世界～絵本を読んでみよう～
6　子どもの遊び①
7　保育現場見学の事前指導
8　保育現場見学　フィールドワーク
9　保育現場見学の振り返り
10　フィールドワークのグループ発表
11　子どもが育つ環境
12　子育て支援とは
13　子どもの遊び②
14　子どもの病気
15　まとめとレポート

[授業方法]
テーマごとに個人やグループで課題意識を持ちながら、子どもの発達や子どもとの関わりについて演習を取り入れながら学び、現代の子どもを取り巻く環境について考えを深める。様々な実践や見学を通して、保育の大切さや楽しさを実感しながら子どもへの理解を深め、保育と子育てについて考える。

[成績評価]
授業への取組状況、毎回のペーパーワークや提出物など（50%）
レポート（50%）

[教科書]
新保育学　改訂5版　（南山堂）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
毎々授業時に配布するワークシートを提出すること。
日常的に新聞・テレビ・インターネット・雑誌等で子どもに関わる記事に目を通し、幅広い情報収集に心がけ授業に臨むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学習時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
文教おやこ園の見学や学外に出向き子どもたちと関わる体験学習をするので、その心構えが必要である。

[科　目　名] 卒業研究
[担当教員名] 小川　美樹・奥村　智子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年全期　[科目コード] LCI0_E29
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
地域・学内外でのイベント・講座の企画から実施までの流れを体験する。情報発信の方法を学び活用する。
さらに実務学習として学んだ専門知識やスキル、コミュニケーション能力を活用して、チームで課題を決め、イベント・講座を開くことで、総合的な実践実務を行う。

[学習成果] [E]
実践の場で、責任感を持って取り組み、役割を果たし、多様な人と関わることにより、その場に応じた対応が出来る力を身につける。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○			◎			○

[授業計画]
1 オリエンテーション
2 情報発信の方法と活用方法
3 コミュニケーションツールの活用方法
4 企画内容の説明
5 実施要項と役割分担
6 実施準備 ①
7 実施準備 ②
8 実施デモ
9 実施準備 ③
10 実施準備 ④
11 実施 ①
12 実施 ②
13 実施 ③
14 実践結果のふりかえり
15 報告会（発表）
16 オリエンテーション
17 企画書の書き方
18 実施要項の書き方
19 実施準備 ①
20 実施準備 ②
21 実施準備 ③
22 中間発表
23 実施デモ
24 実施準備 ④
25 実施準備 ⑤
26 実施 ①
27 実施 ②
28 実施後のまとめ
29 実践後のまとめ
30 報告会（発表）

[授業方法]
グループ学習形態で授業を進める。毎回の実践内容を報告し、情報を共有する。授業内で解決できない課題については自宅学習を行う。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
発表内容（40%）、授業への取組状況（30%）
学習意欲（30%）

[教科書]
特になし

[参考書]
特になし

[準備学習（予習・復習）]
調べ学習、まとめ、レポート作成など、事前・事後もしっかり取り組むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
地域志向科目。
グループの一員として役割を果すこと。毎回必ず報告し、課題は、提出期限を必ず守ること。

[科　目　名] 社会福祉
[担当教員名] 祢宜　佐統美
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCI0_A22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
社会福祉の歴史を学ぶとともに、社会福祉の意義について理解する。社会福祉の理念や概念、法制度や実践方法、相談援助、権利擁護や苦情解決について学ぶ。

[学習成果] [A]
社会福祉の歴史的背景や考え方・役割を理解することで、自らの生活や人々の生活について考えることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
					○	○	

[授業計画]
1 オリエンテーション
2 社会福祉の考え方
3 日本における社会福祉のあゆみ
4 諸外国の社会福祉
5 変革期の社会福祉
6 社会福祉の制度・法体系・機関
7 生活保護
8 子どもと家庭の福祉
9 高齢者の福祉
10 介護保険制度
11 障がいのある人の福祉
12 地域の福祉
13 社会福祉とソーシャルワーク
14 現代社会と社会保障
15 事例検討

[授業方法]
講義が主体であるが、社会福祉について自らの考えをその都度ディスカッションしていく。
また、単元ごとに「確認シート」で重要事項の理解を深める。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
授業への取組状況（15%）
課題（15%）

[教科書]
「社会福祉を学ぶ」山田美津子・稲葉光彦編
(株) みらい

[参考書]
「2021年版みんなが欲しかった！介護福祉士の教科書」
TAC介護福祉士受験対策研究会　(TAC株式会社)

[準備学習（予習・復習）]
毎授業前には、テキストの該当範囲を読んで予習すること。授業の最初に、前回の授業の振り返りをするので、毎授業後に授業内容のポイントを復習しておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
普段からニュースや新聞を読む機会を持ち、社会の動きに関心をもつようにして授業に臨むこと。

[科　目　名] 人間関係論
[担当教員名] 清水　茂
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_A22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
人間は、成長過程において様々な人間関係を経験し、自己を形成していく。そして、社会生活において、人間関係はストレスの要因となることも多い一方で、人生を豊かにしてくれるものでもある。本講義では、人間関係について理解を深め、人間関係はどのように築き上げられていくのかを学んでいく。

[学習成果] [A]
心理学的な観点から、人間関係の中の自己についての知識を深め、人間関係で生じやすい問題とその対処について学習することにより、社会生活の中で良好な人間関係を築き上げる手掛かりを習得できる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○	○					◎

[授業計画]
1　オリエンテーション「will can must」
2　目標設定の仕方「目標がその日その日を支配する」
3　対人コミュニケーション「ランチメイト症候群」
4　エゴグラムで性格診断Ⅰ「現実編」
5　エゴグラムで性格診断Ⅱ「理想編とストレス」
6　性格スキルの高め方「色メガネとリフレーミング」
7　対人コミュニケーション「損を招く５つの表情」
8　自己肯定感を育む方法「さかなクンの母親」
9　忘却曲線「アウトプットの重要性」
10　人間関係作りⅠ「断り上手になるコツ」
11　人間関係作りⅡ「さ・し・す・そ・そ」
12　人間関係作りⅢ「斜に構えると毅然とした態度」
13　ストレス耐性Ⅰ「新規恐怖症（ネオフォビア）」
14　ストレス耐性Ⅱ「メタ認知能力と傾聴力の向上」
15　まとめ「時間管理チェックと先延ばしの心理学」

[授業方法]
講義が主体だが、グループワーク・ディスカッション等を取り入れ様々な角度から学習する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
毎時のワークシートとレポート(70%)
授業への取組状況（30%）

[教科書]
毎時間教材資料を配付する

[参考書]
適宜授業中に紹介する。

[準備学習（予習・復習）]
授業時間以外で関連する分野の書籍、雑誌、インターネット等に触れ、問題意識を持って授業に臨むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] コミュニケーション心理学
[担当教員名] 岡田　豊
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCIO_B21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
他者とのコミュニケーションにおいて、相手を理解し、自分を表現することが困難な状況が多くみられる。本科目では、様々な心理学からコミュニケーションを考察し、社会から求められる良好なコミュニケーションが何かを学習する。

[学習成果] [B]
コミュニケーションにおける他者理解や他者の心の動きを察する思いやりの観点と、円滑なコミュニケーションの知識を身につけることができる。また、社会から求められる良好なコミュニケーションが何かを理解することができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
		○		○			◎

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　コミュニケーションの基礎
3　対人魅力
4　自己開示
5　自己呈示
6　社会的影響
7　要請と承諾
8　言語的・非言語的コミュニケーション１
9　言語的・非言語的コミュニケーション２
10　言語と思考
11　言語と文化
12　職場のコミュニケーション
13　傾聴と共感
14　実際のコミュニケーション
15　まとめ

[授業方法]
講義を中心とするが、グループディスカッション、グループワークも実施する。参考動画を活用する場合もある。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題や授業への取組状況（50%）
筆記試験（50%）

[教科書]
適宜プリントを配布する

[参考書]
「ワークショップ人間関係の心理学」
藤本忠明・東正訓　著（ナカニシヤ出版）

[準備学習（予習・復習）]
予習としてコミュニケーションあるいは心理学に関心をもち、インターネット、書籍等で調べ学習をして臨むこと。授業後は習得した内容を日常で活かすイメージを持つこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 介護概論
[担当教員名] 祢宜　佐統美
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCI0_A22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
介護とは、援助を必要としている人々を生活面から支え、その暮らしを整えることである。介護という専門分野の内容についてその目的・意義・機能・方法など総合的に学び、介護とは何かを理解する。

[学習成果] [A]
介護を必要とする利用者の身体や気持ちを理解し、尊厳や自立支援を学ぶことができる。専門知識・技術とともに、介護する人自身の健康や、リスクマネジメント、連携や看取りを理解することができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
			○			○	○

[授業計画]
1　介護とは何か
2　介護を必要とする利用者の理解
3　対人援助とは
4　コミュニケーション技法
5　高齢者の介護の理解
6　障がい者の介護の理解
7　認知症の理解
8　在宅介護の理解
9　介護過程の理解
10　連携・チームで働く意義
11　介護者の健康
12　緊急時の対応
13　介護リスクマネジメント
14　看取り介護
15　事例検討

[授業方法]
講義が中心ではあるが、グループワークをしながら介護への理解を深めていく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
授業への取組状況（15%）
課題（15%）

[教科書]
「2021年版みんなが欲しかった！介護福祉士の教科書」
TAC介護福祉士受験対策研究会　（TAC株式会社）

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
毎授業前には、テキストの該当範囲を読んで予習すること。授業の最初に、前回の振り返りをするので、毎授業後に授業内容のポイントを復習しておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 秘書実務演習Ⅰ
[担当教員名] 加藤　洋美
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCI0_B21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
社会の諸組織で働くときに必要とされる、基本技能や資質を体系的に学ぶ。職場でのより良い人間関係を構築するため、コミュニケーションに必要な知識を学び、実習とロールプレイングを通して実務を体得する。

[学習成果] [B]
1年生で学んだ秘書として求められている知識や技能を総括し、演習形式で実践力を高めることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
		○		○			◎

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　コミュニケーションと人間関係
3　話し方と聞き方の基本
4　敬語の基本と接遇用語
5　電話応対の基本とマナー
6　ビジネス電話の掛け方
7　ビジネス電話の受け方
8　状況　対応ロールプレイング
9　接遇の意義と心構え
10　来客応対の基本
11　来客応対の実際
12　名刺交換、席次
13　状況対応ロールプレイング
14　職場での話し方と聞き方
15　指示の受け方と報告の仕方

[授業方法]
基本知識を確認し、ロールプレイング、グループワークなどをとり入れた演習形式にて知識をアウトプットする。
アクティブラーニング導入。
企業（秘書室・秘書技能検定1級）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
試験（50%）
課題や授業への取組状況（50%）

[教科書]
「秘書・オフィス実務テキストワークブック」
（早稲田教育出版）

[参考書]
秘書ビジネス実務

[準備学習（予習・復習）]
授業に関連することについて、日常的に関心を持ち、問題意識をもって授業に臨むこと。知識として得たことは、すぐに実践を心がけること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 秘書実務演習Ⅱ
[担当教員名] 加藤　洋美
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_B22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
社会の諸組織で働くときに必要とされる、基本技能や資質を体系的に学ぶ。ビジネスマナーとオフィスワーク実務を、基礎だけでなく業務遂行に必要な知識や技能・演習を通して実践的に身につけ、即戦力を養う。

[学習成果] [B]
1年､2年前期で学んだ秘書として求められている知識や技能を総括し､演習形式で仕事の進め方の応用力を高めることができる。

[DPとの関連]

生DP1	生DP2	生DP3	生DP4	生DP5	生DP6	生DP7	生DP8
○	○		○			◎	

[授業計画]
1 慶弔業務
2 お祝い、贈り物のマナー
3 お葬式のマナー
4 スケジューリング
5 出張業務
6 ファイリング
7 ビジネス文書
8 社内文書
9 会議・会合
10 社外文書
11 メールのマナー
12 インバスケット①
13 インバスケット②
14 インバスケット③
15 インバスケット④

[授業方法]
基本知識を確認し、ロールプレイング、グループワークなどをとり入れた演習形式にて知識をアウトプットする。
アクティブラーニング導入。
企業（秘書室・秘書技能検定1級）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
試験（50%）
課題や授業への取組状況（50%）

[教科書]
「秘書・オフィス実務テキストワークブック」
（早稲田教育出版）

[参考書]
秘書ビジネス実務

[準備学習（予習・復習）]
授業に関連することについて、日常的に関心を持ち、問題意識をもって授業に臨むこと。知識として得たことは、すぐに実践を心がけること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 事務管理Ⅰ
[担当教員名] 砂田　治弥
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCIO_C21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
事務の本質、経営の側面からみた役目を理解することによって、企業にとって有力な人材の育成を目指す。特に近年は事務の機械化が進んでいる。データベースソフトの実習を通じてシステム開発・運用等に必要な知識の基本を習得する。

[学習成果] [C]
企業における自己の役割を認識し、主体的に業務に取り組めるようになる。またITスキルの基礎を身につけ、様々なシステムに臨機応変に対応できるようになる。

[DPとの関連]

生DP1	生DP2	生DP3	生DP4	生DP5	生DP6	生DP7	生DP8
○	◎				○	○	

[授業計画]
1 事務の本質、概念（1）
2 事務の本質、概念（2）
3 事務の本質、概念（3）
4 データベースの基本（1）
5 データベースの基本（2）
6 データベースの基本（3）
7 文書管理、ファイリングシステム（1）
8 文書管理、ファイリングシステム（2）
9 オフィスレイアウト、ファシリティチェック
10 実務とセキュリティ（個人情報保護など）（1）
11 実務とセキュリティ（個人情報保護など）（2）
12 業務分析の手法（1）
13 業務分析の手法（2）
14 業務分析の手法（3）
15 経営と事務の関わりについて、まとめ

[授業方法]
演習形式で、ほぼ毎回の授業で課題を課す。授業では例題を中心に学習し、関連の練習問題を宿題とする。また、実技試験で理解度をチェックする。最後に総合課題としてレポートの提出を求める。
学内web、メール等で操作方法、課題を提示するのでダウンロード（ファイルを開く）して、操作を進める。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況、理解度を把握し授業を進める。課題提出、質問等はメール、共有フォルダを活用する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
定期試験（50%）
課題提出（50%）

[教科書]
配布資料・検定問題集等

[参考書]
キタミ式イラストIT塾　ITパスポート　令和3年版
（技術評論社）

[準備学習（予習・復習）]
授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 事務管理Ⅱ
[担当教員名] 砂田　治弥
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_C22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
事務管理Ⅰの内容を踏まえ、より応用的なビジネス一般知識の習熟を目的とする。また、高度なデータベースの構築及び操作を習得するため、Microsoftソフトウェアのの操作方法についても学習する。

[学習成果] [C]
企業における自己の役割を一層高め、より積極的に高度な業務に取り組めるようになる。ITスキル及びデータベース操作の応用を身につけ、より広範なシステムに臨機応変に対応できるようになる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
○	◎				○	○	

[授業計画]
1　データの標準化
2　業務改善の手法 (1)
3　業務改善の手法 (2)
4　業務改善の手法 (3)
5　データベース基本操作 (1)
6　データベース基本操作 (2)
7　データベース基本操作 (3)
8　データベース基本操作 (4)
9　データベース基本操作 (5)
10　ビジネス一般知識 (1)
11　ビジネス一般知識 (2)
12　ビジネス一般知識 (3)
13　ビジネス一般知識 (4)
14　ビジネス一般知識 (5)
15　事務の機械化について、まとめ

[授業方法]
演習形式で、ほぼ毎回の授業で課題を課す。授業では例題を中心に学習し、関連の練習問題を宿題とする。また、実技試験で理解度をチェックする。最後に総合課題としてレポートの提出を求める。
学内web、メール等で操作方法、課題を提示するのでダウンロード（ファイルを開く）して、操作を進める。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況、理解度を把握し授業を進める。課題提出、質問等はメール、共有フォルダを活用する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
定期試験 (50%)
課題提出 (50%)

[教科書]
配布資料・検定問題集等

[参考書]
キタミ式イラストIT塾　ITパスポート　令和3年版
(技術評論社)

[準備学習 (予習・復習)]
授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科　目　名] 情報処理概論
[担当教員名] 砂田　治弥
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCIO_C21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
本講義では情報処理の基礎的知識全般、特にストラテジ系の分野である「企業の組織、戦略、会計、法律」、マネジメント系の分野である「システム開発技術」について重点的に学ぶ。

[学習成果] [C]
本講義を受講することで (独) 情報処理推進機構が実施している国家試験「情報処理技術者試験」の一部であるITパスポート試験の試験範囲の知識習熟を目指し、試験の合格を目指す。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	○				○	○	

[授業計画]
1　情報処理概論　資格試験について
2　企業活動と組織のカタチ
3　電子商取引
4　経営戦略と自社のポジショニング
5　外部企業による労働力の提供
6　関連法規　(著作権など)
7　PDCAサイクルとデータ整理技法
8　グラフの種類
9　品質管理の７つ道具
10　財務会計　費用と利益
11　在庫の管理　財務諸表
12　システム構成　故障対策
13　信頼性と稼働率
14　ITパスポート過去問題実践演習
15　まとめ

[授業方法]
板書による説明とパワーポイントを利用した授業を行う。受け身の授業にならないように随時考察、質問、小テスト等を行う予定である。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題・試験 (70%)
学習意欲・授業への取組状況 (30%)

[教科書]
キタミ式イラストIT塾　ITパスポート　令和3年版
(技術評論社)

[参考書]
ITパスポート関連の解説書 (授業の中で紹介)

[準備学習 (予習・復習)]
授業後、学んだ内容に対応する問題を解き、必ず復習すること。次回学習予定の教科書の範囲に、前もって目を通すこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間 (予習・復習) を参照)

[備考]
情報処理系の国家資格の入り口であるITパスポート資格を取得できるよう、コンピュータに対して興味を持って接することで、自然と試験にも合格できるような知識が身についていく。
試験範囲は広大なため、できるだけ自分自身で教科書、問題集の予習復習を行うことを強く勧める。

[科　目　名] 情報機器演習Ⅰ
[担当教員名] 小川　美樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCIO_C21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
Word、Excel、PowerPointの活用を身につけ、実社会で求められる実践的なスキルを学習する。
収集した情報を整理し、他者にわかりやすく伝える能力（情報コミュニケーション力）を身につける。

[学習成果] [C]
Word、Excel、PowerPointを実務で活用できる能力を身につける。
インターネット・電子メールを活用して、情報収集や情報発信など情報利活用能力を身につける。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
○	◎					○	

[授業計画]
1　オリエンテーション・ビジネス文書作成　1
2　ビジネス文書作成　2
3　ビジネス文書作成　3
4　リーフレット作成　1
5　リーフレット作成　2
6　プレゼンテーション
7　Word、Excel活用　差し込み印刷
8　Word、Excel活用　商取引　1
9　Word、Excel活用　商取引　2
10　Word、Excel活用　申請書　1
11　Word、Excel活用　申請書　2
12　ビジネス文書作成　4
13　ビジネス文書作成　5
14　ビジネス文書作成　6
15　まとめ

[授業方法]
パソコンでの演習が主体。メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード（ファイルを開く）して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。
また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題、試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
特になし
メールにファイルを添付、授業プリントを配布

[参考書]
検定問題集、Word・Excel・PowerPoint操作方法書等

[準備学習（予習・復習）]
授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。間違った部分は必ず修正すること。メールを確認し、次回の授業の準備をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日本語ワープロ・文書デザイン・情報処理の検定の上級資格取得を目指す。

[科　目　名] 情報機器演習Ⅱ
[担当教員名] 小川　美樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_C22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
Word、Excel、PowerPointの実践的な活用術を身につけ、社会におけるコミュニケーション力を磨く。実践力・応用力を養い、また、情報を扱う上での知識やマナーも身につける。
情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

[学習成果] [C]
Word、Excel、PowerPointを実務で活用できる能力、わかりやすく伝える力を身につける。
インターネット・電子メールを活用して、情報収集や情報発信など情報利活用能力を身につける。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
○	◎					○	

[授業計画]
1　セキュリティと情報モラル　1
2　セキュリティと情報モラル　2
3　プレゼンテーション　1
4　プレゼンテーション　2（発表・評価）
5　レポートの作成　1
6　レポートの作成　2
7　リーフレット作成　1
8　リーフレット作成　2（発表・評価）
9　ポスター作成　1
10　ポスター作成　2
11　ポスター作成（発表・評価）
12　ビジネス文書作成　1
13　ビジネス文書作成　2
14　ビジネス文書作成　3
15　まとめ

[授業方法]
パソコンでの演習が主体。メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード（ファイルを開く）して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題、試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
特になし
メールにファイルを添付、授業プリントを配布

[参考書]
検定問題集、Word・Excel・PowerPoint操作方法書等

[準備学習（予習・復習）]
授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。間違った部分は必ず修正すること。メールを確認し、次回の授業の準備をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日本語ワープロ・文書デザイン・情報処理の検定の上級資格取得を目指す。

[科　目　名] 生活統計学
[担当教員名] 水野　重夫
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCIO_C21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
日常生活の中で出会う様々な資料（データ）の整理の仕方や、統計処理の手法を学ぶ。題材はすべて日常生活の身近な事例を取り上げることで統計処理に対する興味や関心を喚起し、パソコン（EXCEL）の助けも借りながら解説を進めていく。

[学習成果] [C]
私たちの周囲には様々なデータがあふれているが、統計処理の手法を身につけることにより、それらのデータが持つ意味を理解することができるようになる。さらに、収集した一部のデータから全体を推定したり、立てた仮説が正しいかどうかを判断することができるようになる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	◎		○			○	

[授業計画]
1　統計とは
2　資料の整理
3　度数分布
4　相関と回帰
5　回帰分析
6　確率分布
7　二項分布
8　正規分布1
9　正規分布2
10　点推定
11　区間推定1
12　区間推定2
13　検定1
14　検定2
15　検定3

[授業方法]
EXCELの基本的な操作ができることは前提として、EXCELの操作を通して統計処理の様々な手法を学ぶ。また、学んだ統計処理の手法を実際の場面で利用することができるよう、演習の時間も十分に確保する。

[成績評価]
試験（60%）
課題や授業への取組状況（40%）

[教科書]
授業プリントを配布

[参考書]
「統計学の図鑑」涌井良幸・涌井貞美著（技術評論社）

[準備学習（予習・復習）]
復習として、授業の中で学習した統計用語の意味を理解し、EXCELを用いた統計量の計算の仕方やグラフの描き方を確認しておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
授業は毎回EXCELを操作しながら進めるので、EXCELの基本操作ができるようにしておくこと。

[科　目　名] プログラミング理論
[担当教員名] 砂田　治弥
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_C22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
プログラミング言語の基礎理論を学び、Microsoftアプリケーションにおける機能拡張のためのプログラミング言語である、VBAの基本を習得する。実際にコンピュータを利用しプログラミング言語を記述して、理論を実践へと展開していく。

[学習成果] [C]
プログラミングを習得することでITリテラシーが高まり、さらにコンピュータを使いこなすことができるようになるため、仕事の効率を高めることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	○				○	○	

[授業計画]
1　プログラミングの基本概念
2　VBAについて（マクロとは）
3　変数と定数
4　理論と実践（流れ図とアルゴリズム）
5　セルの操作
6　関数
7　プログラミング理論と演習1
8　プログラミング理論と演習2
9　プログラミング理論と演習3
10　プログラミング理論と演習4
11　プログラミング理論と演習5
12　プログラミング理論と演習6
13　プログラミング理論と演習7
14　プログラミング理論と演習8
15　まとめ

[授業方法]
基本はパソコンを使用した演習が中心となる。随時、ディスカッション、プレゼンテーション、小テストにより、受け身の授業とならないよう学習の意欲の向上と定着を計る。
アクティブラーニング導入

[成績評価]
試験（50%）
課題や授業への取組状況（50%）

[教科書]
できるExcelマクロ&VBA
作業の効率化&時短に役立つ本　（株）インプレス

[参考書]
必要に応じて授業内で紹介

[準備学習（予習・復習）]
次回学習予定の教科書の範囲に、前もって目を通すこと。また自宅や学校などで、授業当日に学んだ内容を自分で必ず復習すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
プログラムは少し難しく感じるかもしれませんが、習得すると自分の思うようにソフトウェアを操ることができるため大変有用である。積極的に活用できるよう、普段から予習・復習を行うことをお勧めする。

[科　目　名] 簿記応用Ⅰ
[担当教員名] 木原　明日香
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCIO_A21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
企業経営の根幹となる財務会計について、
①様々な視点から学ぶこと
②社会人に必要な会計知識の取得・活用
を狙いとしている。

[学習成果] [A]
日商簿記3級の内容を理解し、同級に合格できる。市場の流れや、経理状況を取り巻く現状を理解し、社会人に必要な会計知識を取得・活用ができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
○	◎					○	

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　勘定科目・仕訳について①
3　勘定科目・仕訳について②
4　勘定科目・仕訳について③
5　勘定科目・仕訳について④
6　仕訳帳・総勘定元帳
7　現金出納帳・当座預金出納帳
8　仕入帳・売上帳・受取(支払)手形記入帳
9　売掛金元帳・買掛金元帳・小口現金出納帳
10　固定資産台帳・３伝票制
11　決算仕訳①
12　決算仕訳②
13　精算表・試算表の作成①
14　精算表・試算表の作成②
15　前期まとめ・総合問題③

[授業方法]
配布資料を基に簿記の基礎を学ぶ。社会人になってから役立つ会計に関する知識を深め、活用できるようにする。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
課題や授業への取り組み状況（30%）

[教科書]
特になし

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
日商簿記3級の学習継続
前回授業内容の復習
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
授業に必要なもの：筆記用具、赤ボールペン、電卓
日商簿記3級を受験するための学習を行う。
受験費用は各自で負担する。
進み具合により、内容は前向きに変更するものとする。

[科　目　名] 簿記応用Ⅱ
[担当教員名] 木原　明日香
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_A22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
企業経営の根幹となる財務会計について、
①様々な視点から学ぶこと
②社会人に必要な会計知識の取得・活用
を狙いとしている。
また、実際に企業の経理が行っているような経理方法を、会計ソフトを用いて体験する。

[学習成果] [A]
日商簿記3級の内容を理解し、同級に合格できる。市場の流れや、経理状況を取り巻く現状を理解し、社会人に必要な会計知識を取得・活用ができる。また、会計ソフトを用いた経理入力ができるようになることを目的としている。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
○	◎					○	

[授業計画]
1　前期の復習①
2　前期の復習②
3　総合問題①
4　総合問題②
5　総合問題③
6　総合問題④
7　弥生会計の入力①　経費
8　弥生会計の入力②　売上・売掛金
9　弥生会計の入力③　仕入・買掛金
10　弥生会計の入力④　在庫・減価償却
11　弥生会計の入力⑤　試算表
12　弥生会計の入力⑥　試算表
13　弥生会計の入力⑦　総合問題
14　弥生会計の入力⑧　総合問題
15　後期のまとめ

[授業方法]
配布資料を基に簿記の基礎を学び、会計ソフト（弥生会計）を用いた演習を基本とする。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
課題や授業への取り組み状況（30%）

[教科書]
特になし

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
日商簿記3級の学習継続
前回授業内容の復習
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
授業に必要なもの：筆記用具、赤ボールペン、電卓
原則として、令和３年１１月の日商簿記３級を受験する。
受験費用は各自で負担する。
進み具合により、内容は前向きに変更するものとする。

[科　目　名] ビジネス実務Ⅰ
[担当教員名] 村田　剛
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCIO_A21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
卒業後は就職して様々な「仕事」に就くことになるがその時点で社会人として基本的な知識や心構えを備えていることが、自分の価値を高めるために有用である。本講では種々の演習を通じて、そのための具体的な手法を学びトレーニングを行う。

[学習成果] [A]
社会人として組織の内外で自分を確立するための具体的な方法を知ると同時に、コミュニケーションの重要性について理解することができる。

[DPとの関連]

生DP1	生DP2	生DP3	生DP4	生DP5	生DP6	生DP7	生DP8
	○		○				◎

[授業計画]
1 オリエンテーション、演習の進め方
2 ビジネスの場で必要とされる能力①
3 ビジネスの場で必要とされる能力②
4 ビジネスの場で必要とされる能力③
5 ビジネスの場で必要とされる能力④
6 ビジネスにおける日本語の使い方①
7 ビジネスにおける日本語の使い方②
8 ビジネスにおける日本語の使い方③
9 コミュニケーション力の向上①
10 ビジネス文書の取り扱いと作成①
11 ビジネス文書の取り扱いと作成②
12 ビジネス文書の取り扱いと作成③
13 コミュニケーション力の向上②
14 自分の頭で考える
15 まとめ

[授業方法]
講義を交えながら、その都度テーマに沿った課題について自分の考えをまとめ、発表を通じて共有・ディスカッションし深堀りしていく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題や授業への取組状況 (60%)
筆記試験 (40%)

[教科書]
特になし。適宜プリントを配布。

[参考書]
「仕事の超基本」宮本ゆみ子 (朝日新聞出版)
「ビジネス日本語・文書の本」神谷洋平 (さくら舎)
「自分のアタマで考えよう」ちきりん (ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ社)

[準備学習 (予習・復習)]
次回授業までに前回の授業内容を見直しておくこと。
関連する分野の内容に関し、書籍・インターネット等で積極的に情報収集を行い知見を得ておくこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科　目　名] ビジネス実務Ⅱ
[担当教員名] 村田　剛
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_A22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
インターネットが拡がり情報が容易に入手できるようになった現在、ビジネスの場で最も大切なことは「自分の頭で考えることが出来る」ことである。本講では、社会人として有用な知識を持つことでは無く「思考する」ための心構えと技術を学び、どんな分野でも必要とされる人財となる基礎を作る。

[学習成果] [A]
単に知識があることをひけらかすのではなく、自分の頭で考えることの重要性を学ぶことで、社会人として有用な人材像について理解することができる。

[DPとの関連]

生DP1	生DP2	生DP3	生DP4	生DP5	生DP6	生DP7	生DP8
	○		○				◎

[授業計画]
1 オリエンテーション、演習の進め方
2 知識と思考の違い
3 問うことの重要性
4 判断基準とは
5 意味のあるデータ分析とは
6 生産性を高めるビジネスグラフ
7 考える練習①
8 考える練習②
9 稼ぎを上げる方法①
10 稼ぎを上げる方法②
11 考えるための心構え①
12 考えるための心構え②
13 考えるための心構え③
14 考えることの弊害
15 まとめ

[授業方法]
講義を交えながら、その都度テーマに沿った課題について自分の考えをまとめ、発表を通じて共有・ディスカッションし深堀りしていく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題や授業への取組状況 (60%)
筆記試験 (40%)

[教科書]
特になし。適宜プリントを配布。

[参考書]
「自分のアタマで考えよう」ちきりん (ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ社)
「考える練習帳」細谷功 (ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ社)

[準備学習 (予習・復習)]
次回授業までに前回の授業内容を見直しておくこと。
関連する分野の内容に関し、書籍・インターネット等で積極的に情報収集を行い知見を得ておくこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科　目　名] 電子カルテ演習Ⅰ
[担当教員名] 小川　美樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCIO_A21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
医療の現場では電子カルテをはじめとする各種業務を支援する多様な医療情報システムの知識とスキルが必須である。医事コンピュータシステム・電子カルテシステム（医療事務教育ソフト）を使用し、その機能と基本的操作方法を習得する。

[学習成果] [A]
医事コンピュータシステム、電子カルテシステムの現状と役割を知り、基本的な仕組みと操作の流れを理解し、外来カルテの代行入力ができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎						○	

[授業計画]
1 オリエンテーション、電子カルテシステムとは
2 医事コンピュータ　レセプト演習①
3 医事コンピュータ　レセプト演習②
4 IT化の流れと診療録の電子化、電子カルテの定義、機能
5 患者受付、問診入力等、基本的入力操作
6 診療録の記載方法（SOAP形式の入力操作）
7 診療所　外来カルテの代行入力①
8 診療所　外来カルテの代行入力②
9 診療所　外来カルテの代行入力③
10 病院　外来カルテの代行入力①
11 病院　外来カルテの代行入力②
12 病院　外来カルテの代行入力③
13 演習　外来カルテの代行入力①
14 演習　外来カルテの代行入力②
15 演習　外来カルテの代行入力③、まとめ

[授業方法]
「医事Navi」（医事コンピュータシステム、電子カルテシステム）を使用した演習中心の授業である。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題、レポート等（50%）
試験（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
カルテ例題集
電子カルテシステムの理解と演習
C&C電子カルテシステムⅡ操作テキスト

[参考書]
診療報酬点数早見表
医療事務演習テキスト

[準備学習（予習・復習）]
授業後に復習をし、わからないところはそのままにせず、確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。間違った部分は必ず修正すること。積極的に自主学習をする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
課題はしっかり取り組み、期限までに必ず提出すること。提出物はファイリングすること。

[科　目　名] 電子カルテ演習Ⅱ
[担当教員名] 小川　美樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_A22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
電子カルテ演習Ⅰで学んだ電子カルテシステムの操作方法に加え、医療現場のニーズに対応した電子カルテシステムの理解、関連知識等を習得する。また、医師事務作業補助者に求められる、医療現場のニーズに対応した医事ＯＡスキルを習得する。

[学習成果] [A]
必要な関連知識の習得に加え、医事コンピュータシステム・電子カルテシステムを使い、入院カルテの代行入力、診断文書の代行入力ができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎						○	

[授業計画]
1 前期の振り返り・入力操作方法の復習
2 外来カルテの代行入力
3 病院　入院カルテの代行入力①
4 病院　入院カルテの代行入力②
5 病院　入院カルテの代行入力③
6 病院　入院カルテの代行入力④
7 病院　入院カルテの代行入力⑤
8 病院　入院カルテの代行入力⑥
9 医師事務作業補助の必要性
10 文章作成の代行入力①（紹介状、診療情報提供書）
11 文章作成の代行入力②（診断書等）
12 演習①
13 演習②
14 演習③
15 まとめ

[授業方法]
「医事Navi」（医事コンピュータシステム、電子カルテシステム）を使用した演習中心の授業である。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題、レポート等（50%）
試験（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
電子カルテシステムの理解と演習
C&C電子カルテシステムⅡ操作テキスト

[参考書]
診療報酬点数早見表
医療事務演習テキスト

[準備学習（予習・復習）]
授業後に復習をし、わからないところはそのままにせず、確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。間違った部分は必ず修正すること。積極的に自主学習をする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
課題はしっかり取り組み、期限までに必ず提出すること。提出物はファイリングすること。

[科　目　名] 医療秘書実務演習
[担当教員名] 堀　智美
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] CLI0_A21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
医療秘書や医療機関で必要な対応を体得する。実習室の受付カウンターで役割分担し、患者対応などのロールプレイを行う。実際に想定されるケーススタディも踏まえ、それぞれの立場から感じられることをディスカッションする。

[学習成果] [A]
医療機関で必要とされる専門的な事務能力や窓口対応を実際に行い、身につける。役割を演じることで、必要な判断能力やスピード、適切な応対、優先順位などを考え、医療機関での役割を確認する。患者対応はもちろん、チーム医療を行うために必要なスタッフとのコミュニケーション能力も向上させることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎

[授業計画]
1 オリエンテーション
2 接遇①
3 接遇②
4 感じのよい話し方
5 対象別応対について
6 ロールプレイ①
7 ロールプレイ②
8 ロールプレイ③
9 実習に向けて（服装・心構え・注意事項等）
10 実習の振り返り
11 電話応対
12 高齢者について
13 総合演習ロールプレイ①
14 総合演習ロールプレイ②
15 総合演習ロールプレイ③

[授業方法]
各項目演習で理解を深め、課題に対してロールプレイを繰り返し行う。
フィードバックを行い、客観的な自己の評価を受け止めて相手に届けられる技術を確認する。
アクティブラーニング導入。
総合病院（医療事務）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況（60%）
試験（40%）

[教科書]
「医療における接遇の基本」（建帛社）

[参考書]
配布資料、随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
事前準備が必要な場合には、調べ学習・課題などに取り組むこと。
授業後にレポート作成も含め、復習を行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
医療スタッフに必要なことを理解するだけでなく、行動して相手に届いていることを自覚できるように心がける。

[科　目　名] 医療秘書実務実習
[担当教員名] 小川　美樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCI0_A21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
医療機関における医事および診療実務等を実習し、業務の流れを理解することにより、医療秘書実務士の役割と実務を体得する。また、医師を中心とするメディカルスタッフの相互連携と機能の実際と患者対応を習得する。

[学習成果] [A]
学外実習は医療機関（病院）において行い、実習を通し医療機関で働くことの意義を知り、実習体験を就職活動に活かせるようにする。医師、スタッフ、患者様とのコミュニケーションの大切さを学び、現場で必要とされる技術と知識を習得することができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎	○	○		○			○

[授業計画]
事前指導
1 医療秘書実務実習の意義、実習に向けて、実習先希望調査、面接・個別指導
2 実習先の情報収集、実習先決定
3 心構えと事前指導、実習ノートに関する指導
実習
1 病院組織の総合理解（医事および事務部門、診療検査、薬剤、看護、入院の各部門など）
2 医事課業務の実習（受付、診察券の発行、カルテの作成配布回収、レセプトの作成など）
3 病棟業務の実習（入院手続き、カルテの処理、看護業務の処理、退院手続きとその処理など）
4 検査業務の実習（検査票の処理、検査の準備、検査結果関係書類の処理、器具の整備など）
5 診療秘書の実習（診察室や診療器具の整備、患者の呼び込み、診療体制の準備、患者への指示、カルテの処理、来客の応対など）
事後指導
1 実習ノート、報告書提出
2 個別の事後指導
3 事後報告会

[授業方法]
学内で実習に向けての事前指導の後、実際に医療機関での実習。実習後にレポート等の提出と報告会を行う。

[成績評価]
授業・実習への取組状況（評価表含む）（70%）
実習ノート、報告書（30%）

[教科書]
医療秘書実習実習ノート
配布プリント

[参考書]
「医療における接遇の基本」（建帛社）

[準備学習（予習・復習）]
実習先医療機関について充分な事前予習を行う。実習後は報告書の作成をする。日頃から、医療に関わるニュース・記事に関心を持ち目を通す。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
連絡をきちんと行い、提出物など、必ず期日を守ること。実習中の健康管理に注意すること。

[科　目　名] 介護事務演習
[担当教員名] 瀧　智史・小川　美樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_A22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
介護が必要となった高齢者とその家族を社会全体で支えていく仕組みである介護保険制度の仕組みや、介護報酬請求の実務について学ぶ。

[学習成果] [A]
介護保険サービス別に算定のポイントを学び、介護保険請求を手書き学習することで、正確に介護給付費明細書を作成できる知識・技術を習得できる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎						○	

[授業計画]
1　介護保険制度の概要
2　介護保険制度の基本構成①
3　介護保険制度の基本構成②
4　給付管理業務
5　介護報酬の原則
6　介護報酬算定のポイント①
7　介護報酬算定のポイント②
8　サービスコード表の活用方法
9　介護給付費明細書の作成・演習（居宅サービス①）
10　介護給付費明細書の作成・演習（居宅サービス②）
11　介護給付費明細書の作成・演習（居宅サービス③）
12　介護給付費明細書の作成・演習（居宅サービス④）
13　介護給付費明細書の作成・演習（施設サービス①）
14　介護給付費明細書の作成・演習（施設サービス②）
15　介護給付費明細書の作成・演習（施設サービス③）

[授業方法]
教科書を主教材として用いた講義及び介護給付費明細書作成演習を行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（50%）
試験（50%）

[教科書]
「介護報酬基本テキスト（手書き学習用）」
介護報酬サービスコード表付き
（ケアアンドコミュニケーション）

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
授業後に復習をし、わからないところはそのままにせず、確認する。課題は必ず提出すること。（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
明細書作成時には、電卓を用意すること。

[科　目　名] 調剤事務演習
[担当教員名] 都築　健
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCIO_A21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
調剤報酬算定の基礎知識から、会計表作成、レセプト作成等を学び、資格取得を目指す。また、実際の薬局で行われる業務内容についても説明し、より現実的な知識を学ぶ。

[学習成果] [A]
調剤薬局で必要とされる知識・スキルを理解することで、現場での業務をスムーズに進める能力を身につけることができる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎					○	○	

[授業計画]
1　薬局の基礎知識
2　調剤報酬算定の基礎知識
3　調剤基本料
4　薬剤料①（点数への換算・内服薬の算定）
5　薬剤料②（会計表での計算）
6　調剤料①（内服薬・内服用滴剤）
7　調剤料②（頓服薬・外用薬・注射薬）
8　調剤料の加算①（麻薬・向精神薬・自家製剤加算）
9　調剤料の加算②（計量混合調剤・一包化加算）
10　薬学管理料
11　会計表からレセプト転記
12　レセプト作成①
13　レセプト作成②
14　レセプト作成③
15　レセプト作成のまとめ

[授業方法]
テキストを主材料とし、レジュメを用いて講義及び演習を行う。
授業の終わりに小テストを実施する。
調剤薬局代表取締役の経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況（40%）
小テスト（30%）
試験（30%）

[教科書]
「医療保障制度テキスト1」
「調剤薬局事務テキスト2」
「サポートブック」

[参考書]
必要資料は適宜配布

[準備学習（予習・復習）]
講義時に支持された課題を必ず行い提出できるようにしておくこと。テキストで進んだ項目に関してはポイントをしっかり復習すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
レセプト作成のため、電卓・定規を準備すること。

[科　目　名] 薬理学
[担当教員名] 窪田　傑文
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCI0_A22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
薬理学とは医薬品（薬物）が生体にいかに作用するかを解析する学問である。主な疾患の病態・病因を理解した上で、分子、細胞、組織レベルでの医薬品の作用機序を理解し、薬物による治療戦略、副作用、禁忌などの薬物治療における基礎知識を習得する。

[学習成果] [A]
医療に携わる人間として、メディカルスタッフ・コメディカルスタッフおよび患者とのコミュニケーションをとるために必要な基礎的な薬理学的知識を習得できる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
◎						○	○

[授業計画]
1　薬理学概論
　～薬の役割、剤形、法的分類、投与経路～
2　薬が作用するしくみと薬物動態
3　神経の疾患と治療
4　循環器に関連する疾患と治療1
5　循環器に関連する疾患と治療2
6　ホルモンに関連する疾患と治療
7　ビタミン・ミネラルの薬
8　呼吸器系の疾患と治療
9　消化器系の疾患と治療1
10　消化器系の疾患と治療2
11　免疫系の疾患と治療
12　がんと治療
13　感染症と治療
14　眼・耳・鼻・皮膚に作用する薬、妊婦と薬、小児と薬
15　薬理学総論・まとめ

[授業方法]
教科書を主教材とし、薬剤師業務における最新の症例を提示しながら実践的体験を基にした講義を行う。補助的にプロジェクターや配布資料を用いる。

[成績評価]
定期試験（70%）
課題や授業への取組状況（30%）

[教科書]
「イラストで理解するかみくだき薬理学」（南山堂）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
予習としておおむね1時間程度、該当分野の解剖生理学の復習ならびに薬理学の教科書を読んでおくこと。授業後には講義内容の復習を1時間程度行うこと。
（履修案内のII履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 健康フィットネス演習 I
[担当教員名] 西澤　早紀子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCI0_D21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
身体活動は健康な生活の維持・増進に必要である。毎回のエアロビクスダンス等の実技によって、自分自身の健康的なからだ作りのために、栄養と運動について考える、実践する力をつける。運動では、特にエアロビックダンスエクササイズの実技を通して、体を動かす意義を理解する。

[学習成果] [D]
運動を通して、自身の体と向き合うことで、自身の健康管理やより快適な体づくりに向けた、正しい有酸素運動やトレーニング、ストレッチングの方法を修得できる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
				◎			

[授業計画]
1　エアロビクスダンスエクササイズ、体組成の理解
2　脂肪と筋肉と身体活動
3　エアロビクス①ウォーミングアップ
4　ウォーミングアップとクールダウン
5　エアロビクス②ストレッチング
6　世界と日本の健康づくり政策
7　エアロビクス③トレーニング
8　栄養と身体活動①
9　エアロビクス④ローインパクトの動き
10　骨と身体活動
11　エアロビクス⑤ハイインパクトの動き
12　筋力と健康―疾病の理解―
13　エアロビクス⑥コンビネーション①
14　ライフステージと身体活動
15　エアロビクス⑦コンビネーション②

[授業方法]
実技は、エアロビックダンスエクササイズのレッスン形式で行う。リズムに合わせてウォーミングアップ、メインエクササイズ、ウォームダウンの一連の流れを行う。
演習は、資料作成、グループワークを行い、アクティブラーニングを導入する。

[成績評価]
授業への取組状況（40%）
実技試験（40%）
課題（20%）

[教科書]
教材プリント配布

[参考書]
GFIのためのフィットネス基礎理論・
エアロビックダンスエクササイズ指導理論
((社)日本フィットネス協会)

[準備学習（予習・復習）]
毎回毎回の授業の振り返り、次週の学びについて解説を行うことから予習・復習を45分程度求める。
（履修案内のII履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
フィットネスウエア、運動シューズ、タオル、水分補給用の飲み物が毎回必要となる。どのようなものが適しているかは、初回のオリエンテーションで解説するので、各自用意願いたい。

[科　目　名] 健康フィットネス演習Ⅱ
[担当教員名] 西澤　早紀子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_D22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
身体活動は健康な生活の維持・増進に必要である。前期の健康フィットネス演習Ⅰを発展させ、自身はもちろんのこと、公共的な政策を学び、自身が社会の一員として健康増進政策をどのように立案するかを考える力がつく。また、実技面では集大成として、動きを組み合わせてプログラムを作成し、実演できるようになる。

[学習成果] [D]
自身の身体を客観的に捉えることができるようになる。健康づくりに必要な知識を修得できる。エアロビクスの動きとその名称を理解し、動きを組み合わせて実演できる。
健康増進政策を学び、自身の健康づくりの問題点、解決法、今後の自身の健康増進法について考えられる力がつく。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
				◎			

[授業計画]
1　体組成測定・体力測定（有酸素能力）
2　エアロビクスのローインパクトコンビネーション①
3　エアロビクスのローインパクトコンビネーション②
4　エアロビクスのローインパクトコンビネーション③
5　エアロビクスのローインパクトコンビネーション④
6　エアロビクスのハイインパクトコンビネーション①
7　エアロビクスのハイインパクトコンビネーション②
8　ダンスエアロ①
9　ダンスエアロ②
10　フィットネスビジネストレンド
11　コリオ作成
12　実演練習①
13　実演練習②
14　実演練習③
15　体組成測定・体力測定（有酸素能力）

[授業方法]
実技は、エアロビックダンスエクササイズのレッスン形式で行う。
コリオ作成、実演演習は、グループワークを行い、アクティブラーニングを導入する。

[成績評価]
授業への取組状況（40%）
実技試験（40%）
課題（20%）

[教科書]
教材プリント配布

[参考書]
GFIのためのフィットネス基礎理論
エアロビックダンスエクササイズ指導理論
グループエクササイズ指導理論
((社)日本フィットネス協会)

[準備学習（予習・復習）]
授業に関する復習・予習、練習に45分程度励むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
フィットネスウエア、運動シューズ、タオル、水分補給用の飲み物が毎回必要となる。

[科　目　名] 調理学実習
[担当教員名] 山本　景子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCIO_D21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
日常生活における「食と健康」について調理実習を通して学ぶ。日本の食文化の基本となる和食と、諸外国の料理を学び、献立の組み合わせや栄養バランス、食材の選択と調理・盛り付けまで実践し、知識と技術を習得する。

[学習成果] [D]
食生活の中で自ら健康を考えて食を選ぶ力が身につく。調理の基本技術を習得できる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
			○	○		◎	○

[授業計画]
1　食と健康について
2　日本料理①
3　日本料理②
4　日本料理③
5　日本料理④
6　中国料理①
7　中国料理②
8　アジア料理
9　西洋料理①
10　西洋料理②
11　西洋料理③
12　食物アレルギーに配慮した食事
13　幼児期の食事
14　高齢者の食事
15　おもてなしの食事

[授業方法]
デモンストレーションのあと、グループに分かれて調理実習を行い、試食をする。
途中グループを組み替え、コミュニケーションスキルを高める。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題・提出物（55%）
授業への取組状況（45%）

[教科書]
配布資料

[参考書]
随時紹介する

[準備学習（予習・復習）]
実習する献立を確認し、事前に予習をして授業に臨むこと。実習後は復習をして毎回レポートにまとめ提出する。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

[備考]
実習時はエプロンと三角巾を各自用意し、着用する。体調管理を心がけ、実習中は衛生面にも十分気を付ける。
グループワークでのコミュニケーションスキルの向上を心がける。

[科　目　名] 製菓・製パン実習
[担当教員名] 山本　景子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCIO_D22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
製菓・製パンの材料に対して知識を深め、調理過程における材料の科学的変化への理解を深める。菓子・パンの実習を通し、必要な基礎的知識と技術を習得する。

[学習成果] [D]
製菓・製パンに必要な知識を学び、技術の向上を図る。
正確かつ、おいしい菓子パンを製作できるスキルが身につく。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
			○	○		◎	○

[授業計画]
1　オリエンテーション、菓子・パンの歴史と素材
2　洋菓子①
3　洋菓子②
4　洋菓子③
5　洋菓子④
6　洋菓子⑤
7　パン①
8　パン②
9　パン③
10　パン④
11　和菓子
12　洋菓子⑥
13　洋菓子⑦
14　洋菓子⑧
15　まとめ

[授業方法]
はじめに教員によるデモンストレーションを行ったのち、学生が菓子およびパンの製作を行う。この授業では、学生ひとりひとりが製作することを基本とする。実習中は教員が個別に指導する。毎回授業で学んだことをレジュメに書き留め、次の授業で振り返りを実践する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
実習への取組状況（70%）
レポート（30%）

[教科書]
オリジナルレシピのレジュメを配布

[参考書]
随時紹介する

[準備学習（予習・復習）]
毎授業で学んだ製菓技術やポイントをレジュメに書き留め、次の授業前に振り返り、実習に活かすこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
菓子やパンは生活に潤いを与えるものである。菓子やパン作りが好きな人はもちろん、挑戦してみたいけれど機会がなかった人や菓子作りが初めての人にも丁寧に指導するので安心して受講してほしい。製菓・製パン実習を通じて、手作りの楽しさや美味しさを一緒に体得してほしい。
なお、各自実習した菓子・パンは持ち帰る。

[科　目　名] トータルコーディネート
[担当教員名] 奥村　智子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 生活文化
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCIO_D21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
自分らしさを演出しながら、好印象を与えるきちんとした着こなしやフォーマルシーンでの洋服のマナーを学び、総合的な美しさを作り出す方法を考える。また、ファッションを楽しみながら実行できるSDGsを考え、持続可能な社会を創造していくことを目指す。
また、日本フォーマル協会 フォーマルスペシャリスト検定準2級（ブロンズライセンス）に対応し、フォーマルウエアの正しい着こなし方、祝儀・不祝儀の各シーンにおける正しいアクセサリーの知識を習得する。

[学習成果] [D]
イメージシーンに合わせた基本的なコーディネートテクニックや快適に装うための正しい知識を習得し、自分演出ができるおしゃれを実践できる素養を身に付けることができる。また、SDGsの知識を取得し、環境に配慮した衣生活の価値観で行動することができるようになる。

[DPとの関連]

生 DP1	生 DP2	生 DP3	生 DP4	生 DP5	生 DP6	生 DP7	生 DP8
	○	○	◎		○		○

[授業計画]
1　ファッションと印象
2　イメージ別コーディネートテクニック
3　ファッションと錯覚
4　体型別コーディネートテクニック
5　TPOと装い
6　オケージョン別コーディネートテクニック
7　フォーマル知識①慶事　男性
8　フォーマル知識②慶事　女性
9　フォーマル知識③弔事
10　フォーマル知識④和服
11　フォーマル知識⑤ブライダル
12　SDGsとファッション①
13　SDGsとファッション②
14　SDGsとファッション③
15　SDGsとファッション④

[授業方法]
基本的にはファッション雑誌の写真や映像を用いて実際の場面を理解できるような講義方式で行い、学生とのディスカッションを積極的に行いながら授業を進めていく。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題等提出物(70%)
授業への取組状況（30%）

[教科書]
「フォーマルウェア・ルールブック」（日本フォーマル協会）
随時プリント配付

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
普段からファッション雑誌や店舗などで展開しているコーディネートの仕方を観察しておくこと。次の授業に関連する分野の内容に興味・関心を持ち、調べ学習をして臨むこと。（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日本フォーマル協会 フォーマルスペシャリスト検定準2級（ブロンズライセンス）に是非チャレンジしてほしい。

2　専門科目

幼児教育学科　第1部　1年

[科　目　名] 保育原理
[担当教員名] 五十嵐　紗織
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　　[科目コード] IE10_A11
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 講義

[授業概要]
保育とは、子どものかわいらしい姿に接するという表層的な関わりだけなく、子どもの命や日々の生活に関与するという重い責任を伴う。子どもを慈しみ育む力を養うために、保育の基本的概念と保育の営みについて学ぶ。

[学習成果] [A]
①保育の思想並びに歴史的変遷を理解する。②保育の意義と保育所保育指針における保育の基本を理解する。③保育を取り巻く現代的課題について理解し、考察を深めることができる。④保育者としての資質と態度を養う。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○				○		◎

[授業計画]
1　保育とは何か（ブレインストーミング）
2　保育の役割：保育所保育指針の位置づけ
3　諸外国における保育の思想と変遷
4　日本における保育の思想と変遷
5　いのちの誕生と保育
6　子どもにとっての遊びの価値
7　子どもの最善の利益と保育
8　保育の制度と施設
9　ワークライフバランスと保育ニーズへの対応
10　保育の関連法令と子育て支援
11　乳児の発達と保育
12　幼児の発達と保育
13　養護と教育の一体性
14　保育の目指す姿と多文化共生社会
15　現代社会における保育の課題

[授業方法]
講義を中心とするが、内容に応じてブレインストーミングやシミュレーション等のアクティブラーニングを取り入れる。

[成績評価]
筆記試験（50%）
レポート等の提出物（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「哲学する保育原理」伊藤潔志編著（教育情報出版）
「平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本」内閣府・文部科学省・厚生労働省（チャイルド本社）

[参考書]
「保育原理」関口はつ江（萌文書林）
「保育者の地平　私的体験から普遍に向けて」津守真（ミネルヴァ書房）
「幼児教育へのいざない　円熟した保育者になるために」佐伯胖（東京大学出版会）

[準備学習（予習・復習）]
授業計画に基づき、テキストの該当箇所を読んで内容を理解してから授業に臨むこと。また、毎授業後に示すミニレポートを期限内に提出すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
保育の根幹を学ぶ科目です。自主的・主体的に学ぶ姿勢を持って授業に臨みましょう。

[科　目　名] 社会的養護Ⅰ
[担当教員名] 川上　知幸
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　　[科目コード] IE10_A11
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 講義

[授業概要]
近年、児童虐待事件がメディアにも大きく取り上げられ、重要な社会問題として注目されている。社会的養護の役割はより高まっているが、課題も多い。本講義では、社会的養護に関する基礎知識を学びながら、児童養護施設や児童相談所など現場の現状と課題について検討、考察していく。

[学習成果] [A]
社会的養護に関する基礎知識を習得できる。
児童虐待やその他の困難に直面する子ども・家族の実態や課題について共感的に理解し、支援の在り方について多角的に考察する力を身につけられる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎		○		○		

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　社会的養護の子どもたち：事例
3　児童虐待問題の現状と法制度
4　児童虐待への対応と課題
5　性的虐待とDV
6　アタッチメント（愛着）
7　社会的養護の理念と役割
8　児童養護施設の現状と課題
9　児童養護施設におけるケア実践
10　日本の子ども家庭が抱える課題と歴史的背景
11　社会的養護の歴史的変遷
12　社会的養護の今後の動向
13　家庭（的）養護の意義と課題
14　社会的養護の多職種連携
15　総括（リフレクション、フィードバック）

[授業方法]
講義を中心とするが、グループディスカッションなどを取り入れ、意見交換を行うことで理解を深めると共に考える力を養っていく。アクティブラーニング導入。
児童養護施設等での実務経験があり、子ども・家族の事例や現場の実情を提示しながら、実践的な講義を行う。

[成績評価]
筆記試験（60%）
レポート（20%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「社会的養護」成清美治・真鍋顕久　編著（学文社）

[参考書]
授業内で適宜紹介する。

[準備学習（予習・復習）]
教科書を用いて自己学習し、基礎知識を得ながら疑問点を整理しておくこと。また授業後にはノート等を見返し、メモのまとめや修正を行いながら理解を深めること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
児童福祉関連の文献や新聞記事等での情報収集を心がけること。

[科　目　名] 保育者論
[担当教員名] 鈴木　眞知子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_A11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
保育とは子どもだけでなく、保護者支援、地域との連携など様々な子育てに関するニーズに応える役割があり、保育者としての責務があることを理解する。理論と実践を結び付け、保育者の専門性について理解を深めると共に、目指す保育者像を具体化していく。

[学習成果] [A]
保育者の役割や制度的な位置づけを理解した上で、保育現場で実践し、成長していく保育者としての視点を身につけることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
			○	○	○		◎

[授業計画]
1 オリエンテーション
2 いま、「保育者」を目指す人たちへ
3 保育者の仕事と役割
4 保育者の制度的位置づけ
5 保育者になるための学び
6 保育者に求められる資質とは
7 職場で学びあう専門家として
8 保育者の資質向上とキャリア
9 子どもの育ちの危機と子育て支援
10 子どもの育ちの危機と子育て支援
11 現代社会の変化と保育者の仕事や課題
12 日本の保育者のあゆみ
13 資料にみる保育者の姿
14 諸外国の保育者
15 保育者になる人へのメッセージ

[授業方法]
講義が主体であるが、テーマに合わせた個人発表を行い、質疑応答、評価反省を行って主体的な学びを行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
筆記試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
「新時代の保育双書　今に生きる　保育者論　第4版
(みらい)

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
（予習）課題、テーマに関する下調べ
（復習）課題、テーマに関する振り返り、まとめ
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
よりよい学びのために一人一人の積極的な参加を期待します。
個人発表では、発表形態は自由でそれぞれの工夫を期待します。

[科　目　名] 保育の心理学
[担当教員名] 林　貴子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_B12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
乳幼児期の知的な発達、身体的な発達、そして対人関係や人格の発達などを具体的に学びながら、保育と発達との関係について理解を深めることを目的とする。特に人とのかかわりの中で子どもをどのように捉えていくかなどを理解する。

[学習成果] [B]
1 保育実践に関わる発達理論などの心理学的知識を踏まえ、発達をとらえる視点について理解することができる。
2 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深めることができる。
3 乳幼児期の学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互作用や体験、環境の意義を理解することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎	○		◎	◎		○

[授業計画]
1 発達を理解することの意義
2 保育実践の評価
3 発達観と保育観
4 発達を規定する要因
5 感情の発達
6 運動機能の発達
7 知覚と認知の発達
8 言葉の発達
9 基本的信頼感の獲得
10 愛着の形成
11 初期経験と発達援助
12 新生児の発達
13 乳幼児期の発達
14 乳幼児期の学びの過程と特性
15 乳幼児期の学びを支える保育

[授業方法]
講義による授業形態。学生に理解を深めさせるために、事例を検討し発表するや、DVD等を用い発達心理学における最新の研究を視覚的に提示する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
小テスト・レポート（50%）
平常点（30%）(平常点：授業参加度、授業態度等)
中間テスト（20%）

[教科書]
「保育の心理」長谷部比呂美・日比暁美・山岸道子　著
(ななみ書房)

[参考書]
「保育を支える発達心理学」鯨岡峻・鯨岡和子著
(ミネルヴァ書房)

[準備学習（予習・復習）]
レポートは、授業に問題意識をもって臨むための予習的なものと、学習した内容を深めるためのものにする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
毎回授業の学習量が多いため、授業の終わりに予習事項を知らせる。毎回予習を持って授業に挑むことが望ましい。

[科　目　名] 子ども家庭支援の心理学
[担当教員名] 林　貴子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_B12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
①生涯発達、②家族・家庭の理解、③子育て家庭に関する現状と課題、④子どもの精神保健とその課題についての知識理解を通して、保育者が子どもとその保護者を含む家庭をどのように理解し支援していくかについての理解を深める。

[学習成果] [B]
生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。
家庭の意義や機能を理解するとともに、発達的な観点から家庭・家族を包括的に捉える視点を習得する。
子育て家庭をめぐる現代の社会的状況や課題について理解する。
子どもの精神保健とその課題について理解する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○	○	○	○			

[授業計画]
1　生涯発達の概念と発達課題
2　乳幼児期から学童期までの発達
3　学童期後期から青年期までの発達
4　成人期、老年期の発達
5　家族・家庭の意義と機能
6　現代の家庭における人間関係
7　子どもの発達と家庭
8　子育てを取り巻く社会状況
9　ライフコースと仕事・子育て
10　子育ての経験と親としての育ち
11　多様な家庭とその理解
12　特別な配慮を要する家庭
13　子どもの心の健康と発達
14　子どもの心の健康と発達
15　子どもの心の健康に関わる問題

[授業方法]
講義による授業形態。内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的な学習を促す。
リフレクションシートを活用し、学習内容の定着を図る。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験　(60%)
小テスト (20%)
提出物及び授業への取組状況 (20%)
[教科書]
「子ども家庭支援の心理学」原信夫・井上美鈴編著
(北樹出版)

[参考書]
随時紹介

[準備学習 (予習・復習)]
テキストを事前に講読してくる。授業内容に関する課題に取り組み、提出する。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科　目　名] 子どもの食と栄養Ⅰ
[担当教員名] 小野内　初美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_B11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
はじめに、栄養学の基礎である栄養生理、栄養素を理解する。さらに、子どもの発育・発達に必要な栄養素と、それらを含む食品、咀嚼・嚥下・消化・吸収機能の発達にともなった、栄養素摂取と食生活を学ぶ。また、保育者として、子どもの食生活上の問題点を考えながら、子どもに適した栄養素摂取や食生活の必要性、子どもが体得した食習慣が成人に達してからの心身の健康に及ぼす影響を認識する。
[学習成果] [B]
子どもに望ましい食習慣を身に付けさせるための、栄養学や食生活の知識を習得し、保育者として子どもや保護者への食生活支援ができる知識が身につく。また、健康であることの大切さを理解し、食育を実践できる知識を習得できる。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○			○	◎		

[授業計画]
1　子どもの健康と食生活の意義
2　子どもを取り巻く食環境と課題
3　栄養に関する基礎知識① (栄養の生理、栄養素の種類と機能)
4　栄養に関する基礎知識② (栄養素の種類と機能)
5　食事摂取基準とその活用、保育所等における献立
6　保育所における食事の提供ガイドライン
7　妊娠のメカニズムと出産、妊娠期・授乳期の食生活
8　乳児期 (乳汁期・離乳期) の発育と食生活
9　幼児期の発育・発達と食生活
10　学童期、思春期の発育・発達と食生活
11　家庭や児童福祉施設における食事と栄養
12　食育の基本と内容及びその環境
13　食育の計画及び評価
14　疾病及び体調不良、障がいのある子どもへの食生活の対応
15　食物アレルギーのある子どもへの対応
保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
[授業方法]
理論を学びながら演習を中心とする。学生が主体的に学べるようにグループ学習や調べ学習を行う。問題点やその解決のための対応について、ディスカッションを取り入れる。単元終了ごとに小テストやレポート作成を行う。アクティブラーニング導入。
産業給食 (企業内) 栄養士、病院栄養士の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。
[成績評価]
筆記試験 (小テスト含む)　(60%)
授業への取組状況 (20%)
レポート等の提出物 (20%)
[教科書]
「新・子どもの食と栄養」岩田章子他編 (みらい)
[参考書]
「保育所における食事の提供ガイドライン」
平成24年3月 (厚生労働省)
「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
(2019年改訂版)」 (厚生労働省)
[準備学習 (予習・復習)]
次回のテーマについて、下調べ等の予習と毎回の授業内容をノートに整理し、復習を行う。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位の学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
子どもの食に関する雑誌、新聞記事等を読むように心がけるとよい。

[科　目　名] 子どもの食と栄養Ⅱ
[担当教員名] 小野内　初美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_B12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
調理を多く取り入れ、食材に触れることにより、「子どもの食と栄養Ⅰ」で学んだ内容に対する理解を深めていく。子どもの発育・発達に適した調理形態の変化、食品選択、食生活を実践的に学ぶ。また、子どもの養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育について理解する。

[学習成果] [B]
調理を通して食材を知り、基本的な調理技術を身につけ望ましい食生活への理解を深めることができる。子どもに望ましい食習慣を身につけさせるための、栄養学や食生活の知識を実践的に習得し、子どもや保護者への食生活支援、食育実践ができる能力が身につく。食事を楽しむ気持ち、健康であることの大切さを理解できる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○			○	◎		

[授業計画]
1　オリエンテーション（実習室の使い方、衛生管理）
2　乳汁栄養（調乳）、乳汁栄養の理解
3　離乳初期（生後5、6か月）
4　離乳中期（生後7、8か月）
5　離乳後期（生後9～11か月）
6　離乳完了期（生後12～18か月）
7　幼児食（1、2才）
8　幼児食（3～5才）
9　学童期の食事
10　間食（おやつ）
11　行事食
12　偏食、食欲不振時の食事
13　食物アレルギー対応の食事①
14　食物アレルギー対応の食事②
15　食育

[授業方法]
演習を中心とするが、実際に食材に触れ、調理を行うことを多く取り入れ、食への関心を高める。テーマごとにレポート作成を行う。アクティブラーニング導入。
産業給食（企業内）栄養士、病院栄養士の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
筆記試験（50%）
レポート等の提出物（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「新・子どもの食と栄養」岩田章子他編（みらい）

[参考書]
「子どもの食と栄養演習ブック」松本峰雄監修
（ミネルヴァ書房）

[準備学習（予習・復習）]
次回のテーマについて、下調べ等の予習と毎回の授業内容をノートに整理し、復習を行う。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位の学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
子どもの食に関する雑誌、新聞記事等を読むように心がけると良い。

[科　目　名] 領域「人間関係」
[担当教員名] 村上　浩美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_C11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
乳幼児期に人とどのようにかかわっていくのかその過程と発達の姿を理解し、人とかかわる力を身につけていくために保育者はどのように保育計画を立て援助すべきかを考える。

[学習成果] [C]
乳幼児期における人と関わる力の発達や幼稚園教育要領・保育所保育指針の「人間関係」の領域に示されている内容や保育者としての保育・指導方法が理解できる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○	○	○	○	○		

[授業計画]
1　今日の人間関係
2　乳幼児期の発達・愛着の形成
3　身近な大人との関わり・受容と応答
4　子どもと保育者との関わり (1) 信頼関係を築く
5　自立と依存
6　遊びと生活の中で人との関わりを育てる
7　子どもと保育者との関わり (2)
子ども同士の関係をつなぐ
8　個と集団の育ち
9　自己主張と自己抑制 (1) 自己主張を支える
10　自己主張と自己抑制 (2) トラブルを通して
11　協同性の育ち
12　道徳性の芽生え・人の役に立つ喜び
13　規範意識の芽生え
14　地域や家庭生活の中で人との関わりを育てる
15　人との関わりを育む幼児教育の今日的課題

[授業方法]
具体的な事例から子どもが人との関わりから何を体験し保育者はどう援助すべきかを考えるようにする。
アクティブラーニング導入。
事例検討しグループ討議することで、子どもの内面や保育者の援助について多様に考えていく。
幼稚園、小学校の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
試験　(70%)
授業への取組状況　(30%)

[教科書]
「事例で学ぶ保育内容　領域人間関係」　無藤隆監修
（萌文書林）

[参考書]
「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

[準備学習（予習・復習）]
授業前に、前回の授業内容を見直しておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
人の考えは様々で、自分とは違った感じ方や考え方に触れることも大切です。グループ討議では、積極的に自分の思ったことや考えたことを発表しましょう。また、他の人の発言を聞く態度も、グループ討議の効果を出すためには重要です。黙って聞いているだけではなく、うなずいたり質問したり同意したりしましょう。

[科　目　名] 領域「健康」
[担当教員名] 星野　秀樹
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_C11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
授業の到達目標及びテーマ
当該科目では、領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。

[学習成果] [C]
乳幼児の心身の健康・発育発達・基本的生活習慣・あそび・安全に関する知識を学習する。さらに運動あそび・伝承あそびの実践を通して指導法を修得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○	○	○	◎		○

[授業計画]
1 健康の定義・幼児期の健康とは
2 健康・安全な生活を送るための環境整備
3 基本的生活習慣とその意義
4 乳幼児期の身体の発育(身長・体重・骨)
5 乳幼児期の身体の発達(生理機能)
6 乳幼児期の体力・運動能力の発達（動きの発達)
7 乳幼児期の運動能力低下の背景
8 乳児期の遊びの実際
9 幼児期の遊びの実際
10 幼児期運動指針のポイントと運動の意義
11 幼児期運動指針における多様な動きとは
12 幼児期のあそびと安全
13 乳幼児期の怪我と疾病
14 リスクとハザードの違いと危険の予測
15 健康のねらいと内容

[授業方法]
講義で理解した内容を演習にて実践する。演習の後は振り返りを行い学んだことについてのさらなる理解ができるようにしていく。

[成績評価]
筆記試験（80%）
指導法修得度（20%）

[教科書]
必要に応じて資料を配布

[参考書]
「演習保育内容健康」（建帛社)
「柳沢運動プログラム」（オフィスエム)
「幼稚園教育要領」
「保育所保育指針」

[準備学習（予習・復習）]
乳幼児の発育・発達について理解するとともに領域「健康」の指導法を受講するための基礎知識を身につける。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)

[備考]

[科　目　名] 領域「言葉」
[担当教員名] 加藤　智子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_C11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育内容の領域「言葉」の指導の基盤となる、発達理解、保育のねらい、内容、指導・援助方法、児童文化財に関する知識と実践力を学ぶ。また、保育者として求められるコミュニケーションの役割や方法を学び、伝える力、聴く力を習得していく。
[学習成果] [C]
領域「言葉」のねらい及び内容を理解すると共に、乳幼児及び障がい児、日本語を母語としない子どもの言葉の発達、援助方法を学習する。さらに、グループ学習、模擬保育を通して、発達にあった児文化財の理解、指導計画の作成、保育実践、保育者として必要なコミュニケーション力が習得できる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	◎	○	○	◎		○

[授業計画]
1　オリエンテーション：言葉とは
2　保育における言葉の発達
3　0歳児の言葉
4　1歳児の言葉
5　2歳児の言葉
6　3歳児の言葉
7　4歳児の言葉
8　5歳児の言葉
9　領域「言葉」のねらい及び内容
10　言葉の発達のサポート
11　日本語を母語としない子どもへのサポート
12　言葉の発達を促す児童文化財（3歳未満児)
13　言葉の発達を促す児童文化財（3歳児以上児)
14　言葉を育てる指導と指導計画（3歳未満児)
15　言葉を育てる指導と指導計画（3歳児以上児)

[授業方法]
教科書及び幼稚園教育要領等を基にし、乳幼児期の子どもの言葉の発達、指導、援助方法についてICTを活用し、具体的事例を紹介しながら講義を行う。また、演習内容として、読み聞かせの発表、課題に対してグループ学習、模擬保育等を行い、実践力を養っていく。
アクティブラーニング導入
幼稚園教諭の実務経験を活かし、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況・提出物（50%)
定期試験（50%)

[教科書]
コンパス　保育内容言葉（建帛社)

[参考書]
「幼稚園教育要領」
「保育所保育指針」
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び各解説書」

[準備学習（予習・復習）]
発表、模擬保育等の準備及び振り返り。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)

[備考]
グループワーク等での積極的な姿勢を期待する

[科　目　名] 領域「表現」
[担当教員名] 伊藤　久美子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_C12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」のねらいと内容をふまえ、ICTを活用しながら、乳幼児の表現の理論、技術、援助方法を習得する。様々な表現活動を体験しながら、保育者として必要な感性や表現力を磨く。

[学習成果] [C]
保育者として必要な感性、表現力、想像力を身につける。子どもの表現活動を理解し、発達に応じた保育計画の立案と援助ができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○	◎		◎	○	

[授業計画]
1 表現とは（子どもの興味・関心を知る）
2 乳幼児の表現とコミュニケーション
3 児童文化と表現（わらべ歌と伝承あそび）
4 作って遊ぶ①（教材研究と計画）
5 作って遊ぶ②（制作・グループ練習）
6 作って遊ぶ③（遊びの展開をグループで発表）
7 自然を楽しむ表現活動
8 絵本を使った表現遊びの方法①（音遊び）
9 絵本を使った表現遊びの方法②（音遊びの発表）
10 体を使った表現遊び（リトミック）
11 様々な舞台表現と子どもの感性の発達
12 舞台表現の実践①（サンドアートの構想を練る）
13 舞台表現の実践②(サンドアートの発表準備と練習)
14 舞台表現の実践③（サンドアートの発表）
15 援助・指導方法の検討（指導計画の立案）

[授業方法]
実際に保育現場で行われている表現遊びや子どもの姿を考えながら、子どもの立場になって表現の楽しさを体感し、子どもの表現活動の理解を深める。
グループワーク、グループディスカッション等を取り入れ、新たな表現方法を研究し、実践を通して応用力を身につけていく。アクティブラーニング導入。
幼稚園での実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
提出作品・レポート提出・発表内容（70%）
製作過程（計画性・積極性・授業への取組状況等）（30%）

[教科書]
「音楽と語りで夢を育む絵本ケア」真下あさみ編著（三恵社）

[参考書]
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

[準備学習（予習・復習）]
（予習）保育雑誌などを参考に、1時間程度かけ作品の構想を考えておくこと。また、人前で発表する際は2時間程度かけ事前の練習をしっかり行うこと。
（復習）振り返りレポートの提出
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日頃から様々な事象に触れ、想像力を働かせるように意識すること。
考えや思いを心の中に秘めるだけではなく、外に表し、他者とのコミュニケーションを深めていけるように心がけること。

[科　目　名] 領域「環境」の指導法
[担当教員名] 今村　光章
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_C11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
幼稚園教育要領に示されているように、幼稚園教育における領域「環境」では、周囲の様々な自然環境、社会環境に好奇心と探究心をもって幼児がかかわろうとし、それを生活に取り入れていく力を培うことを目指している。この基本的な方向性をしっかりと把握し、領域「環境」のねらいと内容を学ぶとともに、その背景となる専門的な知識を身につけ、子どもの発達に即して、主体的かつ対話的な深い学びができるような具体的な指導ができる保育援助技術と考え方を身につける。

[学習成果] [C]
幼稚園教育要領の基本、および、幼稚園教育においてはぐくみたい資質と能力を理解する。また、具体的な指導場面を想定して領域「環境」の保育を構想する知識と考え方、保育援助技術を身につける。さらに、領域「環境」のねらいと内容を理解しながら、保育者として幼児が環境にかかわる活動の意義を理解することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
				○	◎		○

[授業計画]
1 幼稚園教育とは何か：幼稚園教育要領について
2 環境とは何か：自然と環境という用語をめぐって
3 領域「環境」とは何か：領域と教科との違い
4 子どもの育ちと現代の生活環境
5 環境へのかかわり方と子どもの発達
6 子どもの活動を引き出す保育環境
7 物とのかかわりにおける子どもの育ち
8 動植物とのかかわりにおける子どもの育ち
9 自然や季節とのかかわりにおける子どもの育ち
10 幼児期の自然体験教育と環境教育について
11 地域社会や施設とのかかわりにおける子どもの育ち
12 情報環境とのかかわりにおける子どもの育ち
13 数量・図形への興味と認識の育ちと指導法
14 文字・標識への興味と認識の育ちと指導法
15 子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割

[授業方法]
講義では、様々な環境の意義を理解できるようにする。
演習では、アイスブレイクやグループワークを採り入れて、環境構成の方法と保育における援助技術について学ぶ。
アクティブラーニングを積極的に導入する。

[成績評価]
小テスト（50%）
レポート（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「保育内容 環境」榎沢良彦・入江礼子編著（建帛社）
「平成29年告示　幼稚園教育要領」チャイルド本社

[参考書]
「幼児理解の現象学」矢野智司（萌文書林）

[準備学習（予習・復習）]
毎時間後に示すレポートを提出すること。また、次の授業までには、1時間程度前回の授業の内容を見直しておくこと。また、関連する内容の情報を自分で探し、問題意識を高めて授業に臨むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日ごろから動植物に目を向けましょう。

[科　目　名] 領域「健康」の指導法
[担当教員名] 星野　秀樹
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_C12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
領域「健康」は「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指すものである。
幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

[学習成果] [C]
乳幼児の心身の健康・発育発達・基本的生活習慣・あそび・安全に関する知識を学習する。さらに運動あそび・伝承あそびの保育実践とその映像を視聴し客観的に評価する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	○	○	○		◎	○	○

[授業計画]
1 健康のねらいと内容
2 内容の具体的事例
3 幼児の生活習慣の獲得
4 領域「健康」と保健体育との連続性
5 幼児の運動能力調査方法と評価
6 伝承あそびの指導案作成
7 伝承あそびの保育実践（けん玉・コマ回し）
8 伝承あそび保育実践（竹馬）
9 鉄棒あそびの指導案作成
10 鉄棒あそびの保育実践
（すずめ、前回り、ぶたの丸焼き）
11 鉄棒あそびの保育実践
（えんとつ、地球回り、逆上がり）
12 跳び箱を使った遊びの指導案作成
13 跳び箱を使ったあそびの保育実践
14 保育実践時の映像を用いての振り返り
15 保育実践時の映像に基づいた保育方法へのフィードバック

[授業方法]
講義で理解した内容を演習にて実践する。演習の後は振り返りを行い学んだことについてのさらなる理解ができるようにしていく。

[成績評価]
指導案（50%）
実践指導の評価（50%）

[教科書]
必要に応じて資料を配布

[参考書]
「演習保育内容健康」（建帛社）
「柳沢運動プログラム」（オフィスエム）
「幼稚園教育要領」
「保育所保育指針」

[準備学習（予習・復習）]
あそびについて体験はもちろん、自身が見本を見せられることを目標とし、授業時間内に修得できない場合は自主練習とし、達成まであきらめずに取り組むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 音楽表現指導法
[担当教員名] 山本　雅士・国藤　真理子・玉田　裕人
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_C12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
子どもの生活と遊びを豊かに展開するために音楽の基礎的な知識・技能を身につける。子どもの豊かな感性を引き出すために歌、楽器などを用いて保育現場での表現活動に展開できる音楽表現を学ぶ。

[学習成果] [C]
様々な表現を感じる・見る・聴く・楽しむことを通してイメージし保育現場における「音楽」表現の可能性を深め習得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	○	◎	◎	○	◎	◎	○

[授業計画]
1 保育における音楽表現の概念
2 楽器編成と各楽器の特性を学ぶ
3 楽器実技1（楽器奏法基礎）
4 楽器実技2（合奏奏法基礎）
5 楽器実技3（音楽表現法基礎）
6 楽曲の簡易編曲
7 楽器実技発表
8 歌唱（童唄・唱歌の楽曲研究） 1
9 歌唱（童唄・唱歌の楽曲研究） 2
10 グループに分かれて音楽表現を中心とする実践発表1
11 グループに分かれて音楽表現を中心とする実践発表2
12 グループに分かれて音楽表現を中心とする実践発表3
13 グループに分かれて音楽表現を中心とする実践発表4
14 グループに分かれて音楽表現を中心とする実践発表5
15 振り返りとレポート提出

[授業方法]
グループ指導
アクティブラーニング導入

[成績評価]
実技発表評価（50%）
授業の取組状況（30%）
音楽活動の内容と提出した活動計画（20%）

[教科書]
幼児のための表現指導「うたって，つくって，あそぼう」
教材プリント配布

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
音楽指導案の作成、演習の準備
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 乳児保育Ⅰ
[担当教員名] 柴田　法子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_C11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
3歳未満児の発育・発達の過程や、特性を踏まえた援助や関わり方を学び、保育者の役割を知る。
乳児保育の歴史、意義や必要性について学び、保育所や保育所以外の乳児保育を知る。

[学習成果] [C]
3歳未満児の発育・発達や保育所での生活について理解し、乳児保育に必要な知識を習得することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○			◎	○		○

[授業計画]
1　乳児保育の意義・目的
2　乳児保育の歴史的変遷
3　乳児保育の役割と機能
　乳児保育のおける養護及び教育
4　乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる
　社会的状況と課題
5　保育所における乳児保育
6　保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における
　乳児保育
7　地域型保育における乳児保育
8　3歳未満児とその家族を取り巻く環境と子育て支援
9　3歳未満児の生活と環境
10　3歳未満児の遊びと環境
11　3歳以上児の保育に移行する時期の保育
12　3歳未満児発育・発達を踏まえた保育士等による
　援助や関わり
13　3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮
14　乳児保育における計画・記録・評価
15　乳児保育における職員間の連携・協働

[授業方法]
テキストや視聴覚教材を使用し、乳児の発達や保育内容について講義を行う。
保育者や保護者など様々な面から乳児保育を考え、グループディスカッションをしていく。
アクティブラーニング導入。
保育士・幼稚園教諭の実務経験あり、実践的な関わり方、ふれあい遊びや手遊び等も授業に取り入れていく。

[成績評価]
試験（70%）
課題や授業への取組状況（30%）

[教科書]
「新基本保育シリーズ⑮乳児保育Ⅰ・Ⅱ」
寺田清美編集（中央法規）

[参考書]
「保育所保育指針」（フレーベル館）

[準備学習（予習・復習）]
前回の復習、テキストの該当範囲を読み予習しておくこと。
授業後はノートをまとめたり見直したりし、理解を深めておくこと
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学習時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 障がい児保育
[担当教員名] 上島　遥
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_C11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
・「障がい」とは何を指すのか、どう捉えるのか、について基礎的な知識とあわせてその視点を学ぶ。
・障がい児とその家族の気持ちを知り、その思いに寄り添った支援について学ぶ。
・障がい児の「生活」や「遊び」に重点を置いた、保育者としての支援のあり方について学ぶ。
・障がい児に関わる療育施設での取り組みや、保育所、幼稚園などでの保育実践、またそれぞれの役割や連携について学ぶ。

[学習成果] [C]
乳幼児期の子どもは、「障がい」がはっきりしている場合だけでなく「ちょっと気になる」という段階から子どもの特徴に寄り添った支援が必要である。障がい児の専門施設はもちろん、保育所や幼稚園などで保育者としての力を発揮するための理解を深めることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎			◎	○		

[授業計画]
1　障がい児保育を学ぶ意義、障がい児保育の目的
2　障がい児保育を取り巻く歴史的変遷
3　障がいの基礎知識（自閉症スペクトラム）
4　障がいの基礎知識（ＬＤ、ＡＤＨＤ）
5　障がいの基礎知識（発達の遅れ、知的障害）
6　障がいの基礎知識（視覚障害）
7　障がいの基礎知識（聴覚障害）
8　障がいの基礎知識（運動障害）
9　障がいの基礎知識（医療的ケアの必要な子ども）
10　障がいの発見と対応（乳幼児健診と親子教室）
11　障がい児のための専門施設（通所、入所）
12　家族への支援（親の思いを知る、家族支援の実際）
13　幼稚園・保育所における障がい児保育
14　進路選択、移行支援について（就園・就学）
15　障がい児と家族を支える福祉サービス

[授業方法]
教科書を中心とした講義に加えて、障がい児の困り感や支援方法について、グループワーク等の体験的な授業を展開する。また、家族の気持ちに寄り添うことを目的とした、事例の紹介やＤＶＤ視聴等も取り入れていく。
アクティブラーニング導入。
障害児通園施設（現：児童発達支援センター）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
試験（70%）
課題の提出、発表等の取組状況（30%）

[教科書]
「テキスト障害児保育」
近藤直子・白石正久・中村尚子編（全障研出版）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
授業ごとの要点を、自分の言葉で説明できるように復習すること。次の授業開始時に確認を行います。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]

[科　目　名] 国語表現法
[担当教員名] 保科　潤一
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_C12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
保育者として必要とされる国語表現を中心に学ぶ。文章・実習日誌・指導案・実習礼状・小論文など、あらゆる国語表現について学習する。特に小論文を中心として基本的かつ正確な国語表現を確実に身につけることを目的とする。

[学習成果] [C]
保育者としての国語表現の基礎を習得することにより、保育現場における実務力、保護者への対応力、子どもに対する言葉の指導力を高めることができる。また、日本語に対する子どもの興味関心を高めるための保育内容を考えていく力を身につけることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○	○		○	○		

[授業計画]
1　保育者としての国語の基礎力
2　会話表現基礎・・・挨拶・敬語
3　会話表現応用・・・保育者の発声・自己紹介
4　文章表現基礎・・・正しい文章の書き方
5　文章表現基礎・・・正しい現代表記
6　文章表現応用・・・はがき・手紙の書き方
7　文章表現応用・・・履歴書の書き方
8　文章表現応用・・・実習日誌の書き方
9　文章表現応用・・・事務文書の書き方
10　文章表現応用・・・小論文の基礎Ⅰ
11　文章表現応用・・・小論文の基礎Ⅱ
12　文章表現応用・・・小論文の実践　Ⅰ
13　文章表現応用・・・小論文の実践　Ⅱ
14　文章表現応用・・・文章作成の口頭発表Ⅰ
15　文章表現応用・・・文章作成の口頭発表Ⅱ

[授業方法]
講義により知識、基本的な技術について学ぶ。その後、毎時間のワークシートによる実践学習により、国語の基礎実践力を確実に習得していく。会話学習については、対話形式により、聴きあうこと、発話していくことを相互に学んでいく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
筆記試験（50%）
レポート等提出物（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「保育者になるための国語表現」田上貞一郎著
(萌文書林)

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
漢字テストの準備
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 子ども音楽ⅠA
[担当教員名] 国藤 真理子・玉田 裕人・伊藤 真理子・倉田 弓・天石 佐保子・松浦 晴美・大橋 昌代
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_C11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な基礎的ピアノ技術及び音楽理論、知識の習得を図る。季節や行事にあわせた「童謡」や「わらべ歌」のレパートリーを増やすことで、保育現場で必要とされる豊かな表現力を養う。

[学習成果] [C]
保育現場で必要とされる、基礎的ピアノ技術及び伴奏・弾き歌いの習得を目指す。それらを習得するため、チェックシートを用い、目標を立てて講義に臨む事で、保育者に必要な主体性や計画性、思考力や豊かな表現力も同時に養う。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○			○		◎	○	○

[授業計画]
1　授業説明、ピアノ経験実態調査、実技指導
2　標準バイエルピアノ教則本№3～、楽典（譜表）
3　〃　、楽典(高音部記号、低音部記号)
4　〃　、楽典(音名・階名)、弾き歌い
5　〃　、楽典(音符と休符)、弾き歌い
6　〃　、楽典（音程）、弾き歌い
7　〃　、楽典（拍子記号）、弾き歌い
8　〃　、楽典（付点のリズム）、弾き歌い
9　〃　、グループ別実技発表会
10　〃　、楽典（反復記号）、弾き歌い
11　〃　、楽典（3連符）、弾き歌い
12　〃　、楽典（装飾音）、弾き歌い
13　〃　、楽典（強弱記号）、弾き歌い
14　実技発表会
15　標準バイエルピアノ教則本№3～、楽典（臨時記号）、弾き歌い

[授業方法]
1クラスを7～8名のレベル別グループに編成し、一人ひとりの進度に合わせた個別指導を行う。次の授業までに、チェックシートと音楽の基礎学習プリントの課題をこなし提出する。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況(60%)、実技発表評価（30%）
自主練習の取組（チェックシート）（10%）

[教科書]
標準バイエルピアノ教則本併用曲付(全音楽譜出版社)
こどものうた100（チャイルド本社）
うたって、つくって、あそぼう（音楽之友社）
教材プリント配布

[参考書]
楽譜がスラスラ読める本（永岡書店）
「ブルグミュラー25の練習曲」（全音楽出版社）

[準備学習（予習・復習）]
自主練習　毎日30分(初心者は1時間以上が好ましい)
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
この科目は、日々の積み重ねが非常に大切です。努力をすれば、必ずピアノが弾けるようになります。

[科　目　名] 子ども音楽ＩＢ
[担当教員名] 国藤 真理子・玉田 裕人・伊藤 真理子・倉田 弓・天石 佐保子・松浦 晴美・大橋 昌代
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_C12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
子ども音楽ＩＡに引き続き、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な基礎的ピアノ技術及び音楽理論、知識の習得を図る。季節や行事にあわせた「童謡」や「わらべ歌」のレパートリーを増やすことで、保育現場で必要とされる豊かな表現力を養う。

[学習成果] [C]
保育現場で必要とされる、基礎的ピアノ技術及び伴奏・弾き歌いの習得ができる。それらを習得するため、チェックシートを用い、目標を立てて講義に臨む事で、保育者に必要な主体性や計画性、思考力や豊かな表現力も同時に養う。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○			○		◎	○	○

[授業計画]
1　授業説明、グループ分け、実技指導
2　標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い
3　〃　、楽典(長調と短調)、弾き歌い
4　〃　、楽典(同名調)、弾き歌い
5　〃　、楽典(平行調、移調)、弾き歌い
6　〃　、楽典（オクターブ記号）、弾き歌い
7　〃　、楽典（複付点音符）、弾き歌い
8　〃　、楽典（発想記号）、弾き歌い
9　〃　、グループ別実技発表会
10　〃　、楽典（ハ長調の主和音）、弾き歌い
11　〃　、楽典（ヘ長調の主和音）、弾き歌い
12　〃　、楽典（ト長調の主和音）、弾き歌い
13　〃　、楽典（色々な指使い）、弾き歌い
14　実技発表会
15　標準バイエルピアノ教則本 、楽典（演奏上の諸記号）、弾き歌い

[授業方法]
1クラスを7～8名のレベル別グループに編成し、一人ひとりの進度に合わせた個別指導を行う。次の授業までに、チェックシートと音楽の基礎学習プリントの課題をこなし提出する。アクティブラーニング導入。
[成績評価]
授業への取組状況(50%)、授業の進度（30%）
実技発表評価（10%）
自主練習の取組〈チェックシート）（10%）

[教科書]
標準バイエルピアノ教則本併用曲付(全音楽譜出版社)
こどものうた100（チャイルド本社)
うたって、つくって、あそぼう（音楽之友社)
教材プリント配布

[参考書]
楽譜がスラスラ読める本（永岡書店)
「ブルグミュラー25の練習曲」（全音楽出版社)

[準備学習（予習・復習）]
自主練習　毎日30分(初心者は１時間以上が好ましい)
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)

[備考]
この科目は、日々の積み重ねが非常に大切です。努力をすれば、必ずピアノが弾けるようになります。

[科　目　名] 造形表現指導法
[担当教員名] 上山　明子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_C12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
材料の選択、道具の取り扱い、活動場所の設定など具体的に考え模擬保育を行うなど、造形分野の保育力を高める。また保育者が求められる表現力を実践的に学ぶ。
[学習成果] [C]
幼児の造形表現の理解を深めるとともに、造形表現を指導する力を身につけることができる。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎

[授業計画]
1　幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本と造形表現のねらい・内容
2　幼児の表現の発達　自由な視点から見た絵画表現について
3　表現の原理（色彩心理学、線と面)
4　素材研究（絵の具）絵の具の基礎的理解と幼児を対象とした技法の試作制作
5　素材研究（絵の具）技法研究の振り返りまとめ（情報機器と教材の活用)
6　幼児の表現の発達　単純な形から生まれる豊かな立体表現
7　素材研究（粘土、木材、紙など）の基礎的理解と幼児を対象とした技法の試作制作
8　素材研究（粘土、木材、紙など）の技法研究の振り返り・まとめ
9　素材研究（版画（転写））の基礎的理解と幼児を対象とした技法の試作制作
10　素材研究（版画（転写））の技法研究の振り返り・まとめ
11　指導案作成と模擬保育
12　協動しての表現季節や行事、文化を反映させた壁面デザイン創作
13　協動しての表現季節や行事、文化を反映させた壁面デザイン創作・展示
14　作品鑑賞と子どもの造形活動方法の理解
15　子どもの発達に合わせた指導計画の理解と保育の評価
[授業方法]
具体的なイメージを持って制作に取り組めるよう、各単元の始めに主要な素材、用具・技法を理解し、習作から本作へと進める。作品発表・意見交流・模擬授業など適宜行う。
[成績評価]
授業への取組状況
事前準備、保育者としての適応性（50%）
提出物の充実度（50%）
[教科書]
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園・保育要領」
[参考書]
適宜プリント配布
[準備学習（予習・復習）]
予習として次回課題のアイデアを練る、資料収集、道具準備を行う。復習として次回講義にプリント・レポート提出。（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)
[備考]
・指示された準備物は忘れずに持ってくること。
・実習では服を汚すことがあるので、対応できる服装をすること。またはエプロン等をすること。
・片づけ掃除を含めて授業です。後の人のことを考えて責任を果たすこと。

[科　目　名] リズム表現指導法
[担当教員名] ほり　みか
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード]IE10_C12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
幼児期に感受性を高め、表現力豊かで健康亭な生活を送るために、保育の中で何をどう取り組むべきかを工夫する。
そのための環境作り、準備、リズム遊び、リズム表現の教材を作成、使用、実習を行う。

[学習成果] [C]
健康的で安全な環境を作り、またそのための気配りができるようにする。幼児が楽しみながら健康、リズム感、表現力、運動能力を向上できる方法を知る。
グループワークを通し、協調性、リーダーシップ、考える力、を養うことができる。
就職後に役立つスキルを習得することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
			◎		◎		

[授業計画]
1　オリエンテーション、自己紹介(大勢の前での表現)、お遊戯振付体験
2　基礎トレーニング①　リズム遊び①
3　リズム・ステップ・体の使い方の基礎①　リズム遊び②
4　リズム・ステップ・体の使い方の基礎②　リズム遊び②
5　身体表現　色々な動き・ステップの習得
6　身体表現　きちんと踊る・カウントを習得①
7　身体表現　きちんと踊る・カウントを習得②
8　リズム表現の基礎　構成・振付を学ぶ①
9　〃　②
10　〃　③
11　作品制作①　幼児にとって発表の意義を学ぶ、選曲
12　作品制作②　構成、振付を学ぶ
13　作品制作③　振付をする、衣装小道具をかが得る
14　作品制作④　スキルアップ
15　作品制作⑤　発表・他の作品を評価する

[授業方法]
演習
身体表現・リズム運動・振付の基礎の習得
グループワークでの作品制作
アクティブラーニング導入
幼稚園教諭・舞台振付家の実務経験を生かし、実践的で効果的な作品制作の方法を学ぶ。

[成績評価]
共同制作作品評価 (60%)
実技小テスト (30%)
協調性、リーダーシップ、授業への取組状況(10%)
[教科書]
特になし
[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]
学んだストレッチを日常化し、健康的な体を作る。
休暇時に舞台・美術など芸術に触れ見識を深める。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
運動のできる服装に着替える事。
バレエシューズを購入していただきます。
(参考)
https://note.com/final_onigiri/n/n58a846f257c1

[科　目　名] 総合表現Ⅰ
[担当教員名] 国藤 真理子・ほり みか・山本 雅士・玉田 裕人
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_C12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育における音楽表現、身体表現を中心とした総合的な表現の基礎を身につける。音楽劇、アンサンブル、子どもの歌、楽器、などを通して幅広く表現を学ぶ。

[学習成果] [C]
音楽の身体の表現力を高め人前で発表する対応力、応用力を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

[授業計画]
1　総合表現の概念
2　音楽理論
3　言葉と音符とリズムの基礎
4　歌と身体とリズムの基礎
5　歌と楽器の表現
6　音楽表現と身体表現１
7　音楽表現と身体表現２
8　表現の映像を鑑賞 (レポート提出)
9　アンサンブル１
10　アンサンブル２
11　アンサンブル３
12　合奏・マーチング・歌唱・振り付け　1
13　合奏・マーチング・歌唱・振り付け　2
14　合奏・マーチング・歌唱・振り付け　3
15　総合的表現の発表及びレポート提出

[授業方法]
グループおよび個人指導・体験学習と振り返り。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
実技発表 (70%)
授業の取組状況 (30%)

[教科書]
教材プリント配布

[参考書]
随時紹介

[準備学習 (予習・復習)]
次回の授業の内容を見直し、問題意識を持って臨むこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科　目　名] レクリエーション理論
[担当教員名] 岡田　摩紀
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　　[科目コード] IE10_C11
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 講義

[授業概要]
本講義では、レクリエーション理論としてのレクリエーションとは何かを考え、指導から支援への考え方の変化、集団を中心に一方に個人、また子どもたちとのコミュニケーションのとり方、遊び方などをテーマにレクリエーションの基礎を学習することを目的とする。

[学習成果] [C]
ホスピタリティートレーニングとアイスブレーキングを通して、個人や集団とのコミュニケーションをとる能力、集団のコミュニケーションを促進する方法を身につけることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○	◎	○	○		

[授業計画]
1 オリエンテーション
2 アイスブレーキング法
(道具を使わないレクリエーション)
3 福祉とレクリエーション・クラフト製作
4 子どもとレクリエーション・自然活動
5 障害児とレクリエーション・ものづくり
6 レクリエーション支援の理論
7 レクリエーション組織の経営論
8 市町村レク協会の役割 (ポスター作り)
9 季節に合ったレクリエーション
10 レクリエーション指導法
11 レクリエーション；サービス論遊びを実施する
12 レクリエーション案の発表 1.2.3グループ
13 レクリエーション案の発表 4.5.6グループ
14 レクリエーション案の発表 7.8.9グループ
15 まとめ

[授業方法]
内容によっては演習形式をとることもある。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験 (70%)
課題提出 (20%)
授業への取組状況 (10%)

[教科書]
授業内で参考資料を配布

[参考書]
「レクリエーション支援の基礎」楽しさ・心地よさを活かす理論と技術 (日本レクリエーション協会)
「楽しいをつくる」やさしいレクリエーション実践 (日本レクリエーション協会)

[準備学習 (予習・復習)]
地域等でのレクリエーション活動に関心を持つ。積極的に事業参加に取り組むこと。グループワークを取り入れる事が多いので、自ら積極的に行い事前準備や授業後に復習しておくとなお良い。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
楽しく学べる授業展開です。
一緒にレクリエーションの世界を学びましょう。

[科　目　名] レクリエーション実技
[担当教員名] 岡田　摩紀
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　　[科目コード] IE10_C12
[単　位　数] 1単位　　[授業形態] 実技

[授業概要]
指導演習により、対象にあわせたアレンジ、活動領域にあわせたアクティビティを指導体験する。

[学習成果] [C]
ホスピタリティートレーニングとアイスブレーキングを通して、個人や集団とのコミュニケーションをとる能力、集団のコミュニケーションを促進する方法を身につけることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○			○	◎	◎	

[授業計画]
1 オリエンテーション
2 ニュースポーツ (アルティメット)
3 ペタンク
4 グランドゴルフ
5 3サークルA (大縄、キャッチザスティック、大縄)
6 ネイチャーゲーム (稲沢公園)
7 インディアカ
8 3サークルB
(スラックライン、クロリティー、ラダーゲッター)
9 キンボール
10 ネイチャーゲーム (自然観察)
11 ウォークラリー作成
12 ウォークラリー完成
13 スポーツてんか
14 バルーンアート・つみき体験
15 活動まとめ

[授業方法]
実技主体で、作ったり体験したり発表を行う。
作品を作り、完成した達成感を味わう。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験 (70%)
課題提出 (20%)
授業への取組状況 (10%)

[教科書]
授業内で参考資料を配布

[参考書]
「レクリエーション支援の基礎」楽しさ・心地よさを活かす理論と技術 (日本レクリエーション協会)
「楽しいをつくる」やさしいレクリエーション実践 (日本レクリエーション協会)

[準備学習 (予習・復習)]
積極的に事業参加に取り組むこと。グループワークを取り入れる事が多いので、自ら積極的に行い事前準備や授業後に復習しておくとなお良い。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
レクリエーション実技では、様々なニュースポーツを紹介します。運動が苦手、嫌いと言うイメージが強い方でもスポーツの楽しさを学ぶ事が出来る授業です。

[科　目　名] レクリエーション現場実習
[担当教員名] 星野　秀樹
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年全期　[科目コード] IE10_C19
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要・到達目標]
レクリエーション理論・レクリエーション実技での学習を踏まえ、実際に開催されているイベントに参加することにより、主催者・参加者の双方の立場を体験する。
資格取得後に自身がイベントの立案・準備・運営を行う企画者としての基礎を養うことを目的とする。

[学習成果] [C]
事業参加を通してレクリエーションイベントの参加者との交流・楽しむ態度を経験し、指導参加ではイベントの運営・スタッフの活動の実際を理解し、授業で体得したことを実践する機会を得ることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	◎		○	◎	○		○

[授業計画]
1　レクリエーション協会から認定されたイベントに自ら参加し、実習を行う。イベントの大半は週末に予定されているため、授業時間外となるので、学生は各自で時間調整を行い遅刻や無断欠席をすることのないように注意する。

2　本学では学校行事の中でレクリエーション選択者による子供向けイベントを義務付けている。イベントの企画・運営・評価を行うことにより、将来レクリエーションインストラクターとして活動してゆく際にリーダーシップを発揮するための基礎を培う。

3　現場実習はホスピタリティートレーニング、アイスブレーキングの技術を体験できる場となるため、学内での授業で習得したことを実践する。

この科目はレクリエーションインストラクター資格取得に必修である。実習には事業参加、指導参加の２種類があり、必ず双方に参加しなければならない。

[授業方法]
愛知県レクリエーション協会が指定するレクリエーションイベントに各自で参加申込をし、実習を行う。
各イベントについては授業・掲示にて案内する。
実習終了後は指定の用紙を使用してレポートを提出すること。

[成績評価]
実習レポート(80%)
実習参加態度(20%)
[教科書]
必要に応じて資料を配付
[参考書]
「レクリエーション支援の基礎」楽しさ・心地よさを活かす理論と技術（日本レクリエーション協会）
「楽しいをつくる」やさしいレクリエーション実践（日本レクリエーション協会）

[準備学習（予習・復習）]
愛知県内で開催されるレクリエーションイベントについて事前に調査しておくこと。現場実習へ参加に際しては当該イベントの目的・内容を十分に理解し、円滑な運営に協力すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
保育実習Ⅰ(学外)にて2/3単位を履修すること。

[科　目　名] こども音楽療育概論
[担当教員名] 松浦　晴美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_C11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
講義形式で、障がいのあるこどもの音楽療育に関する基礎知識・専門知識、具体的には、こどもの心身の発達過程と音楽的発達の関係、音楽と遊びの関係、音楽療育の意義と障害種別の具体的援助方法などを学んでいく。

[学習成果] [C]
こどもの心身の発達、音楽的発達、心身の発達と遊びの関係を理解することができる。
障がい児保育、統合保育、通常保育における音楽の意義について理解できる。
障がい種別音楽療育の意義と具体的援助方法について理解できる。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	◎	○	○	◎	◎	○	

[授業計画]
1　オリエンテーション、音楽療法、音楽療育の意義と必要性
2　こどもの心身の発達、音楽療育のテクニック1（援助や声の使い方）
3　こどもの心身の発達、音楽療育のテクニック2（行動分析的な手法）
4　こどもの心身の発達、音楽療育のテクニック3（行動分析的な手法）
5　こどもの心身の発達、音楽療育のテクニック4（環境作り）
6　音楽療育におけるアセスメント
7　音楽療育の計画方法
8　音楽療育の評価方法
9　音楽療育における音楽の役割・機能、実践例（視覚障がい・聴覚障がい）
10　音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例（身体障がい、重複障がい）
11　音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例（ダウン症、知的障がい）
12　音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例（自閉症）
13　課題発表
14　課題発表
15　まとめ

[授業方法]
講義が主体だが、ＤＶＤ視聴、こどもの歌を歌う、ロールプレイなどを交えて行っていく。音楽療法、音楽療育の実務経験があり、発達支援に向けた実践的な音楽の活用方法を紹介しながら授業を行う。
アクティブラーニング導入。
[成績評価]
試験（40%）
授業、課題への取組状況（30%）
課題提出（30%）

[教科書]
「音楽療法の必須100曲：子ども編」（あおぞら出版社）
[参考書]
[準備学習（予習・復習）]
授業後には30分程度課題に取り組み、授業内容に対する理解を深める。毎日15分以上、自主的に弾き歌いの練習をする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
この科目は課題が多いです。課題提出遅れは減点になるので注意しましょう。

[科　目　名] こども音楽療育演習
[担当教員名] 松浦　晴美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_C12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
楽器の使い方、伴奏の方法を学び、また子ども向けの曲のレパートリーを広げるために練習する。障がい種別、形態別の活動例を実際にロールプレイで行う。それを踏まえ、実際に学生自身が活動内容を計画してロールプレイで行う等の活動も行う。

[学習成果] [C]
こどもに対する音楽療育活動を行うための音楽的技術を修得することができる。
こどもに対する音楽療育活動を行うための療育的な援助技術を修得することができる。
障がい種別、形態別の音楽療育の具体的な方法を身につけることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	○	◎	◎	◎	

[授業計画]
1　オリエンテーション、楽器の紹介、鳴らし方などを学ぶ、曲の割り当て
2　こどもを対象とした音楽療法（音楽療育）について、こども向けの曲の練習
3　身体障がい児を対象とした音楽療育活動、こども向けの曲の練習
4　知的障がい児を対象とした音楽療育活動、こども向けの曲の練習
5　感覚障がい児を対象とした音楽療育活動、こども向けの曲の練習
6　ダウン症のあるこどもを対象とした音楽療育活動、こども向けの曲の練習
7　自閉症のあるこどもを対象とした音楽療育活動、こども向けの曲の練習
8　身体障がい児を対象とし、手順について考えながら、歌唱、楽器、身体運動などの活動を行う
9　知的障がい児を対象とし、手順について考えながら、歌唱、楽器、身体運動などの活動を行う
10　感覚障がい児を対象とし、手順について考えながら、歌唱、楽器、身体運動などの活動を行う
11　ダウン症のあるこどもを対象とした音楽活動を計画し、実際にロールプレイを行う
12　自閉症のあるこどもを対象とした音楽活動を計画し、実際にロールプレイを行う
13　自閉症のあるこどもを対象とした音楽活動を計画し、実際にロールプレイを行う
14　課題の発表、評価
15　課題の発表、評価

[授業方法]
毎回、ロールプレイを行うが、講義も少しずつ取り入れて授業を行う。ロールプレイでは、こども役など各役割を必ず担当する。また、ロールプレイ後、意見を交換し合って技術を高めていく。音楽療法、音楽療育の実務経験があり、授業では発達支援に向けた実践的な音楽の活用方法を紹介する。　アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（50%）、提出課題（20%）
音楽療育活動の内容と提出した活動計画（30%）

[教科書]
「音楽で育てよう：子どものｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・ｽｷﾙ」（春秋社）

[参考書]
「音楽療法の必須100曲：子ども編」（あおぞら出版社）

[準備学習（予習・復習）]
活動計画立案、ピアノ伴奏練習、教科書の予習などに、30分程度取り組む。授業後には20分程度、自己評価、観察記録を記入し、音楽療育の技術向上を目指す。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] こども音楽療育実習
[担当教員名] 国藤　真理子・玉田　裕人・朴　賢晶・星野　秀樹・松浦　晴美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_D12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
音楽療育を実践するための知識と技術を、実習等を通して総合的に活かして実践できようにする。実際にこどもの音楽行動を観察しながら、発達支援に向けた音楽の活用法や対応方法などを実践的に学んでいく。

[学習成果] [D]
障がいのあるこどもたちと関わりを持つことができる。
療育や保育において発達を援助するための効果的な音楽の使用方法を理解する。
心身の発達過程と音楽的発達の関係を体験的に理解することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	◎	○	◎	◎	◎	◎	○

[授業計画]
1　オリエンテーション
こども音楽療育実習の目的を理解する
2　実習に参加する態度の確認
実習する施設や団体についての紹介
各担当者の役割を確認
3～8
本学主催「おねえさんとあそぼう」（障がい児とその親で構成されたグループ）観察実習・見学実習
9～12
学外障がい児施設での観察実習・見学実習
13　こども音楽療育活動計画立案、学内練習
14　本学主催「おねえさんとあそぼう」（障がい児とその親で構成されたグループ）でこども音楽療育実施
15　自己評価に基づく課題の明確化

実習期間については「こども音楽療育演習」の開講と並行して行う場合があり、授業の進行は状況に応じて、シラバスから変更されることがある。

[授業方法]
障がいのあるこどもたちの音楽行動から、こどもたちの発達の状態をみる。また、こども音楽療育の活動の流れを把握する。こども音楽療育士担当者は活動計画を立案する。各担当者は計画に基づいて練習し、実践する。
実習後に実習記録・自己評価を提出する。

[成績評価]
実習の取組状況（70%）
実習記録・自己評価（30%）

[教科書]
必要に応じて資料を配布

[参考書]
「音楽療法の必須100曲：子ども編」（あおぞら音楽社）
「音楽で育てよう：子どものコミュニケーション・スキル」（春秋社）
「こどものうた100」（チャイルド本社）
「うたって、つくって、あそぼう」（音楽之友社）

[準備学習（予習・復習）]
こどもの障がいや心身の発達と遊びとの関係、基礎的音楽知識についてなど「概論」「演習」で学んだ内容をよく復習しておくこと。こども音楽療育担当者は、グループ内でよく話し合い事前に練習しておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
活動計画や実習記録などの提出遅れ等は減点となるので注意すること。

[科　目　名] 短期海外保育研修
[担当教員名] 赤塚　徳子・山崎　宜久
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_D12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
ニュージーランドにおいて、保育実習や語学研修を行う。グローバルな視野をもち、幼児教育への知識と経験を深める。

[学習成果] [D]
テファリキの教育理念に基づいた実践現場を体感することで、多文化保育について学び、多角的かつ柔軟な思考やアプローチの仕方を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	○	◎	○		○

[授業計画]
○ 事前学習
・ニュージーランドの文化や保育について学ぶ
・実習に向けての英語学習や保育実技の練習をする
・事前オリエンテーション
・渡航手続き

○ 研修の内容
・現地の保育士による講座（テファリキの学習）
・現地の幼稚園または保育所での実習
・コハンガレオ（マオリの幼稚園）の見学
・ホームステイによる現地の生活体験
・語学研修

○ 巡回訪問指導
・現地保育実習先での実習指導

○ 研修のまとめ
・研修の振り返り
・報告資料の作成・発表

[授業方法]
ニュージーランドの乳幼児教育の現場で、多文化保育を体験する。事前事後指導を行い、実習準備や振り返りをし、海外研修での学びを深めるようにする。

[成績評価]
実習記録（30%）、実習のまとめ・報告（30%）
実習態度（30%）、事前学習の取組（10%）

[教科書]
適宜資料を配布

[参考書]
過去の短期海外保育研修報告書および視聴教材

[準備学習　(予習・復習)]
事前にニュージーランドの文化や生活、保育内容について調べたり、現地保育実習での保育教材の準備をしたりする。(10時間程度)
研修後は、実習を振り返り、報告書にまとめる。(5時間程度)
(履修案内のII履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)

[備考]
ニュージーランドおよび日本の社会状況により、実施の可否や時期、研修内容の調整をする。

[科　目　名] 保育実習 I (保育所)
[担当教員名] 真下　あさみ
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_D12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
保育所での生活を体験することで、保育所の役割や機能、保育士の業務内容について具体的に理解する。また既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について総合的に理解する。

[学習成果] [D]
保育所の生活の流れや役割、子どもの発達過程を具体的に理解することができる。また、観察や保育への参加を通して、子どもへの理解を深め、記録や指導案の書き方を習得することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎		○	○	○	○	○	○

[授業計画]
○事前指導
・保育実習 I の目的・実習の流れ
・実習生としての心構え
・事前オリエンテーションの目的
・実習記録および実習関連書類の書き方
・実習のための保育教材の準備
○実習の内容
・保育所の機能と、保育の一日の流れを理解する
・保育士の職務内容を具体的に理解する
・生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を習得する
○巡回訪問指導
○実習のまとめ・事後指導
・礼状の書き方
・実習を振り返り、自己課題を明確にする

[授業方法]
保育所においての実習（2週間）
観察実習・参加実習・日誌の記録を行う。

[成績評価]
実習園の評価（70%）
実習日誌・提出物（30%）

[教科書]
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」（株）みらい
「保育士をめざす人の福祉施設実習」（株）みらい

[参考書]
保育所保育指針（平成29年告示）

[準備学習（予習・復習）]
事前に担当する子どもの発達段階を調べ、理解しておくこと。また、年齢にあった手遊びや絵本を準備し、練習すること。1日を振り返り、反省点、自己課題に気付くようにすること。
(履修案内のII履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)

[備考]
授業で学んだことを理解し、年齢や発達に合わせた関わりができるよう、日頃からイメージしておく。また、手遊びや絵本の読み聞かせなどの実技練習や保育教材研究をしておく。
実習の必要書類は正確かつ丁寧に作成し、提出期限を厳守すること。

[科　目　名] 保育実習指導ＩＡ
[担当教員名] 真下　あさみ
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE10_D11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育所と施設で行う実習の意義と目的を認識し、それぞれの機能と役割を理解する。実習の具体的な内容および心構えや態度を養いながら、基本的な保育技術を学ぶ。

[学習成果] [D]
保育実習の意義や目的、実習の流れを具体的に理解することができる。また、ワークシートや実践発表を通して、実習に必要な記録や指導案の作成方法、保育現場で必要な保育技術を習得するとともに、自己課題や目標を明確にすることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○			○	○	○

[授業計画]
1　実習の概要と流れ
2　実習の意義と目的
3　実習生としての心構え
4　プライバシーの保護と守秘義務について
5　観察実習について
6　参加実習について
7　園生活の一日の流れ
8　子どもの接し方・保育者とのかかわり方
9　実習記録の書き方①
10　実習記録の書き方②
11　実習目標と自己課題
12　事前課題・実習事前準備について
13　保育実践指導・絵本の読み方
14　保育実践発表①
15　保育実践発表②

[授業方法]
テキストやワークシートを使用し、保育実習の流れと内容を理解し、実習態度を身につける。また、実習に必要な教材研究や実技の練習、グループワーク、ロールプレイング等を行い、実践力を養う。
アクティブラーニング導入。
保育経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況(60%)
(保育教材の制作・実践発表・ワークシート等)
まとめレポート (40%)

[教科書]
「幼稚園・保育所・施設　実習ワーク」　萌文書林
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」　(株) みらい

[参考書]
保育所保育指針 (平成29年告示)

[準備学習 (予習・復習)]
教科書・ワークブックをよく読んでおくこと。また、技術向上のため、日頃から手遊びや絵本の読み聞かせなどの実技練習を繰り返し行うこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
初めての実習に向けて心構えをし、日常的に言葉遣いなどにも気を付ける。
実習で使用する保育教材をできるだけ多く準備し、レパートリーを増やしておく。

[科　目　名] 保育実習指導ＩＢ
[担当教員名] 真下　あさみ
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_D12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育所と施設で行う実習の意義と目的を認識し、それぞれの機能と役割を理解する。実習の具体的な内容および心構えや態度を養いながら、基本的な保育技術を学ぶ。

[学習成果] [D]
保育実習の意義や目的、実習の流れを具体的に理解することができる。また、ワークシートや実践発表を通して、実習に必要な記録や指導案の作成方法、保育現場で必要な保育技術を習得するとともに、自己課題や目標を明確にすることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○			○	○	○

[授業計画]
1　児童福祉施設について
2　児童福祉施設での実習について
3　実習の振り返りと自己課題の明確化
4　部分・全日実習について
5　指導案の立案について
6　指導案の書き方について
7　指導案作成
8　保育教材研究①
9　保育教材研究②
10　模擬保育①
11　模擬保育②
12　模擬保育③
13　実習前の準備
14　実習の注意事項
15　実習の総括と自己課題の明確化

[授業方法]
テキストやワークシートを使用し、保育実習の流れと内容を理解し、実習態度を身につける。また、実習に必要な教材研究や実技の練習、グループワーク、ロールプレイング等を行い、実践力を養う。
アクティブラーニング導入。
保育経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況(60%)
(保育教材の制作・実践発表・ワークシート等)
筆記試験 (40%)

[教科書]
「幼稚園・保育園・施設　実習ワーク」　萌文書林
「保育士をめざす人の福祉施設実習　」　(株) みらい

[参考書]
保育所保育指針 (平成29年告示)

[準備学習 (予習・復習)]
教科書・ワークブックをよく読んでおくこと。また、技術向上のため、日頃から手遊びや絵本の読み聞かせなどの実技練習を繰り返し行うこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
福祉分野の学びを深めながら具体的な保育実習の内容について理解する。
実習で使用する保育教材等をできるだけ多く準備し、レパートリーを増やしておく。

2　専門科目

幼児教育学科　第１部　２年

[科　目　名] 子ども家庭福祉
[担当教員名] 池戸　裕子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE10_A22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
・子ども家庭福祉を取り巻く状況や支援の仕組みを理解する。
・子ども家庭福祉に関わるサービスや機関・施設について理解する。
・事例を通して、ソーシャルワークの視点を学ぶ。

[学習成果] [A]
・子ども家庭福祉に関わる幅広い機関との連携を図りながら援助ができるように、基礎的な知識と援助のための視点を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎	○	○	◎	○		

[授業計画]
1　子ども家庭福祉の考え方
2　子ども家庭福祉を取り巻く少子化問題
3　子ども家庭福祉の歴史的背景
4　行政の仕組みとかかわる法律
5　子ども家庭福祉にかかわる機関および施設
6　健全育成について
7　母子保健について
8　保育の現状と課題
9　要保護児童への支援
10　障がい児への支援
11　非行少年およびひとり親家庭への支援
12　子ども虐待防止とその対応
13　ソーシャルワークのプロセス
14　事例から学ぶソーシャルワーク
15　子ども家庭福祉における多機関連携

[授業方法]
基本的な知識に関しては講義が中心となるが、事例検討やロールプレイを取り入れることにより、実践的な学びにつなげるとともに、保護者支援や多機関連携における保育者の役割や援助方法についての学びを深める。
アクティブラーニング導入。
障害児通園施設（現：児童発達支援センター）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
試験（60%）
授業参加への積極性、提出物、発表（40%）

[教科書]
「児童家庭福祉」　福田公教/山縣文治編著
（ミネルヴァ書房）

[参考書]
「ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック」全国保育士養成協議会監修（中央法規）

[準備学習（予習・復習）]
日頃から、子ども家庭福祉に関連するニュースをチェックし、何が問題になっているのかを説明できるようにしておいてください。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 社会福祉
[担当教員名] 祢宜　佐統美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_A21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
社会福祉の歴史を学ぶとともに、社会福祉の意義について理解する。社会福祉の理念や概念、法制度や実践方法、相談援助、権利擁護や苦情解決について学ぶ。

[学習成果] [A]
社会福祉の歴史的背景や考え方・役割を理解することで、自らの生活や人々の生活について考えることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○			◎	○		

[授業計画]
1　社会福祉の考え方と概念
2　社会福祉のあゆみ
3　変革期の社会福祉
4　諸外国の社会福祉・動向
5　社会福祉の制度・法体系・機関
6　社会福祉の専門職
7　利用者の保護に関わる仕組み
8　子ども家庭支援と社会福祉
9　高齢者の福祉
10　介護保険制度
11　障がいのある人の福祉
12　地域の福祉
13　相談援助
14　社会保障
15　事例検討

[授業方法]
講義が主体であるが、社会福祉について自らの考えをその都度ディスカッションしていく。また、単位ごとに「確認シート」で重要事項の理解を深める。

[成績評価]
試験（70%）
授業への取組状況（15%）
課題（15%）

[教科書]
「社会福祉を学ぶ」山田美津子・稲葉光彦編
（みらい）

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
毎授業前には、テキストの該当範囲を読んで予習をしてくること。授業の最初に、前回の授業の振り返りをするので、毎授業後には、授業内容のポイントを復習しておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
普段からニュースや新聞を読む機会を持ち、社会の動きに関心をもつようにして授業に臨むこと。

[科　目　名] 子ども家庭支援論
[担当教員名] 祢宜　佐統美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_A21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
子育てを取り巻く様々な問題や環境・家庭支援の意義や目的を理解し、保育者に必要な家庭支援を学ぶ。

[学習成果] [A]
個々の家庭環境を知り、家庭支援の意義や目的・限界について理解することで、子育て家庭支援の基本的視点や支援方法を自ら考えることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎		○	◎	○		

[授業計画]
1　家庭を取り巻く環境
2　子ども家庭支援の基本的考え方
3　保育者の専門性を生かした支援・基本的態度
4　子育て家庭を支える法・制度
5　子育て家庭を支える社会資源
6　相談を受ける者の基本的態度
7　相談場面で必要な技術
8　幼稚園・保育所等を利用する子ども家庭への支援
9　地域子育て支援・関係機関等との連携と協力
10　家庭の状況に応じた支援－ひとり親家庭・新たな親子関係
11　要保護児童等及びその家庭に対する支援
12　障がいなどのある家庭への支援
13　子どもの貧困の理解
14　切れ目のない家庭支援
15　事例検討（児童虐待・障がい）

[授業方法]
講義が主体であるが、グループワークや事例を活用したグループディスカッションも行い、家庭支援について理解を深めていく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
レポート（15%）
授業への取組状況（15%）

[教科書]
「保育と子ども家庭支援論」
石動瑞代・中西遍彦・隣谷正範編　(株) みらい

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
毎授業前には、20分程度テキストの該当範囲を読んで予習してきて下さい。授業の最初に、前回の授業の振り返りをしますので、毎授業後には、25分程度授業内容のポイントを復習しておいて下さい。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
普段から子育てに関するニュースや新聞を読む機会を持ち、社会の動きに関心をもつようにして授業に臨んで下さい。

[科　目　名] 子どもの理解と援助
[担当教員名] 朴　賢晶
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE10_B22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
生涯を通して変化・成長を続けるものとして発達を捉え、各発達段階での特徴と保育士と子どもの連鎖的関係を理解することを目的とする。子どもの理解、保育実践、保育援助、遊びを通しての学びなどに理解を深めると共に、保育士として必要とされる知識や発達援助のあり方について議論する。

[学習成果] [B]
各発達段階における具体的な課題を理解することによって、一生の中での乳幼児期発達を支援する視点を持つ保育者育成が可能となる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎	◎	◎	◎	○		○

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　PPTによる発表準備の指導
3　子どもの性格と保育者との関係
4　新生児期の能力の理解
5　微笑の発達と生きる力の理解と援助
6　親と子のやり取りに必要な子どもの能力の理解
7　スキンシップと模倣する力の理解と保育援助
8　見立てる能力の理解と保育援助
9　社会性の発達による遊びの変化と保育者の役割
10　子どものうそのメカニズムの理解と保育援助
11　きょうだいげんかと自己調整能力発達の理解
12　子どもの論理性の理解と保育援助
13　一次的言葉から二次的言葉へ
14　集団から学ぶ子ども理解とその援助
15　自己主張と自己抑制

[授業方法]
グループに分かれ、それぞれに与えられたテーマについてまとめ、ICTを活用し調べ学習をし、その成果を発表する。発表後には質疑応答の時間を設け、発表内容をより深めていく。さらに、発表グループに対して、フロアーから、発表に関する建設的な意見を述べることによって、口頭発表技術をより高める。
アクティブラーニングの導入。

[成績評価]
発表等（70%）(発表40%、コメンテーター30%)
授業への取組状況（30%）(授業参加度、授業態度等)

[教科書]
「よくわかる発達心理学」無藤隆ら編著
(ミネルヴァ書房)

[参考書]
「発達心理学の基礎1，2，3」平山論・鈴木隆男編著
(ミネルヴァ書房)

[準備学習（予習・復習）]
発表に向けてICTを活用し予習する。発表後は、振り返りを含め、質問に答えられなかった部分を復習する。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
本のまとめ、調べ学習、発表スライド作成、発表の練習などは予習による。グループで一つのテーマについて学習し、発表準備をするために必要な協調性と伝える力を養うことが予習のねらいである。

[科　目　名] 子どもの保健
[担当教員名] 留田　由美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　　[科目コード] IE10_B21
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 講義

[授業概要]
子どもの健康の保持・増進を図るために、子どもの心身の機能や発育・発達を理解するとともに、子どもの健康状態の把握方法、疾病の予防および罹患時の対応、多職種との連携について学習する。

[学習成果] [B]
子どもの健康状態の把握や罹患時の対応、疾病の予防対策などを学習することで、将来保育士として園児の健康を守ることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
				○	◎		

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　子どもの健康に関する現状と課題
3　子どもの発達障害と心の健康問題
4　地域における保健活動と児童虐待防止
5　子どもの身体発育及び運動機能の発達と保健
6　子どもの生理機能の発達と保健
7　子どもの心身の不調への対応
8　子どもの発育・発達の把握と健康診断
9　子どもの慢性疾患①
10　子どもの慢性疾患②
11　子どもの慢性疾患③
12　子どもの主な疾患①
13　子どもの主な疾患②
14　子どもの疾病の予防と適切な対応
15　まとめ

[授業方法]
毎回、スライドの講義内容を教科書を中心と整理する。授業終了後は小テストを行い、学習内容をより確実に定着させる。また、レポート作成では、保育士として子どもの健康を守る方法の理解と自覚を持てるようにする。
アクティブラーニングの導入。

[成績評価]
小テスト（70%）
レポート課題など授業への取組状況（30%）

[教科書]
「子どもと社会の未来を拓く　子どもの保健」
(青踏社)

[参考書]
「保育所指針」（厚生労働省）
「学校保健安全法」（文部科学省）

[準備学習（予習・復習）]
予習：教科書の授業箇所を確認し、解らない箇所や疑問などを整理して授業に臨む。
復習：小テストを行い、知識の不明確な箇所を整理しておく。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
授業には積極的に参加し、他学生の授業の妨げにならないよう心がける。

[科　目　名] 子どもの健康と安全
[担当教員名] 岩瀬　好美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　　[科目コード] IE10_B21
[単　位　数] 1単位　　[授業形態] 演習

[授業概要]
子どもの病気や看護を実践するときに用いる基礎的な知識と技術を理解し、身体的、精神的、社会的側面からの健康との関連を知識的に学ぶことを目的とする。
保育における感染症対策や安全管理について、各種ガイドラインを踏まえ、具体的に理解することを目的とする。

[学習成果] [B]
① 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
② 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策・衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。
③ 子どもの発達や状態などを踏まえた体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。
④ 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	○	○	◎	○	○

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　子どもの健康と保育の環境
3　子どもの健康と発育①形態的発達
4　子どもの健康と発育②生理機能の発達
5　子どもの特性と基本的生活習慣
6　基本的生活習慣の確立
7　日常に必要な養護
8　子どもの事故とその予防
9　ケガの応急処置
10　子どもに多い病気　感染症
11　予防接種
12　感性疾患とその対処
13　障害を持つ子ども家族への関わり方
14　災害から子どもを守る
15　地域との連携・協働

[授業方法]
毎回授業のまとめをレスポンスカードで確認し、コメントを入れ返却する。

[成績評価]
授業のレポートや課題提出（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
「子どもの健康と安全」（中山書店）

[参考書]
「保育におけるアレルギー対応ガイドライン」
(厚生労働省)
「保育所における感染症対策ガイドライン」
(厚生労働省)
「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」
(内閣府・文部科学省・厚生労働省)
「保育所指針」　(厚生労働省)

[準備学習（予習・復習）]
授業中に出された内容、提示された資料などは、毎回整理し，学習内容の復習を確実に行う。
最後ノートをまとめて提出すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
・演習に対して、真剣に取組む姿勢と探究心を持って授業に臨むこと。
・課題に対するやる気や、レポート作成に期待します。

[科　目　名] 乳幼児食物アレルギー演習
[担当教員名] 山本　景子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　　[科目コード] IE10_B21
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 演習

[授業概要]
食物アレルギーをもつ子どもたちと関わる保育者として知っていてほしい知識を学ぶ。栄養士、調理員と連携して、保育所での食物アレルギー対応の実践を学ぶことにより、誤配・誤食事故を防ぎ、乳幼児の生命を守る対応を学ぶ。さらに、食物アレルギーの子どもと保護者を支援できる保育者を養成することをねらいとする。

[学習成果] [B]
食物アレルギーの知識の習得や、食物アレルギーの子どもが、保育所で安全・安心な生活を送ることができるように対応するための知識や技術が習得できる。保育所で発生している誤配・誤食事故防止のためには、保育所の全職員が協力して取り組む連携の大切さを認識できる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○		○	○	◎		

[授業計画]
1　食物アレルギーの基礎知識①
2　食物アレルギーの基礎知識②
3　保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
4　安全管理と危機管理(エピペンの扱い、緊急時の対応)
5　給食における食物アレルギー対応
6　給食室と保育室の食物アレルギー対応
7　ヒヤリハット、事故事例
8　食物アレルギーをもつ子どもの食育活動
9　給食提供以外での保育における注意事項
10　食物アレルギー対応食の調理①
11　食物アレルギー対応食の調理②
12　食物アレルギー対応食の調理③
13　食物アレルギー対応食の調理④
14　食物アレルギー対応食の調理⑤
15　まとめ

[授業方法]
理論を学びながら演習を中心とする。食物アレルギー対応食の調理を多く取り入れることにより、食物アレルギーへの理解と関心を深めていく。
アクティブラーニング導入。
産業給食（企業内）栄養士、病院栄養士の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
筆記試験（50%）
ノート、レポート等の提出物（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「保育の場で役立つ 食物アレルギー対応－職種間連携から考える－」小野内初美他編著(建帛社)

[参考書]
「これだけでわかる食物アレルギー」宇理須厚雄他監修(みらい)
「保育所における食物アレルギー対応ガイドライン（2019年改訂版）」（厚生労働省）

[準備学習（予習・復習）]
次回のテーマについて、下調べ等の予習と毎回の授業内容をノートに整理し、復習を行う。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位の学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
自ら食物アレルギーについて学び、理解する姿勢を持ち、意欲的に学ぶことを望む。新聞、ニュース等で取り上げられている話題や、食物アレルギー対応の加工食品等にも関心を持っていただきたい。「子どもの食と栄養」で学んだ内容が基礎となっているので、復習をして授業に臨むとよい。

[科　目　名] 保育内容総論
[担当教員名] 岩間　直美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　　[科目コード] IE10_C21
[単　位　数] 1単位　　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育内容は、文字通り「内容」であると同時に「方法」でもあり、「実践」でもある。多岐にわたる保育内容を「総論」として総合的に学び、子どもの遊びや生活などの具体的な活動を通して展開される保育について理解を深めていくとともに実習や今後の保育につながる実践的な援助方法や指導計画を検討する。

[学習成果] [C]
保育所・幼稚園における5領域をふまえた日々の保育の営みを、総合的な視点で読み取り、養護と教育が一体となって展開される保育内容として、保育の場で実践できるようになるための学びを習得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○	○	○	◎		○

[授業計画]
1　オリエンテーション　保育内容総論で学ぶこと
2　保育の基本および保育内容の理解
3　保育内容の歴史的変遷
4　子どもと保育内容①子どもの発達の特性と保育内容
5　子どもと保育内容②子ども理解
6　養護と教育が一体的に展開する保育
7　環境を通して行う保育
8　遊びによる総合的な保育
9　5領域と保育内容①事例検討
10　5領域と保育内容②保育計画
11　5領域と保育内容③模擬保育
12　保育の多様な展開
13　子育て支援を創造する保育内容
14　幼保小の連携
15　保育内容の課題とまとめ

[授業方法]
具体的な事例をグループディスカッションし、疑問点を整理しながら様々な視点で保育をとらえていく。実際の保育をイメージしながら検討することで、保育内容を総合的に学び、実践していく。
アクティブラーニング導入。
保育者としての実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
筆記試験（50%）
授業への取組状況（30%）
課題（20%）

[教科書]
特になし。適宜レジュメを作成する。

[参考書]
保育所保育指針（平成29年告示）

[準備学習（予習・復習）]
授業の初めに実技披露をするため、予習と探索が必要である。また、振り返りや小テストがある場合は、事前事後学習をする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
これまで学んだ5領域の知識・技能を総合的に活用できるよう柔軟な学び合いをしていく。

[科　目　名] 保育の計画と評価
[担当教員名] 五十嵐　紗織
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_C21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
保育の基本とカリキュラム及び幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園での教育・保育課程、指導計画の基礎理解。さらに、乳幼児期の発達、保育の目的を踏まえた、指導計画、保育実践、評価・反省（カリキュラムマネジメント）の理解と模擬保育による応用。

[学習成果] [C]
幼児教育・保育の基本を理解し、発達を踏まえた指導計画、保育実践、評価・反省の意義と方法が理解できる。また、グループ学習、模擬保育等の取組みを通して、様々な保育に応用できる保育実践力が習得できる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○	◎		◎	○	○

[授業計画]
1　保育カリキュラムの意義と保育の基本
2　保育カリキュラムとの保育実践
3　教育・保育課程と指導計画
4　指導計画の作成①（ねらいと内容）
5　指導計画の作成②（環境・保育者の援助）
6　保育の指導計画①：0,1,2歳児
7　保育の指導計画②：3,4,5歳児
8　様々な指導計画
9　指導計画の作成と実践①（乳児の保育）
10　指導計画の作成と実践②（幼児の保育）
11　指導計画の作成と実践③（異年齢児の保育）
12　保育の評価とカリキュラムマネジメント
13　保育の評価・反省（ポートフォリオの作成）
14　子ども主体の保育実践①：レッジョエミリア市の挑戦
15　子ども主体の保育実践②：見守る保育

[授業方法]
教科書及び幼稚園教育要領、保育所保育指針を基にして講義を行う。ICTを活用し、具体的な保育方法、子どもの姿を学ぶ。また、アクティブラーニングを導入して、グループ学習、模擬保育による主体的な学び、積極的な取り組みを重視する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
定期試験（50%）
授業への取組状況（提出物・発表等）（50%）

[教科書]
「保育カリキュラム論－計画と評価－」（建帛社）

[参考書]
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
及び各解説書

[準備学習（予習・復習）]
教科書をよく読んでおくこと。模擬保育、グループ発表等の準備及び振り返り。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
日頃から教材研究、保育実技の練習をしておくこと。

[科　目　名] 領域「環境」
[担当教員名] 五十嵐　紗織
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE10_C22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
領域「環境」を学ぶ上で基礎となる感性を養い、保育するうえで必要となる知識や技能を身に付ける。発達段階を踏まえた子どもの主体的な活動を引き出す環境構成や、領域「環境」に関わる具体的な遊びについて体験を通して学ぶ。

[学習成果] [C]
①領域「環境」の内容とねらいを理解する。②現代の子どもを取り巻く環境の基本や課題について理解する。③体験的な活動を通じて、子どもと自然への関わりの意義を理解する。④子どもの思考力や科学的概念の発達や、身の回りの事象への理解を深める。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○				○	◎		

[授業計画]
1　幼児の生活とESD(持続可能な開発のための教育)
2　保育における環境とは何か
3　社会生活と安全
4　子どもの生活と情報や施設
5　自然とかかわる保育
6　生命の営みに触れる
7　生き物の不思議と魅力
8　探究心の芽生えを育む
9　身近な素材や季節を取り入れた保育
10　環境と造形活動への発展
11　数や文字、図形、標識への興味関心
12　保育における食育
13　ICTを保育に生かす試み
14　環境に主体的に関わるとは
15　保育における環境教育

[授業方法]
内容に応じてグループワークやフィールドワーク等のアクティブラーニングを取り入れる。体験的活動を取り入れ、保育の場で活用できるように実践的に学ぶ。

[成績評価]
定期試験（レポート）（50%）
小テスト（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「コンパクト版保育内容シリーズ　環境」大沢裕監修
(一藝社)

[参考書]
「平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本」内閣府・文部科学省・厚生労働省（チャイルド本社）
「和の行事えほん春と夏の巻／秋と冬の巻」高野紀子(あすなろ書房)
「NEO POCKET 植物」和田 浩志（小学館）

[準備学習（予習・復習）]
授業計画に基づき、テキストの該当箇所を読んで内容を理解してから授業に臨むこと。また、授業後には学習内容を振り返り、課題や問題点について考察すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
生活の中で、季節の移ろいや身近な草花・樹木・昆虫・動物などをとらえる感覚を研ぎ澄まし、自然の美しさ

や不思議を体感してください。
[科　目　名] 領域「言葉」の指導法
[担当教員名] 真下　あさみ
[授業クラス] (学科)幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_C21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
乳幼児期に豊かな感性と言葉を育むための領域「言葉」のねらいと内容を理解する。児童文化財の意義とその活用に関する力を身につけるため、教材制作と実践を行う。
乳幼児の興味関心や発達を踏まえたうえで、言葉を引き出し伸ばすような保育を構想する力を修得する。

[学習成果] [C]
領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、応用できる。
言葉を育む保育者の役割を意識し、児童文化財を活用した保育実践力を向上させ、言葉の指導法を身につける。
手作りの教材制作、わらべうた、おはなしの実践等のグループ学習、発表等を通して乳幼児の興味関心、発達を踏まえた言葉を育む遊びや活動を構想する事ができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○		○			○		

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　領域「言葉」のねらいと内容
3　子どもの言葉と国語教育
4　児童文化財の研究（1）：紙芝居・絵本
5　児童文化財の研究（2）：人形
6　児童文化財の研究（3）：手作り教材
7　児童文化財の研究（4）：実践体験
8　児童文化財の研究（5）：振り返り
9　言葉表現を豊かにする保育実践：子どもと楽しむ「言葉遊び」
10　言葉表現を豊かにする保育実践：子どもと楽しむ「わらべうた」
11　言葉表現を豊かにする保育実践：子ども楽しむ「ペープサート」
12　言葉表現を豊かにする保育実践：おはなしの世界「ストーリーテリング(素話)」
13　子どもの言葉を育む保育実践：模擬保育（1）
14　子どもの言葉を育む保育実践：模擬保育（2）
15　まとめと振り返り

[授業方法]
実際の児童文化財およびICTを用いた動画、画像等を活用しながら具体的に言葉の指導法、児童文化財の活用法等について指導する。また、小テストで学習内容を振り返りつつ、教材制作、グループ学習、模擬保育等での保育実践を行い、実践力を養っていく。また、保育経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況・実践・提出物（70%）
小テスト(30%)
[教科書]
特になし
[参考書]
「保育に役立つ　言語表現教材」(株)みらい
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」各解説書

[準備学習（予習・復習）]
発表前には、しっかり準備をして練習すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]

教材制作、実践等の積極的な姿勢を期待します。
[科　目　名] 乳児保育Ⅱ
[担当教員名] 赤塚　徳子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_C21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
「乳児保育Ⅰ」の学びを踏まえ、多角的・総合的に学ぶ。乳児保育の計画・内容および具体的な援助の方法について、乳児とかかわる体験や、保育教材作製・保育実技の演習、事例検討を通して具体的に理解する。

[学習成果] [C]
3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助やかかわり方を理解する。また、保育計画や保育教材について具体的に学び、保育者としての実践力を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	○	○	◎		○

[授業計画]
1　乳児保育の重要性
2　乳児期の発育・発達 ①
3　乳児期の発育・発達 ②
4　1日の生活の流れと保育環境
5　乳児のあそび（保育教材作り）
6　乳児のあそび（保育実技）①
7　乳児のあそび（保育実技）②
8　実践学習（乳児の観察）
9　実践学習（乳児保育実習）
10　乳児保育における指導計画の特徴
11　指導計画書の書き方
12　保育環境と保健
13　保育事故の防止と対策
14　保護者とのパートナーシップ
15　保育者の役割と専門性

[授業方法]
講義により乳児期の保育内容や保育者の役割について学んだ上で、学内の子育て支援施設「文教おやこ園」での観察実習を通し、乳児期の発育・発達について具体的に学ぶ。また、保育計画を立て、保育実技を実践する。
アクティブラーニング導入。
保育士の実務経験があり、保育現場での事例を提示しながら具体的な講義や実技指導を行う。

[成績評価]
保育教材の作製・実技発表（30%）
実践学習の参加態度・観察レポート（30%）
ワークシート（30%）
授業への取組状況（10%）

[教科書]
適宜プリント教材配布
[参考書]
「乳児保育―子ども・家庭・保育者が紡ぐ営み―」
入江慶太　編著（教育情報出版）

[準備学習　（予習・復習）]
乳児期の発達段階を理解した上で講義や実習に臨むため、また保育教材の作製や実技発表に向けて、1時間程度の予習を行うこと。授業後には、1時間程度の復習をし、学習内容をワークシートにまとめること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]　地域志向科目
地域の親子との交流では、保育者としてふさわしい言葉遣いを心がけ、マナーを遵守しましょう。積極的に学び、保育者としての実践力を身につけましょう。

[科　目　名] 社会的養護Ⅱ
[担当教員名] 川上　知幸
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　　[科目コード] IE10_C22
[単　位　数] 1単位　　[授業形態] 演習

[授業概要]
事例を中心とし、社会的養護の子ども・家族がおかれている状況や適切な支援方法について学ぶ。子ども・家族の理解や個別支援のセオリーを学ぶ他、多職種連携を基盤とするチーム支援の実際と課題について学習する。

[学習成果] [C]
子どもや家族の立場に立って本質的なニーズを理解し、具体的な支援方法が検討できるようになる。活発な意見交換を通して、多様な考え、価値観に触れ、事例を多面的に捉えられるようになる。
多職種の協働（チーム支援）によって支援することの意義や必要なスキルについて理解できる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎		○		○		

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　社会的養護の意義と専門職の役割
3　事例検討①：問題行動への対応
4　事例検討②：ケースワーク
5　虐待する親の心理と背景
6　事例検討③：ジェノグラム、分析
7　事例検討④：構造的背景への着目
8　多職種連携の現状と課題
9　児童養護施設における治療的養育①
10　児童養護施設における治療的養育②
11　子どもの権利擁護と支援者間連携
12　子どもの声を聴く実践方法
13　家族支援とファミリーソーシャルワーク
14　社会的養護における発達障害児支援
15　総括（リフレクション、フィードバック）

[授業方法]
具体的な事例をもとに事例検討を行う。グループ討議、クラス討議を組み合わせながら意見交換を行い、事例に対する見立てと手立てを多角的に考えることで実践的な問題解決能力を養う。アクティブラーニング導入。
児童養護施設等での実務経験があり、子ども・家族の事例や現場の実情を提示しながら、実践的な授業を行う。

[成績評価]
筆記試験（60%）
レポート（20%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
特になし。適宜、プリントを配布する。

[参考書]
授業内で適宜紹介する。

[準備学習（予習・復習）]
授業前には前回の事例内容やポイント、疑問点などを必ず振り返っておくこと。また、授業後には復習し、ノート等のメモを見ながら適宜分かりやすく修正、補足をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
児童福祉関連の文献や新聞記事等での情報収集を心がけること。

[科　目　名] 子育て支援
[担当教員名] 赤塚　徳子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　　[科目コード] IE10_C22
[単　位　数] 1単位　　[授業形態] 演習

[授業概要]
現代の子育て家庭を取り巻く社会状況や子育て支援に関する制度や施策について学ぶとともに、国際的な視点を持ち、支援のあり方について考察する。また、フィールドワークを通じて、子育て家庭の現状や保護者のニーズを知り、子育て支援の具体的展開や支援者の役割について実践的に学ぶ。

[学習成果] [C]
子育ての現状と課題、子育て支援の意義と必要性を理解する。また、子育て家庭に対する支援の内容や具体的な支援方法を理解し、保護者支援の技能を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	○	◎	○		○

[授業計画]
1　子育て支援が求められる社会背景
2　保育者の基本的態度と信頼関係の形成
3　保育所等における子育て支援
4　地域で展開される子育て支援
5　海外の子育てと子育て支援
6　子育て家庭に対する支援の展開
7　子育て家庭に対する支援の実際
8　障害のある子ども及び家庭に対する支援
9　子ども虐待の予防と対応
10　多様な支援ニーズをかかえる家庭に対する支援
11　子育て支援の場における環境
12　親子ふれあい遊びの実践
13　フィールドワーク①
14　フィールドワーク②
15　まとめ（保育士の専門的な知識・技術）

[授業方法]
講義により、子育ての現状や子育て支援の内容について学ぶ。
学内の子育て支援施設「文教おやこ園」での観察実習や保護者インタビュー、様々な子育て支援についてグループワークでの調べ学習や成果発表を通して具体的に学ぶ。
アクティブラーニングを導入する。

[成績評価]
レポート課題（60%）
調べ学習・成果発表（30%）
授業への取組状況（10%）

[教科書]
「子育て支援」西村重稀・青井夕貴編集（中央法規）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
日頃から子育ての現状に関心や問題意識をもち、1時間程度の調べ学習や成果発表に向けての発表資料作成をすること。
授業後には、1時間程度の復習をし、学習内容をワークブックにまとめること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]　地域志向科目
地域の親子との交流では、保育者としてふさわしい言葉遣いを心がけ、マナーを遵守しましょう。積極的に学

び、保育者としての実践力を身につけましょう。
[科　目　名] 子ども音楽ⅡA
[担当教員名] 国藤 真理子・玉田 裕人・伊藤 真理子・倉田 弓・天石 佐保子・松浦 晴美・大橋 昌代
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_C21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
子ども音楽ⅠA・ⅠBで習得した内容を基礎として、音楽的な表現力や知識を高めていく。季節や行事にあわせた「童謡」や「わらべ歌」のレパートリーを増やすことで、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な表現力を研究していく。

[学習成果] [C]
保育現場で活用できるピアノ技術・弾き歌い、コード伴奏や初見演奏の習得を目指す。音楽表現の実践力と応用力を身に付け、心豊かな子どもを育てる保護者としての力を養う。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○			○		◎	○	○

[授業計画]
1 オリエンテーション、グループ分け、個別実技指導
2 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、コード
3 〃
4 〃
5 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、初見
6 〃
7 〃
8 試験曲選び、グループ別実技発表会
9 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、自由曲
10 〃
11 〃
12 〃
13 〃
14 実技発表会・就職試験練習
15 〃

[授業方法]
1クラスを7～8名のレベル別グループに編成し、一人ひとりの進度に合わせた個別指導を行う。次の授業までに、自主練習（復習と予習）を行い、練習成果をチェックシートに提出する。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況(60%)、実技発表評価（30%）
自主練習の取組〈チェックシート〉（10%）

[教科書]
標準バイエルピアノ教則本併用曲付(全音楽譜出版社)
こどものうた100（チャイルド本社）
うたって、つくって、あそぼう（音楽之友社）
教材プリント配布

[参考書]
楽譜がスラスラ読める本（永岡書店）
ブルグミュラー25の練習曲（全音楽出版社）
ソナチネアルバムⅠ（全音楽出版社）

[準備学習（予習・復習）]
自主練習　毎日30分以上
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日々の積み重ねが非常に大切な科目です。音楽的な表現力や知識を高め、心豊かな子どもを育てることの出来る保護者を目指しましょう。
[科　目　名] 子ども音楽ⅡB
[担当教員名] 国藤 真理子・玉田 裕人・伊藤 真理子・倉田 弓・天石 佐保子・松浦 晴美・大橋 昌代
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE10_C22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
子ども音楽ⅡAに引き続き、音楽的な表現力や知識を高めていく。「童謡」や「わらべ歌」のレパートリーを広げるだけでなく、動きのための効果音や即興音楽を学習することで、保育・幼児教育現場における実践的なスキルを身につける。

[学習成果] [C]
保育現場で活用できるピアノ技術・弾き歌い、動きのための効果音や即興音楽の習得を目指す。音楽表現の実践力と応用力を身に付け、心豊かな子どもを育てる保護者としての力を養う。
また、保育者自身も音楽を楽しむ力を養う。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○			○		◎	○	○

[授業計画]
1 オリエンテーション、グループ分け、個別実技指導
2 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、動きのための効果音
3 〃
4 〃
5 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、動きのためのイメージ音楽
6 〃
7 〃
8 発表会の曲選び、グループ別実技発表会
9 自由曲、弾き歌い、動きのための即興音楽
10 〃
11 〃
12 自由曲、弾き歌い、就職後対策
13 〃
14 実技発表会
15 〃

[授業方法]
1クラスを7～8名のレベル別グループに編成し、一人ひとりの進度に合わせた個別指導を行う。次の授業までに、自主練習（復習と予習）を行い、練習成果のチェックシートを提出する。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況(50%)、2年後期の進度（30%）
実技発表評価（10%）
自主練習の取組〈チェックシート〉（10%）

[教科書]
標準バイエルピアノ教則本併用曲付(全音楽譜出版社)
こどものうた100（チャイルド本社）
うたって、つくって、あそぼう（音楽之友社）
教材プリント配布

[参考書]
楽譜がスラスラ読める本（永岡書店）
ブルグミュラー25の練習曲（全音楽出版社）
ソナチネアルバムⅠ（全音楽出版社）

[準備学習（予習・復習）]
自主練習　毎日30分以上
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日々の積み重ねが非常に大切な科目です。音楽的な表

現力や知識を高め、音楽を楽しみましょう。
[科　目　名] 造形表現指導法Ⅱ
[担当教員名] 上山　明子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_C21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
現場に即した活動を取り上げて、授業計画から教材の選択、制作、発表までを行う。子どもの造形表現の指導においての要点・注意すべきことについて理解する。また保育者が求められる表現力を実践的に学ぶ。
[学習成果] [C]
子どもの成長発達を理解して年齢にあった造形活動の修得、保育に関わる多くの描画画材や素材の扱いや特徴を理解する、造形活動の意味を理解しその制作の喜びを享受することができる。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎

[授業計画]
1　「造形表現指導法」の概要及び年間計画提示
2　はさみとのりの使用の指導
3　「気持ちを色で表現する」自己紹介を兼ねた制作
4　「つくってあそぶ」への展開　身近な素材を生かしつくったもので遊ぶ楽しさを味わう
5　「つくってあそぶ」への展開　制作・発表・意見交流
6　「観察画」テーマのある絵画活動
7　「布を使った造形」生活素材を使った造形
8　「布を使った造形」制作・発表・展示
9　「五感を養う造形」音・色・手触り・動きなどを気がついたり感じたりする造形
10　「五感を養う造形」制作・発表
11　「自然と素材」自然の素材を用いた造形活動
12　「季節の行事」園の行事・季節の行事について(行事の由来から造形活動まで)
13　「季節の行事」身近なもの、廃材を活用した小道具・衣装制作
14　「季節の行事」ごっこ遊び、振り返り
15　幼児の造形表現を指導するということ（まとめ）
[授業方法]
具体的なイメージを持って制作に取り組めるよう、各単元の始めに主要な素材、用具・技法を理解し、習作から本作へと進める。作品発表・意見交流・模擬授業など適宜行う。
[成績評価]
授業への取組状況（事前準備、保育者としての適応性）(50%)
提出物の充実度（50%）
[教科書]
「幼稚園教育要領」
「保育所保育指針」
「幼保連携型認定こども園・保育要領」
[参考書]
適宜プリント配布
[準備学習（予習・復習）]
予習として次回課題のアイデアを練る、資料収集、道具準備を行う。
復習として次回講義にプリント・レポート提出。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
・指示された準備物は忘れずに持ってくること。
・実習では服を汚すことがあるので、そのことに対応できる服装をすること。またはエプロン等をすること。
・片づけ掃除を含めて授業です。後の人のことを考えて責任を果たすこと。

[科　目　名] 総合表現Ⅱ
[担当教員名] 国藤 真理子・ほり みか・山本 雅士・玉田 裕人
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_C21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習
[授業概要]
全員で一つの作品を創り、すべてに関わる人との協調性の大切さを学び、発表において集約された総合的な表現を学ぶ。

[学習成果] [C]
全員が一つの作品を創るプロセスにおいて、表現力を身につけ想像力、判断力、思考力、人間力を養う。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

[授業計画]
1　オリエンテーション 授業内容の説明と導入 課題の予告と予習事項の説明および方法の提示
2　前回の課題の復習事項および次回課題の予告
3　指定の教材の指導と点検。総合芸術に対するプランや役割構成を学ぶ（1）
4　指定の教材の指導と点検。総合芸術に対するプランや役割構成を学ぶ（2）
5　グループ指導1（歌と楽器と身体表現）演目の役割ごとの教材練習
6　グループ指導2（歌と楽器と身体表現）演目の役割ごとの教材練習
7　グループ指導3（歌と楽器と身体表現）演目の役割ごとの教材練習
8　グループ指導4（歌と楽器と身体表現）演目の役割ごとの教材練習
9　リーディング1（歌と楽器と身体表現）演目の役割ごとの教材練習
10　リーディング2（歌と楽器と身体表現）演目の役割ごとの教材練習
11　リーディング3（歌と楽器と身体表現）演目の役割ごとの教材練習
12　演目の教材を理解する総合練習（1）
13　演目の教材を理解する総合練習（2）
14　演目の教材を理解する総合練習（3）
15　総合的表現の発表
[授業方法]
グループ指導・体験学習と振り返り。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
実技発表（70%）、授業の取組状況（30%）

[教科書]
教材プリント配布
[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
次回の授業の内容を見直し、問題意識を持って臨むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
[科　目　名] こども音楽療育実習
[担当教員名] 国藤　真理子・玉田　裕人・朴　賢晶・星野　秀樹・松浦　晴美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年全期　[科目コード] IE10_D29
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
音楽療育を実践するための知識と技術を、実習等を通して総合的に活かして実践できようにする。実際にこどもの音楽行動を観察しながら、発達支援に向けた音楽の活用法や対応方法などを実践的に学んでいく。

[学習成果] [D]
障がい児との交流を通して、障がいについて理解を深めることができる。
療育や保育において発達を援助するための効果的な音楽の使用方法が理解できる。
心身の発達過程と音楽的発達の関係の関係を体験的に理解できる。
障がい種別・形態別音楽療育の具体的援助方法の意義を見出し、簡単な実践をすることができ、さらに学びを深める重要性が理解できる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

[授業計画]
1　オリエンテーション
こどもの音楽療育実習の目的を理解する
2　実習に参加する態度の確認
実習する施設や団体についての紹介
各担当者の役割の確認
3～10
・こども音楽療育　学内練習
・本学主催「おねえさんとあそぼう」(障がい児とその親で構成されたグループ) こども音楽療育実施
11～14
学外障がい児施設での観察実習・見学実習・参加実習
15　自己評価に基づく課題の明確化

授業の進行状況に応じてシラバスから変更されることがある。
[授業方法]
障がいのあるこどもたちの音楽行動から、こどもたちの発達の状態をみる。こども音楽療育士担当者は活動計画を立案する。各担当者は計画に基づいて練習し、音楽療育を実践する。実習後に実習記録・自己評価を提出する。実習の反省から課題を明確にし、次回の実習に活かすことで、学びを深めていく。
[成績評価]
実習の取組状況 (70%)
実習記録・自己評価 (30%)
[教科書]
必要に応じて資料を配布
[参考書]
「音楽療法の必須100曲：子ども編」(あおぞら音楽社)
「音楽で育てよう：子どものコミュニケーション・スキル」(春秋社)
「こどものうた100」(チャイルド本社)
「うたって、つくって、あそぼう」(音楽之友社)
[準備学習 (予習・復習)]
こども音楽療育担当者は、担当者間の連携を大切にしながら活動計画に基づいた練習をしておくこと。実習において必要な支援ができるよう「概論」「演習」で学んだ内容を復習しておくこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間 (予習・復習) を参照)
[備考]
活動計画や実習記録などの提出遅れ等は減点となるので注意すること。

[科　目　名] 保育実習Ⅰ (施設)
[担当教員名] 伊藤 久美子
[授業クラス] (学科)幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_D21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
児童福祉施設の生活に参加し、施設の役割や機能について具体的に学ぶ。また子ども (利用者) とのかかわりを通して、施設で生活する子ども(利用者)への理解を深める。

[学習成果] [D]
児童福祉施設の役割や保育士の職務について具体的に理解する。観察や生活への参加を通して、子ども(利用者)への支援の方法を習得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○	◎	○	◎	◎	○

[授業計画]
○ 事前オリエンテーション
・ 児童福祉施設の概要や施設実習の流れについて
・ 実習の準備・心構え・態度について
・ 実習日誌の書き方・指導案等について
○ 実習内容
・ 施設の1日の流れを理解して参加する
・ 子ども (利用者) の観察や関わりを通して、ニーズや家族への対応の仕方を学ぶ。
・ 生活や援助の一部を担当する
・ 職員間の役割分担とチームワークについて理解する
・ 保育士としての職業倫理を理解する
○ 巡回訪問指導
○ 実習のまとめ
・ 実習日誌の整理をする
・ 実習の自己評価をし、反省点や自己の課題を明確にする

[授業方法]
保育所以外の児童福祉施設に宿泊または通所して、おおむね10日間実習を行う。

[成績評価]
実習施設の評価 (70%)
実習日誌・提出物 (30%)

[教科書]
「保育士をめざす人のための福祉施設実習」
愛知県保育実習連絡協議会編 (みらい)

[参考書]

[準備学習　(予習・復習)]
実習先の施設の概要について調べ、理解しておくこと。
生活全般の援助ができるよう、掃除・洗濯などの家事の能力を身につけておきましょう。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間 (予習・復習) を参照)

[備考]
日頃から福祉施設に関するニュースに目を向け、新聞や著書などから社会問題に関する情報の収集をしておきましょう。

[科　目　名] 保育実習Ⅱ
[担当教員名] 伊藤　久美子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_D21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
既習の教科や保育実習Iの経験を踏まえ、実習を通して保育士の職務を理解する。保育計画の立案、実践、記録、振り返りを通し、保育技術を習得する。

[学習成果] [D]
様々な保育ニーズを含む保育所の機能および保育士の役割と専門性について理解することができる。
実習での経験、指導等から、保育士に求められる資質能力・技術に照らして自己課題が明確となり、今後の学習の指針を得ることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	○	○	◎	○	◎

[授業計画]
○事前オリエンテーション
・保育所実習の意義と目的
・保育所実習の流れ
・実習の心構えと事前訪問について
・実習記録の作成について
・指導計画について（部分実習・全日実習）

○実習内容
・保育所の一日の流れを把握し、積極的に子どもと関わる
・子どもの年齢に即した発達段階を理解した上で、指導案を作成し実践する(部分実習・全日実習)
・保育士としての倫理観を理解し、服務態度を習得する
・家庭や地域との連携に関する理解を深める

○実習巡回訪問指導

○事後指導
・実習のまとめ、実習日誌の整理
・実習全体を振り返り、実習の反省点や保育者としての課題を明確にする

[授業方法]
保育所にて2週間の観察・参加・指導（部分・全日）実習を行う。
保育現場での実務経験を生かした実技指導を行う。

[成績評価]
実習園の評価（70%）
実習日誌・提出物（30%）

[教科書]
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編
(みらい)

[参考書]

[準備学習　(予習・復習)]
実習で担当する乳幼児の発達段階や年齢に即した遊びの理解。保育教材の作製、ピアノ練習など実習に向けて継続的に準備し、実習前には集中的に10時間程度かけて、責任実習の準備及び練習をする。
実習後は実習を振り返り、5時間程度かけて、実習記録や指導案の修正をする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
実習マナーや提出書類の期限を遵守し、積極的に実習に取り組みましょう。

[科　目　名] 保育実習指導Ⅱ
[担当教員名] 伊藤　久美子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_D21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育実習に向け、保育計画や保育技術、職業倫理について学ぶ。指導計画の作成、模擬保育等を通して自己課題を明確化する。

[学習成果] [D]
・保育計画の立て方や自己評価の仕方を理解することができる。
・教材研究や模擬保育を通し、保育技術を習得することができる。
・保育者の専門性と職業倫理について理解することができる。
・事後指導を通して、保育に対する課題を明確化することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○		○	○	○	◎		○

[授業計画]
1　オリエンテーション・保育実習Ⅱについて
2　保育実習の心構え
3　実習目標および自己課題について
4　教材研究①
5　教材研究②
6　責任実習・保育計画について
7　指導案の作成
8　保育実技演習①
9　保育実技演習②
10　事例検討①
11　事例検討②
12　責任実習について
13　模擬保育①
14　模擬保育②
15　実習の振り返りとまとめ

[授業方法]
保育計画の作成、模擬保育等、実習に必要な知識と技術を実践的に学ぶ。アクティブラーニング導入。
保育現場での実務経験を生かした実践的な指導を行う。

[成績評価]
提出物（50%）
保育実技・模擬保育（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編
(みらい)

[参考書]

[準備学習　(予習・復習)]
実習に向けて、絵本の読み聞かせ、手遊びの練習や保育教材の作製など、保育実習に向けての準備を計画的に進め、実習前には集中的に10時間程度の実技練習を行う。実習後は実習を振り返り、5時間程度は実技の修正や指導計画の修正など、自己課題に取り組む。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
社会人としてのマナーや心構えを身にけられるように、日ごろから挨拶や言葉遣いを意識しましょう。

提出書類の期限は必ず守りましょう。

2　専門科目

幼児教育学科　第３部　１年

[科　目　名] 保育原理
[担当教員名] 五十嵐　紗織
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　　[科目コード] IE30_A11
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 講義

[授業概要]
保育とは、子どものかわいらしい姿に接するという表層的な関わりだけなく、子どもの命や日々の生活に関与するという重い責任を伴う。子どもを慈しみ育む力を養うために、保育の基本的概念と保育の営みについて学ぶ。

[学習成果] [A]
①保育の思想並びに歴史的変遷を理解する。②保育の意義と保育所保育指針における保育の基本を理解する。③保育を取り巻く現代的課題について理解し、考察を深めることができる。④保育者としての資質と態度を養う。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○				○		◎

[授業計画]
1　保育とは何か（ブレインストーミング）
2　保育の役割：保育所保育指針の位置づけ
3　諸外国における保育の思想と変遷
4　日本における保育の思想と変遷
5　いのちの誕生と保育
6　子どもにとっての遊びの価値
7　子どもの最善の利益と保育
8　保育の制度と施設
9　ワークライフバランスと保育ニーズへの対応
10　保育の関連法令と子育て支援
11　乳児の発達と保育
12　幼児の発達と保育
13　養護と教育の一体性
14　保育の目指す姿と多文化共生社会
15　現代社会における保育の課題

[授業方法]
講義を中心とするが、内容に応じてブレインストーミングやシミュレーション等のアクティブラーニングを取り入れる。

[成績評価]
筆記試験（50%）
レポート等の提出物（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「哲学する保育原理」伊藤潔志編著（教育情報出版）
「平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本」内閣府・文部科学省・厚生労働省（チャイルド本社）

[参考書]
「保育原理」関口はつ江（萌文書林）
「保育者の地平　私的体験から普遍に向けて」津守真（ミネルヴァ書房）
「幼児教育へのいざない　円熟した保育者になるために」佐伯胖（東京大学出版会）

[準備学習（予習・復習）]
授業計画に基づき、テキストの該当箇所を読んで内容を理解してから授業に臨むこと。また、毎授業後に示すミニレポートを期限内に提出すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
保育の根幹を学ぶ科目です。自主的・主体的に学ぶ姿勢を持って授業に臨みましょう。

[科　目　名] 社会福祉
[担当教員名] 祢宜　佐統美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　　[科目コード] IE30_A11
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 講義

[授業概要]
社会福祉の歴史を学ぶとともに、社会福祉の意義について理解する。社会福祉の理念や概念、法制度や実践方法、相談援助、権利擁護や苦情解決について学ぶ。

[学習成果] [A]
社会福祉の歴史的背景や考え方・役割を理解することで、自らの生活や人々の生活について考えることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○			◎	○		

[授業計画]
1　社会福祉の考え方と概念
2　社会福祉のあゆみ
3　変革期の社会福祉
4　諸外国の社会福祉・動向
5　社会福祉の制度・法体系・機関
6　社会福祉の専門職
7　利用者の保護に関わる仕組み
8　子ども家庭支援と社会福祉
9　高齢者の福祉
10　介護保険制度
11　障がいのある人の福祉
12　地域の福祉
13　相談援助
14　社会保障
15　事例検討

[授業方法]
講義が主体であるが、社会福祉について自らの考えをその都度ディスカッションしていく。また、単位ごとに「確認シート」で重要事項の理解を深める。

[成績評価]
試験（70%）
授業への取組状況（15%）
課題（15%）

[教科書]
「社会福祉を学ぶ」山田美津子・稲葉光彦編
(みらい)

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
毎授業前には、テキストの該当範囲を読んで予習をしてくること。授業の最初に、前回の授業の振り返りをするので、毎授業後には、授業内容のポイントを復習しておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
普段からニュースや新聞を読む機会を持ち、社会の動きに関心をもつようにして授業に臨むこと。

[科　目　名] 社会的養護Ⅰ
[担当教員名] 川上　知幸
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE30_A11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
近年、児童虐待事件がメディアにも大きく取り上げられ、重要な社会問題として注目されている。社会的養護の役割はより高まっているが、課題も多い。本講義では、社会的養護に関する基礎知識を学びながら、児童養護施設や児童相談所など現場の現状と課題について検討、考察していく。

[学習成果] [A]
社会的養護に関する基礎知識を習得できる。
児童虐待やその他の困難に直面する子ども・家族の実態や課題について共感的に理解し、支援の在り方について多角的に考察する力を身につけられる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎		○		○		

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　社会的養護の子どもたち：事例
3　児童虐待問題の現状と法制度
4　児童虐待への対応と課題
5　性的虐待とDV
6　アタッチメント（愛着）
7　社会的養護の理念と役割
8　児童養護施設の現状と課題
9　児童養護施設におけるケア実践
10　日本の子ども家庭が抱える課題と歴史的背景
11　社会的養護の歴史的変遷
12　社会的養護の今後の動向
13　家庭（的）養護の意義と課題
14　社会的養護の多職種連携
15　総括（リフレクション、フィードバック）

[授業方法]
講義を中心とするが、グループディスカッションなどを取り入れ、意見交換を行うことで理解を深めると共に考える力を養っていく。
アクティブラーニング導入。
児童養護施設等での実務経験があり、子ども・家族の事例や現場の実情を提示しながら、実践的な講義を行う。

[成績評価]
筆記試験（60%）
レポート（20%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「社会的養護」成清美治・真鍋顕久　編著（学文社）

[参考書]
授業内で適宜紹介する。

[準備学習（予習・復習）]
教科書を用いて自己学習し、基礎知識を得ながら疑問点を整理しておくこと。また授業後にはノート等を見返し、メモのまとめや修正を行いながら理解を深めること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
児童福祉関連の文献や新聞記事等での情報収集を心がけること。

[科　目　名] 保育者論
[担当教員名] 鈴木　眞知子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE30_A12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
保育とは子どもだけでなく、保護者支援、地域との連携など様々な子育てに関するニーズに応える役割があり、保育者としての責務があることを理解する。理論と実践を結び付け、保育者の専門性について理解を深めると共に、目指す保育者像を具体化していく。

[学習成果] [A]
保育者の役割や制度的な位置づけを理解した上で、保育現場で実践し、成長していく保育者としての視点を身につけることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
			○	○	○		◎

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　いま、「保育者」を目指す人たちへ
3　保育者の仕事と役割
4　保育者の制度的位置づけ
5　保育者になるための学び
6　保育者に求められる資質とは
7　職場で学びあう専門家として
8　保育者の資質向上とキャリア
9　子どもの育ちの危機と子育て支援
10　子どもの育ちの危機と子育て支援
11　現代社会の変化と保育者の仕事や課題
12　日本の保育者のあゆみ
13　資料にみる保育者の姿
14　諸外国の保育者
15　保育者になる人へのメッセージ

[授業方法]
講義が主体であるが、テーマに合わせた個人発表を行い、質疑応答、評価反省を行って主体的な学びを行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
筆記試験（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
「新時代の保育双書　今に生きる　保育者論　第4版
(みらい)

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
（予習）課題、テーマに関する下調べ
（復習）課題、テーマに関する振り返り、まとめ
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
よりよい学びのために一人一人の積極的な参加を期待します。
個人発表では、発表形態は自由でそれぞれの工夫を期待します。

[科　目　名] 保育の心理学
[担当教員名] 朴　賢晶
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE30_B11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
乳幼児期の知的な発達、身体的な発達、そして対人関係や人格の発達などを具体的に学びながら、保育と発達との関係について理解を深めることを目的とする。特に人とのかかわりの中で子どもをどのように捉えていくかなどを理解する。

[学習成果] [B]
1　保育実践に関わる発達理論などの心理学的知識を踏まえ、発達をとらえる視点について理解することができる。
2　子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となるこどもへの理解を深めることができる。
3　乳幼児期の学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互作用や体験、環境の意義を理解することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎	○		◎	◎		○

[授業計画]
1　発達を理解することの意義
2　保育実践の評価
3　発達観と保育観
4　発達を規定する要因
5　感情の発達
6　運動機能の発達
7　知覚と認知の発達
8　言葉の発達
9　基本的信頼感の獲得
10　愛着の形成
11　初期経験と発達援助
12　新生児の発達
13　乳幼児期の発達
14　乳幼児期の学びの過程と特性
15　乳幼児期の学びを支える保育

[授業方法]
講義による授業形態。学生に理解を深めさせるために、事例を検討し発表するや、DVD等を用い発達心理学における最新の研究を視覚的に提示する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
小テスト・レポート (50%)
平常点 (30%) (平常点：授業参加度、授業態度等)
中間テスト (20%)

[教科書]
「保育の心理」長谷部比呂美・日比暁美・山岸道子　著
(ななみ書房)

[参考書]
「保育を支える発達心理学」鯨岡峻・鯨岡和子著
(ミネルヴァ書房)

[準備学習 (予習・復習)]
レポートは、授業に問題意識をもって臨むための予習的なものと、学習した内容を深めるためのものにする。
(履修案内のII履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
毎回授業の学習量が多いため、授業の終わりに予習事項を知らせる。毎回予習を持って授業に挑むことが望ましい。

[科　目　名] 子ども家庭支援の心理学
[担当教員名] 林　貴子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE30_B11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
①生涯発達、②家族・家庭の理解、③子育て家庭に関する現状と課題、④子どもの精神保健とその課題についての知識理解を通して、保育者が子どもとその保護者を含む家庭をどのように理解し支援していくかについての理解を深める。

[学習成果] [B]
生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。
家庭の意義や機能を理解するとともに、発達的な観点から　家庭・家族を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭をめぐる現代の社会的状況や課題について理解する。子どもの精神保健とその課題について理解する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○	○	○	○			

[授業計画]
1　生涯発達の概念と発達課題
2　乳幼児期から学童期までの発達
3　学童期後期から青年期までの発達
4　成人期、老年期の発達
5　家族・家庭の意義と機能
6　現代の家庭における人間関係
7　子どもの発達と家庭
8　子育てを取り巻く社会状況
9　ライフコースと仕事・子育て
10　子育ての経験と親としての育ち
11　多様な家庭とその理解
12　特別な配慮を要する家庭
13　子どもの心の健康と発達
14　子どもの心の健康と発達
15　子どもの心の健康に関わる問題

[授業方法]
講義による授業形態。内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的な学習を促す。
リフレクションシートを活用し、学習内容の定着を図る。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験　(60%)
小テスト　(20%)
提出物及び授業への取組状況　(20%)

[教科書]
「子ども家庭支援の心理学」原信夫・井上美鈴編著
(北樹出版)

[参考書]
随時紹介

[準備学習 (予習・復習)]
テキストを事前に講読してくる。授業内容に関する課題に取り組み、提出する。
(履修案内のII履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科　目　名] 領域「人間関係」
[担当教員名] 村上　浩美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE30_C12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
乳幼児期に人とどのようにかかわっていくのかその過程と発達の姿を理解し、人とかかわる力を身に付けていくために保育者はどのように保育計画を立て援助すべきかを考える。

[学習成果] [C]
乳幼児期における人と関わる力の発達や幼稚園教育要領・保育所保育指針の「人間関係」の領域に示されている内容や保育者としての保育・指導方法が理解できる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○	○	○	○	○		

[授業計画]
1　今日の人間関係
2　乳幼児期の発達・愛着の形成
3　身近な大人との関わり・受容と応答
4　子どもと保育者との関わり (1) 信頼関係を築く
5　自立と依存
6　遊びと生活の中で人との関わりを育てる
7　子どもと保育者との関わり (2)
子ども同士の関係をつなぐ
8　個と集団の育ち
9　自己主張と自己抑制 (1) 自己主張を支える
10　自己主張と自己抑制 (2) トラブルを通して
11　協同性の育ち
12　道徳性の芽生え・人の役に立つ喜び
13　規範意識の芽生え
14　地域や家庭生活の中で人との関わりを育てる
15　人との関わりを育む幼児教育の今日的課題

[授業方法]
具体的な事例から子どもが人との関わりから何を体験し保育者はどう援助すべきかを考えるようにする。
アクティブラーニング導入。
事例検討しグループ討議することで、子どもの内面や保育者の援助について多様に考えていく。
幼稚園、小学校の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
試験　(70%)
授業への取組状況　(30%)

[教科書]
「事例で学ぶ保育内容　領域人間関係」　無藤隆監修
(萌文書林)

[参考書]
「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

[準備学習 (予習・復習)]
授業前に、前回の授業内容を見直しておくこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
人の考えは様々で、自分とは違った感じ方や考え方に触れることも大切です。グループ討議では、積極的に自分の思ったことや考えたことを発表しましょう。また、他の人の発言を聞く態度も、グループ討議の効果を出すためには重要です。黙って聞いているだけではなく、うなずいたり質問したり同意したりしましょう。

[科　目　名] 領域「言葉」
[担当教員名] 加藤　智子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE30_C11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育内容の領域「言葉」の指導の基盤となる、発達理解、保育のねらい、内容、指導・援助方法、児童文化財に関する知識と実践力を学ぶ。また、保育者として求められるコミュニケーションの役割や方法を学び、伝える力、聴く力を習得していく。

[学習成果] [C]
領域「言葉」のねらい及び内容を理解すると共に、乳幼児及び障がい児、日本語を母語としない子どもの言葉の発達、援助方法を学習する。さらに、グループ学習、模擬保育を通して、発達にあった児文化財の理解、指導計画の作成、保育実践、保育者として必要なコミュニケーション力が習得できる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	◎	○	○	◎		○

[授業計画]
1　オリエンテーション：言葉とは
2　保育における言葉の発達
3　0歳児の言葉
4　1歳児の言葉
5　2歳児の言葉
6　3歳児の言葉
7　4歳児の言葉
8　5歳児の言葉
9　領域「言葉」のねらい及び内容
10　言葉の発達のサポート
11　日本語を母語としない子どもへのサポート
12　言葉の発達を促す児童文化財 (3歳未満児)
13　言葉の発達を促す児童文化財 (3歳児以上児)
14　言葉を育てる指導と指導計画 (3歳未満児)
15　言葉を育てる指導と指導計画 (3歳児以上児)

[授業方法]
教科書及び幼稚園教育要領等を基にし、乳幼児期の子どもの言葉の発達、指導、援助方法についてICTを活用し、具体的事例を紹介しながら講義を行う。また、演習内容として、読み聞かせの発表、課題に対してグループ学習、模擬保育等を行い、実践力を養っていく。
アクティブラーニング導入
幼稚園教諭の実務経験を活かし、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況・提出物　(50%)
定期試験　(50%)

[教科書]
コンパス　保育内容言葉 (建帛社)

[参考書]
「幼稚園教育要領」
「保育所保育指針」
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び各解説書」

[準備学習 (予習・復習)]
発表、模擬保育等の準備及び振り返り
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
グループワーク等での積極的な姿勢を期待する。

[科　目　名] 領域「環境」の指導法
[担当教員名] 今村　光章
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE30_C12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
幼稚園教育要領に示されているように、幼稚園教育における領域「環境」では、周囲の様々な自然環境、社会環境に好奇心と探究心をもって幼児がかかわろうとし、それを生活に取り入れていく力を培うことを目指している。この基本的な方向性をしっかりと把握し、領域「環境」のねらいと内容を学ぶとともに、その背景となる専門的な知識を身につけ、子どもの発達に即して、主体的かつ対話的な深い学びができるような具体的な指導ができる保育援助技術と考え方を身につける。

[学習成果] [C]
幼稚園教育要領の基本、および、幼稚園教育においてはぐくみたい資質と能力を理解する。また、具体的な指導場面を想定して領域「環境」の保育を構想する知識と考え方、保育援助技術を身につける。さらに、領域「環境」のねらいと内容を理解しながら、保育者として幼児が環境にかかわる活動の意義を理解することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
				○	◎		○

[授業計画]
1　幼稚園教育とは何か：幼稚園教育要領について
2　環境とは何か：自然と環境という用語をめぐって
3　領域「環境」とは何か：領域と教科との違い
4　子どもの育ちと現代の生活環境
5　環境へのかかわり方と子どもの発達
6　子どもの活動を引き出す保育環境
7　物とのかかわりにおける子どもの育ち
8　動植物とのかかわりにおける子どもの育ち
9　自然や季節とのかかわりにおける子どもの育ち
10　幼児期の自然体験教育と環境教育について
11　地域社会や施設とのかかわりにおける子どもの育ち
12　情報環境とのかかわりにおける子どもの育ち
13　数量・図形への興味と認識の育ちと指導法
14　文字・標識への興味と認識の育ちと指導法
15　子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割

[授業方法]
講義では、様々な環境の意義を理解できるようにする。
演習では、アイスブレイクやグループワーク取り入れて、環境構成の方法と保育における援助技術について学ぶ。
アクティブラーニングを積極的に導入する。

[成績評価]
小テスト（50%）
レポート（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「保育内容 環境」榎沢良彦・入江礼子編著（建帛社）
「平成29年告示　幼稚園教育要領」チャイルド本社

[参考書]
「幼児理解の現象学」矢野智司（萌文書林）

[準備学習（予習・復習）]
毎時間後に示すレポートを提出すること。また、次の授業までには、1時間程度前回の授業の内容を見直しておくこと。また、関連する内容の情報を自分で探し、問題意識を高めて授業に臨むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日ごろから動植物に目を向けましょう。

[科　目　名] 乳児保育Ⅰ
[担当教員名] 柴田　法子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE30_C12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
3歳未満児の発育・発達の過程や、特性を踏まえた援助や関わり方を学び、保育者の役割を知る。
乳児保育の歴史、意義や必要性について学び、保育所や保育所以外の乳児保育を知る。

[学習成果] [C]
3歳未満児の発育・発達や保育所での生活について理解し、乳児保育に必要な知識を習得することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○			◎	○		○

[授業計画]
1　乳児保育の意義・目的
2　乳児保育の歴史的変遷
3　乳児保育の役割と機能
乳児保育のおける養護及び教育
4　乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
5　保育所における乳児保育
6　保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
7　地域型保育における乳児保育
8　3歳未満児とその家族を取り巻く環境と子育て支援
9　3歳未満児の生活と環境
10　3歳未満児の遊びと環境
11　3歳以上児の保育に移行する時期の保育
12　3歳未満児発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり
13　3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮
14　乳児保育における計画・記録・評価
15　乳児保育における職員間の連携・協働

[授業方法]
テキストや視聴覚教材を使用し、乳児の発達や保育内容について講義を行う。
保育者や保護者など様々な面から乳児保育を考え、グループディスカッションをしていく。
アクティブラーニング導入。
保育士・幼稚園教諭の実務経験あり、実践的な関わり方、手遊びやふれあい遊び等も授業に取り入れていく。

[成績評価]
試験（70%）
課題や授業への取組状況（30%）

[教科書]
「新基本保育シリーズ⑮乳児保育Ⅰ・Ⅱ」
寺田清美編集（中央法規）

[参考書]
「保育所保育指針」（フレーベル館）

[準備学習（予習・復習）]
前回の復習、テキストの該当範囲を読み予習しておくこと。
授業後はノートをまとめたり見直したりし、理解を深めておくこと
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学習時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] リズム表現指導法
[担当教員名] ほり　みか
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE30_C11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
幼児期に感受性を高め、表現力豊かで健康享な生活を送るために、保育の中で何をどう取り組むべきかを工夫する。
そのための環境作り、準備、リズム遊び、リズム表現の教材を作成、使用、実習を行う。

[学習成果] [C]
健康的で安全な環境を作り、またそのための気配りができるようにする。幼児が楽しみながら健康、リズム感、表現力、運動能力を向上できる方法を知る。
グループワークを通し、協調性、リーダーシップ、考える力、を養うことができる。
就職後に役立つスキルを習得することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
			◎		◎		

[授業計画]
1 オリエンテーション、自己紹介(大勢の前での表現)、お遊戯振付体験
2 基礎トレーニング①　リズム遊び①
3 リズム・ステップ・体の使い方の基礎①　リズム遊び②
4 リズム・ステップ・体の使い方の基礎②　リズム遊び②
5 身体表現　色々な動き・ステップの習得
6 身体表現　きちんと踊る・カウントを習得①
7 身体表現　きちんと踊る・カウントを習得②
8 リズム表現の基礎　構成・振付を学ぶ①
9 〃　②
10 〃　③
11 作品制作①　幼児にとって発表の意義を学ぶ、選曲
12 作品制作②　構成、振付を学ぶ
13 作品制作③　振付をする、衣装小道具をかが得る
14 作品制作④　スキルアップ
15 作品制作⑤　発表・他の作品を評価する

[授業方法]
演習
身体表現・リズム運動・振付の基礎の習得
グループワークでの作品制作
アクティブラーニング導入
幼稚園教諭・舞台振付家の実務経験を生かし、実践的で効果的な作品制作の方法を学ぶ。

[成績評価]
共同制作作品評価 (60%)
実技小テスト (30%)
協調性、リーダーシップ、授業への取組状況(10%)
[教科書]
特になし
[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]
学んだストレッチを日常化し、健康的な体を作る。
休暇時に舞台・美術など芸術に触れ見識を深める。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
運動のできる服装に着替える事。
底の柔らかい靴持参。
(参考)
https://note.com/final_onigiri/n/n58a846f257c1

[科　目　名] こども音楽療育概論
[担当教員名] 野中　亜紀
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年前期　[科目コード] IE30_C11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
講義形式で、障がいのあるこどもの音楽療育に関する基礎知識・専門知識、具体的には、こどもの心身の発達過程と音楽的発達の関係、音楽と遊びの関係、音楽療育の意義と障害種別の具体的援助方法などを学んでいく。

[学習成果] [C]
こどもの心身の発達、音楽的発達、心身の発達と遊びの関係を理解することができる。
障がい児保育、統合保育、通常保育における音楽の意義について理解できる。
障がい種別音楽療育の意義と具体的援助方法について理解できる。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	◎	○	○	◎	◎	○	

[授業計画]
1 オリエンテーション、音楽療法、音楽療育の意義と必要性
2 こどもの心身の発達、音楽療育のテクニック1 (援助や声の使い方)
3 こどもの心身の発達、音楽療育のテクニック2 (行動分析的な手法)
4 こどもの心身の発達、音楽療育のテクニック3 (行動分析的な手法)
5 こどもの心身の発達、音楽療育のテクニック4 (環境作り)
6 音楽療育におけるアセスメント
7 音楽療育の計画方法
8 音楽療育の評価方法
9 音楽療育における音楽の役割・機能、実践例 (視覚障がい・聴覚障がい)
10 音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例 (身体障がい、重複障がい)
11 音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例 (ダウン症、知的障がい)
12 音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例 (自閉症)
13 課題発表
14 課題発表
15 まとめ

[授業方法]
講義が主体だが、ＤＶＤ視聴、こどもの歌を歌う、ロールプレイなどを交えて行っていく。音楽療法、音楽療育の実務経験があり、発達支援に向けた実践的な音楽の活用方法を紹介しながら授業を行う。
アクティブラーニング導入。
[成績評価]
試験 (40%)
授業、課題への取組状況 (30%)
課題提出 (30%)

[教科書]
「音楽療法の必須100曲：子ども編」 (あおぞら出版社)
[参考書]
[準備学習 (予習・復習)]
授業後には30分程度課題に取り組み、授業内容に対する理解を深める。毎日15分以上、自主的に弾き歌いの練習をする。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
この科目は課題が多いです。課題提出遅れは減点になるので注意しましょう。

[科　目　名] こども音楽療育演習
[担当教員名] 野中　亜紀
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE30_C12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
楽器の使い方、伴奏の方法を学び、また子ども向けの曲のレパートリーを広げるために練習する。障がい種別、形態別の活動例を実際にロールプレイで行う。それを踏まえ、実際に学生自身が活動内容を計画してロールプレイで行う等の活動も行う。
[学習成果]　[C]
こどもに対する音楽療育活動を行うための音楽的技術を修得することができる。
こどもに対する音楽療育活動を行うための療育的な援助技術を修得することができる。
障がい種別、形態別の音楽療育の具体的な方法を身につけることができる。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	○	◎	◎	◎	

[授業計画]
1　オリエンテーション、楽器の紹介、鳴らし方などを学ぶ、曲の割り当て
2　こどもを対象とした音楽療法（音楽療育）について、こども向けの曲の練習
3　身体障がい児を対象とした音楽療育活動、こども向けの曲の練習
4　知的障がい児を対象とした音楽療育活動、こども向けの曲の練習
5　感覚障がい児を対象とした音楽療育活動、こども向けの曲の練習
6　ダウン症のあるこどもを対象とした音楽療育活動、こども向けの曲の練習
7　自閉症のあるこどもを対象とした音楽療育活動、こども向けの曲の練習
8　身体障がい児を対象とし、手順について考えながら、歌唱、楽器、身体運動などの活動を行う
9　知的障がい児を対象とし、手順について考えながら、歌唱、楽器、身体運動などの活動を行う
10　感覚障がい児を対象とし、手順について考えながら、歌唱、楽器、身体運動などの活動を行う
11　ダウン症のあるこどもを対象とした音楽活動を計画し、実際にロールプレイを行う
12　自閉症のあるこどもを対象とした音楽活動を計画し、実際にロールプレイを行う
13　自閉症のあるこどもを対象とした音楽活動を計画し、実際にロールプレイを行う
14　課題の発表、評価
15　課題の発表、評価
[授業方法]
毎回、ロールプレイを行うが、講義も少しずつ取り入れて授業を行う。ロールプレイでは、こども役など各役割を必ず担当する。また、ロールプレイ後、意見を交換し合って技術を高めていく。音楽療法、音楽療育の実務経験があり、授業では発達支援に向けた実践的な音楽の活用方法を紹介する。アクティブラーニング導入。
[成績評価]
授業への取組状況（50%）、提出課題（20%）
音楽療育活動の内容と提出した活動計画（30%）
[教科書]
「音楽で育てよう：子どものｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・ｽｷﾙ」（春秋社）
[参考書]
「音楽療法の必須100曲：子ども編」（あおぞら出版社）
[準備学習（予習・復習）]
活動計画立案、ピアノ伴奏練習、教科書の予習などに、30分程度取り組む。授業後には20分程度、自己評価、観察記録を記入し、音楽療育の技術向上を目指す。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]

[科　目　名] 短期海外保育研修
[担当教員名] 赤塚　徳子・山崎　宜久
[授業クラス] (学科)幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE30_D12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
ニュージーランドにおいて、保育実習や語学研修を行う。グローバルな視野をもち、幼児教育への知識と経験を深める。

[学習成果]　[D]
テファリキの教育理念に基づいた実践現場を体感することで、多文化保育について学び、多角的かつ柔軟な思考やアプローチの仕方を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	○	◎	○		○

[授業計画]
○ 事前学習
・ニュージーランドの文化や保育について学ぶ
・実習に向けての英語学習や保育実技の練習をする
・事前オリエンテーション
・渡航手続き

○ 研修の内容
・現地の保育士による講座（テファリキの学習）
・現地の幼稚園または保育所での実習
・コハンガレオ（マオリの幼稚園）の見学
・ホームステイによる現地の生活体験
・語学研修

○ 巡回訪問指導
・現地保育実習先での実習指導

○ 研修のまとめ
・研修の振り返り
・報告資料の作成・発表

[授業方法]
ニュージーランドの乳幼児教育の現場で、多文化保育を体験する。事前事後指導を行い、実習準備や振り返りをし、海外研修での学びを深めるようにする。

[成績評価]
事前学習の取組（10%）　実習態度（30%）
実習記録（30%）　実習のまとめ・報告（30%）

[教科書]
適宜資料を配布

[参考書]
過去の短期海外保育研修報告書および視聴教材

[準備学習　（予習・復習）]
事前にニュージーランドの文化や生活、保育内容について調べたり、現地保育実習での保育教材の準備をしたりする。（10時間程度）
研修後は、実習を振り返り、報告書にまとめる。（5時間程度）
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
ニュージーランドおよび日本の社会状況により、実施の可否や時期、研修内容の調整をする。

2　専門科目

幼児教育学科　第３部　２年

[科　目　名] 子ども家庭福祉
[担当教員名] 池戸　裕子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE30_A22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
・子ども家庭福祉を取り巻く状況や支援の仕組みを理解する。
・子ども家庭福祉に関わるサービスや機関・施設について理解する。
・事例を通して、ソーシャルワークの視点を学ぶ。

[学習成果] [A]
・子ども家庭福祉に関わる幅広い機関との連携を図りながら援助ができるように、基礎的な知識と援助のための視点を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎	○	○	◎	○		

[授業計画]
1　子ども家庭福祉の考え方
2　子ども家庭福祉を取り巻く少子化問題
3　子ども家庭福祉の歴史的背景
4　行政の仕組みとかかわる法律
5　子ども家庭福祉にかかわる機関および施設
6　健全育成について
7　母子保健について
8　保育の現状と課題
9　要保護児童への支援
10　障がい児への支援
11　非行少年およびひとり親家庭への支援
12　子ども虐待防止とその対応
13　ソーシャルワークのプロセス
14　事例から学ぶソーシャルワーク
15　子ども家庭福祉における多機関連携

[授業方法]
基本的な知識に関しては講義が中心となるが、事例検討やロールプレイを取り入れることにより、実践的な学びにつなげるとともに、保護者支援や多機関連携における保育者の役割や援助方法についての学びを深める。
アクティブラーニング導入。
障害児通園施設（現：児童発達支援センター）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
試験（60%）
授業参加への積極性、提出物、発表（40%）

[教科書]
「児童家庭福祉」　福田公教/山縣文治編著
（ミネルヴァ書房）

[参考書]
「ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック」全国保育士養成協議会監修（中央法規）

[準備学習（予習・復習）]
日頃から、子ども家庭福祉に関連するニュースをチェックし、何が問題になっているのかを説明できるようにしておいてください。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 子どもの食と栄養Ⅰ
[担当教員名] 小野内　初美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE30_B21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
はじめに、栄養学の基礎である栄養生理、栄養素を理解する。さらに、子どもの発育・発達に必要な栄養素と、それらを含む食品、咀嚼・嚥下・消化・吸収機能の発達にともなった、栄養素摂取と食生活を学ぶ。また、保育者として、子どもの食生活上の問題点を考えながら、子どもに適した栄養素摂取や食生活の必要性、子どもが体得した食習慣が成人に達してからの心身の健康に及ぼす影響を認識する。
[学習成果] [B]
子どもに望ましい食習慣を身につけさせるための、栄養学や食生活の知識を習得し、保育者として子どもや保護者への食生活支援ができる知識が身につく。また、健康であることの大切さを理解し、食育を実践できる知識を習得できる。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○			○	◎		

[授業計画]
1　子どもの健康と食生活の意義
2　子どもを取り巻く食環境と課題
3　栄養に関する基礎知識①（栄養の生理、栄養素の種類と機能）
4　栄養に関する基礎知識②（栄養素の種類と機能）
5　食事摂取基準とその活用、保育所等における献立
6　保育所における食事の提供ガイドライン
7　妊娠のメカニズムと出産、妊娠期・授乳期の食生活
8　乳児期（乳汁期・離乳期）の発育と食生活
9　幼児期の発育・発達と食生活
10　学童期、思春期の発育・発達と食生活
11　家庭や児童福祉施設における食事と栄養
12　食育の基本と内容及びその環境
13　食育の計画及び評価
14　疾病及び体調不良、障がいのある子どもへの食生活の対応
15　食物アレルギーのある子どもへの対応
保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
[授業方法]
理論を学びながら演習を中心とする。学生が主体的に学べるようにグループ学習や調べ学習を行う。問題点やその解決のための対応について、ディスカッションを取り入れる。単元終了ごとに小テストやレポート作成を行う。アクティブラーニング導入。
産業給食（企業内）栄養士、病院栄養士の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。
[成績評価]
筆記試験（小テスト含む）（60%）
授業への取組状況（20%）
レポート等の提出物（20%）
[教科書]
「新・子どもの食と栄養」岩田章子他編（みらい）
[参考書]
「保育所における食事の提供ガイドライン」
平成24年3月（厚生労働省）
「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
（2019年改訂版）」（厚生労働省）
[準備学習（予習・復習）]
次回のテーマについて、下調べ等の予習と毎回の授業内容をノートに整理し、復習を行う。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位の学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
子どもの食に関する雑誌、新聞記事等を読むように心がけるとよい。

[科　目　名] 子どもの食と栄養Ⅱ
[担当教員名] 小野内　初美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE30_B22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
調理を多く取り入れ、食材に触れることにより、「子どもの食と栄養Ⅰ」で学んだ内容に対する理解を深めていく。子どもの発育・発達に適した調理形態の変化、食品選択、食生活を実践的に学ぶ。また、子どもの養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育について理解する。

[学習成果] [B]
調理を通して食材を知り、基本的な調理技術を身につけ望ましい食生活への理解を深めることができる。子どもに望ましい食習慣を身につけさせるための、栄養学や食生活の知識を実践的に習得し、子どもや保護者への食生活支援、食育実践ができる能力が身につく。食事を楽しむ気持ち、健康であることの大切さを理解できる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○			○	◎		

[授業計画]
1　オリエンテーション（実習室の使い方、衛生管理）
2　乳汁栄養（調乳）、乳汁栄養の理解
3　離乳初期（生後5、6か月）
4　離乳中期（生後7、8か月）
5　離乳後期（生後9～11か月）
6　離乳完了期（生後12～18か月）
7　幼児食（1、2才）
8　幼児食（3～5才）
9　学童期の食事
10　間食（おやつ）
11　行事食
12　偏食、食欲不振時の食事
13　食物アレルギー対応の食事①
14　食物アレルギー対応の食事②
15　食育

[授業方法]
演習を中心とするが、実際に食材に触れ、調理を行うことを多く取り入れ、食への関心を高める。テーマごとにレポート作成を行う。アクティブラーニング導入。
産業給食（企業内）栄養士、病院栄養士の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
筆記試験（50%）
レポート等の提出物（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「新・子どもの食と栄養」岩田章子他編（みらい）

[参考書]
「子どもの食と栄養演習ブック」松本峰雄監修
（ミネルヴァ書房）

[準備学習（予習・復習）]
次回のテーマについて、下調べ等の予習と毎回の授業内容をノートに整理し、復習を行う。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位の学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
子どもの食に関する雑誌、新聞記事等を読むように心がけると良い。

[科　目　名] 保育内容総論
[担当教員名] 岩間　直美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE30_C22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育内容は、文字通り「内容」であると同時に「方法」でもあり、「実践」でもある。多岐にわたる保育内容を「総論」として総合的に学び、子どもの遊びや生活などの具体的な活動を通して展開される保育について理解を深めていくとともに実習や今後の保育につながる実践的な援助方法や指導計画を検討する。

[学習成果] [C]
保育所・幼稚園における5領域をふまえた日々の保育の営みを、総合的な視点で読み取り、養護と教育が一体となって展開される保育内容として、保育の場で実践できるようになるための学びを習得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○	○	○	◎		○

[授業計画]
1　オリエンテーション　保育内容総論で学ぶこと
2　保育の基本および保育内容の理解
3　保育内容の歴史的変遷
4　子どもと保育内容①子どもの発達の特性と保育内容
5　子どもと保育内容②子ども理解
6　養護と教育が一体的に展開する保育
7　環境を通して行う保育
8　遊びによる総合的な保育
9　5領域と保育内容①事例検討
10　5領域と保育内容②保育計画
11　5領域と保育内容③模擬保育
12　保育の多様な展開
13　子育て支援を創造する保育内容
14　幼保小の連携
15　保育内容の課題とまとめ

[授業方法]
具体的な事例をグループディスカッションし、疑問点を整理しながら様々な視点で保育をとらえていく。
実際の保育をイメージしながら検討することで、保育内容を総合的に学び、実践していく。
アクティブラーニング導入。
保育者としての実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
筆記試験（50%）
授業への取組状況（30%）
課題（20%）

[教科書]
特になし。適宜レジュメを作成する。

[参考書]
保育所保育指針（平成29年告示）

[準備学習（予習・復習）]
授業の初めに実技披露をするため、予習と探索が必要である。また、振り返りや小テストがある場合は、事前事後学習をする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
これまで学んだ5領域の知識・技能を総合的に活用できるよう柔軟な学び合いをしていく。

[科　目　名] 保育の計画と評価
[担当教員名] 伊藤　久美子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE30_C22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
保育の基本とカリキュラム及び幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園での教育・保育課程、指導計画の基礎理解。さらに、乳幼児期の発達、保育の目的を踏まえた、指導計画、保育実践、評価・反省（カリキュラムマネジメント）の理解と模擬保育による応用。

[学習成果] [C]
幼児教育・保育の基本を理解し、発達を踏まえた指導計画、保育実践、評価・反省の意義と方法が理解できる。
また、グループ学習、模擬保育等の取組みを通して、様々な保育に応用できる保育実践力が習得できる。
<アクティブラーニング導入>

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○	◎		◎	○	○

[授業計画]
1 保育カリキュラムの意義と保育の基本
2 保育カリキュラムとの保育実践
3 教育・保育課程と指導計画
4 指導計画の作成①（ねらいと内容）
5 指導計画の作成②（環境・保育者の援助）
6 保育の指導計画①：0,1,2歳児
7 保育の指導計画②：3,4,5歳児
8 様々な指導計画
9 指導計画の作成と実践①（乳児の保育）
10 指導計画の作成と実践②（幼児の保育）
11 指導計画の作成と実践③（異年齢児の保育）
12 保育の評価とカリキュラムマネジメント
13 保育の評価・反省（ポートフォリオの作成）
14 子ども主体の保育実践①：レッジョエミリア市の挑戦
15 子ども主体の保育実践②：見守る保育

[授業方法]
教科書及び幼稚園教育要領、保育所保育指針を基にして講義を行う。ICTを活用し、具体的な保育方法、子どもの姿を学ぶ。また、アクティブラーニングを導入して、グループ学習、模擬保育による主体的な学び、積極的な取り組みを重視する。
保育現場での実務経験を活かし、実務的な指導、環境で授業を行う。

[成績評価]
定期試験（50%）
授業への取組状況（提出物・発表等）（50%）

[教科書]
「保育カリキュラム論－計画と評価－」（建帛社）

[参考書]
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
及び各解説書

[準備学習（予習・復習）]
教科書をよく読んでおくこと。模擬保育、グループ発表等の準備及び振り返り。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
日頃から教材研究、保育実技の練習をしておくこと。

[科　目　名] 領域「健康」
[担当教員名] 岡田　摩紀
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE30_C21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。

[学習成果] [C]
乳幼児の心身の健康・発育発達・基本的生活習慣・あそび・安全に関する知識を学習する。さらに運動あそび・伝承あそびの実践を通して指導法を修得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○	○	○	◎		○

[授業計画]
1 健康の定義・幼児期の健康とは
2 健康・安全な生活を送るための環境整備
3 基本的生活習慣とその意義
4 乳幼児期の身体の発育（身長・体重・骨）
5 乳幼児期の身体の発達（生理機能）
6 乳幼児期の体力・運動能力の発達（動きの発達）
7 乳幼児期の運動能力低下の背景
8 乳児期の遊びの実際
9 幼児期の遊びの実際
10 幼児期運動指針のポイントと運動の意義
11 幼児期運動指針における多様な動きとは
12 幼児期のあそびと安全
13 乳幼児期の怪我と疾病
14 リスクとハザードの違いと危険の予測
15 健康のねらいと内容

[授業方法]
講義で理解した内容を演習にて実践する。演習の後は振り返りを行い学んだことについてのさらなる理解ができるようにしていく。

[成績評価]
筆記試験（50%）
指導法修得度（50%）

[教科書]
授業内で参考資料を配布

[参考書]
「新 子どもの健康」（三晃書房）、
「柳沢運動プログラム」（オフィスエム）
「幼稚園教育要領」
「保育所保育指針」

[準備学習（予習・復習）]
乳幼児の発育・発達について理解するとともに領域「健康」の指導法を受講するための基礎知識を身につける。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 領域「表現」
[担当教員名] 伊藤　久美子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　　[科目コード] IE30_C21
[単　位　数] 1単位　　[授業形態] 演習

[授業概要]
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」のねらいと内容をふまえ、ICTを活用しながら、乳幼児の表現の理論、技術、援助方法を習得する。様々な表現活動を体験しながら、保育者として必要な感性や表現力を磨く。

[学習成果] [C]
保育者として必要な感性、表現力、想像力を身につける。子どもの表現活動を理解し、発達に応じた保育計画の立案と援助ができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○	◎		◎	○	

[授業計画]
1　表現とは（子どもの興味・関心を知る）
2　乳幼児の表現とコミュニケーション
3　児童文化と表現（わらべ歌と伝承あそび）
4　作って遊ぶ①（教材研究と計画）
5　作って遊ぶ②（制作・グループ練習）
6　作って遊ぶ③（遊びの展開をグループで発表）
7　自然を楽しむ表現活動
8　絵本を使った表現遊びの方法①（音遊び）
9　絵本を使った表現遊びの方法②（音遊びの発表）
10　体を使った表現遊び（リトミック）
11　様々な舞台表現と子どもの感性の発達
12　舞台表現の実践①（サンドアートの構想を練る）
13　舞台表現の実践②(サンドアートの発表準備と練習)
14　舞台表現の実践③（サンドアートの発表）
15　援助・指導方法の検討（指導計画の立案）

[授業方法]
実際に保育現場で行われている表現遊びや子どもの姿を考えながら、子どもの立場になって表現の楽しさを体感し、子どもの表現活動の理解を深める。
グループワーク、グループディスカッション等を取り入れ、新たな表現方法を研究し、実践を通して応用力を身につけていく。アクティブラーニング導入。
幼稚園での実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
提出作品・レポート提出・発表内容（70%）
製作過程（計画性・積極性・授業への取組状況等）（30%）

[教科書]
「音楽と語りで夢を育む絵本ケア」真下あさみ編著
(三恵社)

[参考書]
幼稚園教育要領　保育所保育指針
幼保連携型認定こども園教育・保育要領

[準備学習（予習・復習）]
（予習）保育雑誌などを参考に、1時間程度かけ作品の構想を考えておくこと。また、人前で発表する際は2時間程度かけ事前の練習をしっかり行うこと。
（復習）振り返りレポートの提出
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日頃から様々な事象に触れ、想像力を働かせるように意識すること。
考えや思いを心の中に秘めるだけではなく、外に表し、他者とのコミュニケーションを深めていけるように心がけること。

[科　目　名] 領域「健康」の指導法
[担当教員名] 岡田　摩紀
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　　[科目コード] IE30_C22
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 演習

[授業概要]
領域「健康」は「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指すものである。
幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

[学習成果] [C]
乳幼児の心身の健康・発育発達・基本的生活習慣・あそび・安全に関する知識を学習する。さらに運動あそび・伝承あそびの保育実践とその映像を視聴し客観的に評価する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	○	○	○		◎	○	○

[授業計画]
1 健康のねらいと内容
2 内容の具体的事例
3 幼児の生活習慣の獲得
4 領域「健康」と保健体育との連続性
5 幼児の運動能力調査方法と評価
6 伝承あそびの指導案作成
7 伝承あそびの保育実践（けん玉・コマ回し）
8 伝承あそび保育実践（竹馬）
9 鉄棒あそびの指導案作成
10 鉄棒あそびの保育実践
（すずめ、前回り、ぶたの丸焼き）
11 鉄棒あそびの保育実践
（えんとつ、地球回り、逆上がり）
12 跳び箱を使った遊びの指導案作成
13 跳び箱を使ったあそびの保育実践
14 保育実践時の映像を用いての振り返り
15 保育実践時の映像に基づいた保育方法へのフィードバック

[授業方法]
講義で理解した内容を演習にて実践する。演習の後は振り返りを行い学んだことについてのさらなる理解ができるようにしていく。

[成績評価]
指導案（50%）
実践指導の評価（50%）

[教科書]
必要に応じて資料を配布

[参考書]
「新 子どもの健康」（三晃書房）
「柳沢運動プログラム」（オフィスエム）
「幼稚園教育要領」
「保育所保育指針」

[準備学習（予習・復習）]
あそびについて体験はもちろん、自身が見本を見せられることを目標とし、授業時間内に修得できない場合は自主練習とし、達成まであきらめずに取り組むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 領域「言葉」の指導法
[担当教員名] 真下　あさみ
[授業クラス] (学科)幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　　[科目コード] IE30_C22
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 演習

[授業概要]
乳幼児期に豊かな感性と言葉を育むための領域「言葉」のねらいと内容を理解する。児童文化財の意義とその活用に関する力を身につけるため、教材制作と実践を行う。
乳幼児の興味関心や発達を踏まえたうえで、言葉を引き出し伸ばすような保育を構想する力を修得する。

[学習成果] [C]
領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、応用できる。
言葉を育む保育者の役割を意識し、児童文化財を活用した保育実践力を向上させ、言葉の指導法を身につける。
手作りの教材制作、わらべうた、おはなしの実践等のグループ学習、発表等を通して乳幼児の興味関心、発達を踏まえた言葉を育む遊びや活動を構想する事ができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○		○			○		

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　領域「言葉」のねらいと内容
3　子どもの言葉と国語教育
4　児童文化財の研究（1）：紙芝居・絵本
5　児童文化財の研究（2）：人形
6　児童文化財の研究（3）：手作り教材
7　児童文化財の研究（4）：実践体験
8　児童文化財の研究（5）：振り返り
9　言葉表現を豊かにする保育実践：子どもと楽しむ「言葉遊び」
10　言葉表現を豊かにする保育実践：子どもと楽しむ「わらべうた」
11　言葉表現を豊かにする保育実践：子ども楽しむ「ペープサート」
12　言葉表現を豊かにする保育実践：おはなしの世界「ストーリーテリング(素話)」
13　子どもの言葉を育む保育実践：模擬保育（1）
14　子どもの言葉を育む保育実践：模擬保育（2）
15　まとめと振り返り

[授業方法]
実際の児童文化財およびICTを用いた動画、画像等を活用しながら具体的に言葉の指導法、児童文化財の活用法等について指導する。また、小テストで学習内容を振り返りつつ、教材制作、グループ学習、模擬保育等での保育実践を行い、実践力を養っていく。
また、保育経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況・実践・提出物（70%）
小テスト(30%)
[教科書]
特になし
[参考書]
「保育に役立つ　言語表現教材」（株）みらい
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」各解説書
[準備学習（予習・復習）]
発表前には、しっかり準備をして練習すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
教材制作、実践等の積極的な姿勢を期待します。

[科　目　名] 乳児保育Ⅱ
[担当教員名] 赤塚　徳子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　　[科目コード] IE30_C22
[単　位　数] 1単位　　[授業形態] 演習

[授業概要]
「乳児保育Ⅰ」の学びを踏まえ、多角的・総合的に学ぶ。乳児保育の計画・内容および具体的な援助の方法について、乳児とかかわる体験や、保育教材作製・保育実技の演習、事例検討を通して具体的に理解する。

[学習成果] [C]
3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助やかかわり方を理解する。また、保育計画や保育教材について具体的に学び、保育者としての実践力を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	○	○	◎		○

[授業計画]
1　乳児保育の重要性
2　乳児期の発育・発達 ①
3　乳児期の発育・発達 ②
4　1日の生活の流れと保育環境
5　乳児のあそび（保育教材作り）
6　乳児のあそび（保育実技）①
7　乳児のあそび（保育実技）②
8　実践学習（乳児の観察）
9　実践学習（乳児保育実習）
10　乳児保育における指導計画の特徴
11　指導計画書の書き方
12　保育環境と保健
13　保育事故の防止と対策
14　保護者とのパートナーシップ
15　保育者の役割と専門性

[授業方法]
講義により乳児期の保育内容や保育者の役割について学んだ上で、学内の子育て支援施設「文教おやこ園」での観察実習を通し、乳児期の発育・発達について具体的に学ぶ。また、保育計画を立て、保育実技を実践する。
アクティブラーニング導入。
保育士の実務経験があり、保育現場での事例を提示しながら具体的な講義や実技指導を行う。

[成績評価]
保育教材の作製・実技発表（30%）
実践学習の参加態度・観察レポート（30%）
ワークシート（30%）
授業への取組状況（10%）

[教科書]
適宜プリント教材配布

[参考書]
「乳児保育―子ども・家庭・保育者が紡ぐ営み―」
入江慶太　編著（教育情報出版）

[準備学習　（予習・復習）]
乳児期の発達段階を理解した上で講義や実習に臨むため、また保育教材の作製や実技発表に向けて、1時間程度の予習を行うこと。授業後には、1時間程度の復習をし、学習内容をワークシートにまとめること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]　地域志向科目
地域の親子との交流では、保育者としてふさわしい言葉遣いを心がけ、マナーを遵守しましょう。積極的に学び、保育者としての実践力を身につけましょう。

[科　目　名] 障がい児保育
[担当教員名] 上島　遥
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE30_C21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
・「障がい」とは何を指すのか、どう捉えるのか、について基礎的な知識とあわせてその視点を学ぶ。
・障がい児とその家族の気持ちを知り、その思いに寄り添った支援について学ぶ。
・障がい児の「生活」や「遊び」に重点を置いた、保育者としての支援のあり方について学ぶ。
・障がい児に関わる療育施設での取り組みや、保育所、幼稚園などでの保育実践、またそれぞれの役割や連携について学ぶ。

[学習成果] [C]
乳幼児期の子どもは、「障がい」がはっきりしている場合だけでなく「ちょっと気になる」という段階から子どもの特徴に寄り添った支援が必要である。障がい児の専門施設はもちろん、保育所や幼稚園などで保育者としての力を発揮するための理解を深めることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎			◎	○		

[授業計画]
1　障がい児保育を学ぶ意義、障がい児保育の目的
2　障がい児保育を取り巻く歴史的変遷
3　障がいの基礎知識（自閉症スペクトラム）
4　障がいの基礎知識（ＬＤ、ＡＤＨＤ）
5　障がいの基礎知識（発達の遅れ、知的障害）
6　障がいの基礎知識（視覚障害）
7　障がいの基礎知識（聴覚障害）
8　障がいの基礎知識（運動障害）
9　障がいの基礎知識（医療的ケアの必要な子ども）
10　障がいの発見と対応（乳幼児健診と親子教室）
11　障がい児のための専門施設（通所、入所）
12　家族への支援（親の思いを知る、家族支援の実際）
13　幼稚園・保育所における障がい児保育
14　進路選択、移行支援について（就園・就学）
15　障がい児と家族を支える福祉サービス

[授業方法]
教科書を中心とした講義に加えて、障がい児の困り感や支援方法について、グループワーク等の体験的な授業を展開する。また、家族の気持ちに寄り添うことを目的とした、事例の紹介やＤＶＤ視聴等も取り入れていく。
アクティブラーニング導入。
障害児通園施設（現：児童発達支援センター）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
試験（70%）
課題の提出、発表等の取組状況（30%）

[教科書]
「テキスト障害児保育」
近藤直子・白石正久・中村尚子編（全障研出版）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
授業ごとの要点を、自分の言葉で説明できるように復習すること。次の授業開始時に確認を行います。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]

[科　目　名] 社会的養護Ⅱ
[担当教員名] 川上　知幸
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE30_C22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
事例を中心とし、社会的養護の子ども・家族がおかれている状況や適切な支援方法について学ぶ。子ども・家族の理解や個別支援のセオリーを学ぶ他、多職種連携を基盤とするチーム支援の実際と課題について学習する。

[学習成果] [C]
子どもや家族の立場に立って本質的なニーズを理解し、具体的な支援方法が検討できるようになる。活発な意見交換を通して、多様な考え、価値観に触れ、事例を多面的に捉えられるようになる。
多職種の協働（チーム支援）によって支援することの意義や必要なスキルについて理解できる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎		○		○		

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　社会的養護の意義と専門職の役割
3　事例検討①：問題行動への対応
4　事例検討②：ケースワーク
5　虐待する親の心理と背景
6　事例検討③：ジェノグラム、分析
7　事例検討④：構造的背景への着目
8　多職種連携の現状と課題
9　児童養護施設における治療的養育①
10　児童養護施設における治療的養育②
11　子どもの権利擁護と支援者間連携
12　子どもの声を聴く実践方法
13　家族支援とファミリーソーシャルワーク
14　社会的養護における発達障害児支援
15　総括（リフレクション、フィードバック）

[授業方法]
具体的な事例をもとに事例検討を行う。グループ討議、クラス討議を組み合わせながら意見交換を行い、事例に対する見立てと手立てを多角的に考えることで実践的な問題解決能力を養う。アクティブラーニング導入。
児童養護施設等での実務経験があり、子ども・家族の事例や現場の実情を提示しながら、実践的な授業を行う。

[成績評価]
筆記試験（60%）
レポート（20%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
特になし。適宜、プリントを配布する。

[参考書]
授業内で適宜紹介する。

[準備学習（予習・復習）]
授業前には前回の事例内容やポイント、疑問点などを必ず振り返っておくこと。また、授業後には復習し、ノート等のメモを見ながら適宜分かりやすく修正、補足をすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
児童福祉関連の文献や新聞記事等での情報収集を心がけること。

[科　目　名] 国語表現法
[担当教員名] 保科　潤一
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE30_C21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
保育者として必要とされる国語表現を中心に学ぶ。文章・実習日誌・指導案・実習礼状・小論文など、あらゆる国語表現について学習する。特に小論文を中心として基本的かつ正確な国語表現を確実に身につけることを目的とする。

[学習成果] [C]
保育者としての国語表現の基礎を習得することにより、保育現場における実務力、保護者への対応力、子どもに対する言葉の指導力を高めることができる。また、日本語に対する子どもの興味関心を高めるための保育内容を考えていく力を身につけることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○	○		○	○		

[授業計画]
1　保育者としての国語の基礎力
2　会話表現基礎・・・挨拶・敬語
3　会話表現応用・・・保育者の発声・自己紹介
4　文章表現基礎・・・正しい文章の書き方
5　文章表現基礎・・・正しい現代表記
6　文章表現応用・・・はがき・手紙の書き方
7　文章表現応用・・・履歴書の書き方
8　文章表現応用・・・実習日誌の書き方
9　文章表現応用・・・事務文書の書き方
10　文章表現応用・・・小論文の基礎Ⅰ
11　文章表現応用・・・小論文の基礎Ⅱ
12　文章表現応用・・・小論文の実践　Ⅰ
13　文章表現応用・・・小論文の実践　Ⅱ
14　文章表現応用・・・文章作成の口頭発表Ⅰ
15　文章表現応用・・・文章作成の口頭発表Ⅱ

[授業方法]
講義により知識、基本的な技術について学ぶ。その後、毎時間のワークシートによる実践学習により、国語の基礎実践力を確実に習得していく。会話学習については、対話形式により、聴きあうこと、発話していくことを相互に学んでいく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
筆記試験（50%）
レポート等提出物（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「保育者になるための国語表現」田上貞一郎著
（萌文書林）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
漢字テストの準備
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 子ども音楽ⅠA
[担当教員名] 国藤 真理子・玉田 裕人・伊藤 真理子・倉田 弓・天石 佐保子・松浦 晴美・大橋 昌代
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE30_C21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な基礎的ピアノ技術及び音楽理論、知識の習得を図る。季節や行事にあわせた「童謡」や「わらべ歌」のレパートリーを増やすことで、保育現場で必要とされる豊かな表現力を養う。

[学習成果] [C]
保育現場で必要とされる、基礎的ピアノ技術及び伴奏・弾き歌いの習得を目指す。それらを習得するため、チェックシートを用い、目標を立てて講義に臨む事で、保育者に必要な主体性や計画性、思考力や豊かな表現力も同時に養う。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○			○		◎	○	○

[授業計画]
1　授業説明、ピアノ経験実態調査、実技指導
2　標準バイエルピアノ教則本№3～、楽典（譜表）
3　〃　、楽典(高音部記号、低音部記号)
4　〃　、楽典(音名・階名)、弾き歌い
5　〃　、楽典(音符と休符)、弾き歌い
6　〃　、楽典（音程）、弾き歌い
7　〃　、楽典（拍子記号）、弾き歌い
8　〃　、楽典（付点のリズム）、弾き歌い
9　〃　、グループ別実技発表会
10　〃　、楽典（反復記号）、弾き歌い
11　〃　、楽典（3連符）、弾き歌い
12　〃　、楽典（装飾音）、弾き歌い
13　〃　、楽典（強弱記号）、弾き歌い
14　実技発表会
15　標準バイエルピアノ教則本№3～、楽典（臨時記号）、弾き歌い

[授業方法]
1クラスを7～8名のレベル別グループに編成し、一人ひとりの進度に合わせた個別指導を行う。次の授業までに、チェックシートと音楽の基礎学習プリントの課題をこなし提出する。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況(60%)、実技発表評価（30%）
自主練習の取組〈チェックシート〉（10%）

[教科書]
標準バイエルピアノ教則本併用曲付(全音楽譜出版社)
こどものうた100（チャイルド本社）
うたって、つくって、あそぼう（音楽之友社）
教材プリント配布

[参考書]
楽譜がスラスラ読める本（永岡書店）
「ブルグミュラー25の練習曲」（全音楽出版社）

[準備学習（予習・復習）]
自主練習　毎日30分(初心者は1時間以上が好ましい)
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
この科目は、日々の積み重ねが非常に大切です。努力をすれば、必ずピアノが弾けるようになります。

[科　目　名] 子ども音楽ＩＢ
[担当教員名] 国藤 真理子・玉田 裕人・伊藤 真理子・倉田 弓・天石 佐保子・松浦 晴美・大橋 昌代
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE30_C22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
子ども音楽ＩＡに引き続き、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な基礎的ピアノ技術及び音楽理論、知識の習得を図る。季節や行事にあわせた「童謡」や「わらべ歌」のレパートリーを増やすことで、保育現場で必要とされる豊かな表現力を養う。

[学習成果] [C]
保育現場で必要とされる、基礎的ピアノ技術及び伴奏・弾き歌いの習得ができる。それらを習得するため、チェックシートを用い、目標を立てて講義に臨む事で、保育者に必要な主体性や計画性、思考力や豊かな表現力も同時に養う。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○			○		◎	○	○

[授業計画]
1 授業説明、グループ分け、実技指導
2 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い
3 〃 、楽典(長調と短調)、弾き歌い
4 〃 、楽典(同名調)、弾き歌い
5 〃 、楽典(平行調、移調)、弾き歌い
6 〃 、楽典（オクターブ記号）、弾き歌い
7 〃 、楽典（複付点音符）、弾き歌い
8 〃 、楽典（発想記号）、弾き歌い
9 〃 、グループ別実技発表会
10 〃 、楽典（ハ長調の主和音）、弾き歌い
11 〃 、楽典（ヘ長調の主和音）、弾き歌い
12 〃 、楽典（ト長調の主和音）、弾き歌い
13 〃 、楽典（色々な指使い）、弾き歌い
14 実技発表会
15 標準バイエルピアノ教則本 、楽典（演奏上の諸記号）、弾き歌い

[授業方法]
1クラスを7～8名のレベル別グループに編成し、一人ひとりの進度に合わせた個別指導を行う。次の授業までに、チェックシートと音楽の基礎学習プリントの課題をこなし提出する。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況(50%)、課題の進度（30%）
実技発表評価（10%）
自主練習の取組（チェックシート）（10%）
[教科書]
標準バイエルピアノ教則本併用曲付(全音楽譜出版社)
こどものうた100（チャイルド本社）
うたって、つくって、あそぼう（音楽之友社）
教材プリント配布

[参考書]
楽譜がスラスラ読める本（永岡書店）
「ブルグミュラー25の練習曲」（全音楽出版社）

[準備学習（予習・復習）]
自主練習　毎日30分(初心者は１時間以上が好ましい)
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
この科目は、日々の積み重ねが非常に大切です。努力をすれば、必ずピアノが弾けるようになります。

[科　目　名] 造形表現指導法Ⅰ
[担当教員名] 上山　明子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE30_C21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
子どもが感じたことや考えたことを自分なりに表現できるような活動についての研究を行う。材料の選択、道具の取り扱い、活動場所の設定など具体的に考え模擬保育を行うなど、造形分野の保育力を高める。
[学習成果] [C]
幼児の造形表現の理解を深めるとともに、造形表現を指導する力を身につけることができる。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	○	◎	○	○	◎	◎	○

[授業計画]
1 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本と造形表現のねらい・内容
2 幼児の表現の発達　自由な視点から見た絵画表現について
3 表現の原理（色彩心理学、線と面）
4 素材研究（絵の具）絵の具の基礎的理解と幼児を対象とした技法の試作制作
5 素材研究（絵の具）技法研究の振り返りまとめ（情報機器と教材の活用）
6 幼児の表現の発達　単純な形から生まれる豊かな立体表現
7 素材研究（粘土、木材、紙など）の基礎的理解と幼児を対象とした技法の試作制作
8 素材研究（粘土、木材、紙など）の技法研究の振り返り・まとめ
9 素材研究（版画（転写））の基礎的理解と幼児を対象とした技法の試作制作
10 素材研究（版画（転写））の技法研究の振り返り・まとめ
11 指導案作成と模擬保育
12 協動しての表現季節や行事、文化を反映させた壁面デザイン創作
13 協動しての表現季節や行事、文化を反映させた壁面デザイン創作・展示
14 作品鑑賞と子どもの造形活動方法の理解
15 子どもの発達に合わせた指導計画の理解と保育の評価
[授業方法]
具体的なイメージを持って制作に取り組めるよう、各単元の始めに主要な素材、用具・技法を理解し、習作から本作へと進める。作品発表・意見交流・模擬授業など適宜行う。
[成績評価]
授業への取組状況（事前準備、保育者としての適応性）（50%）　提出物の充実度（50%）
[教科書]
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園・保育要領」
[参考書]
適宜プリント配布
[準備学習（予習・復習）]
予習として次回課題のアイデアを練る、資料収集、道具準備を行う。復習として次回講義にプリント・レポート提出。（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
・指示された準備物は忘れずに持ってくること。
・実習では服を汚すことがあるので、対応できる服装をすること。またはエプロン等をすること。
・片づけ掃除を含めて授業です。後の人のことを考えて責任を果たすこと。

[科　目　名] こども音楽療育実習
[担当教員名] 池田 信子・国藤 真理子・玉田 裕人
星野 秀樹・朴 賢晶
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年全期　[科目コード] IE30_D29
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
音楽療育を実践するための知識と技術を、実習等を通して総合的に活かして実践できようにする。実際にこどもの音楽行動を観察しながら、発達支援に向けた音楽の活用法や対応方法などを実践的に学んでいく。

[学習成果] [D]
障がいのあるこどもたちと関わりを持つことができる。
療育や保育において発達を援助するための効果的な音楽の使用方法を理解する。
心身の発達過程と音楽的発達の関係を体験的に理解することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	◎	○	◎	◎	◎	◎	○

[授業計画]
1　オリエンテーション
こども音楽療育実習の目的を理解する
2　実習に参加する態度の確認
実習する施設や団体についての紹介
各担当者の役割を確認
3～8
本学主催「おねえさんとあそぼう」（障がい児とその親で構成されたグループ）観察実習・見学実習
9～12
学外障がい児施設での観察実習・見学実習
13　こども音楽療育活動計画立案、学内練習
14　本学主催「おねえさんとあそぼう」（障がい児とその親で構成されたグループ）でこども音楽療育実施
15　自己評価に基づく課題の明確化

実習期間については「こども音楽療育演習」の開講と並行して行う場合があり、授業の進行は状況に応じて、シラバスから変更されることがある。

[授業方法]
障がいのあるこどもたちの音楽行動から、こどもたちの発達の状態をみる。また、こども音楽療育の活動の流れを把握する。こども音楽療育士担当者は活動計画を立案する。各担当者は計画に基づいて練習し、実践する。
実習後に実習記録・自己評価を提出する。
[成績評価]
実習の取組状況（70%）
実習記録・自己評価（30%）
[教科書]
必要に応じて資料を配布
[参考書]
「音楽療法の必須100曲：子ども編」（あおぞら音楽社）
「音楽で育てよう：子どものコミュニケーション・スキル」（春秋社）
「こどものうた100」（チャイルド本社）
「うたって、つくって、あそぼう」（音楽之友社）

[準備学習（予習・復習）]
こどもの障がいや心身の発達と遊びとの関係、基礎的音楽知識についてなど「概論」「演習」で学んだ内容をよく復習しておくこと。こども音楽療育担当者は、グループ内でよく話し合い事前に練習しておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間（予習・復習）を参照）
[備考]
活動計画や実習記録などの提出遅れ等は減点となるので注意すること。

[科　目　名] 保育実習Ⅰ(保育所)
[担当教員名] 岩間　直美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE30_D21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
保育所での生活を体験することで、保育所の役割や機能、保育士の業務内容について具体的に理解する。また既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について総合的に理解する。

[学習成果] [D]
保育所の生活の流れや役割、子どもの発達過程を具体的に理解することができる。また、観察や保育への参加を通して、子どもへの理解を深め、記録や指導案の書き方を習得することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎		○	○	○	○	○	○

[授業計画]
○事前指導
・保育実習Ⅰの目的・実習の流れ
・実習生としての心構え
・事前オリエンテーションの目的
・実習記録および実習関連書類の書き方
・実習のための保育教材の準備
○実習の内容
・保育所の機能と、保育の一日の流れを理解する
・保育士の職務内容を具体的に理解する
・生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を習得する
○巡回訪問指導
○実習のまとめ・事後指導
・礼状の書き方
・実習を振り返り、自己課題を明確にする

[授業方法]
保育所においての実習（2週間）
観察実習・参加実習・日誌の記録を行う。
保育者としての実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
実習園の評価（70%）
実習日誌・提出物（30%）

[教科書]
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」（株）みらい
「保育士をめざす人の福祉施設実習」（株）みらい

[参考書]
保育所保育指針（平成29年告示）
[準備学習（予習・復習）]
事前に担当する子どもの発達段階を調べ、理解しておくこと。また、年齢にあった手遊びや絵本を準備し、練習すること。1日を振り返り、反省点、自己課題に気付くようにすること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
授業で学んだことを理解し、年齢や発達に合わせた関わりができるよう、日頃からイメージしておく。
また、手遊びや絵本の読み聞かせなどの実技練習や保育教材研究をしておく。
実習の必要書類は正確かつ丁寧に作成し、提出期限を厳守すること。

[科　目　名] 保育実習Ⅰ（施設）
[担当教員名] 岩間　直美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE30_D22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
児童福祉施設の生活に参加し、施設の役割や機能について具体的に学ぶ。また子ども（利用者）とのかかわりを通して、施設で生活する子ども(利用者)への理解を深める。

[学習成果] [D]
児童福祉施設の役割や保育士の職務について具体的に理解する。観察や生活への参加を通して、子ども(利用者)への支援の方法を習得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○	◎	○	◎	◎	○

[授業計画]
○ 事前オリエンテーション
・ 児童福祉施設の概要や施設実習の流れについて
・ 実習の準備・心構え・態度について
・ 実習日誌の書き方・指導案等について
○ 実習内容
・ 施設の1日の流れを理解して参加する
・ 子ども（利用者）の観察や関わりを通して、ニーズや家族への対応の仕方を学ぶ。
・ 生活や援助の一部を担当する
・ 職員間の役割分担とチームワークについて理解する
・ 保育士としての職業倫理を理解する
○ 巡回訪問指導
○ 実習のまとめ
・ 実習日誌の整理をする
・ 実習の自己評価をし、反省点や自己の課題を明確にする

[授業方法]
保育所以外の児童福祉施設に宿泊または通所して、おおむね10日間実習を行う。
保育者としての実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
実習施設の評価（70%）
実習日誌・提出物（30%）

[教科書]
「保育士をめざす人のための福祉施設実習」
愛知県保育実習連絡協議会編（みらい）

[参考書]

[準備学習　（予習・復習）]
実習先の施設の概要について調べ、理解しておくこと。
生活全般の援助ができるよう、掃除・洗濯などの家事の能力を身につけておきましょう。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日頃から福祉施設に関するニュースに目を向け、新聞や著書などから社会問題に関する情報の収集をしておきましょう。

[科　目　名] 保育実習指導ⅠA
[担当教員名] 岩間　直美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE30_D21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育所と施設で行う実習の意義と目的を認識し、それぞれの機能と役割を理解する。実習の具体的な内容および心構えや態度を養いながら、基本的な保育技術を学ぶ。

[学習成果] [D]
保育実習の意義や目的、実習の流れを具体的に理解することができる。また、ワークシートや実践発表を通して、実習に必要な記録や指導案の作成方法、保育現場で必要な保育技術を習得するとともに、自己課題や目標を明確にすることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○			○	○	○

[授業計画]
1 実習の概要と流れ
2 実習の意義と目的
3 実習生としての心構え
4 プライバシーの保護と守秘義務について
5 観察実習について
6 参加実習について
7 園生活の一日の流れ
8 子どもの接し方・保育者とのかかわり方
9 実習記録の書き方①
10 実習記録の書き方②
11 実習目標と自己課題
12 事前課題・実習事前準備について
13 保育実践指導・絵本の読み方
14 保育実践発表①
15 保育実践発表②

[授業方法]
テキストやワークシートを使用し、保育実習の流れと内容を理解し、実習態度を身につける。また、実習に必要な教材研究や実技の練習、グループワーク、ロールプレイング等を行い、実践力を養う。
アクティブラーニング導入。
保育者としての実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況
（保育教材の制作・実践発表・ワークシート等）(60%)
まとめレポート（40%）

[教科書]
「幼稚園・保育所・施設　実習ワーク」　萌文書林
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」　(株) みらい

[参考書]
保育所保育指針（平成29年告示）

[準備学習（予習・復習）]
教科書・ワークブックをよく読んでおくこと。また、技術向上のため、日頃から手遊びや絵本の読み聞かせなどの実技練習を繰り返し行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
初めての実習に向けて心構えをし、日常的に言葉遣いなどにも気を付ける。
実習で使用する保育教材をできるだけ多く準備し、レパートリーを増やしておく。

[科　目　名] 保育実習指導ＩＢ
[担当教員名] 岩間　直美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　　[科目コード] IE30_D22
[単　位　数] 1単位　　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育所と施設で行う実習の意義と目的を認識し、それぞれの機能と役割を理解する。実習の具体的な内容および心構えや態度を養いながら、基本的な保育技術を学ぶ。

[学習成果] [D]
保育実習の意義や目的、実習の流れを具体的に理解することができる。また、ワークシートや実践発表を通して、実習に必要な記録や指導案の作成方法、保育現場で必要な保育技術を習得するとともに、自己課題や目標を明確にすることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○			○	○	○

[授業計画]
1　児童福祉施設について
2　児童福祉施設での実習について
3　実習の振り返りと自己課題の明確化
4　部分・全日実習について
5　指導案の立案について
6　指導案の書き方について
7　指導案作成
8　保育教材研究①
9　保育教材研究②
10　模擬保育①
11　模擬保育②
12　模擬保育③
13　実習前の準備
14　実習の注意事項
15　実習の総括と自己課題の明確化

[授業方法]
テキストやワークシートを使用し、保育実習の流れと内容を理解し、実習態度を身につける。また、実習に必要な教材研究や実技の練習、グループワーク、ロールプレイング等を行い、実践力を養う。
アクティブラーニング導入。
保育者としての実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況
(保育教材の制作・実践発表・ワークシート等)(60%)
筆記試験 (40%)

[教科書]
「幼稚園・保育園・施設　実習ワーク」萌文書林
「保育士をめざす人の福祉施設実習」(株) みらい

[参考書]
保育所保育指針 (平成29年告示)

[準備学習 (予習・復習)]
教科書・ワークブックをよく読んでおくこと。また、技術向上のため、日頃から手遊びや絵本の読み聞かせなどの実技練習を繰り返し行うこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
福祉分野の学びを深めながら具体的な保育実習の内容について理解する。
実習で使用する保育教材等をできるだけ多く準備し、レパートリーを増やしておく。

2　専門科目

幼児教育学科　第３部　３年

[科　目　名] 子ども家庭支援論
[担当教員名] 祢宜　佐統美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年後期　[科目コード] IE30_A32
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
子育てを取り巻く様々な問題や環境・家庭支援の意義や目的を理解し、保育者に必要な家庭支援を学ぶ。

[学習成果] [A]
個々の家庭環境を知り、家庭支援の意義や目的・限界について理解することで、子育て家庭支援の基本的視点や支援方法を自ら考えることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎		○	◎	○		

[授業計画]
1　家庭を取り巻く環境
2　子ども家庭支援の基本的考え方
3　保育者の専門性を生かした支援・基本的態度
4　子育て家庭を支える法・制度
5　子育て家庭を支える社会資源
6　相談を受ける者の基本的態度
7　相談場面で必要な技術
8　幼稚園・保育所等を利用する子ども家庭への支援
9　地域子育て支援・関係機関等との連携と協力
10　家庭の状況に応じた支援－ひとり親家庭・新たな親子関係
11　要保護児童等及びその家庭に対する支援
12　障がいなどのある家庭への支援
13　子どもの貧困の理解
14　切れ目のない家庭支援
15　事例検討（児童虐待・障がい）

[授業方法]
講義が主体であるが、グループワークや事例を活用したグループディスカッションも行い、家庭支援について理解を深めていく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
レポート（15%）
授業への取組状況（15%）

[教科書]
「保育と子ども家庭支援論」石動瑞代・中西遍彦・隣谷正範編　(株) みらい

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
毎授業前には、20分程度テキストの該当範囲を読んで予習してきて下さい。授業の最初に、前回の授業の振り返りをしますので、毎授業後には、25分程度授業内容のポイントを復習しておいて下さい。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
普段から子育てに関するニュースや新聞を読む機会を持ち、社会の動きに関心をもつようにして授業に臨んで下さい。

[科　目　名] 子どもの理解と援助
[担当教員名] 朴　賢晶
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年後期　[科目コード] IE30_B32
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
生涯を通して変化・成長を続けるものとして発達を捉え、各発達段階での特徴と保育士と子どもの連鎖的関係を理解することを目的とする。子どもの理解、保育実践、保育援助、遊びを通しての学びなどに理解を深めると共に、保育士として必要とされる知識や発達援助のあり方について議論する。

[学習成果] [B]
各発達段階における具体的な課題を理解することによって、一生の中での乳幼児期発達を支援する視点を持つ保育者育成が可能となる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎	◎	◎	◎	○		○

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　PPTによる発表準備の指導
3　子どもの性格と保育者との関係
4　新生児期の能力の理解
5　微笑の発達と生きる力の理解と援助
6　親と子のやり取りに必要な子どもの能力の理解
7　スキンシップと模倣する力の理解と保育援助
8　見立てる能力の理解と保育援助
9　社会性の発達による遊びの変化と保育者の役割
10　子どものうそのメカニズムの理解と保育援助
11　きょうだいげんかと自己調整能力発達の理解
12　子どもの論理性の理解と保育援助
13　一次的言葉から二次的言葉へ
14　集団から学ぶ子ども理解とその援助
15　自己主張と自己抑制

[授業方法]
グループに分かれ、それぞれに与えられたテーマについてまとめ、ICTを活用し調べ学習をし、その成果を発表する。発表後には質疑応答の時間を設け、発表内容をより深めていく。さらに、発表グループに対して、フロアーから、発表に関する建設的な意見を述べることによって、口頭発表技術をより高める。
アクティブラーニングの導入。

[成績評価]
発表等（70%）(発表40%、コメンテーター30%)
授業への取組状況（30%）(授業参加度、授業態度等)

[教科書]
「よくわかる発達心理学」無藤隆ら編著
(ミネルヴァ書房)

[参考書]
「発達心理学の基礎1，2，3」平山諭・鈴木隆男編著
(ミネルヴァ書房)

[準備学習（予習・復習）]
発表に向けてICTを活用し予習する。発表後は、振り返りを含め、質問に答えられなかった部分を復習する。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
本のまとめ、調べ学習、発表スライド作成、発表の練習などは予習による。グループで一つのテーマについて学習し、発表準備をするために必要な協調性と伝える力を養うことが予習のねらいである。

[科　目　名] 子どもの保健
[担当教員名] 留田　由美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年前期　　[科目コード] IE30_B31
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 講義

[授業概要]
子どもの健康の保持・増進を図るために、子どもの心身の機能や発育・発達を理解するとともに、子どもの健康状態の把握方法、疾病の予防および罹患時の対応、多職種との連携について学習する。

[学習成果] [B]
子どもの健康状態の把握や罹患時の対応、疾病の予防対策などを学習することで、将来保育士として園児の健康を守ることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
				○	◎		

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　子どもの健康に関する現状と課題
3　子どもの発達障害と心の健康問題
4　地域における保健活動と児童虐待防止
5　子どもの身体発育及び運動機能の発達と保健
6　子どもの生理機能の発達と保健
7　子どもの心身の不調への対応
8　子どもの発育・発達の把握と健康診断
9　子どもの慢性疾患①
10　子どもの慢性疾患②
11　子どもの慢性疾患③
12　子どもの主な疾患①
13　子どもの主な疾患②
14　子どもの疾病の予防と適切な対応
15　まとめ

[授業方法]
毎回、スライドの講義内容を教科書を中心と整理する。授業終了後は小テストを行い、学習内容をより確実に定着させる。また、レポート作成では、保育士として子どもの健康を守る方法の理解と自覚を持てるようにする。
アクティブラーニングの導入。

[成績評価]
小テスト（70%）
レポート課題など授業への取組状況（30%）

[教科書]
「子どもと社会の未来を拓く　子どもの保健」（青踏社）

[参考書]
「保育所指針」（厚生労働省）
「学校保健安全法」（文部科学省）

[準備学習（予習・復習）]
予習：教科書の授業箇所を確認し、解らない箇所や疑問などを整理して授業に臨む。
復習：小テストを行い、知識の不明確な箇所を整理しておく。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
授業には積極的に参加し、他学生の授業の妨げにならないよう心がける。

[科　目　名] 子どもの健康と安全
[担当教員名] 岩瀬　好美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年後期　　[科目コード] IE30_B32
[単　位　数] 1単位　　[授業形態] 演習

[授業概要]
子どもの病気や看護を実践するときに用いる基礎的な知識と技術を理解し、身体的、精神的、社会的側面からの健康との関連を知識的に学ぶことを目的とする。
保育における感染症対策や安全管理について、各種ガイドラインを踏まえ、具体的に理解することを目的とする。

[学習成果] [B]
① 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
② 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策・衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。
③ 子どもの発達や状態などを踏まえた体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。
④ 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	○	○	◎	○	○

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　子どもの健康と保育の環境
3　子どもの健康と発育①形態的発達
4　子どもの健康と発育②生理機能の発達
5　子どもの特性と基本的生活習慣
6　基本的生活習慣の確立
7　日常に必要な養護
8　子どもの事故とその予防
9　ケガの応急処置
10　子どもに多い病気　感染症
11　予防接種
12　感性疾患とその対処
13　障害を持つ子ども家族への関わり方
14　災害から子どもを守る
15　地域との連携・協働

[授業方法]
毎回授業のまとめをレスポンスカードで確認し、コメントを入れ返却する。

[成績評価]
授業のレポートや課題提出（70%）
授業への取組状況（30%）

[教科書]
「子どもの健康と安全」（中山書店）

[参考書]
「保育におけるアレルギー対応ガイドライン」
（厚生労働省）
「保育所における感染症対策ガイドライン」
（厚生労働省）
「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」
（内閣府・文部科学省・厚生労働省）
「保育所指針」（厚生労働省）

[準備学習（予習・復習）]
授業中に出された内容、提示された資料などは、毎回整理し，学習内容の復習を確実に行う。
最後ノートをまとめて提出すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
・演習に対して、真剣に取組む姿勢と探究心を持って授業に臨むこと。
・課題に対するやる気や、レポート作成に期待します。

[科　目　名] 乳幼児食物アレルギー演習
[担当教員名] 小野内　初美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年前期　[科目コード] IE30_B31
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
食物アレルギーをもつ子どもたちと関わる保育者として知っていてほしい知識を学ぶ。栄養士、調理員と連携して、保育所での食物アレルギー対応の実践を学ぶことにより、誤配・誤食事故を防ぎ、乳幼児の生命を守る対応を学ぶ。さらに、食物アレルギーの子どもと保護者を支援できる保育者を養成することをねらいとする。

[学習成果] [B]
食物アレルギーの知識の習得や、食物アレルギーの子どもが、保育所で安全・安心な生活を送ることができるように対応するための知識や技術が習得できる。保育所で発生している誤配・誤食事故防止のためには、保育所の全職員が協力して取り組む連携の大切さを認識できる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○		○	○	◎		

[授業計画]
1　食物アレルギーの基礎知識①
2　食物アレルギーの基礎知識②
3　保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
4　安全管理と危機管理(エピペンの扱い、緊急時の対応)
5　給食における食物アレルギー対応
6　給食室と保育室の食物アレルギー対応
7　ヒヤリハット、事故事例
8　食物アレルギーをもつ子どもの食育活動
9　給食提供以外での保育における注意事項
10　食物アレルギー対応食の調理①
11　食物アレルギー対応食の調理②
12　食物アレルギー対応食の調理③
13　食物アレルギー対応食の調理④
14　食物アレルギー対応食の調理⑤
15　まとめ

[授業方法]
理論を学びながら演習を中心とする。食物アレルギー対応食の調理を多く取り入れることにより、食物アレルギーへの理解と関心を深めていく。
アクティブラーニング導入。
産業給食（企業内）栄養士、病院栄養士の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況（20%）
筆記試験（50%）
ノート、レポート等の提出物（30%）

[教科書]
「保育の場で役立つ 食物アレルギー対応－職種間連携から考える－」小野内初美他編著(建帛社)

[参考書]
「これだけでわかる食物アレルギー」宇理須厚雄他監修(みらい)
「保育所における食物アレルギー対応ガイドライン（2019年改訂版）」（厚生労働省）

[準備学習（予習・復習）]
次回のテーマについて、下調べ等の予習と毎回の授業内容をノートに整理し、復習を行う。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位の学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
自ら食物アレルギーについて学び、理解する姿勢を持ち、意欲的に学ぶことを望む。新聞、ニュース等で取り上げられている話題や、食物アレルギー対応の加工食品等にも関心を持っていただきたい。「子どもの食と栄養」で学んだ内容が基礎となっているので、復習をして授業に臨むとよい。

[科　目　名] 領域「環境」
[担当教員名] 五十嵐　紗織
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年後期　[科目コード] IE30_C32
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
領域「環境」を学ぶ上で基礎となる感性を養い、保育するうえで必要となる知識や技能を身につける。発達段階を踏まえた子どもの主体的な活動を引き出す環境構成や、領域「環境」に関わる具体的な遊びについて体験を通して学ぶ。

[学習成果] [C]
①領域「環境」の内容とねらいを理解する。②現代の子どもを取り巻く環境の基本や課題について理解する。③体験的な活動を通じて、子どもと自然への関わりの意義を理解する。④子どもの思考力や科学的概念の発達や、身の回りの事象への理解を深める。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○				○	◎		

[授業計画]
1　幼児の生活とESD(持続可能な開発のための教育)
2　保育における環境とは何か
3　社会生活と安全
4　子どもの生活と情報や施設
5　自然とかかわる保育
6　生命の営みに触れる
7　生き物の不思議と魅力
8　探究心の芽生えを育む
9　身近な素材や季節を取り入れた保育
10　環境と造形活動への発展
11　数や文字、図形、標識への興味関心
12　保育における食育
13　ICTを保育に生かす試み
14　環境に主体的に関わるとは
15　保育における環境教育

[授業方法]
内容に応じてグループワークやフィールドワーク等のアクティブラーニングを取り入れる。体験的活動を取り入れ、保育の場で活用できるように実践的に学ぶ。

[成績評価]
定期試験（レポート）（50%）
小テスト（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「コンパクト版保育内容シリーズ　環境」大沢裕監修(一藝社)

[参考書]
「平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本」内閣府・文部科学省・厚生労働省（チャイルド本社）
「和の行事えほん春と夏の巻／秋と冬の巻」高野紀子(あすなろ書房)
「NEO POCKET 植物」和田 浩志（小学館）

[準備学習（予習・復習）]
授業計画に基づき、テキストの該当箇所を読んで内容を理解してから授業に臨むこと。また、授業後には学習内容を振り返り、課題や問題点について考察すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
生活の中で、季節の移ろいや身近な草花・樹木・昆虫・動物などをとらえる感覚を研ぎ澄まし、自然の美しさや不思議を体感してください。

[科　目　名] 子育て支援
[担当教員名] 赤塚　徳子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年前期　[科目コード] IE30_C31
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
現代の子育て家庭を取り巻く社会状況や子育て支援に関する制度や施策について学ぶとともに、国際的な視点を持ち、支援のあり方について考察する。また、フィールドワークを通じて、子育て家庭の現状や保護者のニーズを知り、子育て支援の具体的展開や支援者の役割について実践的に学ぶ。

[学習成果] [C]
子育ての現状と課題、子育て支援の意義と必要性を理解する。また、子育て家庭に対する支援の内容や具体的な支援方法を理解し、保護者支援の技能を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	○	◎	○		○

[授業計画]
1　子育て支援が求められる社会背景
2　保育者の基本的態度と信頼関係の形成
3　保育所等における子育て支援
4　地域で展開される子育て支援
5　海外の子育てと子育て支援
6　子育て家庭に対する支援の展開
7　子育て家庭に対する支援の実際
8　障害のある子ども及び家庭に対する支援
9　子ども虐待の予防と対応
10　多様な支援ニーズをかかえる家庭に対する支援
11　子育て支援の場における環境
12　親子ふれあい遊びの実践
13　フィールドワーク①
14　フィールドワーク②
15　まとめ（保育士の専門的な知識・技術）

[授業方法]
講義により、子育ての現状や子育て支援の内容について学ぶ。
学内の子育て支援施設「文教おやこ園」での観察実習や保護者インタビュー、様々な子育て支援についてグループワークでの調べ学習や成果発表を通して具体的に学ぶ。
アクティブラーニングを導入する。

[成績評価]
レポート課題（60%）
調べ学習・成果発表（30%）
授業への取組状況（10%）

[教科書]
「子育て支援」西村重稀・青井夕貴編集（中央法規）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
日頃から子育ての現状に関心や問題意識をもち、1時間程度の調べ学習や成果発表に向けての発表資料作成をすること。
授業後には、1時間程度の復習をし、学習内容をワークブックにまとめること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]　地域志向科目
地域の親子との交流では、保育者としてふさわしい言葉遣いを心がけ、マナーを遵守しましょう。積極的に学び、保育者としての実践力を身につけましょう。

[科　目　名] 子ども音楽ⅡA
[担当教員名] 国藤 真理子・玉田 裕人・伊藤 真理子・倉田 弓・天石 佐保子・松浦 晴美・大橋 昌代
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年前期　[科目コード] IE30_C31
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
子ども音楽ⅠA・ⅠBで習得した内容を基礎として、音楽的な表現力や知識を高めていく。季節や行事にあわせた「童謡」や「わらべ歌」のレパートリーを増やすことで、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な表現力を研究していく。

[学習成果] [C]
保育現場で活用できるピアノ技術・弾き歌い、コード伴奏や初見演奏の習得を目指す。音楽表現の実践力と応用力を身に付け、心豊かな子どもを育てる保護者としての力を養う。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○			○		◎	○	○

[授業計画]
1　オリエンテーション、グループ分け、個別実技指導
2　標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、コード
3　〃
4　〃
5　標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、初見
6　〃
7　〃
8　試験曲選び、グループ別実技発表会
9　標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、自由曲
10　〃
11　〃
12　〃
13　〃
14　実技発表会・就職試験練習
15　〃

[授業方法]
1クラスを7～8名のレベル別グループに編成し、一人ひとりの進度に合わせた個別指導を行う。次の授業までに、自主練習（復習と予習）を行い、練習成果をチェックシートに提出する。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況(60%)、実技発表評価（30%）
自主練習の取組〈チェックシート〉（10%）

[教科書]
標準バイエルピアノ教則本併用曲付(全音楽譜出版社)
こどものうた100（チャイルド本社）
うたって、つくって、あそぼう（音楽之友社）
教材プリント配布

[参考書]
楽譜がスラスラ読める本（永岡書店）
ブルグミュラー25の練習曲（全音楽出版社）
ソナチネアルバムⅠ（全音楽出版社）

[準備学習（予習・復習）]
自主練習　毎日30分以上
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日々の積み重ねが非常に大切な科目です。音楽的な表現力や知識を高め、心豊かな子どもを育てることの出来る保護者を目指しましょう。

[科　目　名] 子ども音楽ⅡB
[担当教員名] 国藤 真理子・玉田 裕人・伊藤 真理子・倉田 弓・天石 佐保子・松浦 晴美・大橋 昌代
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年後期　[科目コード] IE30_C32
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
子ども音楽ⅡAに引き続き、音楽的な表現力や知識を高めていく。「童謡」や「わらべ歌」のレパートリーを広げるだけでなく、動きのための効果音や即興音楽を学習することで、保育・幼児教育現場における実践的なスキルを身につける。

[学習成果] [C]
保育現場で活用できるピアノ技術・弾き歌い、動きのための効果音や即興音楽の習得を目指す。音楽表現の実践力と応用力を身に付け、心豊かな子どもを育てる保護者としての力を養う。
また、保育者自身も音楽を楽しむ力を養う。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○			○		◎	○	○

[授業計画]
1 オリエンテーション、グループ分け、個別実技指導
2 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、動きのための効果音
3 〃
4 〃
5 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、動きのためのイメージ音楽
6 〃
7 〃
8 発表会の曲選び、グループ別実技発表会
9 自由曲、弾き歌い、動きのための即興音楽
10 〃
11 〃
12 自由曲、弾き歌い、就職後対策
13 〃
14 実技発表会
15 〃

[授業方法]
1クラスを7～8名のレベル別グループに編成し、一人ひとりの進度に合わせた個別指導を行う。次の授業までに、自主練習（復習と予習）を行い、練習成果のチェックシートを提出する。アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況(50%)、課題の進度（30%）
実技発表評価（10%）
自主練習の取組（チェックシート）（10%）

[教科書]
標準バイエルピアノ教則本併用曲付(全音楽譜出版社)
こどものうた100（チャイルド本社）
うたって、つくって、あそぼう（音楽之友社）
教材プリント配布
[参考書]
楽譜がスラスラ読める本（永岡書店）
ブルグミュラー25の練習曲（全音楽出版社）
ソナチネアルバムⅠ（全音楽出版社）
[準備学習（予習・復習）]
自主練習　毎日30分以上
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日々の積み重ねが非常に大切な科目です。音楽的な表現力や知識を高め、音楽を楽しみましょう。

[科　目　名] 造形表現指導法Ⅱ
[担当教員名] 上山　明子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年後期　[科目コード] IE30_C32
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
現場に即した活動を取り上げて、授業計画から教材の選択、制作、発表までを行う。子どもの造形表現の指導においての要点・注意すべきことについて理解する。また保育者が求められる表現力を実践的に学ぶ。
[学習成果] [C]
子どもの成長発達を理解して年齢にあった造形活動の修得、保育に関わる多くの描画画材や素材の扱いや特徴を理解する、造形活動の意味を理解しその制作の喜びを享受することができる。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎

[授業計画]
1 「造形表現指導法」の概要及び年間計画提示
2 はさみとのりの使用の指導
3 「気持ちを色で表現する」自己紹介を兼ねた制作
4 「つくってあそぶ」への展開　身近な素材を生かしつくったもので遊ぶ楽しさを味わう
5 「つくってあそぶ」への展開　制作・発表・意見交流
6 「観察画」テーマのある絵画活動
7 「布を使った造形」生活素材を使った造形
8 「布を使った造形」制作・発表・展示
9 「五感を養う造形」音・色・手触り・動きなどを気がついたり感じたりする造形
10 「五感を養う造形」制作・発表
11 「自然と素材」自然の素材を用いた造形活動
12 「季節の行事」園の行事・季節の行事について（行事の由来から造形活動まで）
13 「季節の行事」身近なもの、廃材を活用した小道具・衣装制作
14 「季節の行事」ごっこ遊び、振り返り
15 幼児の造形表現を指導するということ（まとめ）
[授業方法]
具体的なイメージを持って制作に取り組めるよう、各単元の始めに主要な素材、用具・技法を理解し、習作から本作へと進める。作品発表・意見交流・模擬授業など適宜行う。
[成績評価]
授業への取組状況（事前準備、保育者としての適応性）(50%)
提出物の充実度（50%）
[教科書]
「幼稚園教育要領」
「保育所保育指針」
「幼保連携型認定こども園・保育要領」
[参考書]
適宜プリント配布
[準備学習（予習・復習）]
予習として次回課題のアイデアを練る、資料収集、道具準備を行う。
復習として次回講義にプリント・レポート提出。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
・指示された準備物は忘れずに持ってくること。
・実習では服を汚すことがあるので、そのことに対応できる服装をすること。またはエプロン等をすること。
・片づけ掃除を含めて授業です。後の人のことを考えて責任を果たすこと。

[科　目　名] 保育実習Ⅱ
[担当教員名] 赤塚　徳子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年前期　[科目コード] IE30_D31
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、実習を通して保育士の職務を理解する。保育計画の立案、実践、記録、振り返りを通し、保育技術を習得する。

[学習成果] [D]
様々な保育ニーズを含む保育所の機能および保育士の役割と専門性について理解することができる。
実習での経験、指導等から、保育士に求められる資質能力・技術に照らして自己課題が明確となり、今後の学習の指針を得ることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	○	○	◎	○	◎

[授業計画]
○事前オリエンテーション
・保育所実習の意義と目的
・保育所実習の流れ
・実習の心構えと事前訪問について
・実習記録の作成について
・指導計画について（部分実習・全日実習）

○実習内容
・保育所の一日の流れを把握し、積極的に子どもと関わる
・子どもの年齢に即した発達段階を理解した上で、指導案を作成し実践する(部分実習・全日実習)
・保育士としての倫理観を理解し、服務態度を習得する
・家庭や地域との連携に関する理解を深める

○実習巡回訪問指導

○事後指導
・実習のまとめ、実習日誌の整理
・実習全体を振り返り、実習の反省点や保育者としての課題を明確にする

[授業方法]
保育所にて2週間の観察・参加・指導（部分・全日）実習を行う。
保育現場での実務経験を生かした実技指導を行う。

[成績評価]
実習園の評価（70%）
実習日誌・提出物（30%）

[教科書]
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編
(みらい)
[参考書]

[準備学習　(予習・復習)]
実習で担当する乳幼児の発達段階や年齢に即した遊びの理解。保育教材の作製、ピアノ練習など実習に向けて継続的に準備し、実習前には集中的に10時間程度かけて、責任実習の準備及び練習をする。
実習後は実習を振り返り、5時間程度かけて、実習記録や指導案の修正をする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
実習マナーや提出書類の期限を遵守し、積極的に実習に取り組みましょう。

[科　目　名] 保育実習指導Ⅱ
[担当教員名] 赤塚　徳子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年前期　[科目コード] IE30_D31
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
保育実習に向け、保育計画や保育技術、職業倫理について学ぶ。
指導計画の作成、模擬保育等を通して自己課題を明確化する。

[学習成果] [D]
・保育計画の立て方や自己評価の仕方を理解することができる。
・教材研究や模擬保育を通し、保育技術を習得することができる。
・保育者の専門性と職業倫理について理解することができる。
・事後指導を通して、保育に対する課題を明確化することができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○		○	○	○	◎		○

[授業計画]
1　オリエンテーション・保育実習Ⅱについて
2　保育実習の心構え
3　実習目標および自己課題について
4　教材研究①
5　教材研究②
6　責任実習・保育計画について
7　指導案の作成
8　保育実技演習①
9　保育実技演習②
10　事例検討①
11　事例検討②
12　責任実習について
13　模擬保育①
14　模擬保育②
15　実習の振り返りとまとめ

[授業方法]
保育計画の作成、模擬保育等、実習に必要な知識と技術を実践的に学ぶ。
アクティブラーニング導入。
保育現場での実務経験を生かした実践的な指導を行う。

[成績評価]
提出物（50%）
保育実技・模擬保育（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編
(みらい)
[参考書]

[準備学習　(予習・復習)]
実習に向けて、絵本の読み聞かせ、手遊びの練習や保育教材の作製など、保育実習に向けての準備を計画的に進め、実習前には集中的に10時間程度の実技練習を行う。実習後は実習を振り返り、5時間程度は実技の修正や指導計画の修正など、自己課題に取り組む。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
社会人としてのマナーや心構えを身にけられるように、日ごろから挨拶や言葉遣いを意識しましょう。
提出書類の期限は必ず守りましょう。

3　教職に関する科目

[科　目　名] 教職概論
[担当教員名] 保科　潤一
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_F11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
教員には、教育者としての使命感と教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力と幅広い豊かな人間性が要求される。本講義では、望ましい教育者になるための職務と教育専門職としての心構えについて講じる。

[学習成果] [F]
教職の意義および役割について理解させ、自分の意見を理論的に構成し教育への愛情と感動を身につけられるようにする。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		○		○	

[授業計画]
1 教職課程で学ぶこと
2 子どもの生活と学校
3 教師の仕事・・・学習指導・進路指導
4 教師の仕事・・・生徒指導・教育相談
5 教師の仕事・・・学級経営
6 教師に求められる資質・能力…教師に何を求めてきたか
7 教師に求められる資質・能力…教師に何が求められているか
8 教員養成の制度
9 教職課程の仕組みと内容
10 教員の養成と採用
11 教員の研修
12 教員の地位と身分
13 学校の管理・チーム学校運営
14 日本国憲法と教育基本法
15 学校教育法と教育公務員特例法

[授業方法]
教科書・プリント等に基づく講義を基本とするが、調査学習や学生による発表、討論も随時取り入れる。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
筆記試験（50%）
レポート（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「教職入門　教師への道」藤本典裕編著（図書文化）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
専門用語が多いので十分理解できるようにする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 教職・教育制度論
(チーム学校運営への対応を含む。)
[担当教員名] 保科　潤一・松田　香南
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_A12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
教員には、教育者としての使命感と教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力と幅広い豊かな人間性が要求される。本講義では、望ましい教育者になるための職務と教育専門職としての心構えについて講じる。

[学習成果] [A]
教職の意義および役割について理解させ、また学校教育に関する社会的、制度的事項について基礎的な知識を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○			○	○		

[授業計画]
1 教職課程で学ぶこと
2 子どもの生活と学校
3 教師の仕事・・・進路指導・学級運営
4 教師の仕事・・・生徒指導・教育相談
5 教育観の変遷
6 教師に求められる資質・能力…教師に何を求めてきたか
7 教師に求められる資質・能力…教師に何が求められているか
8 教員養成の制度
9 教職課程の仕組みと内容
10 教員の養成と採用
11 教員の研修
12 教員の地位と身分
13 学校安全への対応とチーム学校運営
14 日本国憲法と教育関係法規
15 学校と地域との連携

[授業方法]
教科書・プリント等に基づく講義を基本とするが、調査学習や学生による発表、討論も随時取り入れる。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
筆記試験（50%）
レポート（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「教職入門　教師への道」藤本典裕　編著
（図書文化）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
専門用語が多いので十分理解できるようにする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 教職・教育制度論
（チーム学校運営への対応を含む。）
[担当教員名] 保科　潤一・松田　香南
[授業クラス] （学科）幼児教育　第3部
（専攻）
[開講学期] 1年前期　　[科目コード] IE30_A11
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 講義

[授業概要]
教員には、教育者としての使命感と教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力と幅広い豊かな人間性が要求される。本講義では、望ましい教育者になるための職務と教育専門職としての心構えについて講じる。

[学習成果] [A]
教職の意義および役割について理解させ、また学校教育に関する社会的、制度的事項について基礎的な知識を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○			○	○		

[授業計画]
1　教職課程で学ぶこと
2　子どもの生活と学校
3　教師の仕事・・・進路指導・学級運営
4　教師の仕事・・・生徒指導・教育相談
5　教育観の変遷
6　教師に求められる資質・能力…教師に何を求めてきたか
7　教師に求められる資質・能力…教師に何が求められているか
8　教員養成の制度
9　教職課程の仕組みと内容
10　教員の養成と採用
11　教員の研修
12　教員の地位と身分
13　学校安全への対応とチーム学校運営
14　日本国憲法と教育関係法規
15　学校と地域との連携

[授業方法]
教科書・プリント等に基づく講義を基本とするが、調査学習や学生による発表、討論も随時取り入れる。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
筆記試験（50%）
レポート（30%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
「教職入門　教師への道」藤本典裕　編著
（図書文化）

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]
専門用語が多いので十分理解できるようにする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 教育原理
[担当教員名] 竹中　烈
[授業クラス] （学科）生活文化
（専攻）食物栄養
[開講学期] 1年前期　　[科目コード] LCF0_F11
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 講義

[授業概要]
「教育とは何か」、現代社会においてはほぼすべての人が学校などでの「教育」経験を持っているにも関わらず、この問いに明確に答えられる人は少ないと思います。
自身の「教育」経験について振り返ってみることは、「学校」や「学び」について考えることにもつながっていくでしょう。しかし、私たち一人ひとりの経験は非常に限定的なものにすぎません。自分の経験だけでなく、他者の経験も踏まえ、自らの経験を相対化、客観化することで、教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解していきたいと考えています。
[学習成果] [F]
現代社会における「教育」の必要性を、自身の体験やこれまでの教育思想などをふまえて説明することができる。
[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎		○	

[授業計画]
1 オリエンテーション（授業の目的、概要、評価の方法）
2 教育とは何か、学ぶことの意味づけ
3 自身の教育体験を振り返ろう①「ライフヒストリーとして物語る」
4 自身の教育体験を振り返ろう②「著名人の教育体験を知る」
5 自身の教育体験を振り返ろう③「ライフヒストリーの構築性」
6 教育思想史① - 系統主義に関わる思想 -
7 教育思想史②-児童中心主義に関わる思想-
8 教育思想史③-近代学校制度に関わる思想-
9 現代教育の諸検討①「学校とは何か」
10 現代教育の諸検討②「子どもの発見」
11 現代教育の諸検討③「早期教育・就学前教育」
12 現代教育の諸検討④「学力をどう捉えるか」
13 現代教育の諸検討⑤「道徳教育の変遷」
14 現代教育の諸検討⑥「しつけの社会史」
15 まとめ - よりよい教育を求めて
[授業方法]
基本的に講義形式となりますが、適宜ディスカッションなどを取り入れ、学習者が主体的かつ対話的に学習できるような構成としていく。
アクティブラーニング導入。
[成績評価]
授業中の課題（70%）　学定期試験（30%）
[教科書]
伊藤潔志編著『哲学する教育原理』教育情報出版
（ISBN：978-4-905493266）
[参考書]
リオラ・ブレスラー，デイヴィッド・E・クーパー，ジョイ・パーマー『教育思想の50人』青土社(ISBN： 978-4791766734)
『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
[準備学習（予習・復習）]
授業前には1時間程度で前回の配布資料の振り返りを行うこと。授業後は当該時の授業のフィードバックシートなどを1時間程度で作成すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
問い合わせはtakenaka@abu.ac.jpまで

[科　目　名] 幼児教育原理
[担当教員名] 加藤　智子・田中　亨胤
[授業クラス] (学科)幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　　[科目コード] IE10_A12
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 講義

[授業概要]
教育の意義及び目的、児童福祉等との関連性、教育思想、幼児教育の歴史及び教育課程について、幼稚園教育要領における教育の基本について理解し、保育者として必要な基礎的知識を身につける。

[学習成果] [A]
教育の意義や目的・教育に関する基礎的な理論・教育の制度・幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本・教育実践の様々な取り組み等を理解し、保育者として必要な基礎的な知識が身につく。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○		○	◎	◎		○

[授業計画]
1　教育の意義、目的
2　幼稚園教育要領における教育の基本
（資質･能力等）
3　幼稚園教育要領における教育の基本
（教育課程・全体的な計画）
4　幼稚園教育要領における教育の基本
（教育課程の編成）
5　幼稚園教育要領における教育の基本
（指導計画・評価）
6　幼稚園教育要領における教育の基本
（カリキュラムマネジメント）
7　ねらい及び内容
8　諸外国の教育思想と幼児教育の歴史
9　日本の教育思想と幼児教育の歴史
10　子どもの健康と教育環境
11　特別な配慮を必要とする幼児への指導
12　子育て支援
13　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と学校教育
14　生涯学習の中の幼児教育
15　現代の幼児教育課題
[授業方法]
講義が主体だが、グループで学習、討議を行い、保育者としての基礎的な知識を学ぶ。
アクティブラーニング導入。
幼稚園教諭の実務経験を活かし、実践的な方法で授業を行う。
[成績評価]
定期試験（60%）
授業への取組状況（30%）
レポート（10%）
[教科書]
「教育原理」矢藤誠慈郎、北野幸子　編（中央法規）
「幼稚園教育要領」
「幼保連携型認定こども園教育･保育要領」
[参考書]
「幼稚園教育要領解説書」
「幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説書」
[準備学習(予習・復習)]
次の授業前には、前回の授業の内容を見直しておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
日常から、保育や社会情勢に関心をもち、書籍を読んだりニュースを見たりするとよい。

[科　目　名] 幼児教育原理
[担当教員名] 加藤　智子・田中　亨胤
[授業クラス] (学科)幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　　[科目コード] IE30_A12
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 講義

[授業概要]
教育の意義及び目的、児童福祉等との関連性、教育思想、幼児教育の歴史及び教育課程について、幼稚園教育要領における教育の基本について理解し、保育者として必要な基礎的知識を身につける。

[学習成果] [A]
教育の意義や目的・教育に関する基礎的な理論・教育の制度・幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本・教育実践の様々な取り組み等を理解し、保育者として必要な基礎的な知識が身につく。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○		○	◎	◎		○

[授業計画]
1　教育の意義、目的
2　幼稚園教育要領における教育の基本
（資質･能力等）
3　幼稚園教育要領における教育の基本
（教育課程・全体的な計画）
4　幼稚園教育要領における教育の基本
（教育課程の編成）
5　幼稚園教育要領における教育の基本
（指導計画・評価）
6　幼稚園教育要領における教育の基本
（カリキュラムマネジメント）
7　ねらい及び内容
8　諸外国の教育思想と幼児教育の歴史
9　日本の教育思想と幼児教育の歴史
10　子どもの健康と教育環境
11　特別な配慮を必要とする幼児への指導
12　子育て支援
13　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と学校教育
14　生涯学習の中の幼児教育
15　現代の幼児教育課題
[授業方法]
講義が主体だが、グループで学習、討議を行い、保育者としての基礎的な知識を学ぶ。
アクティブラーニング導入。
幼稚園教諭の実務経験を活かし、実践的な方法で授業を行う。
[成績評価]
定期試験（60%）
授業への取組状況（30%）
レポート（10%）
[教科書]
「教育原理」矢藤誠慈郎、北野幸子　編（中央法規）
「幼稚園教育要領」
「幼保連携型認定こども園教育･保育要領」
[参考書]
「幼稚園教育要領解説書」
「幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説書」
[準備学習(予習・復習)]
次の授業前には、前回の授業の内容を見直しておくこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
日常から、保育や社会情勢に関心をもち、書籍を読んだりニュースを見たりするとよい。

[科　目　名] 教育心理学
[担当教員名] 朴　賢晶
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_F12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
教育の過程における心理学知識及び効果的な教育を展開するために教育心理学の基礎を学習することを目的とする。子どもの心身の発達と学習過程において、基礎的な知識を身につけるとともに、学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

[学習成果] [F]
子どもの心身の発達と学習過程において、基礎的な知識を身につけるとともに、学習を支える指導について基礎的な考え方を学習することによって、子どものそれぞれの発達に合わせた教育的対応できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎	◎	○	

[授業計画]
1 教育心理学について紹介。心理学の考え方を紹介すると共に教育心理学を学ぶ意義について
2 ピグマリオン効果の紹介と共にどのように子どもの学習を支えるのかディスカッション
3 学習無力感の紹介と共に、子どもの心理的な支援について考える
4 子どもの心身の発達について説明(発達と初期環境を愛着に焦点を当てる)
5 認知的発達理論について紹介すると共に、発達理解の意義を理解する
6 子どもの心身の発達について説明(人との関わりに焦点を当てる)
7 フロイトとエリクソンの発達段階と課題について紹介する
8 学習の形態や概念についての理論を紹介すると共に、主体的な学びについて考える
9 子どもの自己意識、言語機能、遊びの発達について説明する。
10 古典的条件づけについて説明
11 道具的条件づけについて説明
12 叱ることの効果について説明すると共に、動機付けについて考える
13 誉めることの効果について説明すると共に、動機付けについて考える
14 観察学習について説明する
15 子どもの観察学習の効果について説明すると共に、発達を支える指導法を考える

[授業方法]
講義を基本とする。回想法による児童・生徒時期の学校生活を振り返りながら、経験と理論を照らし合わせ理解を深める。グループ学習、調べ学習、資料作成等を取り入れ、学生が主体的に学習できるように工夫する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
小レポート (70%)
平常点 (30%)(授業への取組状況等)

[教科書]
プリント配布

[参考書]
「やさしい教育心理学」鎌原雅彦ら著(有斐閣)

[準備学習 (予習・復習)]
レポートは、授業に問題意識をもって臨むための予習的なものと、学習した内容を深めるためのものにする。
(履修案内のII履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
予習・復習を促すアクティブラーニングの導入を考えている。授業中に配布したプリント、資料等は常に持参して授業に参加することが望ましい。

[科　目　名] 教育心理学
[担当教員名] 朴　賢晶
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_B21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
教育の過程における心理学知識及び効果的な教育を展開するために教育心理学の基礎を学習することを目的とする。子どもの心身の発達と学習過程において、基礎的な知識を身につけるとともに、学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

[学習成果] [B]
子どもの心身の発達と学習過程において、基礎的な知識を身につけるとともに、学習を支える指導について基礎的な考え方を学習することによって、子どものそれぞれの発達に合わせた教育的対応できる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎	◎	○	◎	◎		○

[授業計画]
1 教育心理学について紹介。心理学の考え方を紹介すると共に教育心理学を学ぶ意義について
2 ピグマリオン効果の紹介と共にどのように子どもの学習を支えるのかディスカッション
3 学習無力感の紹介と共に、子どもの心理的な支援について考える
4 子どもの心身の発達について説明(発達と初期環境を愛着に焦点を当てる)
5 認知的発達理論について紹介すると共に、発達理解の意義を理解する
6 子どもの心身の発達について説明(人との関わりに焦点を当てる)
7 フロイトとエリクソンの発達段階と課題について紹介する
8 学習の形態や概念についての理論を紹介すると共に、主体的な学びについて考える
9 子どもの自己意識、言語機能、遊びの発達について説明する。
10 古典的条件づけについて説明
11 道具的条件づけについて説明
12 叱ることの効果について説明すると共に、動機付けについて考える
13 誉めることの効果について説明すると共に、動機付けについて考える
14 観察学習について説明する
15 子どもの観察学習の効果について説明すると共に、発達を支える指導法を考える

[授業方法]
講義を基本とする。回想法による児童・生徒時期の学校生活を振り返りながら、経験と理論を照らし合わせ理解を深める。グループ学習、調べ学習、資料作成等を取り入れ、学生が主体的に学習できるように工夫する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
小レポート (70%)
平常点 (30%)(授業への取組状況等)

[教科書]
プリント配布

[参考書]
「やさしい教育心理学」鎌原雅彦ら著(有斐閣)

[準備学習 (予習・復習)]
レポートは、授業に問題意識をもって臨むための予習的なものと、学習した内容を深めるためのものにする。
(履修案内のII履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
予習・復習を促すアクティブラーニングの導入を考えている。授業中に配布したプリント、資料等は常に持参して授業に参加することが望ましい。

[科　目　名] 教育心理学
[担当教員名] 朴　賢晶
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年前期　[科目コード] IE30_B31
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
教育の過程における心理学知識及び効果的な教育を展開するために教育心理学の基礎を学習することを目的とする。子どもの心身の発達と学習過程において、基礎的な知識を身につけるとともに、学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

[学習成果] [B]
子どもの心身の発達と学習過程において、基礎的な知識を身につけるとともに、学習を支える指導について基礎的な考え方を学習することによって、子どものそれぞれの発達に合わせた教育的対応できる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎	◎	○	◎	◎		○

[授業計画]
1 教育心理学について紹介。心理学の考え方を紹介すると共に教育心理学を学ぶ意義について
2 ピグマリオン効果の紹介と共にどのように子どもの学習を支えるのかディスカッション
3 学習無力感の紹介と共に、子どもの心理的な支援について考える
4 子どもの心身の発達について説明(発達と初期環境を愛着に焦点を当てる)
5 認知的発達理論について紹介すると共に、発達理解の意義を理解する
6 子どもの心身の発達について説明(人との関わりに焦点を当てる)
7 フロイトとエリクソンの発達段階と課題について紹介する
8 学習の形態や概念についての理論を紹介すると共に、主体的な学びについて考える
9 子どもの自己意識、言語機能、遊びの発達について説明する。
10 古典的条件づけについて説明
11 道具的条件づけについて説明
12 叱ることの効果について説明すると共に、動機付けについて考える
13 誉めることの効果について説明すると共に、動機付けについて考える
14 観察学習について説明する
15 子どもの観察学習の効果について説明すると共に、発達を支える指導法を考える

[授業方法]
講義を基本とする。回想法による児童・生徒時期の学校生活を振り返りながら、経験と理論を照らし合わせ理解を深める。グループ学習、調べ学習、資料作成等を取り入れ、学生が主体的に学習できるように工夫する。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
小レポート (70%)
平常点 (30%)(授業への取組状況等)

[教科書]
プリント配布

[参考書]
「やさしい教育心理学」 鎌原雅彦ら著(有斐閣)

[準備学習 (予習・復習)]
レポートは、授業に問題意識をもって臨むための予習的なものと、学習した内容を深めるためのものにする。
(履修案内のII履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
予習・復習を促すアクティブラーニングの導入を考えている。授業中に配布したプリント、資料等は常に持参して授業に参加することが望ましい。

[科　目　名] 教育関係法規・教育課程の意義及び編成の方法
[担当教員名] 竹中　烈・田中　亨胤
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_F11
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
現代の学校教育には、地域との連携・教員の質の向上など様々な要求が突きつけられている。それらの課題は、現代の学校制度や経営の問題を内包しており、日本の学校教育の社会的かつ法規制度的な理解が必要不可欠である。本講義では、日本の学校制度や経営の特質を歴史的視点も取り入れながら解説した上で、近年の教育政策の動向や諸外国の教育事情等についてもそのあり方についても扱う。

[学習成果] [F]
日本の学校教育制度や教育課程の意義及び編成も含めた学校経営の特色について、教育関係法規や海外比較などの視点を通して理解する。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎		○	

[授業計画]
1 オリエンテーション(授業の目的、概要、評価の方法)
2 教育課程とは何か - 学習指導要領の位置づけ -
3 教育委員会制度の理念と仕組み
4 戦後教育史-学習指導要領及び教育法規の変遷-
5 昭和30年代の学校制度
6 「6・3・3制」と中等教育
7 近年の教育政策の動向と新学習指導要領
8 社会に開かれた教育課程-カリキュラムマネジメントの意義-
9 カリキュラム編成の基本原理及びカリキュラム評価の現状
10 地域や保護者がつくる学校-コミュニティスクールを事例に-
11 学校保健安全法と安全教育の現状
12 各国の学校教育制度①-アメリカ合衆国-
13 各国の学校教育制度②-フィンランド及び欧州-
14 各国の学校教育制度③-シンガポール及び台湾-
15 まとめ

[授業方法]
基本的に講義形式となるが、適宜ディスカッションなどを取り入れ、学習者が主体的かつ対話的に学習できるような構成としていく。また「各国の学校教育制度」では、各自がテーマとなる国の教育事情や学校制度を事前に資料を通して調べ、それらの結果を持ち合い、ディスカッションすることを具体的な方法とする。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業中の課題 (50%)　学定期試験 (50%)

[教科書]
授業プリント配布

[参考書]
苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ - 学歴主義と平等神話の戦後史 - 』中公新書 (ISBN: 978-4121012494)
藤田英典『義務教育を問い直す』ちくま新書 (ISBN:978-4480062437)
文部科学省『諸外国の教育動向』(最新版)
『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』(平成29年3月公示) (全て最新版)

[準備学習 (予習・復習)]
授業前には1時間程度で前回の配布資料の振り返りを行うこと。授業後は当該時の授業のフィードバックシートなどを1時間程度で作成すること。
(履修案内のII履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
問い合わせはtakenaka@abu.ac.jpまで

[科　目　名] 道徳及び特別活動の指導法（総合的な学習の時間を含む）
[担当教員名] 蟷川　喜信
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_F12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間の教育課程上の位置付けや他教科との関連を踏まえ、学習指導要領に示された目標、内容や育む資質・能力等について理解し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習方法・指導方法、評価基準の観点について学ぶ。

[学習成果] [F]
道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間の目標・内容、育む資質・能力、指導理論・方法について学び、実際の授業づくりや指導法についての基礎・基本を理解する。また、他教科、人権教育、生徒指導、健康教育、食育等、学校教育全体との関連を理解する。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		○		○	◎

[授業計画]
1 オリエンテーション
2 道徳教育の変遷、求められる道徳教育の在り方
3 学校教育での位置付けと育まれる資質・能力、評価
4 道徳科の指導計画と実践指導研究（1）
5 道徳科の実践指導研究（2）
6 特別活動の変遷、教育活動全体における意義
7 特別活動の特質、目標、内容、育まれる資質・能力
8 特別活動（学級活動・児童会・生徒会・学校行事）の目標と内容、評価
9 特別活動の指導計画と実践指導研究（1）
10 特別活動の実践指導研究（2）
11 総合的な学習の時間の意義と教育課程上の役割
12 総合的な学習の時間の全体計画と単位構成
13 総合的な学習の時間の指導計画と実践指導研究
14 総合的な学習の時間の評価
15 道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間のまとめ

[授業方法]
多くは講義が主体であるが、グループワークや全体討議等でのアクティブラーニングに基づいた協働作業を通して、多角的な見方・考え方の重要性に気づき、多様な児童・生徒の指導者としての資質を高める演習を取り入れる。

[成績評価]
課題（学習指導案等）（80%）
授業への取組状況（20%）

[教科書]
特になし。授業毎にプリント資料配布する。
[参考書]
「道徳教育の理論と方法」
羽田積男・関川悦男　編（弘文堂）
「特別活動・総合的学習の理論と指導法」
関川悦男・今泉朝雄　編（弘文堂）
「小学校学習指導要領解説、中学校学習指導要領解説　特別な教科　道徳編・特別活動編・総合的な学習の時間編」（文部科学省）

[準備学習（予習・復習）]
授業後にプリントや資料を読み直し、振り返りをする。
課題に取り組むグループワークやプレゼンの前後に準備や総括を行い、記録に残しポートフォリオとする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]

[科　目　名] 幼児理解と教育方法
[担当教員名] 村上　浩美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_C21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
子どもを中心に考えた質の高い保育実践を進めるために、幼児理解を深めどのような教育方法が大切かを考え、教材や指導計画の作成を通して保育・教育方法を学ぶ。

[学習成果] [C]
一人ひとりの子どもの良さを認め引き出す保育の重要性が分かり、個々に応じた指導方法や個々の力が発揮できる集団の育ちを促す指導方法を考えることができる。
子どもたちに求められる資質・能力を育成するために、幼児理解する方法や教育方法の在り方を理解し、保育・指導技術を身につける。また、教材の作成や活用能力を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○	○		◎		

[授業計画]
1 育みたい資質・能力と保育方法の基本
2 「幼児理解の方法」と「保育者の意図と援助」
3 3歳未満児の保育と3歳以上児の保育
4 指導計画の立て方（1）ねらいと内容
5 指導計画の立て方（2）予想される子どもの活動
6 指導計画の立て方（3）環境設定・教材の活用
7 指導計画の立て方（4）保育者の援助
8 保育を行う上での基礎的な技術
9 生活や遊びの中での総合的な指導
10 幼児の発達の応じた指導方法
11 共に育ち合う保育の視点
12 幼児理解と映像によるカンファレンス
13 「幼児理解の評価」と「保育における評価と反省」
14 保護者の心情と基礎的な対応方法
15 教材の持つ意味と使い方・教育情報の活用

[授業方法]
講義が主体だが、グループ討議、指導計画作成を通して、よりよい保育方法を考察する。
アクティブラーニング導入。
グループ討議を行い、予想される子どもの姿や保育方法をより深く考える。
幼稚園、小学校の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
筆記テスト（50%）
授業への取組状況（25%）
レポート（25%）

[教科書]
特になし

[参考書]
幼稚園教育要領、保育所保育指針、
幼保連携型こども園教育・保育要領

[準備学習（予習・復習）]
レポートは、授業内で作成する時間をある程度設けるが、完成するには、授業時間外に作成する必要がある。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
グループ討議では、一人ひとりの積極的な参加によって、学習成果が高まる。

[科　目　名] 幼児理解と教育方法
[担当教員名] 村上　浩美
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年前期　[科目コード] IE30_C31
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
子どもを中心に考えた質の高い保育実践を進めるために、幼児理解を深めどのような教育方法が大切かを考え、教材や指導計画の作成を通して保育・教育方法を学ぶ。

[学習成果] [C]
一人ひとりの子どもの良さを認め引き出す保育の重要性が分かり、個々に応じた指導方法や個々の力が発揮できる集団の育ちを促す指導方法を考えることができる。
子どもたちに求められる資質・能力を育成するために、幼児理解する方法や教育方法の在り方を理解し、保育・指導技術を身につける。また、教材の作成や活用能力を身につける。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○	○		◎		

[授業計画]
1　育みたい資質・能力と保育方法の基本
2　「幼児理解の方法」と「保育者の意図と援助」
3　3歳未満児の保育と3歳以上児の保育
4　指導計画の立て方 (1) ねらいと内容
5　指導計画の立て方 (2) 予想される子どもの活動
6　指導計画の立て方 (3) 環境設定・教材の活用
7　指導計画の立て方 (4) 保育者の援助
8　保育を行う上での基礎的な技術
9　生活や遊びの中での総合的な指導
10　幼児の発達の応じた指導方法
11　共に育ち合う保育の視点
12　幼児理解と映像によるカンファレンス
13　「幼児理解の評価」と「保育における評価と反省」
14　保護者の心情と基礎的な対応方法
15　教材の持つ意味と使い方・教育情報の活用

[授業方法]
講義が主体だが、グループ討議、指導計画作成を通して、よりよい保育方法を考察する。
アクティブラーニング導入。
グループ討議を行い、予想される子どもの姿や保育方法をより深く考える。
幼稚園、小学校の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
筆記テスト (50%)
授業への取組状況 (25%)
レポート (25%)

[教科書]
特になし

[参考書]
幼稚園教育要領、保育所保育指針、
幼保連携型こども園教育・保育要領

[準備学習 (予習・復習)]
レポートは、授業内で作成する時間をある程度設けるが、完成するには、授業時間外に作成する必要がある。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]
グループ討議では、一人ひとりの積極的な参加によって、学習成果が高まる。

[科　目　名] 教育相談
[担当教員名] 水谷　久康
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE10_C22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
教育相談を行うためには単にカウンセリングのスキルや考え方を理解するだけでは役には立たない。幼児教育を行う専門家として支援ニーズにどう応えるのか、子供の課題と保護者の背景にある家族の課題などを理解する力をつけ、役立つ援助とは何かを学ぶ。

[学習成果] [C]
子供を育む家族を取り巻く環境は今日厳しさを増している。様々な家族があり、様々な保護者の思いがあることを理解し、問題を抱え支援を必要とする側に存在する解決のための資源を見出し活性化させる視点やスキルを身につけ、役立つ支援力を獲得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○		○	○	○		

[授業計画]
1　オリエンテーション、教育相談とカウンセリング
2　カウンセリングの基礎とフロイト
3　ロジャーズとカウンセリング
4　指示的カウンセリングと非指示的カウンセリング
5　非指示的カウンセリングの実際
6　クライアントの変容
7　家族システムと家族療法の考え方
8　問題と解決とは
9　乳幼児への特別支援①
10　乳幼児への特別支援②
11　乳幼児への特別支援③
12　マズローの欲求階層と虐待児の問題
13　事例から考える保護者支援①
14　事例から考える保護者支援②
15　まとめ

[授業方法]
講義とともに、グループディスカッション、ロールプレイなどを取り入れ必要な知識スキルが身につくように学習する。毎回小テストで知識の定着を図る。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
筆記試験 (50%)
授業課題・授業への取組状況 (50%)

[教科書]
特になし

[参考書]
「子どもたちとのソリューション・ワーク」
インスー・キムバーク、テレサ・スタイナー著
長谷川啓三監訳　(株)金剛出版

[準備学習 (予習・復習)]
ノートと資料プリント・小テストを使い学習の振返りを毎回行うこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科　目　名] 教育相談
[担当教員名] 水谷　久康
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 3年前期　[科目コード] IE30_C31
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
教育相談を行うためには単にカウンセリングのスキルや考え方を理解するだけでは役には立たない。幼児教育を行う専門家として支援ニーズにどう応えるのか、子供の課題と保護者の背景にある家族の課題などを理解する力をつけ、役立つ援助とは何かを学ぶ。

[学習成果] [C]
子供を育む家族を取り巻く環境は今日厳しさを増している。様々な家族があり、様々な保護者の思いがあることを理解し、問題を抱え支援を必要とする側に存在する解決のための資源を見出し活性化させる視点やスキルを身につけ、役立つ支援力を獲得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	○		○	○	○		

[授業計画]
1 オリエンテーション、教育相談とカウンセリング
2 カウンセリングの基礎とフロイト
3 ロジャーズとカウンセリング
4 指示的カウンセリングと非指示的カウンセリング
5 非指示的カウンセリングの実際
6 クライアントの変容
7 家族システムと家族療法の考え方
8 問題と解決とは
9 乳幼児への特別支援①
10 乳幼児への特別支援②
11 乳幼児への特別支援③
12 マズローの欲求階層と虐待児の問題
13 事例から考える保護者支援①
14 事例から考える保護者支援②
15 まとめ

[授業方法]
講義とともに、グループディスカッション、ロールプレイなどを取り入れ必要な知識スキルが身につくように学習する。毎回小テストで知識の定着を図る。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
筆記試験（50%）
授業課題・授業への取組状況（50%）

[教科書]
特になし

[参考書]
「子どもたちとのソリューション・ワーク」
インスー・キムバーク、テレサ・スタイナー著
長谷川啓三監訳　(株)金剛出版

[準備学習（予習・復習）]
ノートと資料プリント・小テストを使い学習の振返りを毎回行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 特別支援教育
[担当教員名] 光田　博英
[授業クラス] (学科) 生活文化学科
(専攻) 食物栄養専攻
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_F22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
障害のある子どもの教育に関する現状を理解し、障害の程度等に応じて特別な場で指導を行う特殊教育から一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う特別支援教育への転換を学習する。本学習では、歴史的、理念的に振り返るとともに、個別の教育支援計画や特別支援教育コーディネーター、広域特別支援連携協議会等特別支援教育に関する基本的考え方を理解する。

[学習成果] [F]
発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の実態や適切な支援方法等を理解し、よき支援者としての資質を育てる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎		○	

[授業計画]
1 特別支援教育の歴史Ⅰ我が国における特殊教育の始まりと発展
2 特別支援教育の歴史Ⅱ　特殊教育から特別支援教育への転換
3 特別支援教育の理念と仕組み
インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関わる理念と仕組み
4 特別支援教育の対象となる障害の理解Ⅰ
5 特別支援教育の対象となる障害の理解Ⅱ
6 特別支援教育に関わる制度　インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関わる制度
7 学習指導要領と教育課程の編成　学習指導要領と教育課程の編制及び配慮事項
8 特別支援学校の教育の概要
9 特別支援学校における教育課程　特別支援学校における教育課程と実際の指導
10 自立活動の指導　自立活動の指導内容と方法
11 特別支援学校のセンター的機能　特別支援学校のセンター的機能と交流及び共同学習
12 小・中学校における特別支援教育Ⅰ　特別支援学級と通級による指導
13 小・中学校における特別支援教育Ⅱ　通常の学級における特別支援教育
14 個別の教育支援計画及び指導計画　個別の教育支援計画と個別の指導計画の実際
15 特別支援教育コーディネーターの役割
特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関のネットワーク

[授業方法]
特別支援教育の理念や制度、実際などを講義形式で行い、適宜グループワークや事例検討などのディスカッションを織り交ぜて理解を深める。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
試験（70%）
小論文、提出物、講義への参加意欲（30%）

[教科書]
「特別支援教育の基礎・基本」ジアース教育新社

[参考書]
特別支援学校学習指導要領・教育要領およびその解説

[準備学習（予習・復習）]
授業内容に関連することについて日常的に関心を持ち、課題意識を持って授業に臨むこと。また、授業後には授業内容について必ず振り返り、内容のポイントを整理しておく。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 特別支援教育
[担当教員名] 光田　博英
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 2年前期　[科目コード] IE10_C21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
障害のある子どもの教育に関する現状を理解し、障害の程度等に応じて特別な場で指導を行う特殊教育から一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う特別支援教育への転換を学習する。本学習では、歴史的、理念的に振り返るとともに、個別の教育支援計画や特別支援教育コーディネーター、広域特別支援連携協議会等特別支援教育に関する基本的考え方を理解する。

[学習成果] [C]
発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の実態や適切な支援方法等を理解し、よき支援者としての資質を育てる。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎			○			

[授業計画]
1 特別支援教育の歴史Ⅰ我が国における特殊教育の始まりと発展
2 特別支援教育の歴史Ⅱ　特殊教育から特別支援教育への転換
3 特別支援教育の理念と仕組み
インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関わる理念と仕組み
4 特別支援教育の対象となる障害の理解Ⅰ
5 特別支援教育の対象となる障害の理解Ⅱ
6 特別支援教育に関わる制度　インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関わる制度
7 学習指導要領と教育課程の編成　学習指導要領と教育課程の編制及び配慮事項
8 特別支援学校の教育の概要
9 特別支援学校における教育課程　特別支援学校における教育課程と実際の指導
10 自立活動の指導　自立活動の指導内容と方法
11 特別支援学校のセンター的機能　特別支援学校のセンター的機能と交流及び共同学習
12 小・中学校における特別支援教育Ⅰ　特別支援学級と通級による指導
13 小・中学校における特別支援教育Ⅱ　通常の学級における特別支援教育
14 個別の教育支援計画及び指導計画　個別の教育支援計画と個別の指導計画の実際
15 特別支援教育コーディネーターの役割
特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関のネットワーク
[授業方法]
特別支援教育の理念や制度、実際などを講義形式で行い、適宜グループワークや事例検討などのディスカッションを織り交ぜて理解を深める。
アクティブラーニング導入。
[成績評価]
試験（70%）
小論文、提出物、講義への参加意欲（30%）
[教科書]
「特別支援教育の基礎・基本」ジアース教育新社
[参考書]
特別支援学校学習指導要領・教育要領およびその解説
[準備学習（予習・復習）]
授業内容に関連することについて日常的に関心を持ち、課題意識を持って授業に臨むこと。また、授業後には授業内容について必ず振り返り、内容のポイントを整理しておく。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]

[科　目　名] 特別支援教育
[担当教員名] 光田　博英
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 2年後期　[科目コード] IE30_C22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
障害のある子どもの教育に関する現状を理解し、障害の程度等に応じて特別な場で指導を行う特殊教育から一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う特別支援教育への転換を学習する。本学習では、歴史的、理念的に振り返るとともに、個別の教育支援計画や特別支援教育コーディネーター、広域特別支援連携協議会等特別支援教育に関する基本的考え方を理解する。

[学習成果] [C]
発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の実態や適切な支援方法等を理解し、よき支援者としての資質を育てる。
[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎			○			

[授業計画]
1 特別支援教育の歴史Ⅰ我が国における特殊教育の始まりと発展
2 特別支援教育の歴史Ⅱ　特殊教育から特別支援教育への転換
3 特別支援教育の理念と仕組み
インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関わる理念と仕組み
4 特別支援教育の対象となる障害の理解Ⅰ
5 特別支援教育の対象となる障害の理解Ⅱ
6 特別支援教育に関わる制度　インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関わる制度
7 学習指導要領と教育課程の編成　学習指導要領と教育課程の編制及び配慮事項
8 特別支援学校の教育の概要
9 特別支援学校における教育課程　特別支援学校における教育課程と実際の指導
10 自立活動の指導　自立活動の指導内容と方法
11 特別支援学校のセンター的機能　特別支援学校のセンター的機能と交流及び共同学習
12 小・中学校における特別支援教育Ⅰ　特別支援学級と通級による指導
13 小・中学校における特別支援教育Ⅱ　通常の学級における特別支援教育
14 個別の教育支援計画及び指導計画　個別の教育支援計画と個別の指導計画の実際
15 特別支援教育コーディネーターの役割
特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関のネットワーク
[授業方法]
特別支援教育の理念や制度、実際などを講義形式で行い、適宜グループワークや事例検討などのディスカッションを織り交ぜて理解を深める。
アクティブラーニング導入。
[成績評価]
試験（70%）
小論文、提出物、講義への参加意欲（30%）
[教科書]
「特別支援教育の基礎・基本」ジアース教育新社
[参考書]
特別支援学校学習指導要領・教育要領およびその解説
[準備学習（予習・復習）]
授業内容に関連することについて日常的に関心を持ち、課題意識を持って授業に臨むこと。また、授業後には授業内容について必ず振り返り、内容のポイントを整理しておく。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]

[科　目　名] 教育の方法及び技術
[担当教員名] 清水　茂・小川　美樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_F22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
魅力ある授業とはどのような授業であるかを追究し、授業を展開する上で必要となる基本的な指導方法や技術を習得して、実践に役立てるようにする。
特別活動や総合的な活動など、食育関係の専門性を生かす豊かな教材解釈・教材開発の方法を理解し、児童・生徒の知的好奇心を育てる指導技術を身につける。また、今日的課題であるアクティブラーニングや情報機器を活用した授業展開について理解を深めていく。
指導と評価の表裏一体の関係性を踏まえ、それらの背景にある学習心理学や教育学の知見の存在を理解し、児童・生徒の資質・能力を向上させることのできる指導技術を身につける。

[学習成果] [F]
魅力ある授業の基礎となる指導方法と技術を理解し、適切な教材の作成と教育機器の効果的な活用方法・技術を身につける。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎			○

[授業計画]
1　教育の基本理念「教員の心構え」
2　教育計画・授業計画1「黄金の一週間」
3　教育計画・授業計画2「ハニームーンと叱るルール」
4　授業の基本1「導入（つかみ）と目配り」
5　授業の基本2「板書のポイントと話し方」
6　教育評価1「子供を成長させるチェックポイント」
7　教育評価2「学習グループの作り方」
8　健康安全1「ヒヤリハットに学ぶ（救急車）」
9　健康安全2「完全自給食になったら（残さい問題）」
10　児童・生徒理解1「曜日の不思議」
11　児童・生徒理解2「サザエさん症候群」
12　魅力ある教材作り1「伊吹おろしと大根」
13　魅力ある教材作り2「冬を乗り切る食べ物」
14　教科指導におけるICT活用(1)
15　教科指導におけるICT活用(情報モラルを含む)(2)

[授業方法]
知的好奇心を高める具体的な教材を提示し、グループでのディスカッションなどを通して学習を深め、学生が問題意識をもつことができるようにする。また、専門性を生かした魅力ある教材作りなどを通して、実践的な指導力の向上を図る。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
毎時のワークシートとレポート(70%)
授業への取組状況（30%）

[教科書]
毎時間教材資料を配付する。

[参考書]
学習指導要領等、適宜授業中に紹介する。

[準備学習（予習・復習）]
授業時間以外で関連する分野の書籍、雑誌、インターネット等に触れ、問題意識を持って授業に臨むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科　目　名] 生徒指導論
[担当教員名] 竹中　烈・水谷　久康
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_F21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
生徒指導は、問題行動を起こす子どもへの指導のイメージが強く持たれているが、すべての子どもを対象にし、子どものキャリアも含めた自己実現の達成や自己肯定感を育むことを目的としたものである生徒指導の本来の意味や理念、指導方策を、事例を通して具体的に理解することを目的とするとともに、どのような指導の在り方が教師として求められるのかを探求することを目的とする。
[学習成果] [F]
子どもの自己実現に向けた関わりをみすえた生徒指導や教育相談の在り方を探求する。
[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎		○	

[授業計画]
1 オリエンテーション（授業の目的、概要、評価方法）
2 生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義と位置づけ－自己指導能力とは何か－
3 集団指導と教育相談の方法原理－懲戒・出席停止の法的根拠や体罰の禁止も含めて－
4 教育相談の意義と課題
5 価値観の多様性を理解する－子どもの愛着形成－
6 子どもたちのサインーカウンセリングマインド・アセスメントー
7 校則と生徒指導―頭髪指導を巡って―
8 不登校の児童・生徒への対応―不登校対応へのポイント―
9 いじめに関する児童・生徒への対応―いじめの多様性を事例から理解する－
10 発達障害のある児童・生徒への対応―発達障害を背景とする児童・生徒の理解－
11 保護者を対象とした教育相談
12 児童虐待の対応－家庭への介入の是非をめぐって－
13 インターネット・携帯電話に関わる生徒指導－SNSでの人間関係の特質をふまえて－
14 生徒指導及び教育相談における信頼関係－自己肯定感を育む関わりかけ―
15 学校教育におけるチームによる指導体制と外部機関との連携
[授業方法]
基本的に講義形式となるが、適宜ディスカッションなどを取り入れ、学習者が主体的かつ対話的に学習できるような構成としていく。
[成績評価]
授業中の課題（50%）　定期試験（50%）
[教科書]
文部科学省『生徒指導提要』（平成22年3月）
向後礼子・山本智子『ロールプレイで学ぶ 教育相談ワークブック：子どもの育ちを支える』ミネルヴァ書房（ISBN: 978-4623070558）
[参考書]
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（全て最新版）
[準備学習（予習・復習）]
授業前には1時間程度で前回の配布資料の振り返りを行うこと。授業後は当該時の授業のフィードバックシートなどを1時間程度で作成すること。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
問い合わせはtakenaka@abu.ac.jpまで

[科　目　名] 学校栄養教育概論
[担当教員名] 森　順子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_F21
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
子どもたちの望ましい食習慣形成のために、食教育や給食実務の知識を踏まえ、食に関わって派出する問題を具体的に取り上げる。学校における食に関する指導の実践演習および問題解決の方法を考察する。更に栄養教諭に求められる専門性と教育活動の資質と能力を培い、実践的で有用な指導力の習得を図る。

[学習成果] [F]
子どもたちの食生活環境、学校における食育の必要性等を理解することにより、栄養教諭の職務内容がわかり、食育推進の取り組みを広げるための方法を考えることができるようになる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	○	○	◎	○	○

[授業計画]
1　学校給食の意義、栄養教諭の役割
2　食文化の変遷と学校教育
3　子どもの発達と食生活
4　食に関する指導の全体計画
5　食に関する指導の展開
6　給食の時間における食に関する指導
7　発達に応じた食に関する指導と食生活学習教材
8　家庭科・技術家庭科における食に関する指導
9　体育科・保健体育科における食に関する指導
10　道徳・特別活動における食に関する指導
11　生活科における食に関する指導
12　総合的な学習時間における食に関する指導
13　個別栄養相談指導
14　家庭・地域との連携
15　まとめ

[授業方法]
講義が主体であるが、ディスカッションや指導案の作成、演習等も取り入れ、栄養教諭が行う指導方法を探っていく。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
レポート（50%）
演習（30%）
発表（20%）

[教科書]
「栄養教諭論」金田雅代編著（建帛社）
「食に関する指導の手引き」文部科学省（健学社）

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
毎授業前に演習のための資料準備をすること。
毎授業後にレポートを提出すること。
（履修案内のII履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
授業では学校現場における食に関する指導の進め方について解説するが、「食」にかかわることがらについても関心を持ってもらいたい。

[科　目　名] 教職実践演習（栄養教諭）
[担当教員名] 鋤柄　悦子・有尾　正子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_F22
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 演習

[授業概要]
栄養教育実習での経験を基に、児童生徒に対して食の持つ役割を理解させ、健康に配慮した食を選択する力を身につけさせるための、効果的な指導方法を実践的に学ぶ。

[学習成果] [F]
教員となるための課題を自覚することができる。学外演習では指導媒体を作成し実践する資質を身につけることができる。

[[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	◎	◎	◎	◎	◎

[授業計画]
1　栄養教諭の役割について(教育実習の振り返り)
2　事例研究①
3　事例研究②
4　事例研究③
5　食育活動の計画
6　食育の実践①
7　食育の実践②
8　食育の実践③
9　媒体作成①
10　媒体作成②
11　媒体作成③
12　学外実践演習①
13　学外実践演習②
14　学外実践演習③
15　まとめ

[授業方法]
演習形式ですすめる。学内、学外ともに子どもとふれあう機会を設け、実践的に学ぶ。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（60%）
提出物（40%）

[教科書]
資料配布

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
演習のための事前準備（予習）授業前に必ず行うこと。
（履修案内のII履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
食と栄養に関する知識だけではなく、子どもとのコミュニケーション力を養うために、ボランティア活動にも積極的に参加していく。

[科　目　名] 栄養教育実習
[担当教員名] 鋤柄　悦子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年後期　[科目コード] LCF0_F22
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
「栄養」「教育」に関する科目の学習をもとに、学校教育の現場で教育実習を行う。実際に児童、生徒とかかわることで栄養教諭の役割を理解する。食に関する指導の実践に加えて、教師としての資質の向上を図る。

[学習成果] [F]
児童・生徒に直接かかわることで、教職に関する専門的知識,技術の指導方法を習得することができる。また、教育の現場での言葉遣い、マナーを理解することができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		○	◎	○	

[授業計画]
(1) 学校の経営、校務分掌の理解、服務等
(2) 児童及び生徒への個別相談、指導の実習
(3) 教科、特別活動等における指導の実習
学級活動及び給食の時間における指導の参観、補助
教科等における教科担任等と連携した指導の参観、補助
指導計画案、指導案の立案作成、教材研究
(4) 食に関する指導の連携・調整の実習（校内・家庭・地域）
(5) 実習日誌の記入と指導

[授業方法]
実習は１０月１週目（５日間）を予定している。実習校でスケジュールにより、観察・参加・指導の実習を行う。期間中に巡回指導を行う。

[成績評価]
実習校の評価（80%）
実習日誌（20%）

[教科書]
「栄養教育実習記録」有尾正子

[参考書]
随時紹介する

[準備学習（予習・復習）]
予習とともに他の教職科目の復習をしておくこと。(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)

[備考]
事前準備を充分に行い、目的意識をもって実習にのぞむこと。栄養士学外実習での学びを活かして、子どもの食生活について理解を深めたい。

[科　目　名] 栄養教育実習事前事後指導
[担当教員名] 森　順子・鋤柄　悦子
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　[科目コード] LCF0_F21
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
栄養教育実習を有意義なものとするために、事前の指導と事後の反省を行う。教育の現場で実践的に学ぶことにより、栄養教諭としての資質を向上させる。

[学習成果] [F]
教育実習に臨む上での心構えと言葉遣いなどを身につけることができる。事前に指導案を作成、媒体の検討をすることで、実習を充実させ、事後の反省により、後期の学習への意欲を高め食育推進の担い手としての資質を向上させることができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
◎	○	○	◎	○	○

[授業計画]
1 栄養教育実習の意義と目的①
2 栄養教育実習の意義と目的②
3 教材の検討①
4 教材の検討②
5 指導案の作成①
6 指導案の作成②
7 指導案の作成③
8 模擬授業①
9 模擬授業②
10 模擬授業③
11 模擬授業④
12 栄養教育実習記録について
13 栄養教育実習の心得
14 実習後の反省①
15 実習後の反省②

[授業方法]
講義、指導案と媒体の作成、模擬授業をおり交ぜて進める。一部は実習直前の夏季休暇中に集中開講となる。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
授業への取組状況（60%）
提出物（40%）

[教科書]
必要に応じて資料を配布する.

[参考書]
随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
授業に必要な資料や課題作成に取り組むこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
日常生活において食と健康の事柄に関心を持ち、食育に関する情報収集をしておくこと。給食管理実習Ⅱ（学外）にも関連するので、早めの心構えが必要になる。

[科　目　名] 保育・教職実践演習（幼稚園）
[担当教員名] 伊藤　久美子
[授業クラス] （学科）幼児教育学科　第1部
（専攻）
[開講学期] 2年後期　　[科目コード] IE10_D22
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 演習

[授業概要]
前半は、保護者支援を学ぶために外部講師による講話を伺ったり地域の子育て支援センターを見学するフィールドワークを実施したりする。事前学習を行い、様々な状況にある保護者の気持ちを考え、事後に支援の在り方に関するレポートを提出する。後半は、指導力の向上を目指し模擬保育を行い、事前にねらいに適した保育内容になっているか検討し、事後に保育に対する評価をし、改善策を考える。

[学習成果]　[D]
様々な状況にある保護者への支援に対する知識を深める。また、これまでに身に付けた保育者としての知識や技能のさらなる向上を目指し、不足部分を補い定着を図る。そして、保育者としてのやりがいや使命感を再確認して自身の課題や責任を自覚する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎	○	○	◎	○		○

[授業計画]
1　教育実習振り返り
2　子ども理解と子育て支援①貧困家庭への支援
3　こども理解と子育て支援②障がい児の保護者
4　こども理解と子育て支援③障がい児の保護者の講話
5　こども理解と子育て支援④外国人保護者への支援
6　子育て支援　～保護者や地域との連携～
7　フィールドワークのための事前準備
8　フィールドワーク　於：子育て支援センター
9　フィールドワークの発表とまとめ
10　社会人としてのマナー
11　望まれる保育者像
12　保育内容の研究①教材研究と保育方法
13　保育内容の研究②指導案の検討
14　保育内容の研究③模擬保育
15　保育内容の研究④反省・評価・改善

[授業方法]
外部講師による講話や稲沢市内の子育て支援センターを見学するフィールドワークを実施する。事前に調査学習を行い事後にレポートを提出する。後半は指導力の向上を目指し模擬保育を行い、それについて検討する。
「アクティブラーニング導入」・・・調査学習やプレゼンテーション、グループ討議等を取り入れる。
幼稚園の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
提出物・発表（70%）、授業態度(30%)
[教科書]
特になし
[参考書]
幼稚園教育要領、保育所保育指針、
幼保連携型認定こども園教育・保育要領

[準備学習（予習・復習）]
授業内に事前学習やレポート作成を行うこともあるが、授業時間外に行う場合もある。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
保育者には、協力する姿勢が求められます。グループ活動の際には、他人任せではなく、自分の考えを発したり他の人に助言したり手伝ったりしてグループとして成果があげられるよう行動しましょう。

[科　目　名] 保育・教職実践演習（幼稚園）
[担当教員名] 村上　浩美
[授業クラス] （学科）幼児教育　第3部
（専攻）
[開講学期] 3年後期　　[科目コード] IE30_D32
[単　位　数] 2単位　　[授業形態] 演習

[授業概要]
前半は、保護者支援を学ぶために外部講師による講話を伺ったり地域の子育て支援センターを見学するフィールドワークを実施したりする。事前学習を行い、様々な状況にある保護者の気持ちを考え、事後に支援の在り方に関するレポートを提出する。後半は、指導力の向上を目指し模擬保育を行い、事前にねらいに適した保育内容になっているか検討し、事後に保育に対する評価をし、改善策を考える。

[学習成果]　[D]
様々な状況にある保護者への支援に対する知識を深める。また、これまでに身につけた保育者としての知識や技能のさらなる向上を目指し、不足部分を補い定着を図る。そして、保育者としてのやりがいや使命感を再確認して自身の課題や責任を自覚する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
	◎	○	○	◎	○		○

[授業計画]
1　教育実習振り返り
2　子ども理解と子育て支援①貧困家庭への支援
3　こども理解と子育て支援②障がい児の保護者
4　こども理解と子育て支援③障がい児の保護者の講話
5　こども理解と子育て支援④外国人保護者への支援
6　子育て支援　～保護者や地域との連携～
7　フィールドワークのための事前準備
8　フィールドワーク　於：子育て支援センター
9　フィールドワークの発表とまとめ
10　社会人としてのマナー
11　望まれる保育者像
12　保育内容の研究①教材研究と保育方法
13　保育内容の研究②指導案の検討
14　保育内容の研究③模擬保育
15　保育内容の研究④反省・評価・改善

[授業方法]
外部講師による講話や稲沢市内の子育て支援センターを見学するフィールドワークを実施する。事前に調査学習を行い事後にレポートを提出する。後半は指導力の向上を目指し模擬保育を行い、それについて検討する。
アクティブラーニング導入。
調査学習やプレゼンテーション、グループ討議等を取り入れる。
幼稚園、小学校の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。
[成績評価]
提出物・発表　(70%)
授業への取組状況（30%）
[教科書]
特になし
[参考書]
幼稚園教育要領、保育所保育指針、
幼保連携型認定こども園教育・保育要領
[準備学習（予習・復習）]
授業内に事前学習やレポート作成を行うこともあるが、授業時間外に行う場合もある。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）
[備考]
保育者には、協力する姿勢が求められます。グループ活動の際には、他人任せではなく、自分の考えを発したり他の人に助言したり手伝ったりしてグループとして成果があげられるよう行動しましょう。

[科　目　名] 幼児教育実習Ⅰ
[担当教員名] 真下　あさみ
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_D12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
観察や子どもへの関わりを通して子どもへの理解を深め、保育者の子どもへの援助や配慮について学ぶ。
園生活の１日の流れを把握し、保育の環境や保育の準備などにも目を向ける。
また、学校で学んだ知識や技術を活かしながら、部分的に参加・実習することによって、基本的な保育技術を習得する。幼稚園の社会的機能や保育者の役割を理解し、保育者としてふさわしい態度をとる。

[学習成果] [D]
実際に子どもの姿や保育者の援助を観察したり子どもに関わったりすることによって子どもへの理解を深め、保育者として子どもへの関わり方や保育技術を習得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎		○	○		○	○	○

[授業計画]
○ 事前オリエンテーション
・ 幼稚園実習の意義と目的、実習の流れについて
・ 実習の心構え及び事前訪問の意義と目的、方法について
・ 実習記録の意義と書き方について
○ 実習内容
・ 幼稚園での実際の生活環境や生活や遊びを観察する
・ 園生活の１日の流れを把握して環境設定や保育の準備に参加する
・ 子どもへの理解を深め、保育者の子どもとのかかわりを学ぶ
・ 保育者としての服務態度や倫理観を理解する
○ 実習巡回訪問指導
○ 事後指導
・ 実習日誌を整理する
・ 礼状を書く
・ 実習全体を振り返り、実習の反省点や課題を明確にする

[授業方法]
附属幼稚園で観察・参加実習を行う（1週間）。
保育現場経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

[成績評価]
実習園の評価（70%）
実習日誌・提出物（30%）

[教科書]
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編
(株) みらい

[参考書]
幼稚園教育要領（平成29年告示）

[準備学習（予習・復習）]
・実習前に担当する子どもの年齢の発達段階を十分調べておき、一人一人をより理解できるようにする。
・発達に応じた手遊びや絵本を用意しておく。
・実習記録を基に1日の振り返りを行い、明日の環境準備や子どもへの関わり方等をイメージする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
日頃から、様々な絵本や保育教材について調べたり、手遊びなども覚えて練習しておくとよい。

[科　目　名] 幼児教育実習Ⅰ
[担当教員名] 上島　遥
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE30_D12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 実習

[授業概要]
観察や子どもへの関わりを通して子どもへの理解を深め、保育者の子どもへの援助や配慮について学ぶ。
園生活の１日の流れを把握し、保育の環境や保育の準備などにも目を向ける。
また、学校で学んだ知識や技術を活かしながら、部分的に参加・実習することによって、基本的な保育技術を習得する。
幼稚園の社会的機能や保育者の役割を理解し、保育者としてふさわしい態度をとる。

[学習成果] [D]
実際に子どもの姿や保育者の援助を観察したり子どもに関わったりすることによって子どもへの理解を深め、保育者として子どもへの関わり方や保育技術を習得する。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
◎		○	○		○	○	○

[授業計画]
○ 事前オリエンテーション
・ 幼稚園実習の意義と目的、実習の流れについて
・ 実習の心構え及び事前訪問の意義と目的、方法について
・ 実習記録の意義と書き方について
○ 実習内容
・ 幼稚園での実際の生活環境や生活や遊びを観察する
・ 園生活の１日の流れを把握して環境設定や保育の準備に参加する
・ 子どもへの理解を深め、保育者の子どもとのかかわりを学ぶ
・ 保育者としての服務態度や倫理観を理解する
○ 実習巡回訪問指導
○ 事後指導
・ 実習日誌を整理する
・ 礼状を書く
・ 実習全体を振り返り、実習の反省点や課題を明確にする

[授業方法]
附属幼稚園で観察・参加実習を行う。（1週間）
保育現場経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

[成績評価]
実習園の評価（70%）
実習日誌・提出物（30%）

[教科書]
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編
(株) みらい

[参考書]
幼稚園教育要領（平成29年告示）

[準備学習（予習・復習）]
・実習前に担当する子どもの年齢の発達段階を十分調べておき、一人一人をより理解できるようにする。
・発達に応じた手遊びや絵本を用意しておく。
・実習記録を基に1日の振り返りを行い、明日の環境準備や子どもへの関わり方等をイメージする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
日頃から、様々な絵本や保育教材について調べたり、手遊びなども覚えて練習しておくとよい。

[科　目　名] 幼児教育実習Ⅱ
[担当教員名] 伊藤　久美子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開 講 学 期] 2年後期　[科目コード] IE10_E22
[単　位　数] 3単位　[授業形態] 実習
[授業概要]
幼児教育現場で実習し、幼稚園の社会的機能や保育者の役割を理解し、幼稚園教諭として必要な幼児の指導法や技術を習得する。

[学習成果] [D]
実際に幼児の姿を観察することにより、幼児への理解を深める。また、幼稚園教諭の指導の様子を観察したり実践したりすることで、子どもへの指導法や技術を身につけることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	○	○	◎	○	◎

[授業計画]
○事前オリエンテーション
・幼稚園実習の意義と目的
・幼稚園実習の流れ
・実習の心構えと事前訪問について
・実習記録の作成について
・指導計画について（部分実習・全日実習）

○実習内容
・園生活の一日の流れを把握して観察・参加実習を行い、園児と積極的にかかわる。
・子どもの発達段階をふまえて指導計画を立て、実践する（部分実習・全日実習）。
・幼稚園教諭としての倫理観を理解し、服務態度を習得する。
・家庭や地域との連携について理解する。

○実習巡回訪問指導

○事後指導
・実習日誌のまとめ
・実習全体の振り返りを行い、保育者としての自己課題を明確にする。

[授業方法]
幼稚園にて3週間の観察・参加・指導（部分・全日）実習を行う。
保育現場での実務経験を生かした実技指導を行う。

[成績評価]
実習園の評価（70%）
実習日誌・提出物（30%）

[教科書]
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編
(株) みらい

[参考書]
授業にて適宜紹介する。

[準備学習　(予習・復習)]
実習の事前学習として、担当する幼児の発達段階や年齢に即したあそびを理解しておくこと。実習前には集中的に10時間程度かけ、保育教材作製や実技練習をし、準備をして実習に臨むこと。実習後は、実習を振り返り、5時間程度かけて実習記録や指導案の修正をする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、3単位と学修時間（予習・復習）を参照）

[備考]
実習マナーや提出書類の期限を遵守し、積極的に実習に取り組むこと。

[科　目　名] 幼児教育実習Ⅱ
[担当教員名] 赤塚　徳子
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開 講 学 期] 3年後期　[科目コード] IE30_D32
[単　位　数] 3単位　[授業形態] 実習
[授業概要]
幼児教育現場で実習し、幼稚園の社会的機能や保育者の役割を理解し、幼稚園教諭として必要な幼児の指導法や技術を習得する。

[学習成果] [D]
実際に幼児の姿を観察することにより、幼児への理解を深める。また、幼稚園教諭の指導の様子を観察したり実践したりすることで、子どもへの指導法や技術を身につけることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
○	○	○	○	○	◎	○	◎

[授業計画]
○事前オリエンテーション
・幼稚園実習の意義と目的
・幼稚園実習の流れ
・実習の心構えと事前訪問について
・実習記録の作成について
・指導計画について（部分実習・全日実習）

○実習内容
・園生活の一日の流れを把握して観察・参加実習を行い、園児と積極的にかかわる。
・子どもの発達段階をふまえて指導計画を立て、実践する（部分実習・全日実習）。
・幼稚園教諭としての倫理観を理解し、服務態度を習得する。
・家庭や地域との連携について理解する。

○実習巡回訪問指導

○事後指導
・実習日誌のまとめ
・実習全体の振り返りを行い、保育者としての自己課題を明確にする。

[授業方法]
幼稚園にて3週間の観察・参加・指導（部分・全日）実習を行う。
保育現場での実務経験を生かした実技指導を行う。

[成績評価]
実習園の評価（70%）
実習日誌・提出物（30%）

[教科書]
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編
(株) みらい

[参考書]
授業にて適宜紹介する。

[準備学習　(予習・復習)]
実習の事前学習として、担当する幼児の発達段階や年齢に即したあそびを理解しておくこと。実習前には集中的に10時間程度かけ、保育教材作製や実技練習をし、準備をして実習に臨むこと。実習後は、実習を振り返り、5時間程度かけて実習記録や指導案の修正をする。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、3単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
実習マナーや提出書類の期限を遵守し、積極的に実習に取り組むこと。

[科　目　名] 幼児教育実習事前事後指導
[担当教員名] 真下　あさみ
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第1部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE10_D12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
実習のねらいと内容、計画、準備等について学ぶ。幼稚園教諭の仕事と子どもへの理解を深め、保育者にとって必要な保育技術を学ぶ。

[学習成果] [D]
実習を行う上でのふさわしい心構えと態度を知り、基本的な保育技術を身に付け、実習に臨むことができる。
また、実習後、個々の新たな課題を見つけることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○			○	○	○

[授業計画]
1　幼児教育実習の意義と目的
2　実習の計画と自己目標
3　実習の心構えと実習態度
4　オリエンテーション
5　実習園の理解
6　保育実践と教材準備
7　保育の観察方法と記録について
8　実習日誌の書き方
9　保育者の仕事
10　参加実習について
11　指導計画の立て方、考え方
12　礼状の書き方
13　教材研究 (1)
14　教材研究 (2)
15　実習の振り返り

[授業方法]
教材研究や模擬実習も行いながら、実習方法を理解したり保育技術を学んでいく。
(適宜グループワーク・実践発表などのアクティブラーニングも取り入れる)
また、保育経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況 (50%)
提出物 (50%)

[教科書]
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編
(株) みらい

[参考書]
幼稚園教育要領 (平成29年告示)

[準備学習 (予習・復習)]
実習では、絵本の読み聞かせをしたり手遊びをしたりするので、日ごろから様々な絵本を読んだり、手遊びを覚えたりして練習しておくこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間 (予習・復習) を参照)

[備考]
・自分から挨拶し、正しい言葉づかい・敬語が使えるよう日ごろの生活態度を見直すこと。
・自分の考えを人前で積極的に話せるようにして、意見交換をし、相互に高めあっていけるようにする。

[科　目　名] 幼児教育実習事前事後指導
[担当教員名] 上島　遥・五十嵐　紗織
[授業クラス] (学科) 幼児教育　第3部
(専攻)
[開講学期] 1年後期　[科目コード] IE30_D12
[単　位　数] 1単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
実習のねらいと内容、計画、準備等について学ぶ。幼稚園教諭の仕事と子どもへの理解を深め、保育者にとって必要な保育技術を学ぶ。

[学習成果] [D]
実習を行う上でのふさわしい心構えと態度を知り、基本的な保育技術を身に付け、実習に臨むことができる。
また、実習後、個々の新たな課題を見つけることができる。

[DPとの関連]

幼 DP1	幼 DP2	幼 DP3	幼 DP4	幼 DP5	幼 DP6	幼 DP7	幼 DP8
		○			○	○	○

[授業計画]
1　幼児教育実習の意義と目的
2　実習の計画と自己目標
3　実習の心構えと実習態度
4　オリエンテーション
5　実習園の理解
6　保育実践と教材準備
7　保育の観察方法と記録について
8　実習日誌の書き方
9　保育者の仕事
10　参加実習について
11　指導計画の立て方、考え方
12　礼状の書き方
13　教材研究 (1)
14　教材研究 (2)
15　実習の振り返り

[授業方法]
教材研究や模擬実習も行いながら、実習方法を理解したり保育技術を学んでいく。
(適宜グループワーク・実践発表などのアクティブラーニングも取り入れる)
保育現場経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況 (50%)
提出物 (50%)

[教科書]
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編
(株) みらい

[参考書]
幼稚園教育要領 (平成29年告示)

[準備学習 (予習・復習)]
実習では、絵本の読み聞かせをしたり手遊びをしたりするので、日ごろから様々な絵本を読んだり、手遊びを覚えたりして練習しておくこと。
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間 (予習・復習) を参照)

[備考]
・自分から挨拶し、正しい言葉づかい・敬語が使えるよう日ごろの生活態度を見直すこと。
・自分の考えを人前で積極的に話せるようにして、意見交換をし、相互に高めあっていけるようにする。

4　医療科目

[科　目　名] 医療秘書実務
[担当教員名] 堀　智美
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年後期　[科目コード] LCF0_A12
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
医療機関の組織的しくみを理解し、医療秘書の役割や業務内容について学ぶ。
接遇・コミュニケーションの大切さを学び、技術を身につける。

[学習成果] [A]
医療機関で必要とされる専門的な事務能力や窓口対応のイメージを持つことができる。ホスピタリティに富んだ患者対応やスタッフ同士のコミュニケーションを習得できる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎		◎	

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　医療秘書の役割
3　第一印象
4　医療接遇①
5　医療接遇②
6　立ち居振る舞い
7　言葉遣い①
8　言葉遣い②
9　電話応対①
10　電話応対②
11　来客応対
12　クレーム対応
13　傾聴法
14　交際業務
15　総合実務

[授業方法]
各項目講義で理解を深めた後、必要に応じて課題に対応してロールプレイを行う。
アクティブラーニング導入。

[成績評価]
課題や授業へ取組状況（60%）
試験（40%）

[教科書]
「病院事務のための医療事務総論/医療秘書実務」
(建帛社)

[参考書]
配布資料、随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
事前準備が必要な場合には、調べ学習・課題などに取り組むこと。
授業後にレポート作成を含め、復習を行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
医療機関に関わることがあれば、そこで勤務するスタッフの行動や言動に着目し、観察してほしい。

[科　目　名] 医療事務総論
[担当教員名] 坂下　重吾
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 1年前期　[科目コード] LCF0_A11
[単　位　数] 2単位　[授業形態] 講義

[授業概要]
病院における事務職の中で、専門性の高い医療事務について、業務の流れ・仕事におけるルール・理解すべき知識を身につけることで、医療秘書実務士の資格取得を目指す。

[学習成果] [A]
医療事務業務に必要な基礎的知識を習得できる。また、病院における医療チームの一員として、医療事務員がどのような関わりを持つかを理解することができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		○		○	

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　病院の組織と業務管理
3　医療を支える職種
4　病院組織とチーム医療
5　医療保険制度
6　公費負担医療
7　労災保険と自賠責保険
8　介護保険
9　医療法規
10　個人情報保護
11　保険請求業務
12　診療情報管理実務
13　統計・ＤＰＣ・がん登録
14　患者接遇
15　まとめ（医療機関で求められる人材）

[授業方法]
講義が主体。実際の現場で起こっている話を紹介しながら、ディスカッションを織り交ぜ進めていく。

[成績評価]
試験（70%）
課題及び授業への取組状況（30%）

[教科書]
「病院事務のための医療事務総論/医療秘書実務」
(建帛社)

[参考書]
配布資料（随時）

[準備学習（予習・復習）]
（予習）テキストを読み、疑問点（医療用語）について調べる。
（復習）学んだ事をノートに整理する。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
実際に医療現場に出て、患者さんの前に立った時、みなさんが、どのような振る舞いをし、どのような知識を得ていれば、自信を持って対応出来るのかを説明していく。最新の医療情報を織り交ぜながら話をするので、講義を通じて医療機関で働く楽しさを感じてほしい。

[科　目　名] 医療秘書実務演習
[担当教員名] 堀　智美・小川　美樹
[授業クラス] (学科) 生活文化
(専攻) 食物栄養
[開講学期] 2年前期　　[科目コード] LCFO_A21
[単　位　数] 1単位　　[授業形態] 演習

[授業概要]
医療秘書や医療機関で必要な対応を体得する。実習室の受付カウンターで役割分担し、患者対応などのロールプレイを行う。実際に想定されるケーススタディも踏まえ、それぞれの立場から感じられることをディスカッションする。

[学習成果] [A]
医療機関で必要とされる専門的な事務能力や窓口対応を実際に行い、身につける。役割を演じることで、必要な判断能力やスピード、適切な応対、優先順位などを考え、医療機関での役割を確認する。患者対応はもちろん、チーム医療を行うために必要なスタッフとのコミュニケーション能力も向上させることができる。

[DPとの関連]

食 DP1	食 DP2	食 DP3	食 DP4	食 DP5	食 DP6
		◎		◎	

[授業計画]
1　オリエンテーション
2　接遇①
3　接遇②
4　感じのよい話し方
5　対象別応対について
6　ロールプレイ①
7　ロールプレイ②
8　ロールプレイ③
9　医事コンピューター演習①
10　医事コンピューター演習②
11　電話応対
12　高齢者について
13　総合演習ロールプレイ①
14　総合演習ロールプレイ②
15　総合演習ロールプレイ③

[授業方法]
各項目演習で理解を深め、課題に対してロールプレイを繰り返し行う。
フィードバックを行い、客観的な自己の評価を受け止めて相手に届けられる技術を確認する。
アクティブラーニング導入。
総合病院（医療事務）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]
授業への取組状況（60%）
試験（40%）

[教科書]
「医療における接遇の基本」（建帛社）

[参考書]
配布資料、随時紹介

[準備学習（予習・復習）]
事前準備が必要な場合には、調べ学習・課題などに取り組むこと。
授業後にレポート作成も含め、復習を行うこと。
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、1単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]
医療スタッフに必要なことを理解するだけでなく、行動して相手に届いていることを自覚できるように心がける。